

第231図 6区13号住居 出土遺物

14号住居 (第207・232~234図、P L44・45・89)

位置 6区 X=32423~428 Y=-41114~118

重複遺構 11・16・18号土坑と重複する。遺構平面確認の状況により、18号土坑より本遺構の方が旧く、11・16号土坑より本遺構の方が新しいと考えられる。

形態 住居北西コーナー部分が18号土坑により消失しているため、全形は不明である。調査区内の住居の状況からやや不整形な長方形を呈すると考えられる。

方位 N-135° -E

規模 長軸5.20×短軸3.00m

面積 (9.918)m²

壁高 12~24cm

床面 掘り方面から4cm~16cm程、にぶい黄褐色土と暗褐色土を埋め土として施し、床面を構築している。掘り方面では、中央部が土坑状に20cm程、掘り窪められている。北側に径68cm~80cm、深さ56cm程の1号土坑、南西側に径44cm~64cm、深さ28cmほどの2号土坑、南東側に径60cm~68cm、深さ24cmほどの3号土坑を検出した。中央部以外は概ね平坦な面である。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

6区 竪穴住居跡

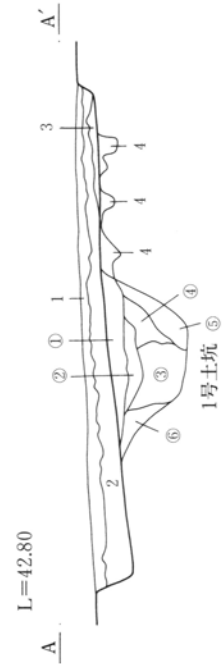
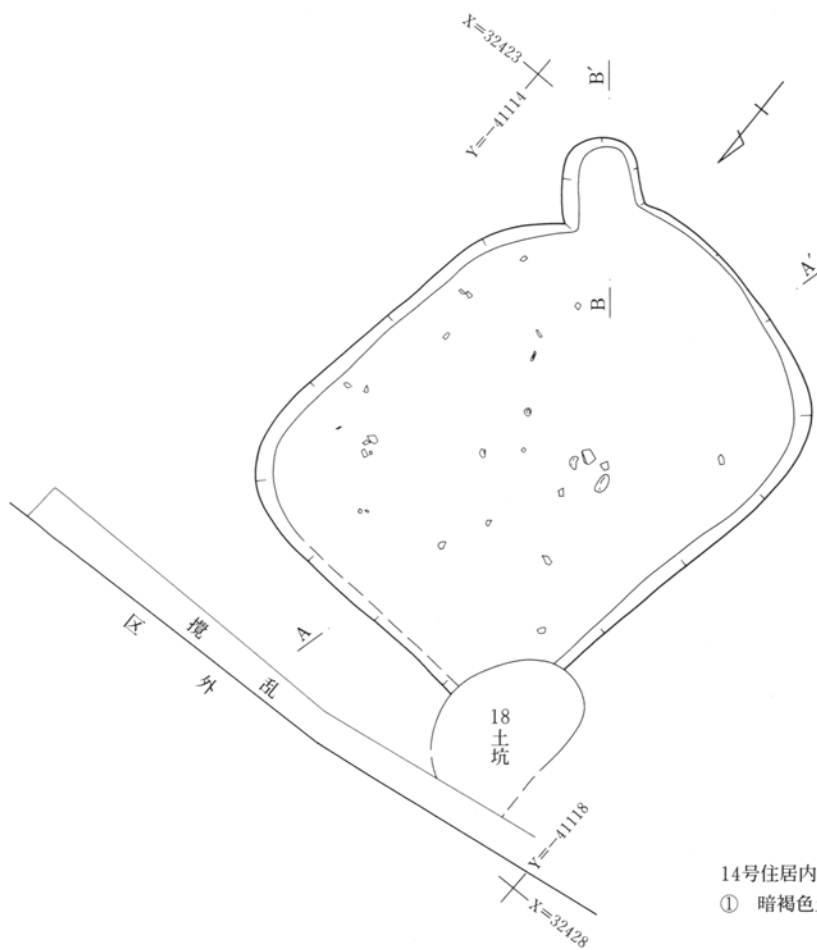
周溝 調査区内では未確認

竈 住居南東コーナー付近に竈を検出した。上部からの削平を受けているため遺存状態はあまりよくない。燃烧部、煙道部ともに住居壁から突出して構築されている。燃烧部長さは48cm程、煙道部は6cm程残存している。使用面から煙道部にかけて緩やかに立ち上がっている。焚き口幅は44cm程、燃烧部幅は66cmである。芯材を用いず、粘土のみで袖部～天井部を構築している。掘り方面では右袖部と使用面の

下の位置に径36cm～48cm程の掘り込みをつくり、にぶい黄褐色土で竈使用面を構築している。

遺物 1・2は土師器坏、3は須恵器坏、4は土師器小型甕、5は土師器S字状口縁台付甕、6は須恵器甕、7は土師器高坏で掘り方から出土、8は埴輪。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から9世紀後半頃と比定される。

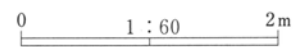


14号住居

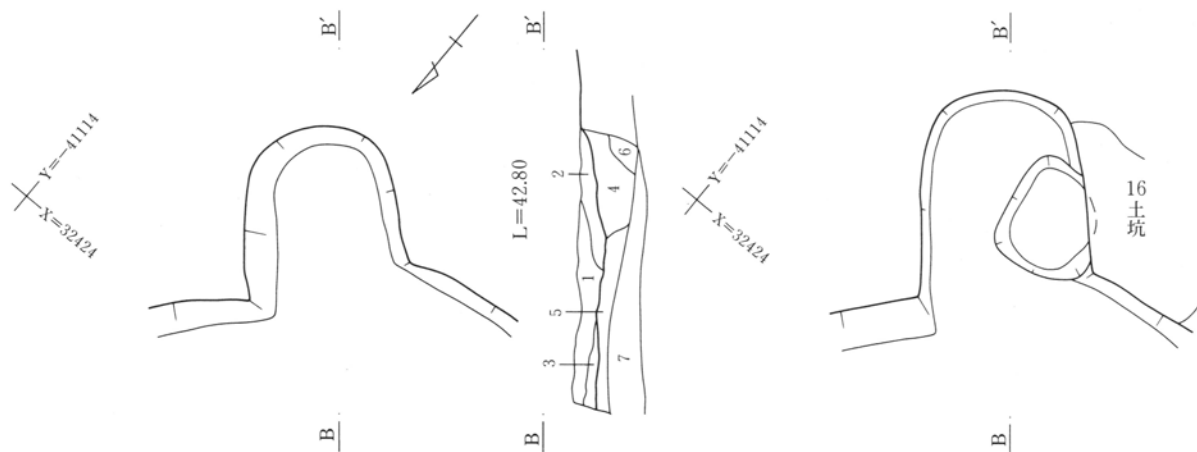
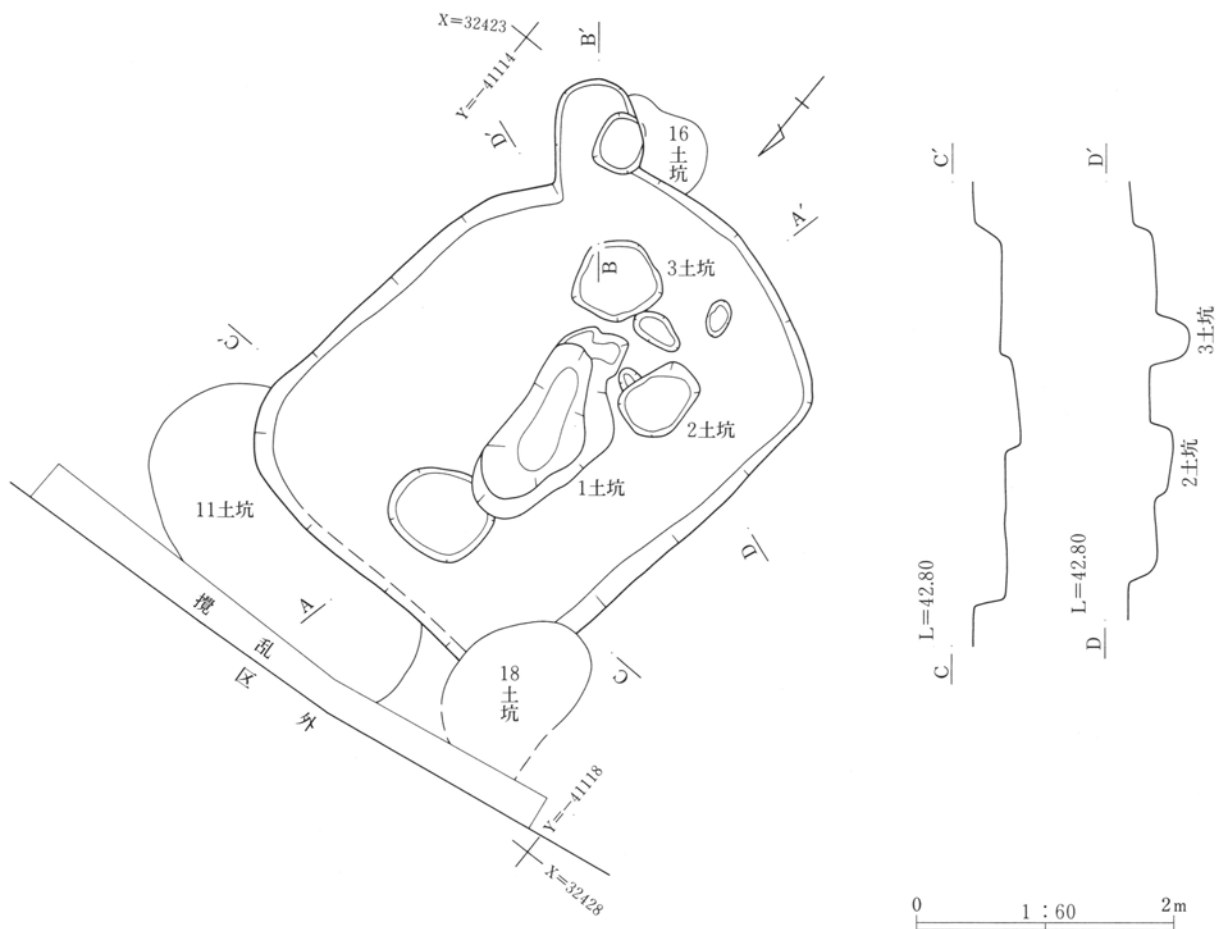
- 1 暗褐色土 黄褐色土、白色微粒子、焼土粒含む。縮まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土含む。焼土粒少量含む。縮まりやや良い。
- 3 にぶい黄褐色土 砂質。固く縮まる。
- 4 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混土。

14号住居内1号土坑

- ① 暗褐色土 にぶい黄褐色土ブロック、焼土粒僅か、白色粒疎らに含む。縮まり良い。
- ② 暗褐色土 にぶい黄褐色土ブロック、白色粒子僅か含む。縮まりやや弱い。
- ③ 暗褐色土 炭化物僅かに含む。
- ④ 褐色土 砂質。
- ⑤ 褐色砂質土 炭化物ごく僅か含む。
- ⑥ 暗褐色土 にぶい黄褐色土ブロック、焼土粒僅かに含む。縮まりやや弱い。



第232図 6区14号住居 平・断面図

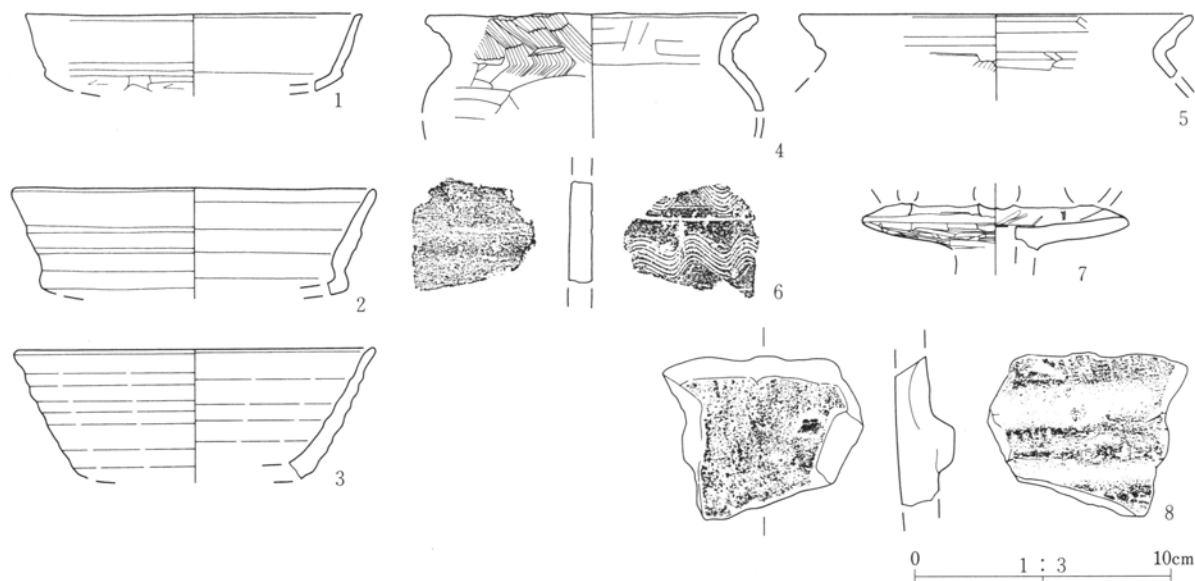


14号住居竈

- | | |
|---|--|
| <p>1 暗褐色土 白色微粒子含む。固く締まる。</p> <p>2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、白色粒、焼土、炭化物少量含む。</p> <p>3 暗褐色土 黄褐色土ブロック、白色微粒子、焼土含む。下面に炭化物含む。</p> | <p>4 暗褐色土 黄褐色土と焼土、炭化物少量含む。固く締まる。</p> <p>5 暗褐色土 黄褐色土含む。締まり良い。固く締まる。</p> <p>6 にぶい黄褐色土 暗褐色土と黄褐色土の混土。</p> <p>7 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックと焼土微量に含む。締まり弱い。</p> |
|---|--|

第233図 6区14号住居掘り方・竈 平・断面図

6区 竪穴住居跡



第234図 6区14号住居 出土遺物

15号住居 (第207・235～237図、P L45・89・90)

位置 6区 X=32422～427 Y=-41109～113

重複遺構 10号土坑と重複。遺構平面確認の状況により、10号土坑より本遺構の方が古い。

形態 住居西壁が長く、東壁の短い台形状を呈する。住居竈南側の一部と、住居南東コーナー部分が10号土坑により消失しているため、全形は不明である。

方位 N-73° -W

規模 長軸3.46×短軸3.02m

面積 (8.991) m²

壁高 18cm

床面 住居北東コーナー部分がテラス状に5cm～10cm程の高まりがある。南西コーナー付近に貯蔵穴を検出。住居中央部に径56cm～76cm、深さ10cm～15cmほどの落ち込みを検出した。床面は、掘り方面から4cm～12cmほど黄褐色砂質土と暗褐色土を埋め土とし、床面を構築している。掘り方面では、東壁から中央部にかけてなだらかに掘り込み、北壁付近に径16cm～52cm、深さ5cm～10cmほどの土坑状に4箇所、掘り窪められている。西壁沿い中央部よりやや北側を不整形に深さ5cmほど掘り窪めている。西壁中央付近やや南側にP1を検出した。

ピット 西壁中央付近やや南側に径40cm～44cm、深さ20cmほどのP1を検出した。

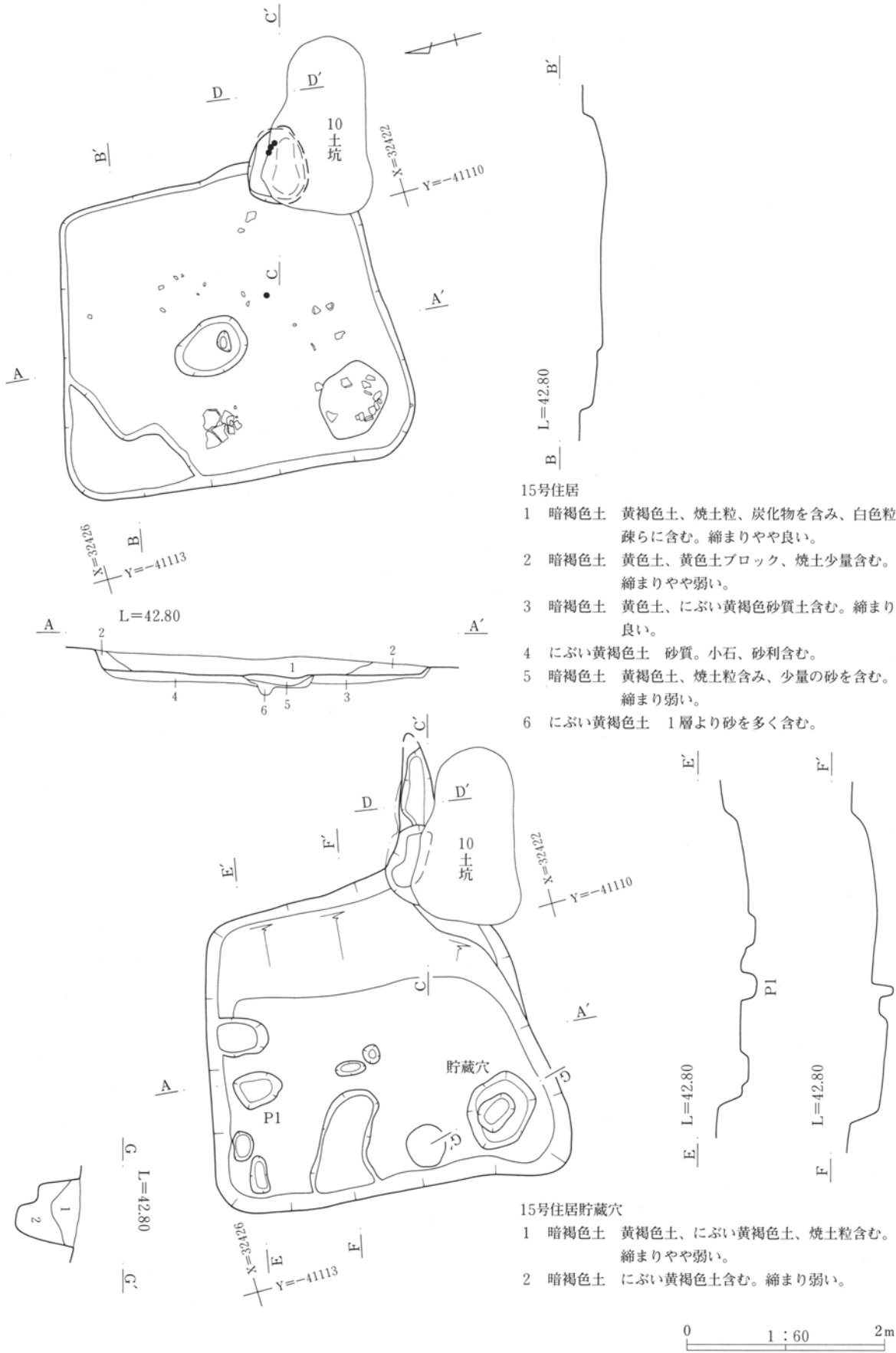
貯蔵穴 住居南西コーナー付近に、径70cm～76cm、深さ56cm、楕円形を呈する貯蔵穴を検出。

周溝 調査区内では未確認

竈 住居南東コーナー付近に竈を検出した。10号土坑との重複のため遺存状態はあまりよくない。燃烧部、煙道部ともに住居壁から突出して構築されている。燃烧部及び煙道部の長さは80cm程である。焚き口幅、燃烧部幅は不明である。芯材を用いず、粘土のみで袖部～天井部を構築している。掘り方面では使用面と考えられる位置に18cm程の掘り込みをつくり、暗褐色土とにぶい黄褐色土で竈使用面を構築している。

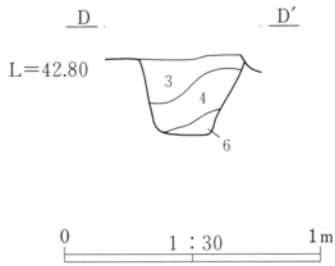
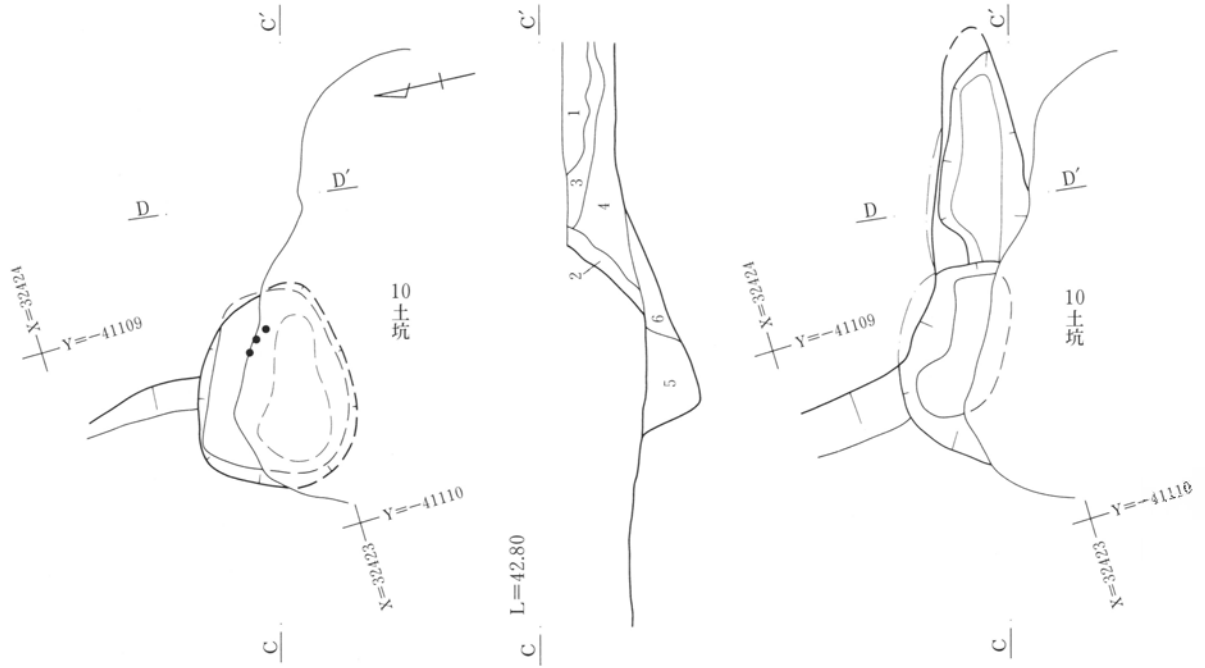
遺物 1は土師器土釜、2は須恵器甕、3・4は土師器羽釜、5は須恵器羽釜、6は土師器器台、7・8は埴輪、9～11は碗型鉄滓。その他、焼成粘土塊4点、鉄滓2点、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から10世紀後半から11世紀前半と比定される。碗型鉄滓が貯蔵穴から出土していること。竈は全体を調査できないため詳細は不明である。特に遺物の出土から鉄に関係する遺構と考えられる。



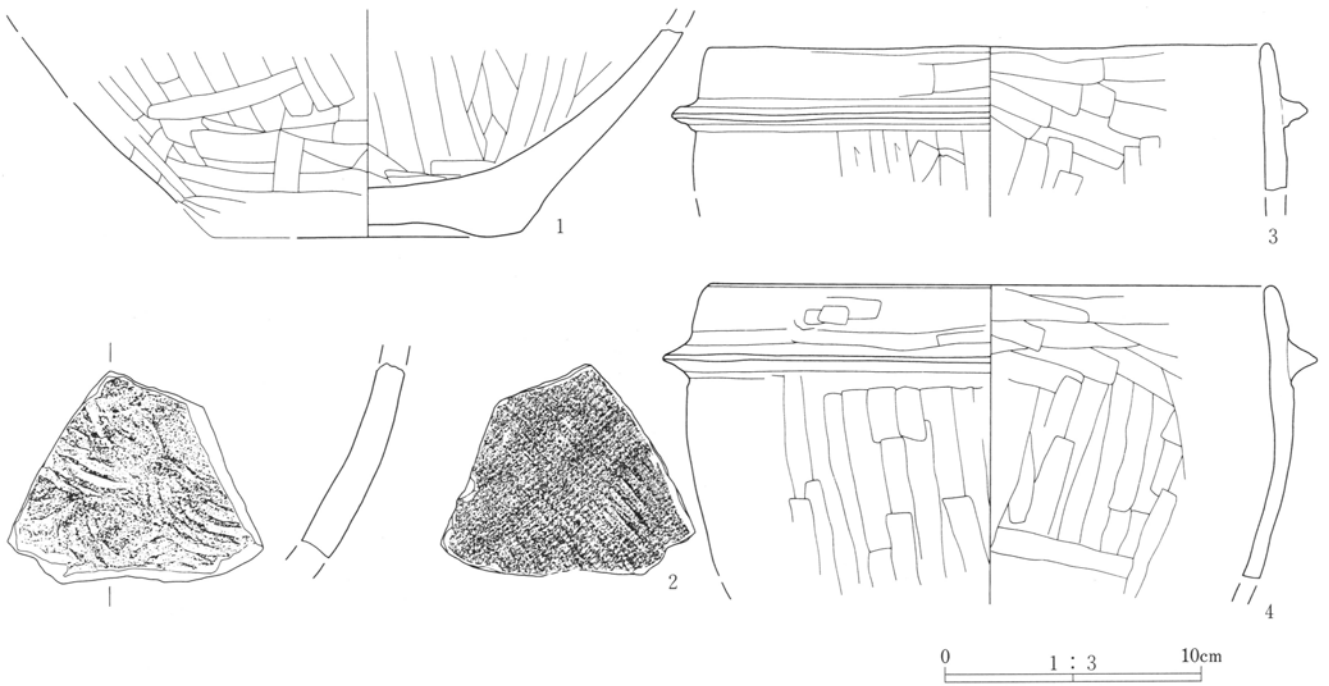
第235図 6区15号住居・掘り方 平・断面図

6区 竪穴住居跡

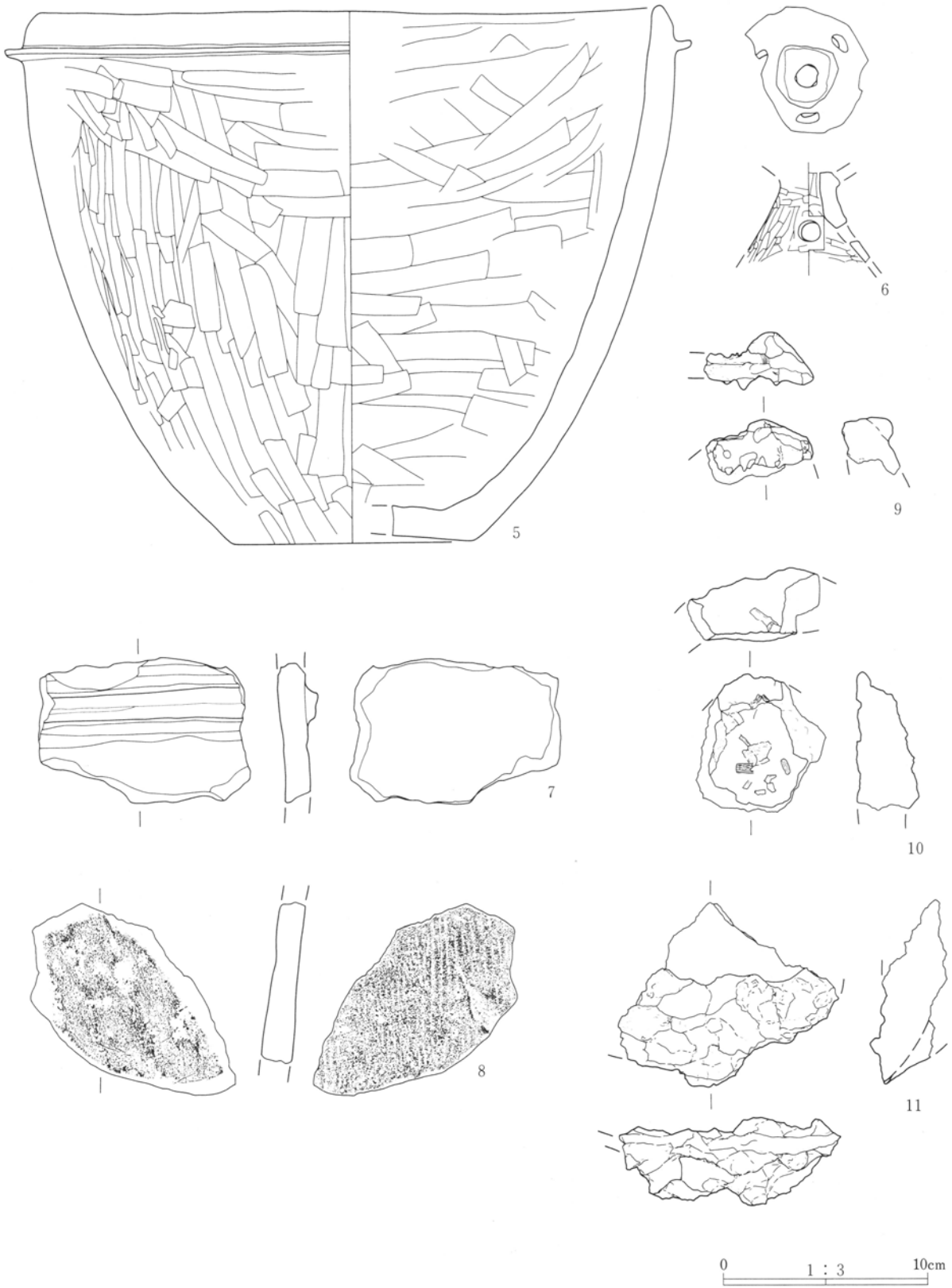


15号住居竈

- 1 暗褐色土 焼土、炭化物含み、白色微粒子疎らに含む。縮まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒多く含む。
- 3 焼土層 竈の崩れ。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック含む。縮まり弱い。
- 5 暗褐色土 焼土ブロック、にぶい黄褐色土含む。
- 6 にぶい黄褐色土 粘性。縮まり弱い。



第236図 6区15号住居竈 平・断面図、出土遺物 (1)



第237图 6区15号住居 出土遺物 (2)

6区 竪穴住居跡

16号住居 (第207・238図、P L45・90)

位置 6区 X=32426~429 Y=-41108~112

重複遺構 2号ピットと重複。遺構平面確認の状況により、2号ピットより本遺構の方が古い。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複、攪乱による消失のため全形は不明である。調査区内の住居の状況から、長方形を呈すると推察される。

方位 N-4°-E

規模 長軸(2.78)×短軸(1.66)m

面積 (3.600)m²

壁高 17cm

床面 地山ローム土が硬化している。掘り方床面と考えられる。

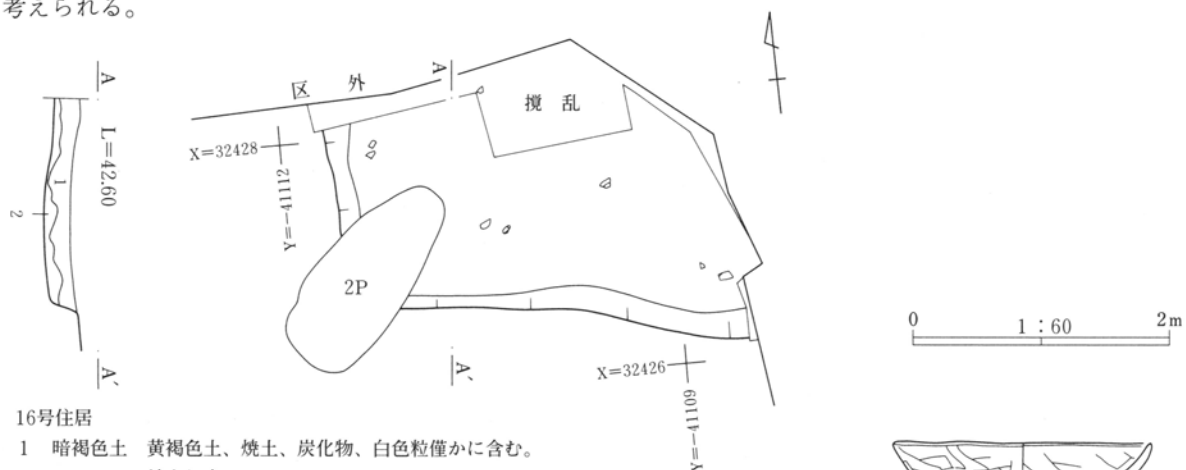
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に構築されていると考えられる。

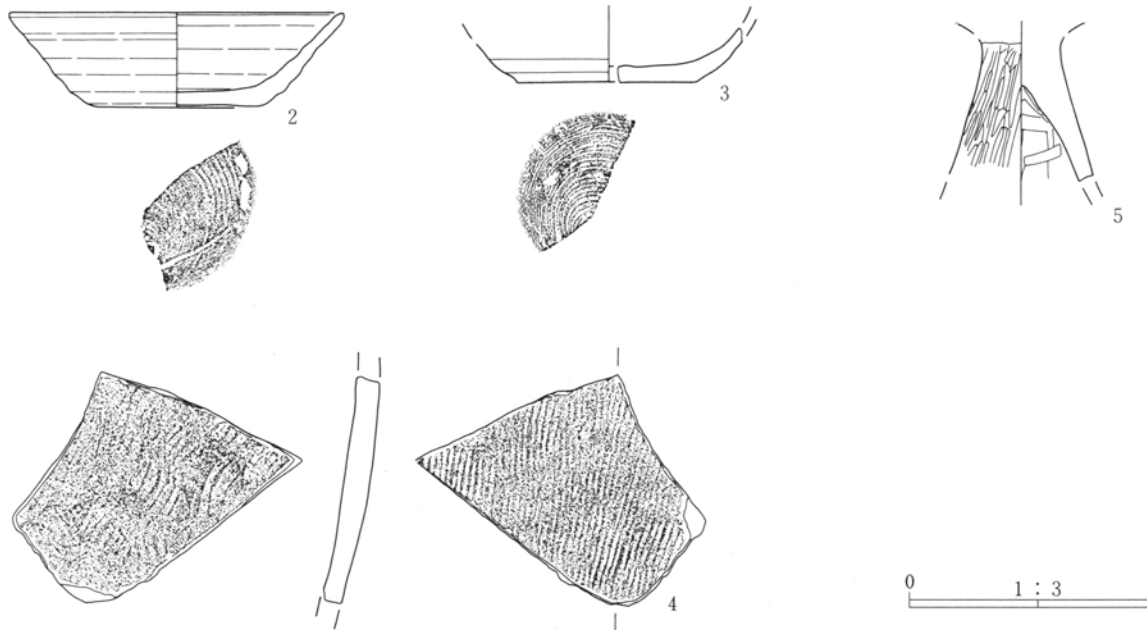
遺物 1は土師器坏、2・3は須恵器坏、4は須恵器甕、5は土師器高坏。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から時期を特定できなかった。また、全体を調査できないため詳細は不明である。



16号住居

- 1 暗褐色土 黄褐色土、焼土、炭化物、白色粒僅かに含む。縮まり良い。
- 2 暗褐色土 砂質。にぶい黄褐色土含む。縮まり弱い。



第238図 6区16号住居 平・断面図、出土遺物

17号住居 (第207・239図、P L45・90)

位置 6区 X=32424~427 Y=-41130~137

重複遺構 5号溝と重複。遺構平面確認の状況により、5号溝より本遺構の方が古い。

形態 北側を調査区境に位置し、南側を5号溝により打ち壊されているため、全形不明である。

方位 N-2°-E

規模 長軸(6.46)×短軸(1.44)m

調査区住居確認範囲内

面積 (3.942)m²

壁高 17cm

床面 床面まで上部からの削平を受け、遺存状態が悪い。土層断面観察により、掘り方面から8cm~12

cm程にぶい黄褐色土で埋め土を施し、床面を構築している。掘り方面はやや凹凸が見られる。

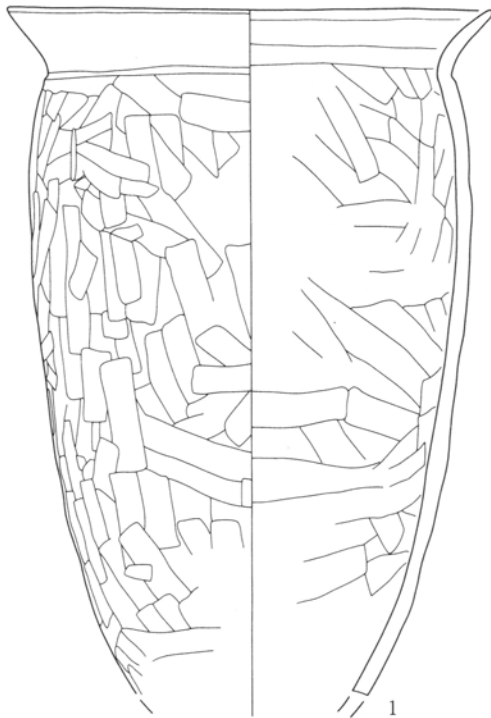
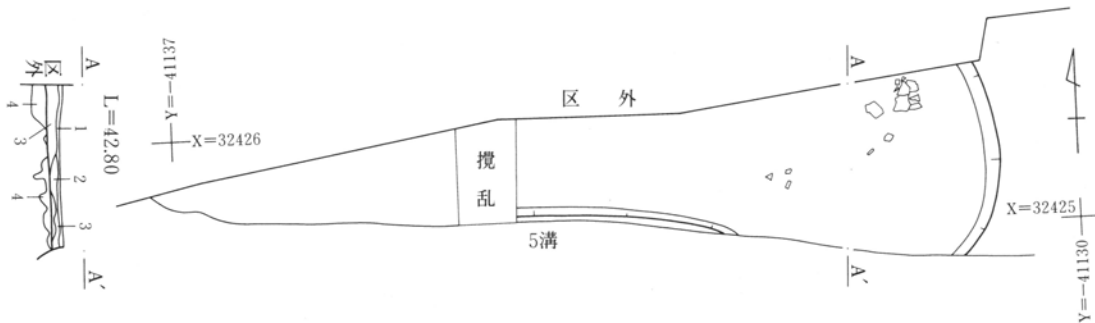
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に構築されていると考えられる。

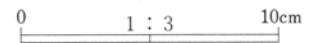
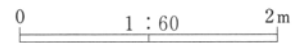
遺物 1は土師器長胴甕、2は土師器甕、その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 住居調査範囲が狭く、全体を調査できないため詳細は不明である。出土遺物から7世紀後半頃と比定される。



17号住居

- 1 暗褐色土 赤褐色土少量含む。締まり弱い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量、白色粒多量に含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック疎らに含む。
- 4 にぶい黄褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土。締まり良い。



第239図 6区17号住居 平・断面図、出土遺物

6区 竪穴住居跡

19号住居 (第207図)

位置 6区 X=32419~421 Y=-41129~135

重複遺構 12号住居、2号溝と重複。遺構平面確認の状況により、2号溝より、本住居の方が古い。12号住居との新旧関係は不明である。

形態 上部からの削平と北側を2号溝に打ち壊され、南側が調査区境に位置しているため全形不明である。

方位 計測不能 (N-83° -E)

規模 長軸(5.10)×短軸(1.00)m

調査区住居確認面のみ

面積 計測不能

壁高 計測不能

床面 上部からの削平が床面までおよび遺存状態が悪い。かろうじて掘り方面を検出するのみであった。土層断面観察から、褐色土により掘り方面から埋め土を施していることを確認できた。

20号住居 (第207・240・241図、P L45・46・91)

位置 6区 X=32422~425 Y=-41117~122

重複遺構 4号溝と重複。遺構平面確認の状況により、4号溝より、本住居の方が古い。

形態 上部からの削平と南側を4号溝に打ち壊されているため全形は不明である。調査区内の住居の状況から方形を呈すると推察できる。

方位 計測不能 (N-83° -E)

規模 長軸(5.10)×短軸(1.00)m

調査区住居確認面のみ

面積 (3.717)m²

壁高 計測不能

床面 上部からの削平が一部床面まで及びまた、南側を4号溝により打ち壊されているため遺存状態が悪い。土層断面観察により掘り方面より8cm程黄褐色土ブロックを含む暗褐色土で埋め土を施し、8cm程暗褐色土で貼り床としている。掘り方面は、住居北コーナー付近に径28cm~32cm浅い土坑状の掘り込みを検出した。土坑状の掘り込みから西側に弧を描くように南に向かって掘り残している。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。消失している壁か、調査区外のいずれかの壁に構築されていると考えられる。

遺物 土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 上部からの削平と遺構の重複により、床面まで消失しており、遺存状態が悪く、住居の残骸という状態である。また、調査区境に位置するため、調査面積も狭く全体を調査できず、詳細は不明である。そのため図・写真は掲載していない。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。消失しているいずれかの壁に構築されていたと考えられる。

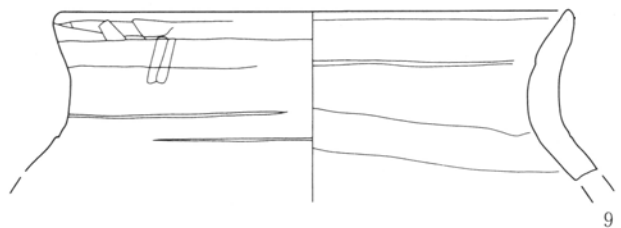
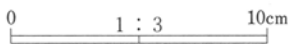
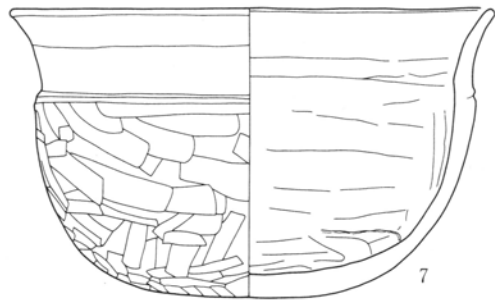
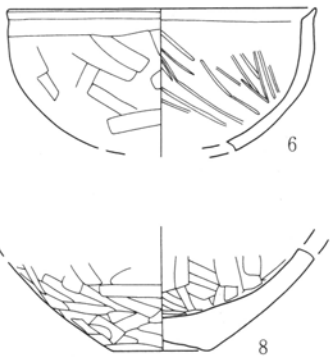
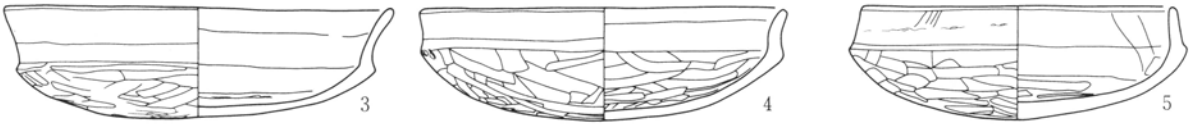
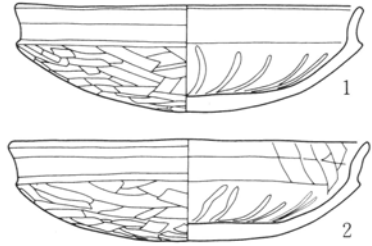
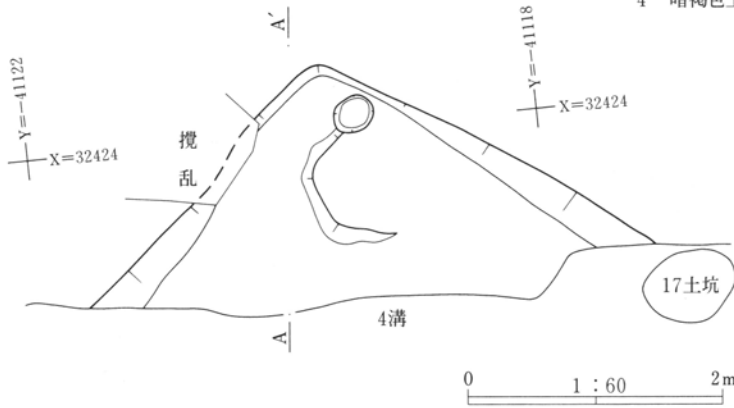
遺物 1~5は土師器坏、6は土師器椀、7は土師器鉢、8~11は土師器甕、12は土師器埴、13・14は土師器高坏。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺存状態が悪く全体を調査できず、詳細は不明である。出土遺物から6世紀後半から7世紀前半頃と比定される。古墳時代後期と比定される。

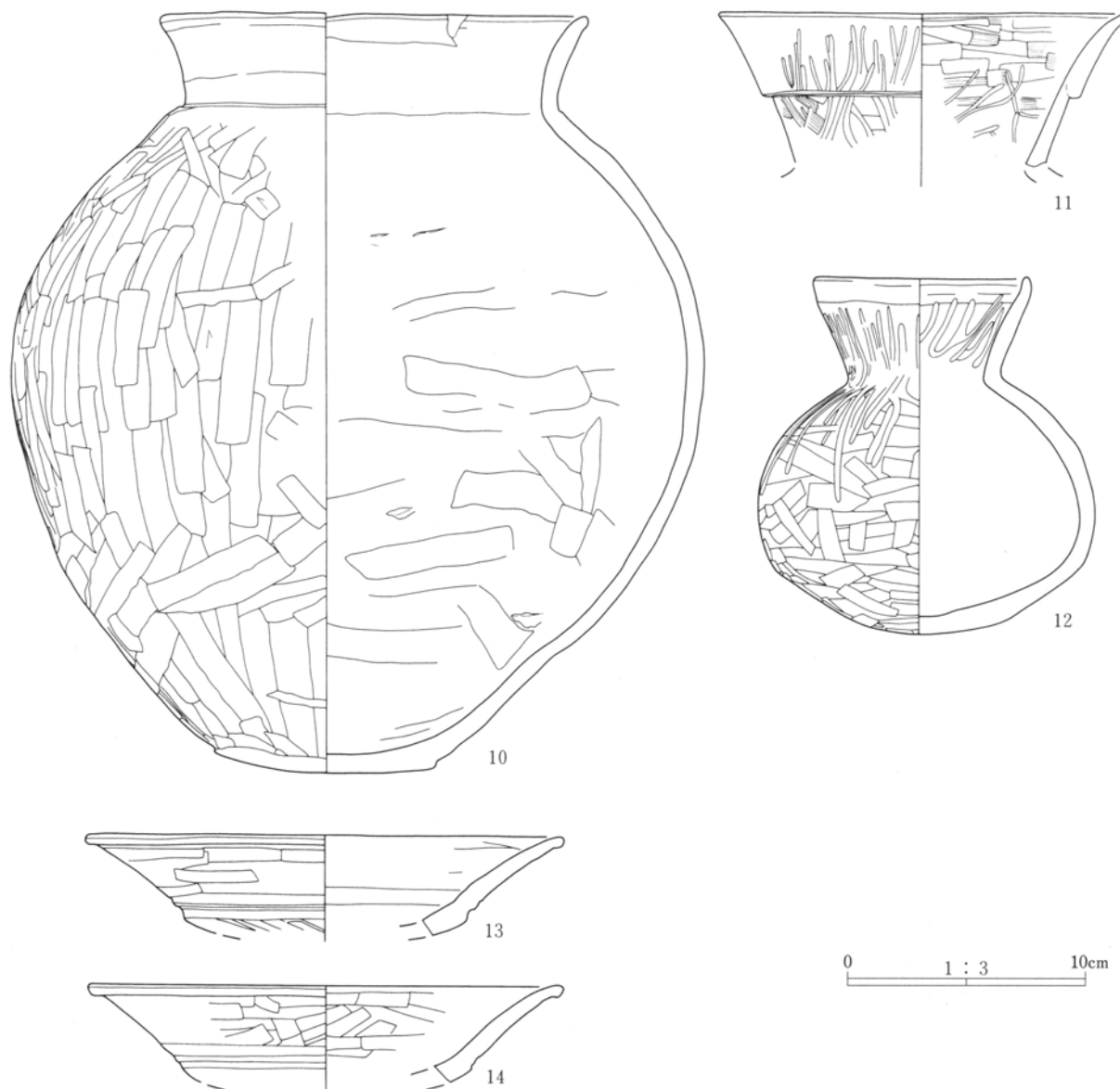


20号住居

- 1 暗褐色土 黄褐色土、白色粒疎らに含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土、焼土粒含む。粘性。締まり弱い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土、白色微粒子、焼土粒含む。締まりやや良い。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。締まり弱い。



第240図 6区20号住居・掘り方 平・断面図、出土遺物 (1)



第241図 6区20号住居 出土遺物

21号住居 (第207・242図、P L46・92)

位置 6区 X=32426~428 Y=-41117~121

重複遺構 18号土坑と重複。遺構平面確認の状況により、18号土坑より、本住居の方が古い。

形態 住居北側が調査区外に位置し、18号土坑とも重複しているため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から方形あるいは長方形を呈すると推察できる。

方位 計測不能 (N-6°-E)

規模 長軸(2.96)×短軸(1.57)m

調査区住居確認面のみ

面積 (3.213)m²

壁高 28cm

床面 上部からの削平を受け、住居東側を18号土坑により打ち壊されているため遺存状態が悪い。そのため掘り方面の調査のみ行った。土層断面観察から、掘り方面から12cm程埋め土を施し、床面を構築している。掘り方面は多少の凹凸があるが、概ね平坦である。住居中央部にてピット1基を検出した。

ピット 住居中央部に径36cm、深さ36cm程のP1を検出した。

貯蔵穴 調査区内では未確認

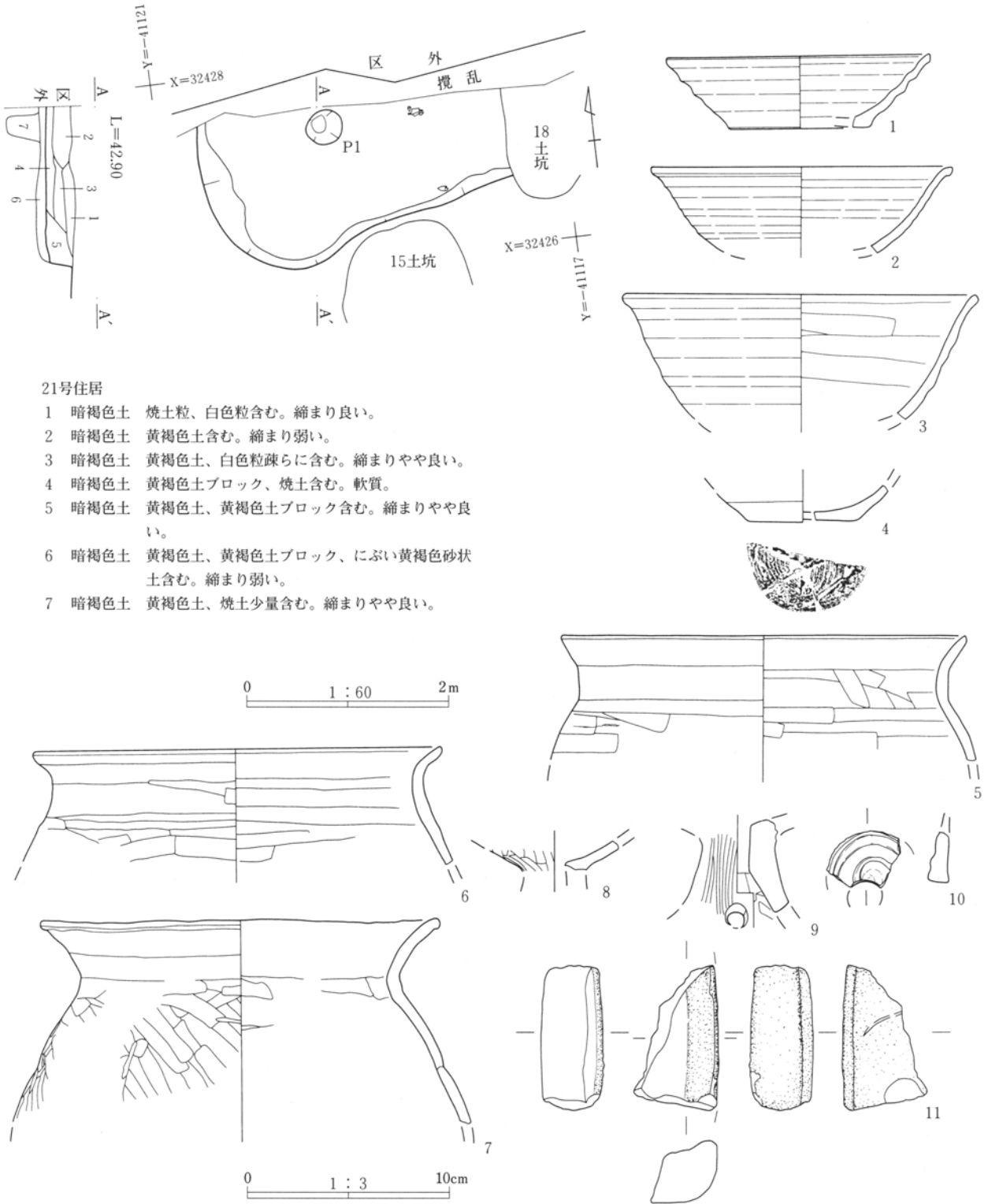
周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認。消失しているいずれかの壁に構築されていたと考えられる。

遺物 1・2・4は須恵器坏, 3は須恵器椀, 5~7は土師器甕, 8・9は土師器器台, 10は土師器五徳、11は石製品で石仏の後背か。その他、土師器片多数、

須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺存状態が悪く全体を調査できず、詳細は不明である。出土遺物と埋土の状況から古墳時代前期と比定される。



21号住居

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色粒含む。縮まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土含む。縮まり弱い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土、白色粒疎らに含む。縮まりやや良い。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック、焼土含む。軟質。
- 5 暗褐色土 黄褐色土、黄褐色土ブロック含む。縮まりやや良い。
- 6 暗褐色土 黄褐色土、黄褐色土ブロック、にぶい黄褐色砂状土含む。縮まり弱い。
- 7 暗褐色土 黄褐色土、焼土少量含む。縮まりやや良い。

第242図 6区21号住居 平・断面図、出土遺物

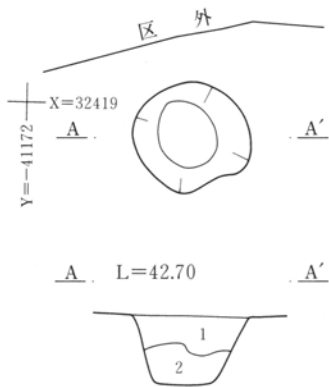
6区 土坑跡

(2)土坑跡

6区から19基の土坑跡を検出した。平成13年度に調査が行われた1区の東側にあたり、1区と6区の調査区境に土坑が近接しているため、関係する遺構の続きを期待されたが、該当する遺構は検出できなかった。他の調査区と同様に同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は難しかった。埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。ただ、出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、住宅跡地のためか、上部からの削平や後世の攪乱があるものの、他の調査区に比して遺構の残存状況は良かった。それぞれ

の形態・規模については一覧表、遺構図を掲げてある。土坑は、主に調査区の東西に分かれて分布している。西に分布する土坑からは遺物の出土は少なく、東に分布する土坑からは多数の遺物が出土している。ピットも含めて掘立柱建物跡、柵列等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみたが、該当するものはなかった。土坑は平面形態から、長方形（隅丸長方形も含む）、楕円形か円形、不整形に分けられる。以下、土坑について詳述する。

1号土坑（第207・243図、第11表、P L47）

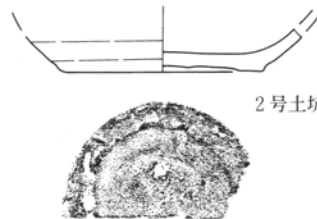


1号土坑

- 1 暗褐色土 ローム僅かに含む。
- 2 暗褐色土 ローム中量含む。

2号土坑

- 1 黒褐色土 現表土。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒2層より少ない。縮まり弱い。
- 4 暗褐色土 ローム粒2層より多く含む。

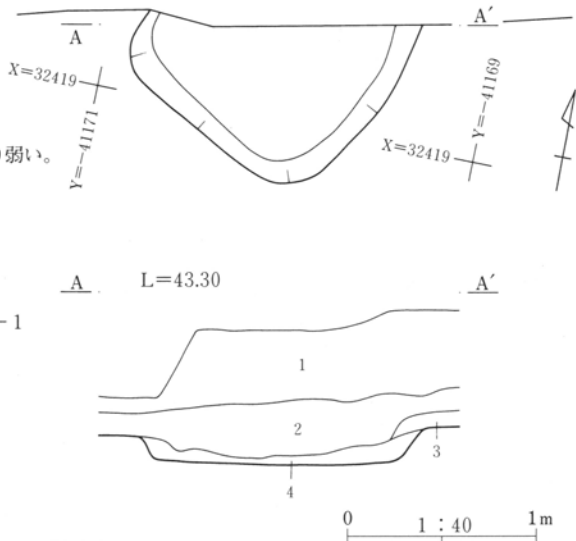


2号土坑-1

0 1 : 3 10cm

2号土坑（第207・243図、第11表、P L47・92）

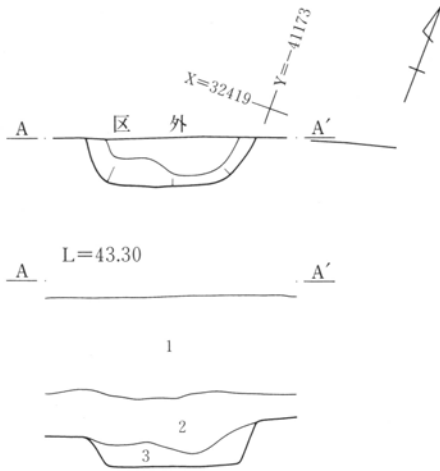
2号土坑は、調査区西側北境に位置し、1号土坑に近接する。北側が調査区外となるため全形は不明である。調査区内の状況から隅丸長方形を呈すると推察される。上部からの削平のため深さは10cmである。断面形は皿状を呈し、底部は平坦である。埋土は、暗褐色土を主体にローム粒・ブロックを含む。遺物は1の須恵器椀。その他、土師器片2点出土。小片のため図化できず時期の特定もできなかった。



0 1 : 40 1m

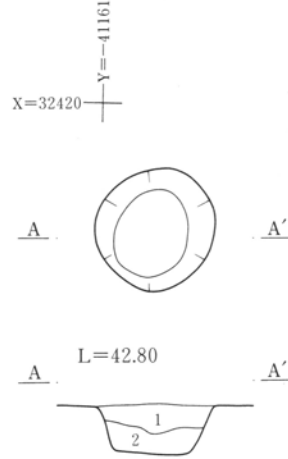
第243図 6区1・2号土坑 平・断面図、2号土坑出土遺物

3号土坑 (第207・244図、第11表、P L47)



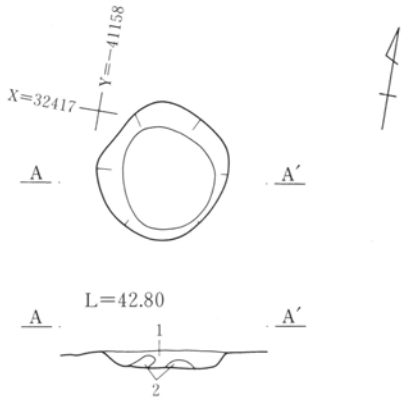
- 3号土坑
- 1 黒褐色土 現表土。上に碎石盛土。
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。

4号土坑 (第207・244図、第11表、P L47)



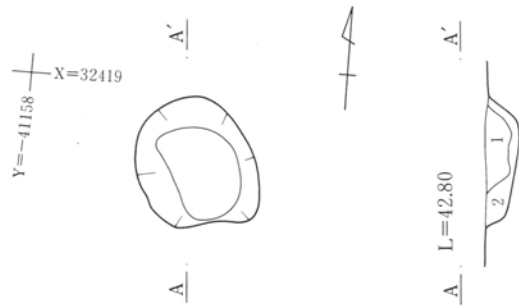
- 4号土坑
- 1 暗褐色土 ローム少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム主体。暗褐色土多量に含む。

5号土坑 (第207・244図、第11表、P L47)



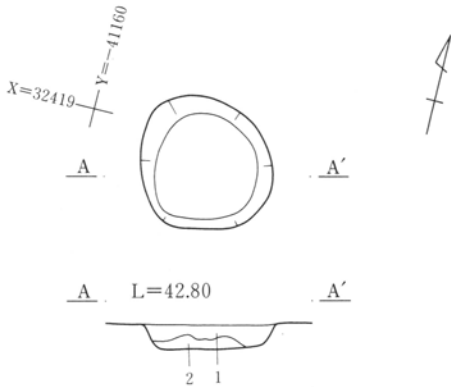
- 5号土坑
- 1 暗褐色土 粘性。
 - 2 明褐色土 暗褐色土ブロックと地山ブロックの混土。

6号土坑 (第207・244図、第11表、P L47)



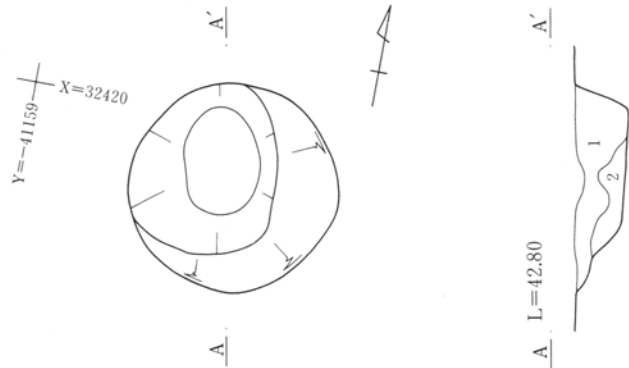
- 6号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。粘性。
 - 2 明褐色土 ローム土に暗褐色土ブロック状に含む。

7号土坑 (第207・244図、第11表、P L47)



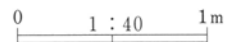
- 7号土坑
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 2 明褐色土 ロームと暗褐色土の混土。

8号土坑 (第207・244図、第11表、P L47)



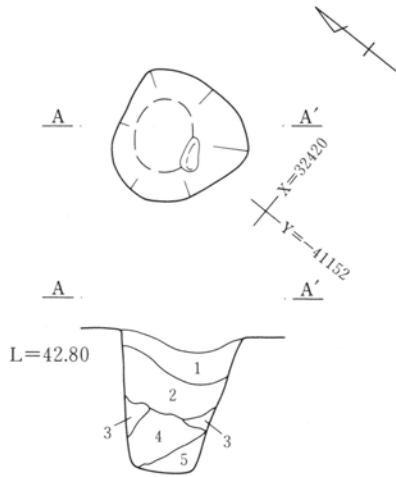
- 8号土坑
- 1 暗褐色土 ローム小ブロック少量含む。
 - 2 暗褐色土 ローム小ブロック少量・ローム中ブロック含む。色調やや明色。

第244図 6区3～8号土坑 平・断面図



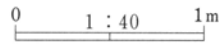
6区 土坑跡

9号土坑 (第207・245図、第11表、P L48)

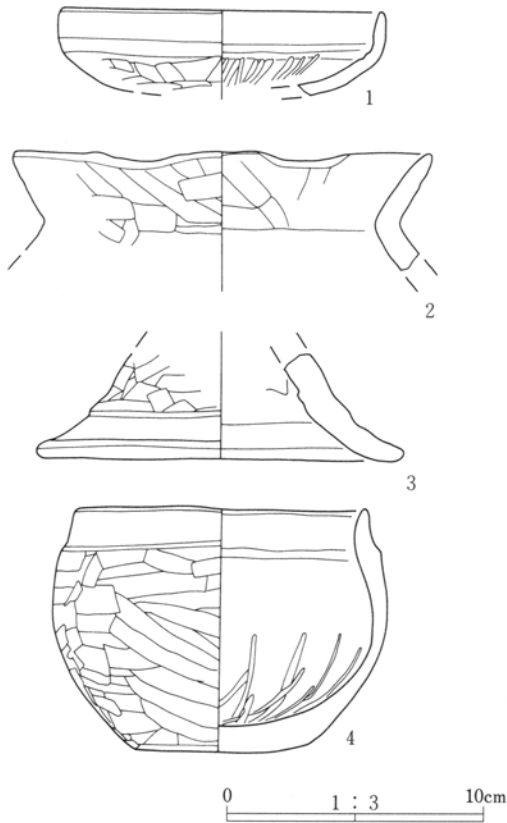


9号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色粒含む。締まりやや良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒、白色粒含む。締まり弱い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土多量に含む。締まり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック多量に含む。

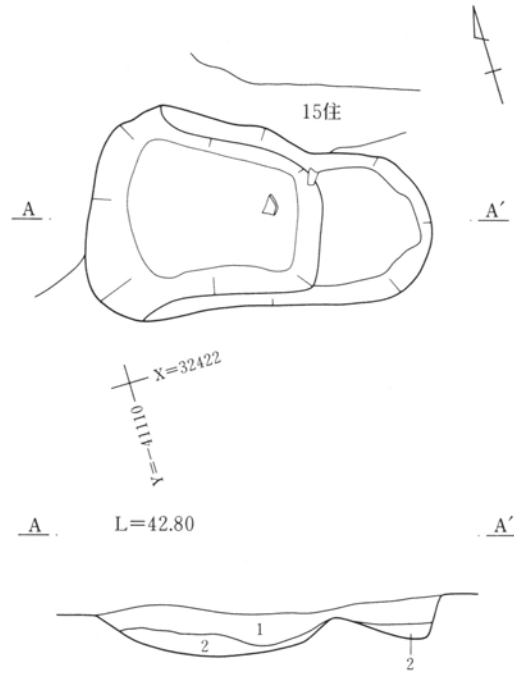


10号土坑



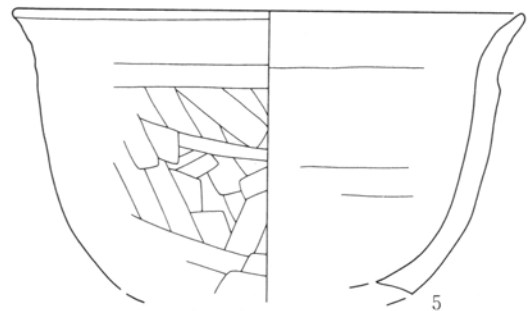
10号土坑 (第207・245図、第11表、P L92)

10号土坑は、調査区東側に位置する。北西側を15号住居と重複する。本遺構は15号住居より新しい。全形はやや瓢箪型の不整形であり、東西に長い。断面は東側が緩やかに立ち上がり、西側が急峻に立ち上がる台形を呈する。深さ28cmを測る。底部は平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に白色粒、焼土粒を含む。遺物は1が土師器坏、2は土師器甕、3は土師器高坏、4は土師器小型甕、5は土師器鉢。その他、土師器片3点出土。小片のため図化できなかった。15号住居より新しいことから、遺物は流れ込みと考えられる。



10号土坑

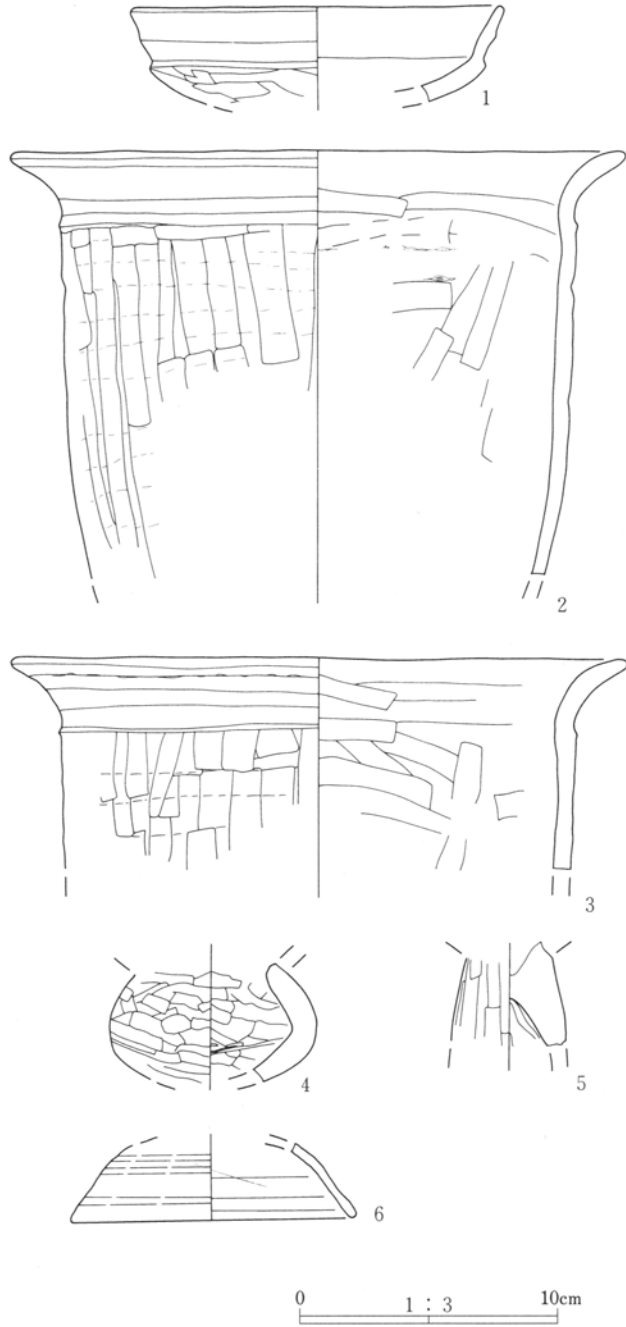
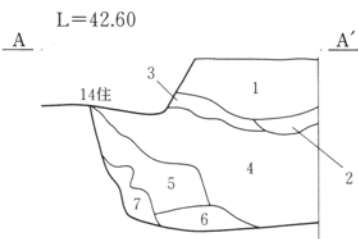
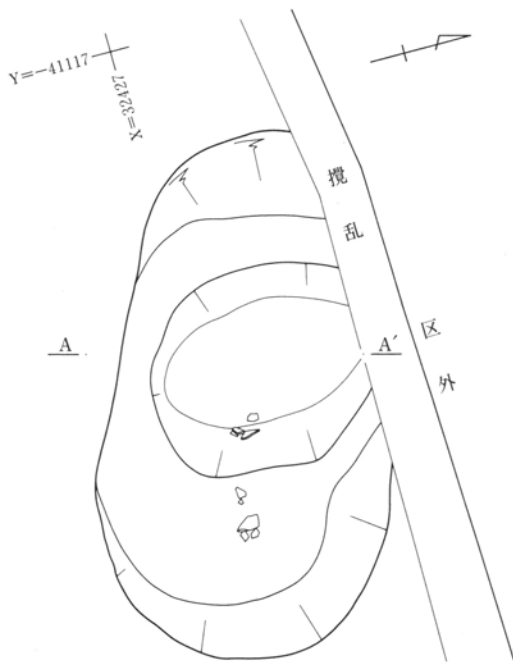
- 1 暗褐色土 焼土中量含む。締まりやや弱い。
- 2 暗褐色土 焼土、炭化物多く含む。



第245図 6区9・10号土坑 平・断面図、出土遺物

11号土坑 (第207・246図、第11表、P L 48・92)

11号土坑は、調査区東側の北壁に位置し、14号住居と重複する。14号住居により掘り壊されていることから本遺構の方が古い。北側を攪乱によって消失し、全形は不明である。調査区内の状況から、楕円形を呈すると推察される。断面は四角形を呈し、深さ95cmを測る。底部はやや丸い。中央部をやや深く掘り下げている。埋土は暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土、焼土粒を含む。人為的に埋め戻された可能性が高い。遺物は1が土師器坏、2・3は土師器長胴甕、4は土師器小型埴、5は土師器高坏、6は須恵器蓋。その他、土師器片多数、須恵器片7点、近世陶器口縁出土。小片のため図化できず時期の特定もできなかった。



11号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土、黒色土ブロック、焼土粒含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土小ブロック含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 砂質。黄褐色土含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土、焼土粒含む。粘性。締まりやや良い。
- 5 暗褐色土 黄褐色土含む。締まり弱い。
- 6 暗褐色土 焼土粒含む。締まり弱い。
- 7 暗褐色土 黄褐色土小ロック含む。締まり弱い。

0 1 : 3 10cm

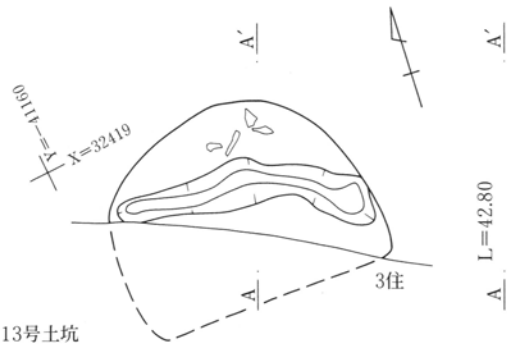
0 1 : 40 1m

第246図 6区11号土坑 平・断面図、出土遺物

6区 土坑跡

13号土坑 (第207・247図、第11表、P L 48・92)

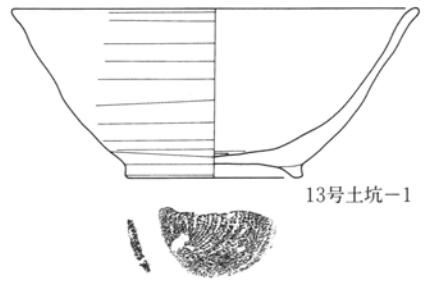
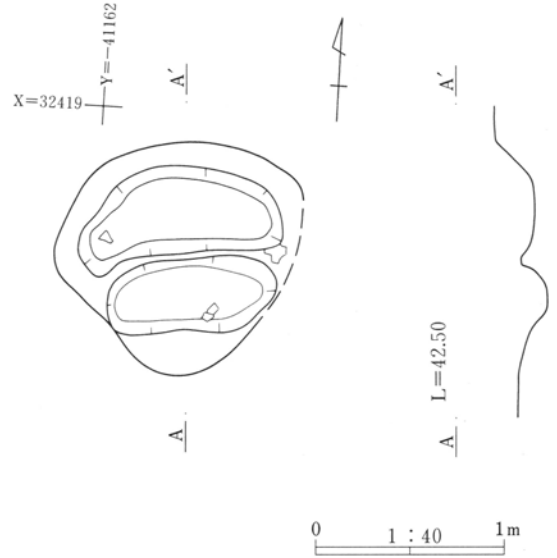
13号土坑は、調査区西側に位置し、南側を3号住居と重複し、西側に14号土坑、東側に7号土坑と近接する。13号住居により掘り壊されていることから本遺構の方が古い。重複のため、南側の一部を消失し、全形は不明である。調査区の状況から、隅丸長方形と推定される。断面は台形を呈すると推察される。深さ35cmを測る。埋土は、上層が暗褐色土に白色粒、赤褐色色粒を含む。中層はにぶい黄褐色土に白色粒を含む。下層は暗褐色土に白色粒、にぶい黄褐色土との混土となっている。底部は平坦である。遺物は1の須恵器椀。その他、土師器片16点、須恵器片2点出土。小片のため図化できず時期の特定もできなかった。



13号土坑

- 1 暗褐色土 白色微粒子疎ら、赤褐色粒子極僅か含む。締まり良い。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック、白色粒僅かに含む。
- 3 暗褐色土 にぶい黄褐色土疎らに含む。

14号土坑 (第207・247図、第11表、P L 48)



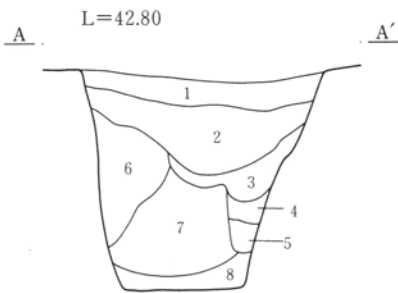
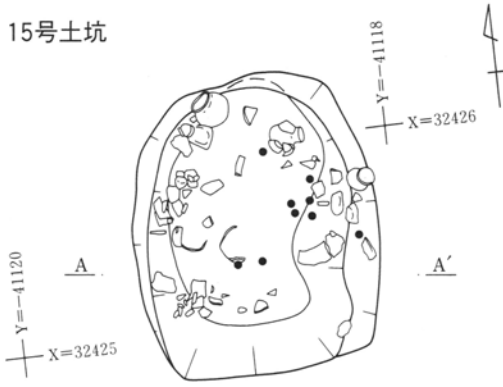
第247図 6区13・14号土坑 平・断面図、出土遺物

15号土坑 (第207・248～250図、第11表、P L 48・93・94)

15号土坑は、調査区東側に位置し、北側で21号住居に近接する。北側が丸味を帯びた長方形である。断面は西側が垂直で、東側が膨らんだ袋状を呈し、深さ112cmを測る。底部は丸底である。埋土は、暗褐色土を主体に、中層西側ににぶい黄褐色土層、下層が褐色土層である。埋土の状況から一度埋没しかけた土坑を二次利用をした形跡が残る。上層から下層まで遺物が多数出土した。1～5は土師器坏、6・7は土師器椀、8・21は小型壺、9～20は土師器甕、22・23は土師器壺、24は土師器高坏、25は土師器器

台、26はミニチュア土器。その他、多数の土師器片と須恵器片出土。図化できる遺物はなかった。8・15・16・21・26の遺物は、ほぼ完形である。また21の土師器小型甕内の土から炭化物とともに種子が採取できた。種子同定の結果、炭化した米粒であることが判明した。詳細は付録に掲載している。15号土坑は、一次利用、二次利用とも貯蔵穴として活用されたと考えられる。出土遺物から、一次利用としては古墳時代前半、二次利用としては古墳時代後半と推定される。

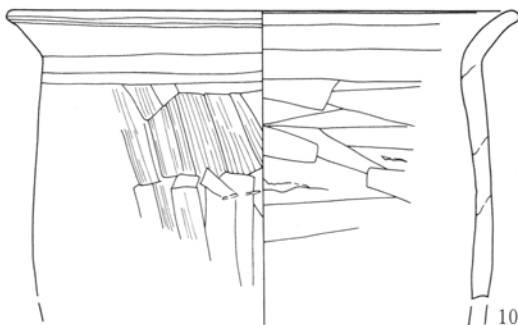
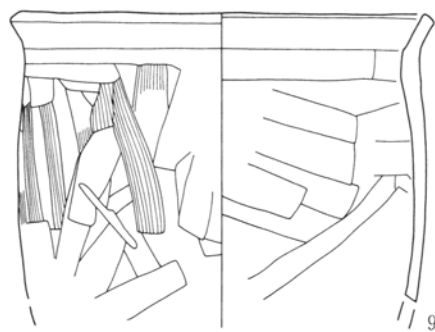
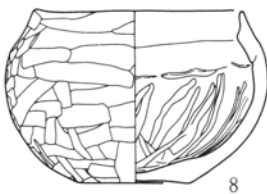
15号土坑



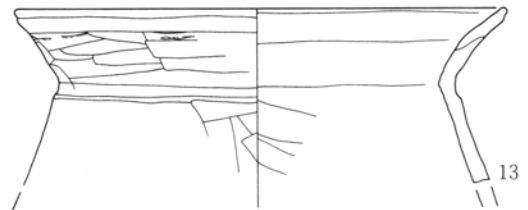
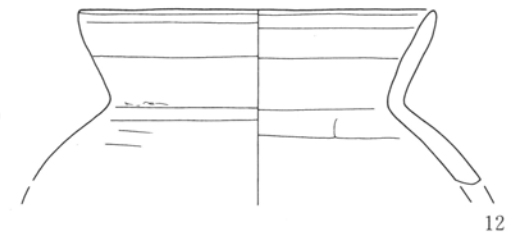
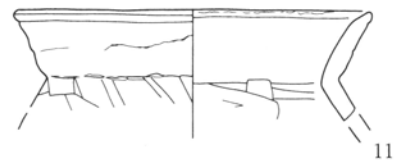
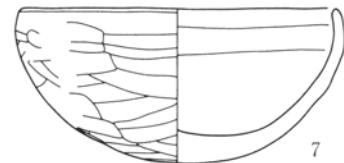
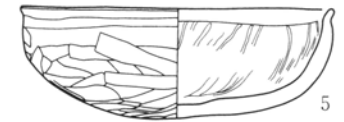
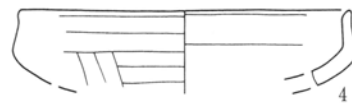
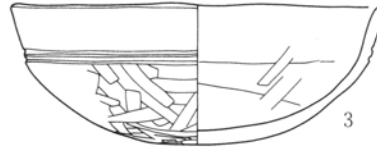
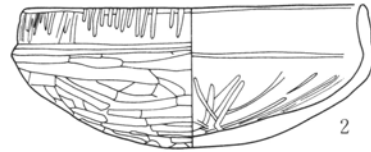
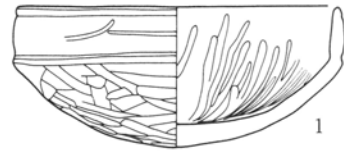
15号土坑

- 1 暗褐色土 焼土疎らに含む。縮まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土、焼土、白色粒含む。縮まり良い。
- 3 暗褐色土 砂質。にぶい黄褐色土ブロック含む。縮まり良い。
- 4 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック含む。
- 5 暗褐色土 砂質。にぶい黄褐色土含む。
- 6 にぶい黄褐色土 砂質。粒子均一。縮まり良い。
- 7 暗褐色土 炭化物少量含む。
- 8 褐色土 砂質。褐色土ブロック、金雲母多量に含む。

0 1 : 40 1m



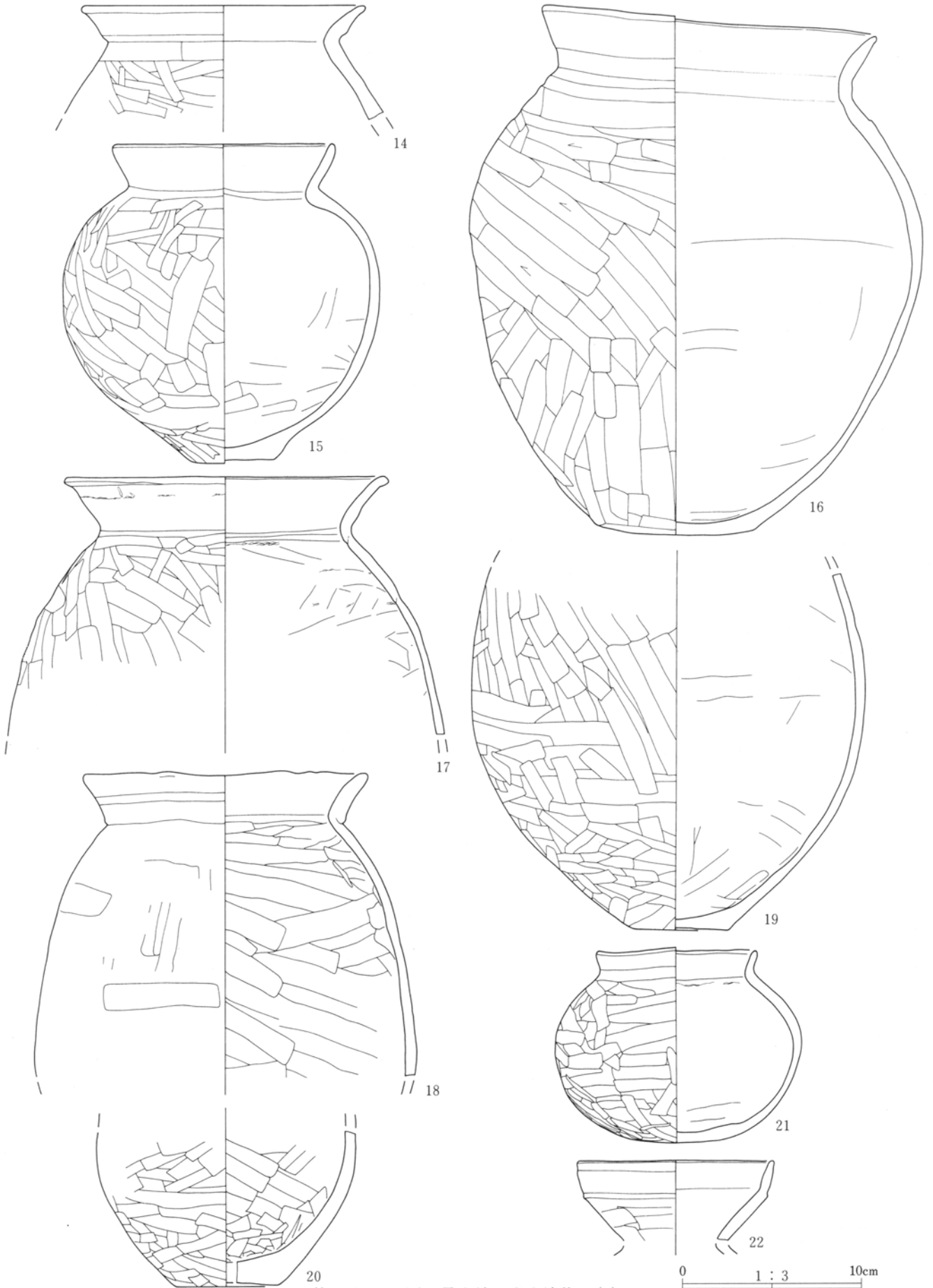
6区 土坑跡

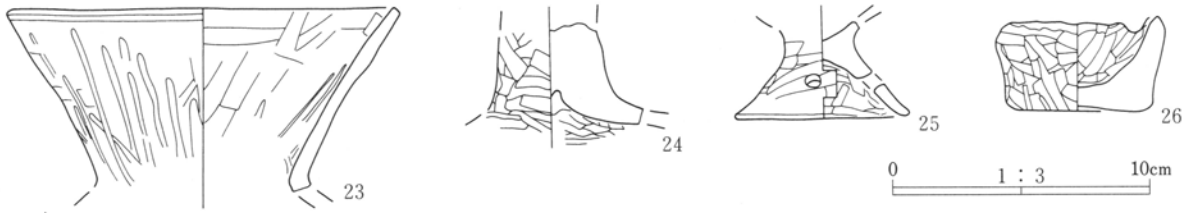


0 1 : 3 10cm

第248図 6区15号土坑 平・断面図、出土遺物 (1)

6区 土坑跡

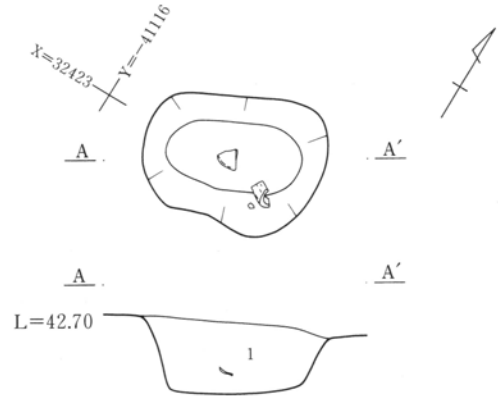




第250図 6区15号土坑 出土遺物 (3)

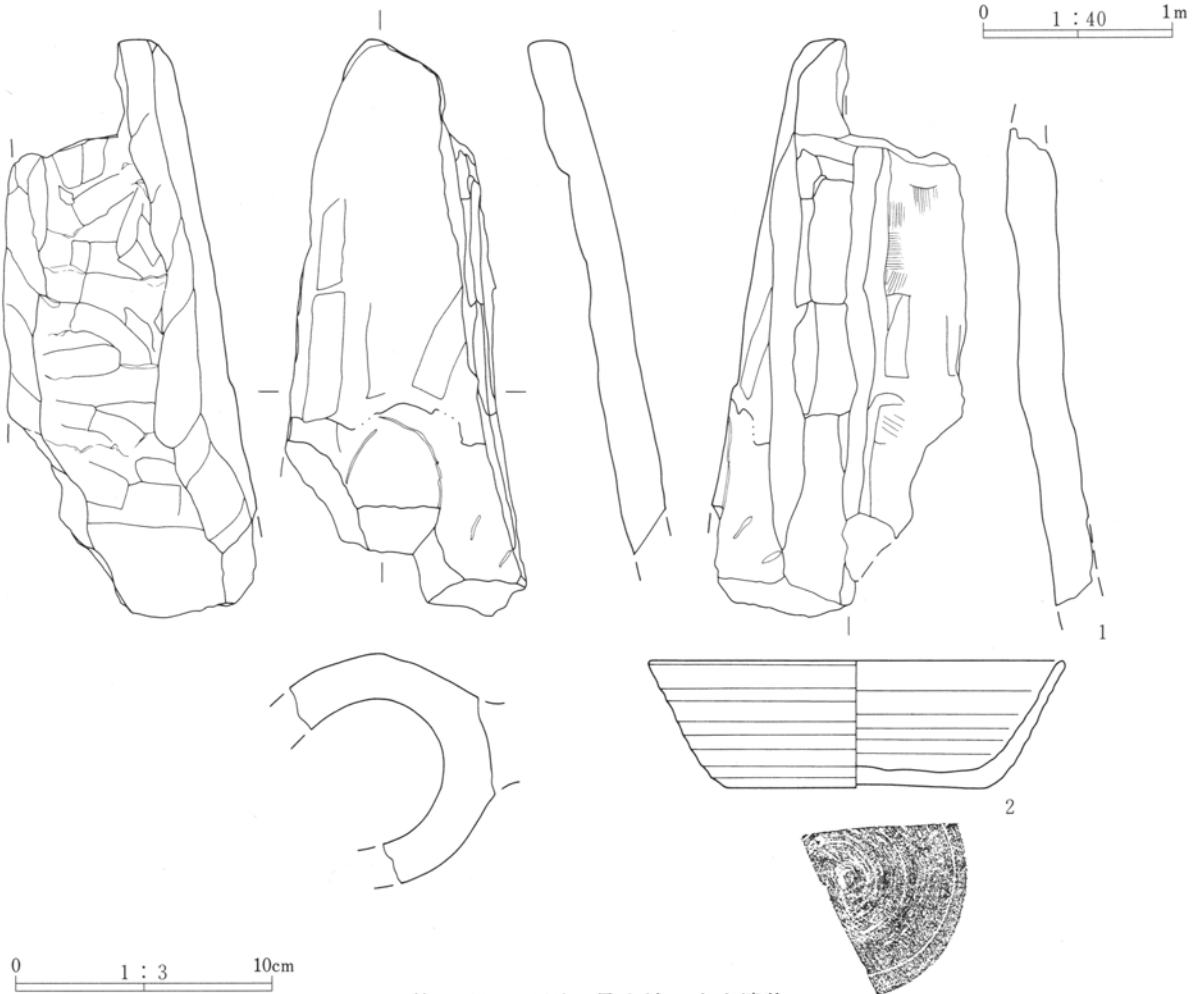
16土坑 (第207・251図、第11表、P L49・94)

16号土坑は、調査区東側に位置し、14号住居と重複する。14号住居により掘り壊されていることから本遺構の方が古い。隅丸長方形に近い不整形である。断面は台形を呈し、深さ30cmを測る。底部は概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、焼土粒、黄褐色ローム粒・ブロックを含む。遺物は1が形象埴輪、2は須恵器杯。その他、土師器片33点出土。小片のため図化できなかつた。出土遺物の状況から古墳時代後期と比定される。



16号土坑

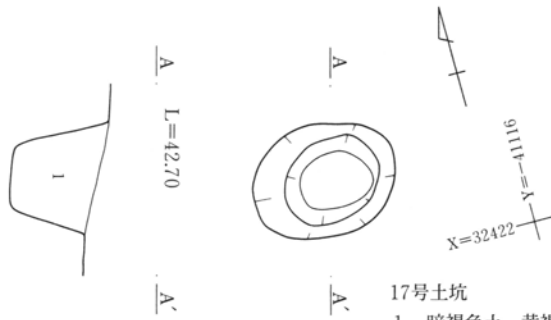
1 暗褐色土 黄褐色土、黄褐色土小ブロック中量、焼土疎らに含む。



第251図 6区16号土坑 出土遺物

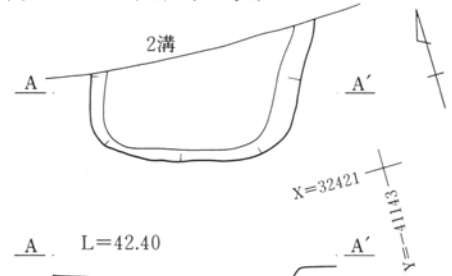
6区 土坑跡

17号土坑 (第207・252図、第11表、P L 49)



17号土坑
1 暗褐色土 黄褐色土含む。

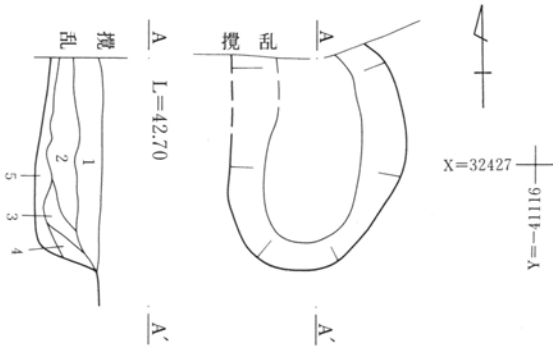
20号土坑 (第207・252図、第11表)



18号土坑 (第207・252図、第11表、P L 49・95)

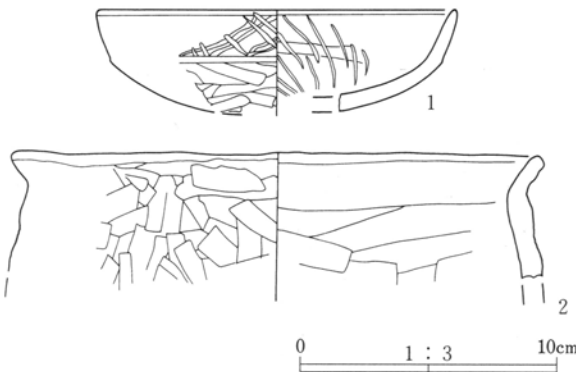
18号土坑は、調査区東側に位置し、14・20号竪穴住居跡と重複し、11号土坑と近接する。北側を攪乱により一部消失している。また、14・20号竪穴住居跡を掘り壊していることから、本遺構の方が新しい。調査区内の状況から楕円形と推察される。断面は皿状を呈し、深さ32cmを測る。底部は多少の凹凸はあるが平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、黄褐色

ローム粒・ブロックを含む。遺物は1が土師器坏、2は土師器甕。その他、土師器片多数、須恵器片少数出土。図化できる遺物はなかった。出土遺物は完形はなく、小片が多いことから土器廃棄場所の可能性が高い。また、出土遺物と埋土の状況から古墳時代後期と比定される。



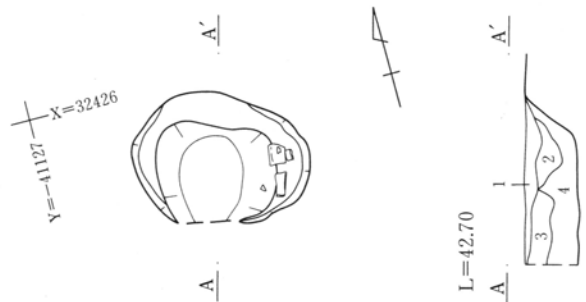
18号土坑

- 1 暗褐色土 焼土、炭化物疎ら、白色土粒含む。縮まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、焼土、炭化物含む。縮まりやや弱い。
- 3 暗褐色土 焼土、炭化物含む。縮まり弱い。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。縮まり良い。
- 5 暗褐色土 黄褐色土含む。縮まり弱い。



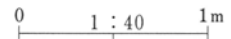
19号土坑 (第207・252・253図、第11表、P L 49・95)

調査区東側に位置し、21号住居と近接する。平面は楕円形で、断面は皿状を呈し、深さ22cmを測る。底部はやや丸い。埋土は暗褐色土を主体に下層に褐色土とにぶい黄褐色土層が分布する。遺物は1・2は埴輪。出土位置は主に暗褐色土層の下面からである。その他、土師器胴部片7点出土。小片のため図化できず、時期の特定もできなかった。



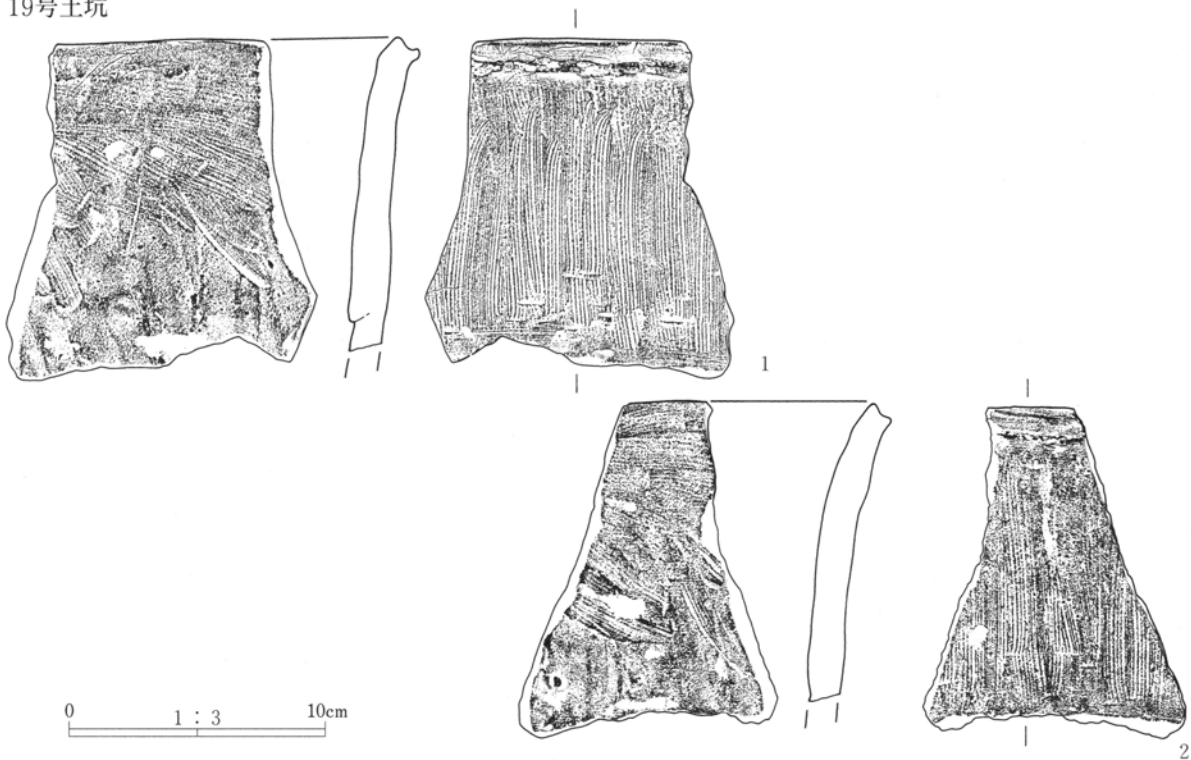
19号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物疎らに含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒疎ら、炭化物僅かに含む。1層より硬い。
- 3 暗褐色土 焼土粒、炭化物疎らに含む。
- 4 にぶい黄褐色土 黄褐色土多量、焼土、炭化物ほんの僅か含む。



第252図 6区17~19号土坑 平・断面図、出土遺物

19号土坑



第253図 6区19号土坑 出土遺物

第11表 6区 土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1	1号土坑	X=32418 Y=-41170	楕円形	N-59°-E	0.6	0.54	0.28		
2	2号土坑	X=32418 Y=-41169	(隅丸長方形)	N-29°-E	1.22	(0.98)	0.1	須恵器椀	北側が調査区外となるため全形不明。
3	3号土坑	X=32418 Y=-41173	(楕円形)	N-78°-E	0.86	0.28	0.15	須恵器坏	北側が調査区外となるため全形不明。
4	4号土坑	X=32419 Y=-41160	円形	N-8°-E	0.65	0.62	0.26		
5	5号土坑	X=32416 Y=-41157	楕円形	N-32°-E	0.7	0.65	0.1		
6	6号土坑	X=32418 Y=-41156	楕円形	N-20°-W	0.66	0.62	0.15		6号住と重複。
7	7号土坑	X=32418 Y=-41159	楕円形	N-23°-W	0.72	0.68	0.16		
8	8号土坑	X=32419 Y=-41157	円形	N-11°-W	1.12	1.08	0.2		
9	9号土坑	X=32420 Y=-41151	楕円形	N-83°-W	0.66	0.66	0.2		8号住居内、2号溝とも重複、2号溝より旧く8号住居より新しい。
10	10号土坑	X=32422 Y=-41108	不整形	N-71°-W	1.8	1.1	0.28	土師器甕	15号住居と重複、本土坑の方が新しい。
11	11号土坑	X=32425 Y=-41113	(楕円形)	N-70°-W	2.8	1.53	0.95	土師器甕、その他	14号住居と重複、本土坑の方が古い。北側が調査区外となるため全形は不明。
12	13号土坑	X=32418 Y=-41159	(楕円形)	N-0°	(1.04)	1.22	0.35	須恵器椀	3住と重複、本土坑の方が古い。
13	14号土坑	X=32417 Y=-41160	不整形	N-35°-E	1.2	1.16	0.29		3号住居内、本土坑の方が新しい。
14	15号土坑	X=32424 Y=-41118	長方形	N-0°	1.56	1.28	1.12	土師器甕他 多数の遺物 が出土	
15	16号土坑	X=32422 Y=-41114	不整形	N-65°-E	0.95	0.72	0.3	土師器、須 恵器坏	
16	17号土坑	X=32422 Y=-41116	楕円形	N-83°-W	0.76	0.68	0.33		
17	18号土坑	X=32426 Y=-41116	(楕円形)	N-0°	(1.1)	0.9	0.32	土師器甕、 高坏、坏	北側を攪乱によって消失しているため全形は不明。
18	19号土坑	X=32425 Y=-41125	楕円形	N-70°-W	0.94	(0.66)	0.22	埴輪、土師 器甕、坏	
19	20号土坑	X=32420 Y=-41143	(隅丸長方形)	N-73°-W	1.08	(0.60)	0.14		10号住居と重複、本土坑の方が新しい。北側を2号溝によって消失しているため全形は不明。

6区 溝跡

(3) 溝跡

浜町遺跡6区からは、8条の溝を検出した。溝についても時期不明のものが多く、埋土からの出土遺物は、古墳時代から近・現代のものまで混在している。東西に走行する溝が大半であるが、6・7号溝跡が南北に走行する溝である。さほど時間差のない溝

の重複の場合や、出土遺物が少数で小片ばかりの場合どちらが混入品か判断ができなかった。ほとんどの溝跡が竪穴住居跡を掘り壊していること、他遺構との埋土の比較と出土遺物から中世から近世までの溝跡が大半であると推察される。

1号溝 (第72・254・255図、P L50・95)

位置 6区 X=32413~420 Y=-41168~170

調査区西側に位置する。

重複遺構 1・2号住居、8号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構の方が新しい。

走向 南から北 (N-2°-E)

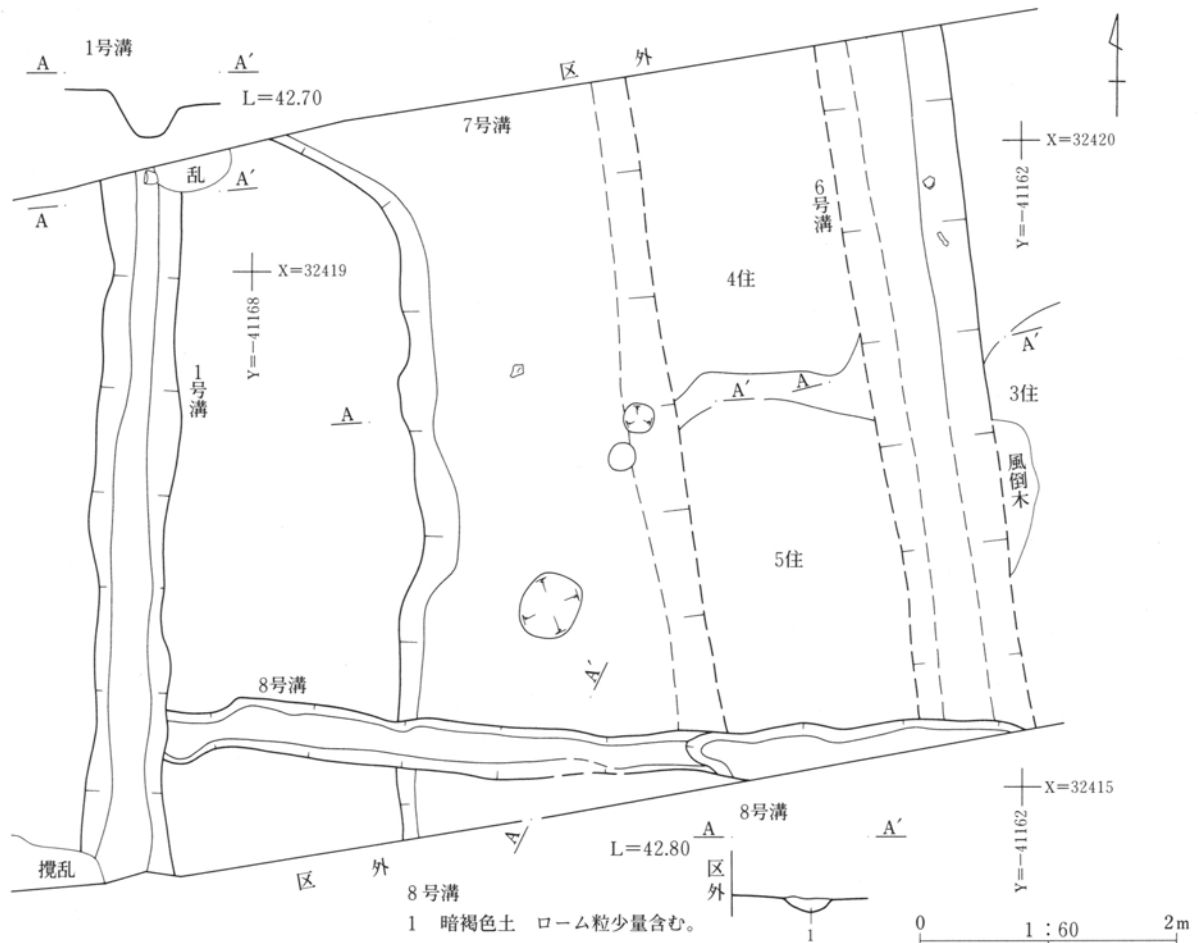
形態 直線的で、断面形は箱状を呈する。8号溝と直行する。南側から調査区内に現れ、北側で調査区外へと続く。

規模 検出全長 5.54m 上幅 0.50~0.66m

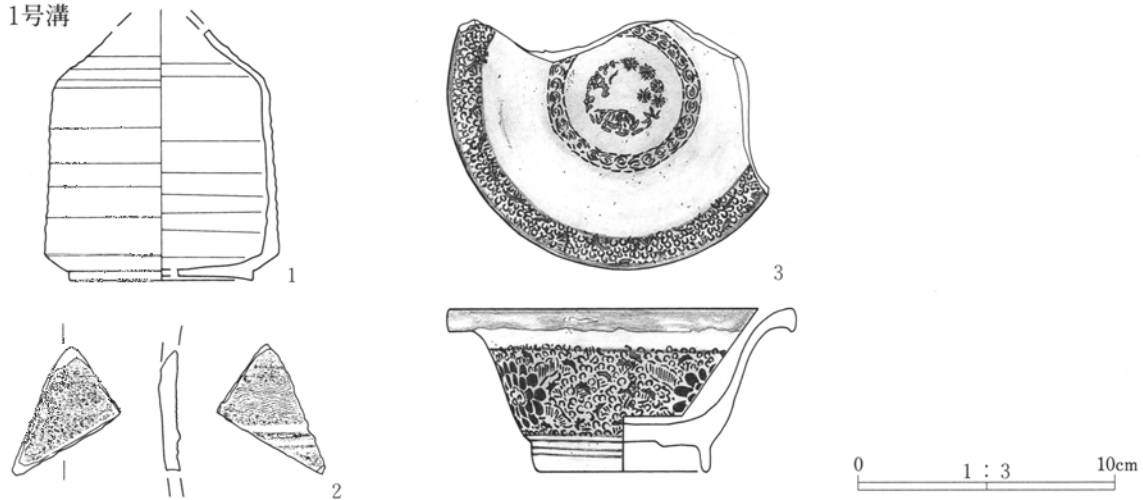
底幅 0.16~0.38m 深さ 0.36m

遺物 1は陶器、2は須恵器甕、3は陶磁器。その他、内耳鍋、軟質陶器、土師器片、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。中世~近世にかけての遺物が多い。

所見 遺物の出土状況から、長くても中世から近世に利用されたと考えられる。また、須恵器片、土師器片は重複遺構の遺物か混入の遺物の可能性が高い。



第254図 6区1・6~8号溝 平・断面図



第255図 6区1号溝 出土遺物

6号溝 (第72・254・256図、P L50・95)

位置 6区 X=32418~421 Y=-41162~164

調査区西側に位置する。

重複遺構 3~5号住居、8号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、3~5号住居、8号溝より新しい。

走向 北西から南東 (N-8°-W)

形態 直線的で、断面形は逆台形状を呈する。調査区北壁から現れ、調査区南壁に延びていく。重複遺構が多く、埋土も酷似しており、上部からの削平のため遺構の遺存状態も悪く、平成14・15年度の2年

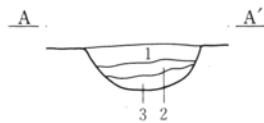
にわたり調査されたため、遺構を明確に確認できなかった。溝北側の東壁と西壁の一部しか検出することができなかった。上幅、底幅ともに推定である。

規模 検出全長 2.76m 上幅 (0.90~1.00)m
底幅 (0.34~0.40)m 深さ (0.33)m

遺物 1はコンロ出土。その他、土師器片、須恵器片少数出土。小片のため図化できなかった。

所見 時期を特定することはできなかった。遺物の出土状況と埋土の状況、重複関係から、近世の比較的新しい溝と推察される。

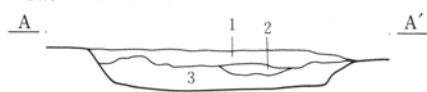
6号溝 L=42.80



6号溝

- 1 暗褐色土 微小白色土含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 砂質。微小白色、黄褐色土含む。締まりやや弱い。
- 3 暗褐色土 砂質。黄褐色土多量に含む。

7号溝 L=42.70



7号溝

- 1 暗褐色土 にぶい黄褐色土、焼土粒、炭化物僅かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物僅かに含む。
- 3 暗褐色土 にぶい黄褐色土多量、小礫僅か、炭化物極僅かに含む。締まりやや良い。



第256図 6区6・7号溝 断面図、6号溝出土遺物

6区 溝跡

7号溝 (第72・254・257図、P L50・95)

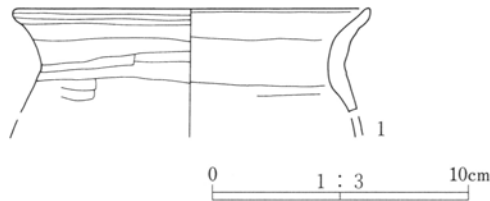
位置 6区 X=32414~421 Y=-41165~168

調査区西側に位置する。

重複遺構 2・4・5号住居、8号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、3~5号住居より新しく、8号溝より古い。

走向 北西から南東 (N-8° -W)

形態 直線的で、断面形は皿状を呈する。調査区北壁から現れ、調査区南壁に延びていく。調査区の複雑な埋土、遺構の重複等により調査区内において溝

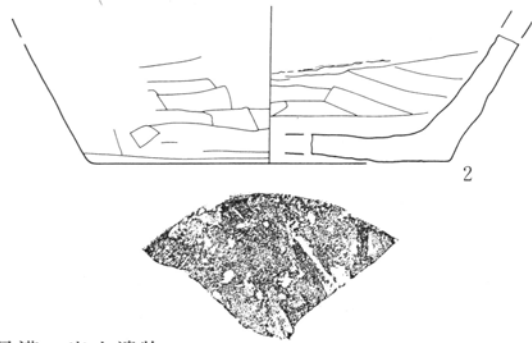


の東肩部分の一部確認できたが、溝全体を検出することが困難であった。上幅、底幅ともに推定である。全体は検出することができなかった。

規模 検出全長 5.6m 上幅 (0.62~1.84)m
底幅 (0.40~1.18)m 深さ 0.30m

遺物 1は土師器甕、2は須恵器甕。その他、土師器片、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況と重複関係から、奈良・平安時代以降と考えられるが、走行からは比較的新しい溝と判断できるため時期を特定できなかった。



第257図 6区7号溝 出土遺物

8号溝 (第72・254図、P L50)

位置 6区 X=32415~416 Y=-41164~169

調査区西側、南壁付近に位置する。

重複遺構 1・3・5号住居、1・6・7号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、1・3・5号住居、6・7号溝より新しく、1号溝より古い。

走向 西から東 (N-84° -W)

形態 直線的で、断面形は逆台形状を呈する。1号溝南側より現れ、調査区南壁に延びていく。

規模 検出全長 4.05m 上幅 0.28~0.40m
底幅 0.18~0.28m 深さ 0.22m

遺物 なし

所見 遺構の重複関係と埋土の状況から比較的新しい溝と推察される。1区2号溝と同一の可能性はある。

2号溝 (第72・258図、P L95)

位置 6区 X=32419~426 Y=-41117~167

調査区中央部に位置する。

重複遺構 8・9・11・12・19・27号住居、3・4号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の観察により3・4号溝のほうが本遺構より新しく、8・9・11・12・19・27号住居が本遺構より古い。

走向 西から東 (N-82° -W)

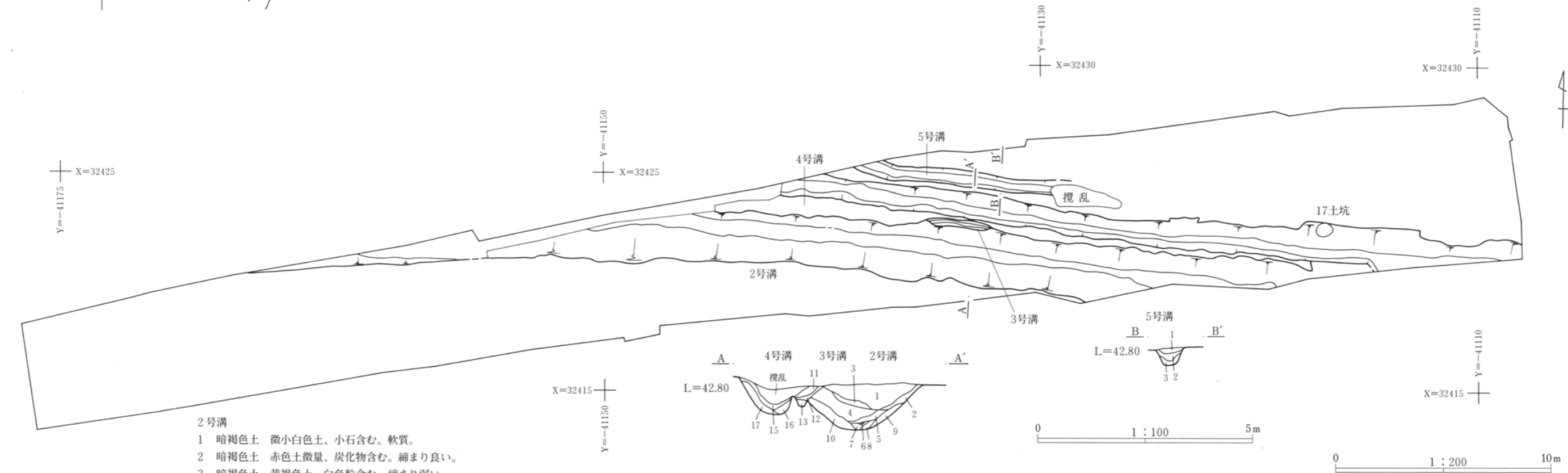
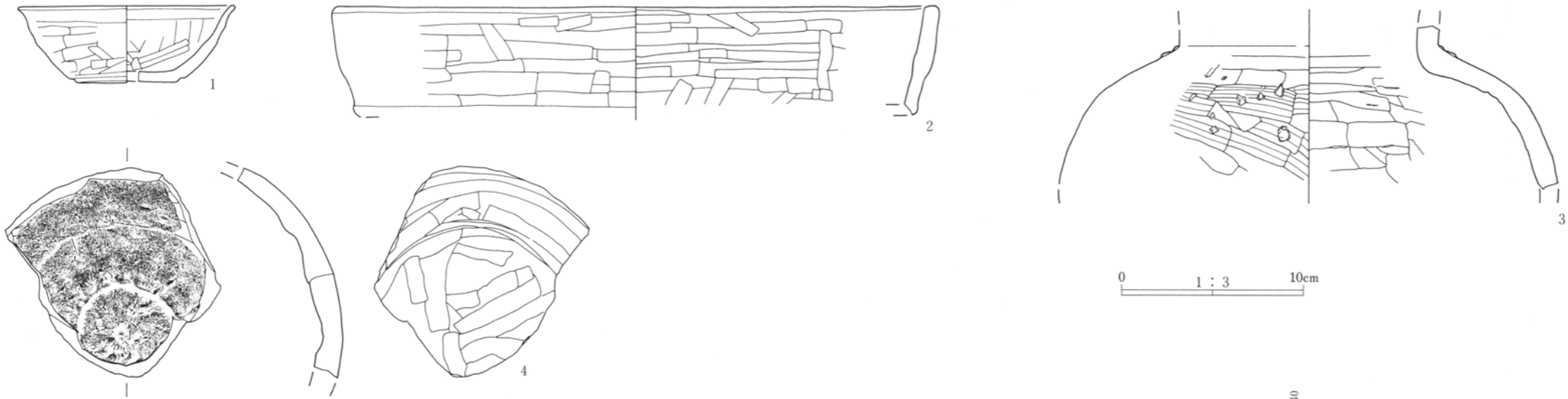
形態 直線的で、断面形は緩やかな法面をもつ逆台形状を呈する。3・4号溝と並行し、調査区北側から現れ、調査区東壁付近の南東側へと続く。

規模 検出全長 25.604m 上幅 2.30~2.80m
底幅 0.30~0.80m 深さ 0.80~1.20m

遺物 1は須恵器坏、2は近世の軟質陶器焙烙、3は須恵器甕、4は須恵器横瓶。その他、骨片、須恵器片、土師器片多数、明治時代のコンロ、近世の甕出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、長くても江戸時代から近代にかけての比較的新しい溝と考えられる。須恵器片、土師器片については、やや摩滅気味であることから混入と考えられる。

2号溝



2号溝

- 1 暗褐色土 微小白色土、小石含む。軟質。
- 2 暗褐色土 赤色土微量、炭化物含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土、白色粒含む。締まり弱い。
- 4 暗褐色土 微小白色土、焼土粒、炭化物疎らに含む。固く締まる。
- 5 暗褐色土 にぶい黄褐色土の砂含む。固く締まる。
- 6 にぶい黄褐色土 砂層。
- 7 暗赤褐色土 シルト質。締まり良い。
- 8 暗赤褐色土 6層と7層の混土。
- 9 にぶい黄褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土。
- 10 にぶい黄褐色土 砂質。赤褐色土少量含む。締まり良い。

3号溝

- 11 暗褐色土 黄褐色土少量含む。締まり良い。
- 12 暗褐色土 砂質。
- 13 暗褐色土 細砂。締まり良い。

4号溝

- 14 暗褐色土 黄褐色土、炭化物微量に含む。締まり良い。
- 15 暗褐色土 砂状土。締まり良い。
- 16 暗褐色土 砂状土。締まりやや弱い。
- 17 暗褐色土 黄褐色土の砂含む。溝の肩崩れ。

5号溝

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック、白色微粒子、炭化物疎らに含む。固く締まる。
- 2 暗褐色土 赤褐色土疎ら、炭化物少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量に含む。締まり良い。

第258図 6区2～5号溝 平・断面図、出土遺物

3号溝 (第72・258図)

位置 6区 X=32422~423 Y=-41132~136

調査区西側に位置する。

重複遺構 2・4号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構は、2号溝より新しく、4号溝より古い。

走向 西から東 (N-82° -W)

形態 他の遺構と重複しているため、本遺構の一部検出。そのため、全形は不明。直線的で、断面形は皿状を呈すると推察される。

規模 検出全長 2.80m 上幅 0.20~0.40m

底幅 0.10~0.30m 深さ 0.10m

遺物 平安時代の須恵器片9点、土師器片25点、近現代の急須、スレート、江戸時代の内耳鍋などが出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況と重複関係から、近世の比較的新しい溝で、現代まで使用されていた可能性がある。須恵器片、土師器片については、やや摩滅気味であることから混入と考えられる。

4号溝 (第72・258図)

位置 6区 X=32420~425 Y=-41108~142

調査区中央部から東側に位置する。

重複遺構 2・3号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、2・3号溝より新しい。

走向 北西から南東 (N-82° -W)

形態 直線的で、断面形はやや急峻な法面をもつ逆

台形状を呈する。

規模 検出全長 30.55m 上幅 0.85~1.80m

底幅 0.20~0.60m 深さ 0.88m

遺物 時期不明の遺物2点出土。

所見 埋土の状況と重複関係から、近世の比較的新しい溝で、現代まで使用されていた可能性がある。

5号溝 (第72・258図)

位置 6区 X=32424~426 Y=-41129~139

調査区中央部から東側に位置する。

重複遺構 13・17号住居と重複。遺構平面確認と土層断面の観察により本遺構が、13・17号住居より新しい。

走向 北西から南東 (N-85° -W)

形態 直線的で、断面形はやや急峻な法面をもつ逆台形状を呈する。北側調査区壁から現れ、13号竪穴住居跡内と攪乱付近で消失する。

規模 検出全長 8.45m 上幅 0.70~0.80m

底幅 0.25~0.40m 深さ 0.39m

遺物 刷毛目のある甕の胴部片、土師器片、現代の遺物も出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土状況と埋土の状況から、近世の比較的新しい溝で、現代まで使用されていた可能性がある。2号溝から4号溝と走行も一致し、埋土も酷似している状況から、それぞれの遺構はさほど時間差なく利用されていた可能性がある。

(4)ピット跡

本遺跡から3基のピットを確認したが、調査時2基をピットと認定した。出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものはなかった。整理時点で掘立柱建物跡、柵列跡等の遺構関連の検討を行ったが該当するものはなかった。水田耕作、線路敷設時の土地整備により、上部からの削平が著

しく、掘削深度の浅いピットは、この時点で消失してしまったものと推察される。ピットについては他地区と同様、それぞれの形態・規模については一覧表に掲げ、位置については遺跡全体図の中に提示した。2基のピットはいずれも出土遺物が少なく時期を特定するまでにはいたらなかった。

6区 ピット跡・遺構外出土遺物

第12表 6区 ピット一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1	1号ピット	X=32422 Y=-41139	円形	N-72° -W	0.30	0.30	0.33	土師器胴部片	
2	2号ピット	X=32426 Y=-41110	楕円形	N-42° -E	1.66	0.70	0.52		

(5) 6区の遺構外出土遺物 (第259・260図、P L96)

浜町遺跡6区で出土した遺構に伴わない遺物を報告する。旧石器、弥生時代の明確な遺物は、確認されていない。調査時遺構のほとんどは、約30cm～40cmの遺物を多く含んだ暗褐色土下より検出されている。調査のためグリッドから遺物採取も行われているため、整理時グリッドと遺構位置の検討を行い、土器接合・復元をおこなった。遺物は古墳時代から近現代まで、様々な遺物が多数出土しているが、小片のため図化できた遺物は少なかった。

古墳時代

明らかに古墳時代のもので確認できる遺物は、2～5が土師器坏、6は土師器器台、7は埴輪、10は勾玉である。その他、土師器片多数、須恵器片23点出土。摩耗も激しく図化できる遺物はなかった。

奈良・平安時代

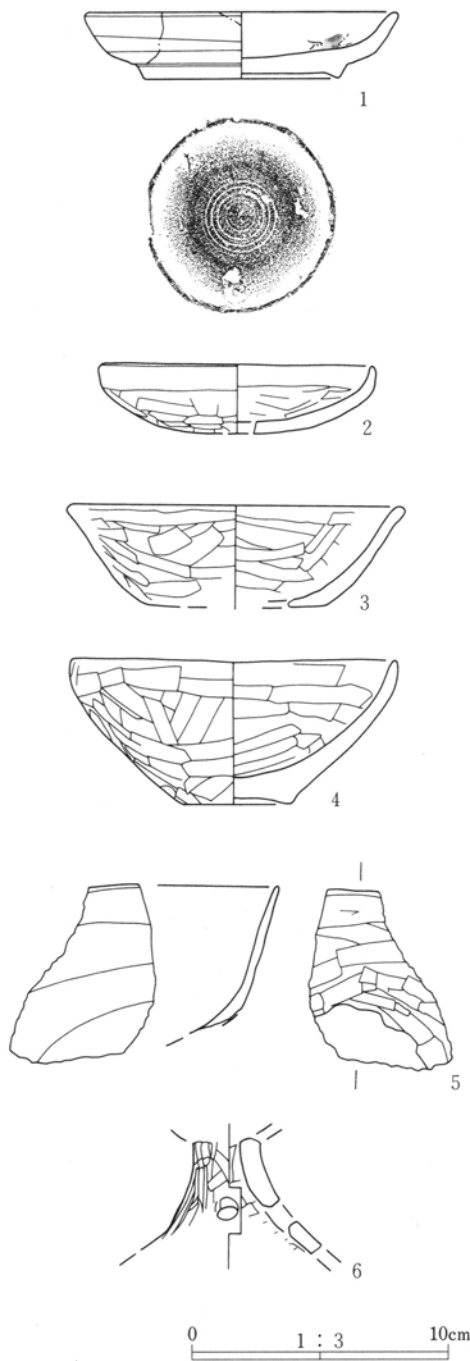
検出された、遺物は、土師器口縁片と胴部片が多数出土。時期を特定するまでにはいたらなかった。また、図化できる遺物はほとんどなかった。

中・近世

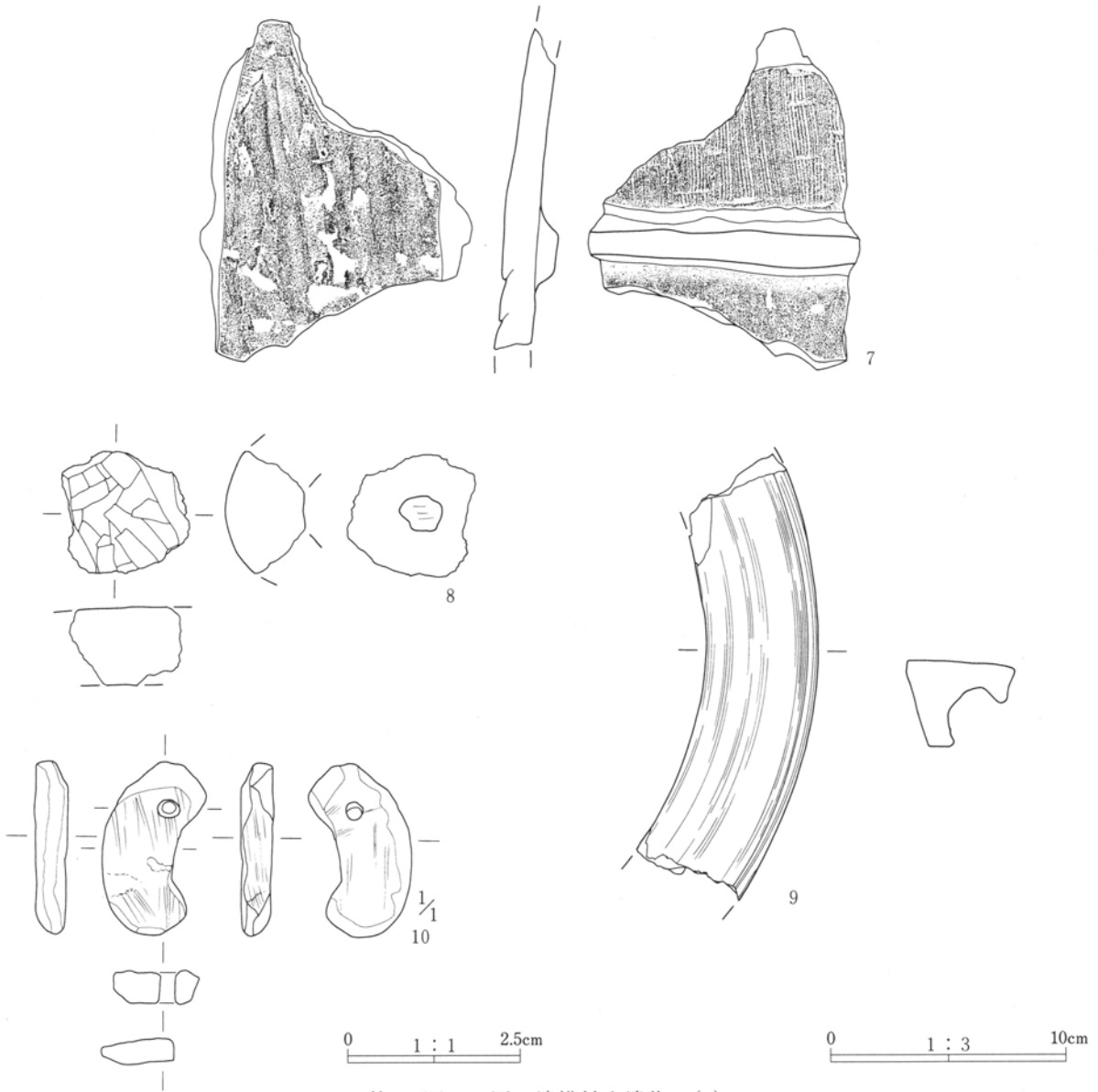
1は陶器皿、9は竈の釜止めである。この時期の検出遺構はなく、表面採取遺物として、現代のものも含む陶磁器片が37点出土。図化できる遺物は少なかった。

時期不明

8の羽口と鉄製品3点。その他、陶器片、軟質陶器片、磁器片などが出土。時期を特定できなかった。



第259図 6区 遺構外出土遺物 (1)



第260図 6区 遺構外出土遺物 (2)

浜町遺跡遺物観察表（0区）

0区 6号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第6図 P L51	1	土師器 坏	1 / 4	口径 底径 高さ — (10.2) (3.8)	①粗砂粒やや多い ②良好 ③橙色	内外面ともに器面の荒れがひどい。腰部がはり、体部直線的に立ち上がる。口縁部やや外傾する。底部欠損の為詳細不明、残存状況からヘラ削りと考えられる。内面口縁部～底部ヘラナデ。	6世紀前半

0区 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第7図 P L51	1	土師器 甕	表採 底部1 / 2	口径 底径 高さ — (5.6) (2.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③淡黄色	内外面ともに器面の荒れがひどい。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部木葉痕、欠損の為詳細不明。	木葉痕 5世紀頃
第7図 P L51	2	須恵器 甕	表採 破片	口径 底径 高さ — (6.2)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。口縁部外面に波状文が2段、突帯一条、突帯上部に沈線一条。	時期不明
第7図 P L51	3	須恵器 蓋	表採 口縁部	口径 底径 高さ — (11.0) (3.1)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。外面上部手持ちヘラ調整。欠損の為詳細不明。	6世紀後半

浜町遺跡遺物観察表（1区）

1区 1号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第9図 P L51	1	須恵器 坏	床面 2 / 3	口径 底径 高さ (14.6) 8.8 4.2	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形（回転方向不明）。腰部が張り、体部・口縁部が直線的に立ち上がる。内面丁寧なヘラナデ。	8世紀後半

1区 2号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第12図 P L51	1	土師器 土釜	床面 口縁部	口径 底径 高さ (24.0) — (8.3)	①粗砂粒やや多い ②良好 ③橙色	若干斜位ヘラナデを確認できるが、内外面ともに器面の荒れがひどく、詳細不明。	10世紀後半～ 11世紀
第12図 P L51	2	須恵器 甕	床面 胴部片	口径 底径 高さ — — (8.5)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面に刷毛目を確認。	時期不明

1区 3号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第14図 P L51	1	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 底径 高さ — — (5.3)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③にぶい橙色	ヘラナデを僅かに確認できるが、内外面ともに器面の荒れがひどく、詳細不明。	9世紀前半
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量	器形・技法等の特徴	備考
第14図 P L51	2	石器 磨石・敲石	床面	長さ 幅 高さ 8.0 5.0 4.7	安山岩 273.8 g	側面に摩滅痕、先端部に敲打痕有り。表面一部剥離。	

1区 4号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第15図 P L51	1	須恵器 椀	床面 高台部欠損	口径 底径 高さ — — (4.0)	①粗砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形（右回転）、付け高台。高台欠損の為不明。腰部が張り、体部が直線的に立ち上がる。	9世紀
第16図 P L51	2	須恵器 坏	床面 1 / 2	口径 底径 高さ 14.2 7.0 4.9	①礫・粗砂粒多量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形（右回転）、底部回転糸切り後、周縁部の回転ヘラ削り。体部やや丸味を帯びて立ち上がる。	径3～5mmの礫 8世紀

1区 5号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第17図 P L 51	1	土師器 甕	甕 口縁～胴部 1/3	口径 — (18.2) 底径 — (13.0) 高さ	①微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部やや外傾し、体部やや膨らむ。口縁部ヘラナデ、胴部上位横・下位縦位ヘラ削り。内面ヘラナデ後指ナデ。	輪積痕有り 5住-2と同一固体 7世紀～8世紀
第17図 P L 51	2	土師器 甕	甕 胴部～底部 1/2	口径 — (4.0) 底径 — (9.4) 高さ	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	体部やや膨らむ。胴部下位縦位ヘラ削り、底部付近横ナデ。内面ヘラナデ後指ナデ。	5住-1と同一固体 7世紀～8世紀
第17図 P L 51	3	土師器 甕	床面 口縁～胴部	口径 — (10.8) 底径 — (5.5) 高さ	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや内湾する。底部欠損の為詳細不明。口縁部横ナデ、胴部横位ヘラ削り。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	6世紀後半
第17図 P L 51	4	須恵器 椀	貯蔵穴・覆土 1/2	口径 — (13.6) 底径 3.3 高さ 5.2	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(回転方向不明)。内外面ともに荒れがひどい。付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。体部・口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部やや外反する。内面荒れがひどく詳細不明。	9世紀第4四半期

1区 6号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第19図 P L 52	1	須恵器 坏	覆土 1/5	口径 — (10.2) 底径 — (6.09) 高さ 2.3	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。内外面ともに荒れがひどい。回転糸切りと考えられる。体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部やや外傾する。	断面も摩滅している。 9世紀頃
第19図 P L 52	2	須恵器 椀	床面 口縁部	口径 — (12.0) 底径 — (3.4) 高さ	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙色	轆轤成形(回転方向不明)。体部・口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部やや外傾する。底部欠損の為詳細不明。	9世紀頃
第19図 P L 52	3	須恵器 椀	床面 底部	口径 — (2.6) 底径 — (2.6) 高さ	①細・微砂粒多量 ②酸化焰 ③灰白色	轆轤成形(回転方向不明)、高台付き。高台部欠損、内・外面とも器面荒れの為詳細不明。内面黒く磨いている。	10世紀頃
第19図 P L 52	4	須恵器 羽釜	覆土 口縁～胴部 1/3	口径 — (21.4) 底径 — (22.0) 高さ	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや内湾する。底部欠損の為詳細不明。口縁部横ナデ、胴部横位ヘラ削り・及びヘラナデ。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	10世紀頃
第19図 P L 52	5	須恵器 羽釜	床面 底部	口径 — (10.0) 底径 — (5.0) 高さ	①粗砂粒少量、細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	底部ヘラ削り、内面ヘラナデ。内外面ともに荒れがひどく、また胴部・口縁部欠損の為詳細不明。	10世紀頃

1区 7号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第20図 P L 52	1	須恵器 坏	覆土 2/3	口径 11.6 底径 6.2 高さ 3.6	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③褐色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後周縁部の削り。腰部がやや張り、体部・口縁部が直線的に立ち上がる。器形が歪んでいる。	
第20図 P L 52	2	須恵器 椀	床面 底部	口径 — (7.4) 底径 — (2.6) 高さ	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい褐色	轆轤成形(右回転)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。体部・口縁部欠損の為詳細不明。内外面とも器面の荒れがひどい。	径3～5mm程の礫 僅かに含む。 10世紀後半
第20図 P L 52	3	須恵器 椀	床面 1/2	口径 — (14.8) 底径 — (7.5) 高さ 6.6	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。腰部がやや張り、体部・口縁部が直線的に立ち上がる。器面の荒れがひどい。	径2～3mmの礫 やや多い。 10世紀
第20図 P L 52	4	須恵器 椀	床面 体部～底部	口径 — (7.0) 底径 — (3.9) 高さ	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③灰白色	轆轤成形(右回転)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開くがやや角度が広い。高台の取り付けがやや粗雑。体部・口縁部欠損の為詳細不明。	10世紀頃
第20図 P L 52	5	須恵器 羽釜	床面 口縁～胴部片	口径 — (24.6) 底径 — (11.3) 高さ	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③明赤褐色	轆轤成形後ヘラナデ調整。体部やや膨らみをもちながら立ち上がり、口縁部やや内湾する。底部欠損の為詳細不明。内面口縁部～胴部横ナデ。	
第20図 P L 52	6	土師器 羽釜	床面 底部片	口径 — (8.0) 底径 — (5.0) 高さ	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③明褐色	口縁部～胴部欠損の為詳細不明。底部斜位ヘラ削り、内面ヘラナデ。やや粗雑な作り。	10世紀～11世紀

1区 9号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第22図 P L 52	1	縄文土器 深鉢	床面 破片	口径 — 底径 — 高さ (5.0)	①粗砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部LR縦位横位施文による羽状構成。	堀之内I式 流れ込みの可能性有り
第22図 P L 52	2	須恵器 坏	覆土 底部	口径 — 底径 5.4 高さ (1.1)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り。体部・口縁部欠損。内外面とも荒れ、断面も摩滅している、詳細不明。	10世紀以降?
第22図 P L 52	3	須恵器 椀	覆土 底部1/3	口径 — 底径 — 高さ (2.6)	①細・微砂粒やや多い ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。体部・口縁部欠損の為詳細不明。器面の荒れがひどい。	土師質土器? 10世紀後半
第22図 P L 52	4	須恵器 椀	覆土 底部片	口径 — 底径 (6.3) 高さ (2.8)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部・体部・口縁部欠損の為詳細不明。器内面を吸炭させている。棒状工具による磨きと思われる部分が認められるが、内外面とも荒れがひどく、詳細不明。	土師質土器? 10世紀~11世紀

1区 1号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第23図 P L 52	1	須恵器 甕	覆土 破片	口径 — 底径 — 高さ (4.4)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	内外面とも器面が荒れ、詳細不明。	
第23図 P L 52	2	須恵器 横瓶	覆土 胴部破片	口径 — 底径 — 高さ (7.4)	①粗砂粒やや多い ②還元 ③灰色	外面刷毛目が僅かに認められる。内面ヘラナデ。	8世紀頃

1区 2号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第23図 P L 53	1	土師器 小型壺	覆土 口縁~体部	口径 (13.0) 底径 — 高さ (5.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾する。底部欠損の為詳細不明。口縁部横ナデ、胴部横位・斜位ヘラ削り。内面口縁部~胴部ヘラナデ。	6世紀後半?
第23図 P L 53	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (14.0) 底径 — 高さ (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部横ナデ、「く」の字状に外反する。外面刷毛目が僅かに認められる。体部、底部欠損の為不明。	4世紀~5世紀
第23図 P L 53	3	陶磁器 不明	覆土 破片	口径 — 底径 — 高さ (4.4)	③灰白色	染め付け、内外面とも釉薬。	時期不明

1区 9号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第26図 P L 53	1	埴輪	覆土 破片	口径 — 底径 — 高さ (5.0)	①粗砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	器面の荒れがひどい。外面粗い刷毛目調整。	流れ込み? 時期不明

1区 12号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第27図 P L 53	1	須恵器 坏	床面 ほぼ完形	口径 12.6 底径 5.6 高さ 4.1	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③浅黄色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後周縁部の削り。腰部がやや張り、体部が直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反する。	10世紀頃
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量	器形・技法等の特徴	備考
第27図 P L 53	2	石器 磨石・蔽石	床面	長さ 12.3 幅 8.3 厚さ 5.7	安山岩 753.8g	先端部に敲き痕、表裏両面に摩滅痕有り。	

1区 13号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量	器形・技法等の特徴	備考
第27図 P L 53	1	石器 蔽石	覆土	長さ (4.6) 幅 10.0 厚さ 4.8	石英安山岩 234.5 g	表裏面に摩滅痕有り、下面に敲き痕有り。	

1区 17号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第29図 P L 53	1	須恵器 甕	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (2.9)	①細・微砂粒少量、粗砂粒僅か ②還元焰 ③灰色	外面斜めの平行叩き、内面青海波当て具痕。	時期不明

1区 3号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第31図 P L 53	1	陶器 椀	底面 1/2	口径 10.0 底径 4.0 高さ 4.9	① ② ③	染付 肥前	18世紀後半?

1区 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第33図 P L 53	1	須恵器 坏	表採 1/3	口径 (9.2) 底径 4.4 高さ (2.0)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り。周縁部の回転ヘラ削り。腰部が張り口縁が外反する。内外面ともに器面の荒れ。	土師質土器? 時期不明

浜町遺跡遺物観察表(2区)

2区 3号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第38図 P L 53	1	陶器 器種不詳	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ② ③にぶい黄色	小片の為詳細不明。外面に釉。	時期不明

2区 4号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第38図 P L 53	1	埴輪	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (8.8)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③橙色	器面の荒れの為整形痕不明。突帯が一条あるが、摩滅している。	
第38図 P L 53	2	陶器 片口鉢	覆土 底部破片	口径 - 底径 - 高さ (5.4)	①粗・細砂粒少量 ② ③にぶい黄橙色	内外面とも器面の荒れの為不明。内面底部に一部釉が掛かる。	

2区 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第40図 P L 53	1	縄文	表採 破片	口径 - 底径 - 高さ (3.3)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄橙色	半截竹管による斜位の沈線を施す。	諸磯 a
第40図 P L 53	2	縄文 深鉢	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (5.6)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄橙色	竹管による円形刺突文。地紋 R L 縄文。	諸磯 a

浜町遺跡遺物観察表（3区）

3区 1号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第43図 P L 53	1	埴輪 円筒埴輪	竈	口径 - 底径 - 高さ (9.0)	①径3～10mmの小礫 少量含む ②良好 ③橙色	内外面ともに粗い刷毛目調整。断面M字型のタガが一条巡る。小さな円孔透し有り。	
第43図 P L 53	2	埴輪 形埴輪の台部 (馬形埴輪?)	竈	口径 - 底径 - 高さ (16.9)	①径3～10mmの小礫 少量含む ②良好 ③高さ	外面細かな刷毛目調整。内面指ナデ後刷毛目調整。上部部に小形の円孔透しが遺存する。	
第43図 P L 53	3	須恵器 椀	竈 底部	口径 - 底径 7.0 高さ (1.8)	①細・微砂粒 ②酸化焰 ③橙色	轆轤成形（右回転）付け高台。底部のみの為詳細不明。器面が荒れ、断面も摩滅している。	
第43図 P L 53	4	陶磁器 椀	覆土 底部 1 / 4	口径 - 底径 (7.0) 高さ (3.3)	① ② ③灰白色	内外面とも釉が掛かる。	時期不明
第43図 P L 53	5	瀬戸美濃 皿	覆土 破片	口径 - 底径 (8.0) 高さ (3.1)	① ② ③灰黄色	轆轤成形、蛇の目凹型高台。染め付け、高台より内側釉薬なし。	瀬戸・美濃

3区 2号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第44図 P L 54	1	土師器 甕	床面 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (5.3)	①褐色粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部内外面とも横ナデ、「コ」の字状口縁、口縁部が外反する。胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	9世紀後半
第44図 P L 54	2	土師器 甕	床面 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (5.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部内外面とも横ナデ、「コ」の字状口縁、口縁部が外反する。胴部外面ヘラケズリ、内面横ナデ。	9世紀頃
第45図 P L 54	3	土師器 甕	床面 口縁部破片	口径 - 底径 - 高さ (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部内外面とも横ナデ、「コ」の字状口縁。	9世紀
第45図 P L 54	4	須恵器 坏	床面 1 / 4	口径 (12.6) 底径 (5.2) 高さ 3.8	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形（右回転）、回転糸切り後周縁部の削り。体部直線的に立ち上がり、口縁部やや外傾する。内面ヘラナデ調整。	9世紀第3四半期～第4四半期
第45図 P L 54	5	須恵器 坏	床面 底部	口径 - 底径 (6.0) 高さ (3.2)	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形（右回転）、回転糸切り後周縁部の削り。整形後ヘラ調整。腰部やや丸味を帯びる。体部、口縁部欠損の為詳細不明。	9世紀頃
第45図 P L 54	6	須恵器 坏	床面 1 / 6	口径 (13.0) 底径 (6.0) 高さ 4.4	①細砂粒少量、粗砂粒僅か ②還元焰 ③暗灰黄色	轆轤成形（回転方向不明）、回転糸切り後周縁部の削り。体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部やや外傾する。	8世紀～9世紀
第45図 P L 54	7	土師器 椀	床面 破片	口径 - 底径 - 高さ (4.2)	①細・微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面横ナデ。	

3区 3号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第46図 P L 54	1	土師器 台付甕	覆土 脚部	口径 - 底径 (9.4) 高さ (2.6)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	内外面とも横ナデ。	時期不明
第46図 P L 54	2	須恵器 甕	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (4.0)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	内面ヘラ削り、外面釉薬。	
第46図 P L 54	3	須恵器 甕	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (6.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	内面青海波当て具痕、外面叩き痕。	
第46図 P L 54	4	須恵器 甕	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (3.5)	①細砂粒少量 ②還元焰 ③黒色	内面青海波当て具痕、外面櫛書き沈線。	時期不明
第46図 P L 54	5	土器 かわらけ	覆土 1 / 3	口径 (9.4) 底径 6.2 高さ 2.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	轆轤成形（左回転）、回転糸切り後ヘラ調整。体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部直立欠損の為詳細不明。	江戸時代、古くても平安時代

3区 4号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第47図 P L 54	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (12.0) — (3.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③褐色	体部直線的に立ち上がり、口縁部が内傾する。口縁部内外面ともに横ナデ、胴部ヘラ削り。底部欠損の為詳細不明。	7世紀前半
第47図 P L 54	2	須恵器 椀	1土坑 1/3	口径 底径 高さ (13.0) 5.4 4.7	①細砂粒少量 ②酸化焰 ③灰褐色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後周縁部のヘラ削り。腰部が張り、体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部が外反する。	粗砂粒僅か 9世紀～10世紀
第47図 P L 54	3	土器 かわらけ	覆土 1/3	口径 底径 高さ (10.0) (5.6) 1.9	①粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	轆轤成形(回転方向不明)、回転糸切り後ヘラ調整。腰部が張り、体部やや丸味を帯びて立ち上がる。底部半分欠損の為詳細不明。	江戸時代
第47図 P L 54	4	土器 かわらけ	表採・覆土 1/3	口径 底径 高さ (10.6) — 2.2	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	轆轤成形(回転方向不明)、回転糸切り後ヘラ調整。腰部が張り、体部丸味を帯びて立ち上がる。底部欠損の為詳細不明。	江戸時代
第47図 P L 54	5	土器 かわらけ	覆土	口径 底径 高さ (10.0) — (2.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	轆轤成形(回転方向不明)。腰部が張り、体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部やや外傾する。底部欠損の為詳細不明。	江戸時代

3区 5号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第49図 P L 54	1	土師器 小型台付甕	竈 台部欠損	口径 底径 高さ 10.8 — (15.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部外反し、胴部は中位に張りをもつ。口縁部横ナデ、胴部横縦位ヘラ削り。台部欠損の為詳細不明。	8世紀後半
第49図 P L 54	2	土師器 小型甕	床面 口縁～胴部	口径 底径 高さ (12.2) — (6.2)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は「く」の字状に外反し、胴部に張りをもつ。口縁部横ナデ、胴部斜位ヘラ削り。胴部下位から底部欠損の為詳細不明。	10世紀頃
第49図 P L 54	3	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 底径 高さ — — (5.4)	①細砂粒少量、粗砂粒僅か ②良好 ③浅黄褐色	口縁部は「コ」の字状、内面横ナデ、胴部斜位ヘラ削り。胴部上位から底部欠損の為詳細不明。	8世紀後半～ 9世紀頃
第49図 P L 54	4	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 底径 高さ — — (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は「コ」の字状、内面横ナデ。胴部上位から底部欠損の為詳細不明。	8世紀後半か
第49図 P L 54	5	土師器 甕	床面 底部片	口径 底径 高さ — — (10.0) (2.9)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。口縁部から胴部欠損の為詳細不明。	時期不明
第50図 P L 54	6	須恵器 坏	床面 底部	口径 底径 高さ — 5.6 (2.1)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後周縁部のヘラ削り。胴部中位から口縁部欠損の為詳細不明。内外面とも器面の荒れがひどい。	時期不明
第50図 P L 54	7	須恵器 坏	床面 底部 1/2	口径 底径 高さ — (7.1) (2.6)	①細砂粒少量、粗砂粒僅か ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)、回転糸切り後周縁部のヘラ削り。腰部が張る。胴部中位から口縁部欠損の為詳細不明。やや粗雑なつくり。	9世紀～10世紀
第50図 P L 54	8	須恵器 椀	床面 1/2	口径 底径 高さ (15.6) (5.4) 5.0	①粗砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後付け高台。体部直線的に立ち上がり、口縁部やや外反する。高台部欠損、器面の摩滅も激しく詳細不明。	9世紀第3～ 第4四半期
第50図 P L 54	9	須恵器 椀	床面 口縁部片	口径 底径 高さ (13.8) — (3.9)	①細・微砂粒少量、粗砂粒僅か ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。体部直線的に立ち上がり、口縁部やや外傾する。底部欠損の為詳細不明。	
第50図 P L 54	10	須恵器 椀	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (12.9) — (4.8)	①褐色粗砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(回転方向不明)。体部直線的に立ち上がる。底部欠損の為詳細不明。	平安時代
第50図 P L 55	11	須恵器 椀	床面 1/2	口径 底径 高さ — 7.0 (5.9)	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後付け高台。高台部一部欠損、底面高台付けの際ヘラナデ。体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部欠損の為不明。	10世紀頃か
第50図 P L 55	12	須恵器 転用の碗	床面 破片(胴部)	縦 横 高さ (13.0) (10.8) (2.0)	①細・微砂粒少量、粗砂粒僅か ②還元焰 ③灰色	須恵器の大形甕の胴部片の周囲を削り、硯として転用している。外面に一部刷毛目調整が認められる。内外面ともやや器面が荒れている。	

3区 6号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第51図 P L 55	1	須恵器 椀	竈掘り方 底部	口径 底径 高さ	— 7.0 (2.5)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	轆轤成形(右回転)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。体部・口縁部が欠損の為詳細不明。	
第51図 P L 55	2	須恵器 椀	竈掘り方 1/3	口径 底径 高さ	(13.8) (6.3) 5.4	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。体部・口縁部が直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反する。	10世紀第1四半期

3区 1号竪穴状遺構

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第52図 P L 55	1	土師器 坏	床面 1/3	口径 底径 高さ	(12.0) (9.8) 3.6	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	体部・口縁部直線的に立ち上がる。口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部下位工具によるナデ。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	6世紀後半
第52図 P L 55	2	土師器 甕	覆土 底部片	口径 底径 高さ	— (7.0) (1.9)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部及び底面ヘラ削り、内面ナデ。胴部及び口縁部欠損の為詳細不明。	時期不明
第52図 P L 55	3	須恵器 甕	床面 胴部片	口径 底径 高さ	— — (4.2)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③褐灰色	外面平行叩きの後に横方向の櫛書き平行沈線。内面ナデ。	時期不明
第52図 P L 55	4	陶磁器 甕	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (6.0)	①細・微砂粒少量 ② ③浅黄色		時期不明

3区 2号竪穴状遺構

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第53図 P L 55	1	土師器 甕	床面 底部	口径 底径 高さ	— 5.2 (4.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	器面の荒れのため整形痕僅かに確認。底部外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面ヘラナデ。口縁部から胴部欠損の為詳細不明。	時期不明
第53図 P L 55	2	須恵器 甕	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (5.7)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰色	外面平行叩き。内面ナデ。	時期不明

3区 3号竪穴状遺構

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第54図 P L 55	1	土師器 坏	床面 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	体部・口縁部直線的に立ち上がる。口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、胴部下位ヘラ削り。内面口縁部～胴部ヘラナデ。底部欠損の為詳細不明。	7世紀前半

3区 4号竪穴状遺構

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第55図 P L 55	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部 2/3	口径 底径 高さ — (11.2) (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	体部丸みを帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。内面口縁部～胴部ヘラナデ。底部欠損の為詳細不明。	6世紀前半?
第55図 P L 55	2	土師器 坏	覆土 1/4	口径 底径 高さ — (14.0) 4.1	①細砂粒少量、 粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	器面の荒れの為整形痕僅かに確認。体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部直立気味である。口縁部横ナデ、胴部及び底部ヘラ削り。内面口縁部～胴部ヘラナデ後工具による磨きを一部確認。	8世紀後半
第57図 P L 55	3	土師器 坏	床面 1/2弱	口径 底径 高さ — (13.0) 4.6	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面の荒れの為整形痕僅かに確認。体部丸味を帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾である。口縁部横ナデ、胴部及び底部ヘラ削り。内面口縁部～胴部横ナデ。	7世紀前半～ 8世紀
第57図 P L 55	4	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — (12.0) (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	体部丸みを帯びて立ち上がり、口縁部やや直立する。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。器面の荒れの為やや整形痕不明瞭。内面口縁部～胴部ヘラナデ。底部欠損の為詳細不明。	
第57図 P L 55	5	土師器 坏	床面 底部1/3	口径 底径 高さ — — (1.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部及び底部ヘラ削り。内面横ナデ。	
第57図 P L 55	6	土師器 碗	床面 口縁部	口径 底径 高さ — (12.0) (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	体部丸みを帯びて立ち上がり、口縁部内湾する。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。器面の荒れの為やや整形痕不明瞭。内面口縁部～胴部ヘラナデ。底部欠損の為詳細不明。	
第57図 P L 55	7	土師器 小型甕	床面 2/3	口径 底径 高さ 11.2 7.0 6.7	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部が張り、やや直線的に立ち上がり、口縁部が内湾する。口縁部横ナデやや段上となる。胴部ヘラ削り後ナデ。底部木葉痕。内面胴部～底部ヘラナデ。	6世紀後半
第57図 P L 55	8	土師器 小型甕	床面 口縁～胴部 1/4	口径 底径 高さ — (16.2) (8.4)	①粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	体部丸みを帯びて立ち上がり、口縁部外反する。口縁部横ナデ。胴部横位ヘラ削り、胴部下位から底部欠損の為不明。内面口縁部～胴部横ナデ、ヘラナデ。	6世紀後半
第57図 P L 56	9	土師器 小型甕	床面 ほぼ完形	口径 底径 高さ 16.8 6.2 11.4	①細砂粒やや多い、 粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	胴部中位がやや丸みを帯び、口縁部やや外傾する。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後丁寧なナデ。底部ヘラ削り。器面の荒れの為やや整形痕不明瞭。内面口縁部～底部ヘラナデ。	
第57図 P L 56	10	土師器 小型甕	床面 ほぼ完形	口径 底径 高さ — 11.6 11.0	①粗砂粒やや多い ②良好 ③浅黄橙色	胴部中位がやや丸みを帯び、口縁部外傾する。口縁部横ナデやや段状となる。胴部上位ヘラ削り後丁寧なナデ、胴部下位から底部ヘラ削り。器面の荒れの為やや整形痕不明瞭。内面口縁部～底部ヘラナデ。	7世紀前半?
第57図 P L 56	11	土師器 甕	床面 口縁～胴部	口径 底径 高さ — (15.4) (12.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	器面の荒れがひどい為整形痕不明。胴部中位が弱く膨らむ。底部欠損のため詳細不明。	6世紀後半～ 7世紀前半?
第57図 P L 56	12	土師器 甕	床面 1/2	口径 底径 高さ (15.2) 6.6 26.4	①細砂粒少量、 粗砂粒僅か ②良好 ③橙色	胴部中位が膨らみ、口縁部やや外傾する。口縁部横ナデ、胴部縦斜位ヘラ削り。器面の荒れの為やや整形痕不明瞭。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	7世紀前半

第57図 P L 56	13	土師器 甕	床面 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (6.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面の荒れがひどい為整形痕不明。口縁部外傾する。口縁部横ナデ。胴部上位斜位ヘラ削り、胴部下位から底部欠損の為不明。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	7世紀前半
第57図 P L 56	14	土師器 甕	床面 口縁部片	口径 底径 高さ	(172) — (6.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部やや外傾する。口縁部横ナデ、胴部横位ヘラ削り。内面口縁部～胴部ヘラナデ。器面の荒れの為やや整形痕不明瞭。胴部中位から底部欠損の為詳細不明。	6世紀後半
第58図 P L 56	15	土師器 甕	床面 口縁部 1/4	口径 底径 高さ	(14.0) — (6.4)	①細砂粒少量、 粗砂粒やや多い ②良好 ③灰黄色	器面の荒れがひどい為整形痕不明。口縁部やや外傾する。口縁部横ナデ、頸部段が2条。胴部中位から底部欠損の為不明。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	18と同一固体と考えられる
第58図 P L 56	16	土師器 甕	床面 胴部	口径 底径 高さ	— — (8.0)	①細砂粒少量、 粗砂粒やや多い ②良好 ③浅黄橙色	器面の荒れがひどい為整形痕不明瞭。胴部中位が膨らみ、外面斜位ヘラ削りと考えられ、内面はヘラナデ。底部欠損の為詳細不明。	17と同一固体と考えられる
第58図 P L 56	17	土師器 甕	床面 底部	口径 底径 高さ	— — (3.0)	①細砂粒少量 ②良好 ③外にぶい黄橙色 内褐灰色	底部ヘラ削り。内面磨き有り。口縁部、胴部欠損の為詳細不明。	
第58図 P L 56	18	土師器 甕	覆土 底部	口径 底径 高さ	— 6.6 (4.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位斜位ヘラ削り、底部横位ヘラナデ、底面ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部～胴部欠損の為詳細不明。	時期不明
第58図 P L 56	19	土師器 甕	床面 底部	口径 底径 高さ	— 6.4 (3.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面の荒れがひどい為整形痕不明瞭。胴部下位ヘラ削り、底部横位ヘラ削り。底面ヘラ削り後周辺部ヘラナデ。内面はヘラナデ。口縁部～胴部中位欠損の為詳細不明。	
第58図 P L 56	20	土師器 甕	床面 底部片	口径 底径 高さ	— (7.6) (4.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	器面の荒れがひどい為整形痕不明瞭。胴部下位縦位ヘラ削り、底部横位ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部～胴部欠損の為詳細不明。	時期不明
第58図 P L 56	21	土師器 長胴甕	床面 口縁部片	口径 底径 高さ	(17.0) — (4.8)	①細・微砂粒少量、 粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい黄橙色	体部直立気味に立ち上がり、口縁部外反する。口縁部横ナデ。胴部横位ヘラ削り、胴部下位から底部欠損の為不明。内面口縁部～胴部横ナデ、ヘラナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半?
第58図 P L 56	22	土師器 長胴甕	床面 胴部～底部 2/3	口径 底径 高さ	— 7.0 (21.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部中位が弱く膨らむ。底部平底。器面の荒れがひどいため整形痕不明瞭。胴部外面縦位ヘラ削り、底部横ナデ。内面胴部～底部ヘラナデ。口縁部欠損の為詳細不明。	粗砂粒やや多い 7世紀前半?
第58図 P L 56	23	土師器 大甕	覆土 1/2	口径 底径 高さ	29.5 6.8 57.8	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	大形で、かなり歪みの激しい胴部、口縁部僅かに外反。胴部上位に最大径、底部平底。口縁部横ナデ、胴部縦位ヘラ削り、不定方向ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面横ナデ。胴部に比して底部が小さい。	
第58図 P L 57	24	土師器 長胴甕	床面 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(21.8) — (17.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部中位やや丸みを帯び、口縁部外傾する。口縁部横ナデ。胴部上位縦位ヘラ削り、胴部下位から底部欠損の為不明。内面口縁部～胴部ヘラナデ。	6世紀後半 ～7世紀前半?
第58図 P L 57	25	土師器 高坏	床面 脚部	口径 底径 高さ	— — (8.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	器面の荒れがひどい為整形痕不明。内面ヘラナデ。	時期不明

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量	器形・技法等の特徴	備 考
第59図 P L 57	26	石器 石核	床面	長さ 幅 厚さ 7.7 4.4 3.7	チャート 207 g	角礫素材、右側上部から剥離。	
第59図 P L 57	27	石器 石核	床面	長さ 幅 厚さ 11.6 5.5 3.0	チャート 297 g	角礫素材、下端より剥離。	
第59図 P L 57	28	石器 砥石	床面	長さ 幅 厚さ 9.6 8.8 9.6	多孔質安山岩 527 g	表面に2ヶ所研磨面、側面に刃部調整痕・ 敲打痕有り。 粗砥用か。	
第59図 P L 57	29	石器 磨石	床面	長さ 幅 厚さ 9.3 8.4 7.0	石英安山岩 693 g	全面に使用痕有り。下端は特に摩滅してい る。	

3区 5号竪穴状遺構

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第60図 P L 57	1	埴輪 形象埴輪	床面 破片	口径 底径 高さ — — (8.2)	①粗砂粒やや多い ②良好 ③橙色	外面斜位ヘラ削り、断面タガが一条巡る。 小さな円孔透かし有り。内面縦位ヘラ削り。	

3区 1号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第62図 P L 57	1	須恵器 椀	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (13.1) — (4.1)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、底部欠損の為詳細不明。体部丸みを帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾。器内面に吸炭させ後、棒状工具による磨き。	10世紀頃
第62図 P L 57	2	須恵器 椀	床面 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (13.0) — (5.7)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、底部欠損の為詳細不明。体部丸みを帯びて立ち上がる。口縁部やや外反気味。器内面に吸炭させ後、棒状工具による磨き。	
第62図 P L 57	3	須恵器 椀	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (15.2) — (4.2)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、底部欠損の為詳細不明。体部丸みを帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾。器内面に吸炭させ後、棒状工具による磨き。	
第62図 P L 57	4	須恵器 椀	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (15.6) — (5.0)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、底部欠損の為詳細不明。体部丸みを帯びて立ち上がる。口縁部やや外反気味。器内面に吸炭させ後、棒状工具による磨き。	
第62図 P L 57	5	須恵器 椀	覆土 体部	口径 底径 高さ — — (4.2)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台一部残存の為詳細不明。高台断面四角形。腰部が張り、体部が丸みを帯びて立ち上がる。口縁部欠損の為不明。器内面吸炭後、棒状工具による磨き。	10世紀頃
第62図 P L 57	6	須恵器 坏?皿?	覆土 底部1/4	口径 底径 高さ — — (6.0) (2.3)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、底部半分欠損している為詳細不明。体部～口縁部欠損の為詳細不明。器内面に吸炭させ後、棒状工具による磨き。	10世紀頃
第62図 P L 57	7	須恵器 椀	覆土 1/2	口径 底径 高さ (14.0) (7.0) 4.5	①粗砂粒やや多い ② ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。高台断面台形。腰部が張り、体部が直線的に立ち上がり、口縁部がやや外反する。内面内黒、棒状工具による磨き。	10世紀後半?

第62図 P L 57	8	須恵器 椀	床面 体部～底部 1 / 3	口径 底径 高さ	— (6.0) (3.5)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色内黒色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。高台断面台形。体部丸みを帯びて立ち上がる。口縁部欠損のため詳細不明。器内面に吸炭させ、棒状工具による磨き有り。	10世紀頃
----------------	---	----------	----------------------	----------------	---------------------	------------------------------	--	-------

3区 2号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第62図 P L 57	1	土師器 坏	床面 ほぼ完形	口径 底径 高さ	— 14.0 3.8	①細砂粒少量、 粗砂粒僅か ②良好 ③橙色	腰部がやや張り出し、体部が直線的に立ち上がる。口縁部やや外傾。口縁部・胴部指ナデ・ヘラ磨き、底部ヘラ削り。口縁部から底部丁寧なヘラナデ。	6世紀後半
第62図 P L 57	2	土師器 坏	床面 2 / 3	口径 底径 高さ	14.6 6.0 3.8	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	やや器面が荒れ、整形痕が不明瞭である。口縁部稜線をもち、やや外傾する。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、底部木葉痕。内面口縁部から底部丁寧なヘラナデ。	

3区 5号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第64図	1	縄文 深鉢	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (7.2)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③黒褐色	口縁部把手破片。突起下端より「8」の字状添付文、横位沈線文が派生する。内面円文有り。	堀之内1

3区 1号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第67図 P L 57	1	埴輪 円塔埴輪	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (7.1)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③橙色	外面粗い刷毛目調整。内面指ナデ後刷毛目調整。上端部に突帯が巡る。	
第67図 P L 57	2	陶器 土瓶	覆土	口径 底径 高さ	— — (7.2)	① ② ③	益子か笠間。体部外面下位以下を除き灰釉。体部外面に染め付け。	近代
第67図 P L 57	3	陶器 急須の蓋	覆土 完形	口径 底径 高さ	5.2 — 2.3	① ② ③	万古風の急須蓋。摘みは、はめ込み式で回転する。	近現代
第67図 P L 57	4	ガラス 薬瓶	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (4.0)		「木村醫(院)」薬瓶	近現代

3区 2号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第68図 P L 57	1	須恵器 坏	覆土 底部片	口径 底径 高さ	— — (1.9)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③にぶい黄色	轆轤成形(回転方向不明)、破片の為詳細不明。	

3区 3号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第69図 P L 58	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部	口径 底径 高さ	(13.0) (10.4) (3.8)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	腰部がやや張り出し、体部が直線的に立ち上がる。口縁部有段でやや外傾する。口縁部・胴部指ナデ・ヘラ磨き、底部ヘラ削り。口縁部から底部丁寧なヘラナデ。吸炭後磨きが行われた痕跡が見られるが、器面の荒れの為詳細不明。	6世紀後半

第69図 P L 58	2	須恵器 碗	覆土 高台	口径 底径 高さ	— (6.6) (1.5)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(回転方向不明)、付け高台。高台部「ハ」の字状に開く。高台断面台形。内面ヘラナデ、胴部から口縁部欠損の為詳細不明。	時期不明
第69図 P L 58	3	土師器 甕	覆土 底部片	口径 底径 高さ	— (6.8) (1.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部外面縦位ヘラ削り、底部横ナデ。内面胴部～底部ヘラナデ。口縁部・胴部欠損の為詳細不明。	時期不明
第69図 P L 58	4	土師器 甕	覆土 底部片	口径 底径 高さ	— (6.2) (3.1)	①褐色粗砂粒やや多い ②良好 ③にぶい橙色	胴部外面縦位ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面胴部～底部ヘラナデ。口縁部・胴部欠損の為詳細不明。	古墳後半～ 奈良・平安時代
第69図 P L 58	5	灰釉陶器	覆土	口径 底径 高さ	— — (2.8)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰オリーブ	釉が外面全体に広がる。内面ヘラ削り。	時期不明

3区 4号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第70図 P L 58	1	須恵器 坏	覆土 底部片	口径 底径 高さ	— — (0.8)	①微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)、回転糸切り、周縁部回転ヘラ削り。底部半分欠損しているため詳細不明。体部～口縁部欠損の為詳細不明。内面ヘラナデ。	
第70図 P L 58	2	磁器 飯茶椀	覆土	口径 底径 高さ	— — (2.6)	① ② ③	内外面ともに銅版。	瀬戸・美濃 近現代

3区 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第71図 P L 58	1	土師器 坏	表採 口縁部片	口径 底径 高さ	(14.2) — (3.3)	①粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面の荒れの為技法不明。体部やや丸味を帯びて立ち上がり、口縁部やや外傾する。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	7世紀後半
第71図 P L 58	2	土師器 甕	表採 底部1/2	口径 底径 高さ	— (5.8) (2.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部外面ヘラナデ、底部木葉痕。内面胴部～底部ヘラナデ、僅かに工具による工作痕が認められる。口縁部・胴部欠損の為詳細不明。	木葉痕 6世紀後半?
第71図 P L 58	3	土師器 高坏	表採 脚部	口径 底径 高さ	— — (7.0)	①粗砂粒やや多い ②良好 ③橙色	器面の荒れがひどく、整形痕等詳細不明。脚部底部・内面ヘラナデ。体部・口縁部欠損の為詳細不明。	
第71図 P L 58	4	須恵器 坏	表採 底部	口径 底径 高さ	— — (1.8)	①粗砂粒、ガラス少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)、底部回転ヘラ削り。口縁部・体部欠損の為詳細不明。	
第71図 P L 58	5	埴輪 円筒埴輪	表採 破片	口径 底径 高さ	— — (11.3)	①粗砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	外面ヘラナデ、突帯が一条巡る。内面ヘラナデ。	時期不明
第71図 P L 58	6	土器 かわらけ	表採 1/2	口径 底径 高さ	(8.4) (6.4) 1.6	①粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	轆轤成形(右回転)、底部周縁部ヘラ削り。体部やや丸味を帯びて立ち上がり、口縁部内湾する。底部やや粗雑なヘラナデ。	平安～江戸時代
第71図 P L 58	7	墨	表採 破片	口径 底径 高さ	— — (4.8)	① ② ③黒色		時期不明

浜町遺跡遺物観察表（5区）

5区 1号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第75図 P L 58	1	土師器 坏	N o 25・90 ほぼ完形	口径 底径 高さ — — 4.8	16.0 — — 4.8	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半?
第75図 P L 58	2	土師器 坏	N o 154 口縁～体部	口径 底径 高さ — — (4.1)	(17.0) — — (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外にぶい黄橙色 内明黄色	口縁部は直立気味で、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ後工具による磨き。	5世紀後半?
第75図 P L 58	3	土師器 坏	N o 3 1/3	口径 底径 高さ — — (4.1)	(14.0) — — (4.1)	①粗砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	体部が直線的に立ち上がり、口縁部直立する。口縁部内外面ともに横ナデ、胴部斜位ヘラ削り、底部ヘラ削り。内面横ナデ。	7世紀後半
第75図 P L 58	4	土師器 坏	N o 95 1/3	口径 底径 高さ — — 4.9	(12.0) (3.6) — 4.9	①粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	体部が直線的に立ち上がり、口縁部直立する。口縁部内外面ともに横ナデ、胴部斜位ヘラ削り。内面横ナデ。	
第75図 P L 58	5	土師器 坏	N o 80 1/4	口径 底径 高さ — — (4.5)	(12.0) (4.0) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は直立気味。外面口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り、内面横ナデ後磨き。	5世紀後半?
第75図 P L 58	6	土師器 小型甕	覆土	口径 底径 高さ — — (9.09)	(12.4) — — (9.09)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部欠損の為詳細不明。体部やや丸みを帯び、胴部中央部に最大径、口縁部やや内湾する。内外面ともに器面の荒れがひどく、整形痕も一部のみ確認。外面口縁部・胴部斜位ナデ、内面ヘラナデ、口縁部指圧痕。	6世紀後半?
第75図 P L 58	7	土師器 小型甕	覆土 2/3	口径 底径 高さ — 6.0 8.3	13.0 6.0 — 8.3	①粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	腰部が張り、胴部丸みを帯びて立ち上がる。口縁部やや外傾する。底部高台気味になる。器面の荒れの為整形痕不明。ナデの痕跡がみられる。ヘラによる調整せずに焼成を行ったと考えられる。内面口縁部横ナデ、胴部工具による磨き。	6世紀後半
第75図 P L 58	8	土師器 手捏ね土器	N o 35・覆土 胴部～底部 1/2	口径 底径 高さ — — (5.0)	— — — (5.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	手捏ね成形。胴部球形。口縁部欠損のため形態不明。外面胴部上位指ナデ、下位ヘラ削り後ナデ、内面指ナデ。	古墳時代前期?
第75図 P L 58	9	土師器 小型罎	覆土 1/4	口径 底径 高さ — — (7.8)	(7.6) — — (7.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや外傾し、胴部中位に最大の膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部丁寧なヘラナデ、内面上位指ナデ、下位ヘラナデ。	粗砂粒僅か 5世紀後半?
第75図 P L 58	10	土師器 罎	N o 24・覆土 胴部～底部片	口径 底径 高さ — — (10.1)	(5.2) — — (10.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部優位に最大径を持ち、底部丸底。器面はやや荒れている。外面胴部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り後ナデ、底部ヘラ削り、内面剥落の為不明、一部横ナデ。	
第75図 P L 58	11	土師器 小型壺	覆土 1/4	口径 底径 高さ — — (6.8)	(11.0) — — (6.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は外傾し、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部上位ヘラナデ、中位ヘラ削り後ナデ、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第75図 P L 59	12	土師器 小型壺	N o 41・61 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — — (4.5)	(8.0) — — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、胴部は中位に張りを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部上部横ナデ、中位ヘラ削り、内面横ナデ。接合痕有り。	5世紀前半
第75図 P L 59	13	土師器 小型罎	覆土 胴部	口径 底径 高さ — — (3.6)	— — — (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	手捏ね成形。内外面ヘラナデ。	時期不明
第75図 P L 59	14	土師器 小型壺	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (3.0)	(9.4) — — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は段を有し外傾する。外面口縁部上位横ナデ、下位刷毛目状工具によるナデ、内面ナデ。	5世紀前半?

第75図 P L 59	15	土師器 甕	N o 190 口縁部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (6.2)	①微細砂粒多量 ②良好 ③橙色	有段口縁。口縁端部は外傾し器面の荒れがひどい。整形痕は不明瞭。外面斜位ヘラ削り後、横ナデ、内面横ナデ。	5世紀頃
第75図 P L 59	16	土師器 甕	N o 180・245 口縁部片	口径 底径 高さ	7.0 — (5.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部、底部欠損の為詳細不明。頸部外反し、口縁部直立気味になる。頸部縦位ヘラ削り、口縁部横ナデ、内面やや強いナデ。	5世紀前半
第75図 P L 59	17	土師器 小型甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。口縁部は外反。外面口縁横ナデ、内面横ナデ。頸部斜位方向のヘラ削り。	5世紀後半
第75図 P L 59	18	土師器 甕	N o 55・135 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (3.6)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	「く」の字状口縁。器面が荒れている為、整形痕不明。内外面横ナデ。	5世紀前半?
第75図 P L 59	19	土師器 甕	N o 29 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反。外面口縁部横ナデ、肩部斜位方向のヘラ削り後ナデ、内面横ナデ、接合痕有り。	5世紀後半
第75図 P L 59	20	土師器 甕	N o 22 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(15.0) — (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。口縁部は外反。外面口縁部横ナデ、肩部縦方向のヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。頸部に整形痕多数。	
第75図 P L 59	21	土師器 甕	N o 141 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(17.0) — (7.0)	①微細粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。口縁部は外傾し、口唇端部は平坦。外面口縁部横ナデ、頸部斜位ヘラ削り、内面横ナデ。	5世紀頃
第75図 P L 59	22	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (9.6)	①粗僅か・細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位、底部欠損の為詳細不明。口縁部は外傾し、胴部膨らむ。内外面ともに器面の荒れの為整形痕不明瞭。横方向に削りかナデの痕跡が認められる。	8世紀頃?
第75図 P L 59	23	土師器 甕	N o 227 口縁部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (6.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外反。胴部・底部欠損の為整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、頸部斜位ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀前半?
第76図 P L 59	24	土師器 甕	N o 85 口縁片	口径 底径 高さ	(17.0) — (7.1)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部外傾し、胴部膨らむ。口縁部内外面ともに横ナデ、胴部斜位ヘラ削り、粘土接合痕。内面横ナデ。	8世紀前半
第76図 P L 59	25	土師器 甕	N o 71・220 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (9.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部下位、底部欠損のため詳細不明。口縁部外傾し、胴部膨らむ。器面の荒れの為整形痕の一部を確認。胴部ヘラ削り後ナデ、口縁部・胴部内面斜位ナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第76図 P L 59	26	土師器 甕	N o 148・191 2/3	口径 底径 高さ	17.0 — (22.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部外反、胴部膨らみ中位に最大径。口縁部横ナデ、胴部上位ヘラ削り後横位ナデ、中・下位横位ヘラ削り。内面斜位ナデ。底部欠損の為詳細不明。	6世紀前半? 8世紀前半
第76図 P L 59	27	土師器 甕	N o 172・177 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(16.0) — (17.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部外傾し、胴部膨らみ中位に最大径。口縁部横ナデ、胴部上位ヘラ削り後横位ナデ、中・下位横位ヘラ削り。内面斜位ナデ。粘土接合痕。	6世紀前半? 8世紀前半
第76図 P L 59	28	土師器 甕	N o 51・84・86 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(16.1) — (10.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部外傾し、胴部膨らむ。外面口縁部・頸部横ナデ、胴部斜位ヘラ削り、粘土接合痕。内面ナデ。	8世紀第4四半期
第76図 P L 60	29	土師器 甕	N o 80・89・96 胴部	口径 底径 高さ	— — (17.0)	①粗砂粒・細砂粒少量 ②良好 ③内橙色外にぶい黄橙色	口縁部・底部欠損の為詳細不明。胴部膨らむ。胴部やや乱雑なヘラ削り、内面粗雑なナデ。	7世紀後半?
第76図 P L 60	30	土師器 甕	N o 5・25 胴部～底部片	口径 底径 高さ	— (8.0) (7.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色～橙色	口縁部・胴部欠損の為詳細不明。胴部斜位ヘラ削り、胴部内面斜位ナデ。	時期不明
第76図 P L 60	31	土師器 甕	N o 234・覆土 底部	口径 底径 高さ	— (6.0) (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	外面斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	

第76図 P L60	32	土師器 甕	覆土 底部片	口径 底径 高さ	— (7.7) (4.6)	①細・微砂粒少量・ 粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい褐色	口縁部・胴部欠損の為詳細不明。胴部斜位 ヘラ削り、胴部内面斜位ナデ。	時期不明
第76図 P L60	33	土師器 甕	N o 189 底部	口径 底径 高さ	— 5.0 (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部・胴部欠損の為詳細不明。外面器面 の荒れの為判読不能、胴部内面刷毛目調整。	時期不明
第77図 P L60	34	土師器 小型高坏	N o 145 2 / 3	口径 底径 高さ	— 9.0 (9.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	やや粗雑な作り。坏部上半は外反し下半は 丸味を帯び、脚部は短脚で「ハ」の字状に 開く。外面坏部ヘラ削り後ナデ、脚部ヘラ ナデ、裾部横ナデ、内面坏部ヘラナデ、脚 部ナデ。	5 世紀後半
第77図 P L60	35	土師器 高坏	N o 83 坏部 1 / 2	口径 底径 高さ	— 17.8 (6.2)	①粗砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	脚部欠損の為詳細不明。坏部直線的に立ち 上がり、口縁部外傾する。口縁部・胴部内 外面ともに横ナデ。	7 世紀前半～
第77図 P L60	36	土師器 高坏?	N o 70 口縁部	口径 底径 高さ	(14.0) — (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外傾。 内外面横ナデ後磨き。	
第77図 P L60	37	土師器 高坏	N o 152 坏部	口径 底径 高さ	— — (4.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	器面が荒れている為、整形痕の一部のみ確 認。外面ヘラ削り、内面ナデ。	5 世紀後半?
第77図 P L60	38	土師器 高坏	N o 6 1 / 2	口径 底径 高さ	(18.0) 15.0 12.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部上位は外傾して開き、下位は浅い。脚 部は緩やかに外反し「ハ」の字状に開く。 外面坏部ヘラ削り後ナデ、脚部ヘラナデ後 工具による磨き、裾部横ナデ、内面坏部横 ナデ、脚部上位指ナデ、絞り目、下位ヘラ ナデ。接合痕有り。	5 世紀後半
第77図 P L60	39	土師器 高坏	N o 45 脚部	口径 底径 高さ	— (11.0) (8.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	坏部欠損の為詳細不明。脚部中央付近にや や膨らみを持つ。外面ヘラ削り、底部横ナ デ。内面底部ヘラ磨き。	7 世紀前半
第77図 P L60	40	土師器 高坏	N o 82 脚部	口径 底径 高さ	— (14.0) (9.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	坏部欠損の為詳細不明。脚部中央付近にや や膨らみを持つ。外面工具による磨き、底 部横ナデ。内面指ナデ、底部ヘラ磨き。	7 世紀前半?
第77図 P L60	41	土師器 高坏	N o 139 脚部片	口径 底径 高さ	— — (8.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	脚部はエンタシス状の膨らみを持つ。器面 が荒れている為整形不明。内面絞り目。	粗砂粒僅か 6 世紀後半
第77図 P L60	42	土師器 高坏	覆土 裾部片	口径 底径 高さ	— (15.0) (2.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	裾部「ハ」の字状に開く。外面ヘラ削り後 ヘラナデ、内面横ナデ。	時期不明
第77図 P L60	43	土師器 高坏	N o 161 脚部	口径 底径 高さ	— 11.0 (6.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	短脚で「ハ」の字状に開く。外面ヘラ削り、 裾端部横ナデ、内面横ナデ。	6 世紀後半?
第77図 P L60	44	土師器 手捏ね土器	N o 37 ほぼ完形	口径 底径 高さ	6.6 4.4 3.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	手捏ね成形。口縁部は内傾し、胴部は直線 的に立ち上がる。底部平底。外面指ナデ、 ヘラナデ、内面指ナデ、絞り目。	古墳時代前期?
P L60	45	焼成粘土塊	N o 45			重さ 104.7 g		写真のみ掲載
P L61	46	焼成粘土塊	覆土			重さ 26.3 g		写真のみ掲載
P L61	47	焼成粘土塊	覆土			重さ 41.0 g		写真のみ掲載
P L61	48	焼成粘土塊	覆土			重さ 16.0 g		写真のみ掲載
P L61	49	焼成粘土塊	覆土			重さ 7.6 g		写真のみ掲載
P L61	50	焼成粘土塊	N o 35			重さ 7.1 g		写真のみ掲載

P L 61	51	焼成粘土塊	N o 11		重さ 52.7 g		写真のみ掲載
P L 61	52	焼成粘土塊	N o 62		重さ 37.7 g		写真のみ掲載
P L 61	53	焼成粘土塊	N o 43		重さ 18.7 g		写真のみ掲載
P L 61	54	焼成粘土塊	N o 11		重さ 36.0 g		写真のみ掲載
P L 61	55	焼成粘土塊	N o 12		重さ 29.3 g		写真のみ掲載

5区 2号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第78図 P L 61	1	土師器 埴	N o 17 3 / 4	口径 12.7 底径 5.5 高さ 16.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③淡黄色	頸部外傾し坏部直立気味になる。胴部膨らみ中位に最大径。口縁径とほぼ同じである。外面口縁部横ナデ、頸部ヘラ削りの後棒状工具による磨き、胴部斜位ヘラ削り。内面口縁部から頸部に横ナデ後棒状工具による磨き。粘土接合痕。	5世紀後半～ 6世紀前半
第79図 P L 61	2	土師器 坏	P 3 口縁～体部片	口径 (11.0) 底径 - 高さ (3.1)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	やや器面が荒れている。口縁部は直立気味に外反し、底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	5世紀前半?
第79図 P L 61	3	土師器 坏	N o 13・22 ほぼ完形	口径 - 13.6 底径 - 高さ 4.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	扁平な形状で口縁部が皿状に強く開き体部は浅い。外面口縁部・胴部中位横位ヘラ削り、口縁部・胴部内面横ナデ。	6世紀～7世紀
第79図 P L 61	4	土師器 甕	N o 15 口縁～肩部片	口径 (14.0) 底径 - 高さ (8.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	胴部下位、底部欠損の為詳細不明。口縁部外傾し、胴部膨らむ。外面胴部横位ヘラ削り、口縁部内外面・胴部内面ともに横ナデ。	
第79図 P L 61	5	土師器 甕	2住・42土坑 胴部破片	口径 - 底径 - 高さ (11.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明褐色	口縁部・底部欠損の為詳細不明。胴部膨らむ。胴部ヘラ削り後丁寧なナデ、内面斜位ナデ。	2住と42土坑の覆土の物が多い 時期不明
第79図 P L 61	6	土師器 高坏	N o 8・9・24 坏部	口径 (21.1) 底径 - 高さ (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	脚部欠損の為詳細不明。坏部は直線的に立ち上がり外傾する。坏部内外面横ナデ、胴部下位ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半
第79図 P L 61	7	土師器 高坏	N o 19 脚部1 / 3	口径 - (12.8) 底径 (11.0) 高さ (11.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部欠損の為詳細不明。脚部中位縦位ナデ、下位工具による磨き、底部横ナデ。内面上位縦位縦削り、下位横ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第79図 P L 61	8	焼成粘土塊	覆土	長さ 12.9 短 8.0 厚さ 5.2	①粗・細少量 ②良好 ③橙色	表面に不定方向のヘラナデ痕。裏面指圧痕。余剰の粘土か、使途不明。	374.3 g
第79図 P L 61	9	焼成粘土塊	覆土	長さ 14.0 短 12.0 厚さ 7.1	①粗・細少量 ②良好 ③にぶい橙色	表面に指圧痕、ヘラナデ痕。裏面ヘラ痕。上面剥ぎ取ったような痕跡有り。余剰の粘土か、使途不明。	1283.7 g

5区 3号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第81図 P L61	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (3.9) (14.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は内斜し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面坏部横ナデ、体部ヘラナデ、内面横ナデ。	5世紀後半?
第81図 P L61	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (5.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は器厚で外傾する。外面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、内面横ナデ、一部剥離。接合痕有り。	時期不明
第81図 P L61	3	土師器 高坏	No 3 坏部	口径 底径 高さ — — (6.3) 16.6	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色～暗赤灰色	脚部欠損の為詳細不明。坏部直線的に立ち上がり、直立気味になる。内外面ともに器面の荒れ。口縁部・胴部内外面ともに横ナデ後工具による磨き。	5世紀前半～後半
第81図 P L61	4	土師器 高坏	覆土 脚部	口径 底径 高さ — — (8.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	脚部上位が長く、穿孔はない。裾部の広がりには短い可能性が有る。外面縦方向のナデ、内面絞り目。	時期不明
第81図 P L61	5	土師器 器台	P 1 脚部	口径 底径 高さ — — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	坏部と脚部に孔が貫通し、脚部に凹孔を持つ。外面ヘラナデ、内面ナデ。	古墳前期?
第81図 P L61	6	須恵器 長頸壺	No 1 頸部	口径 底径 高さ — — (6.7)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	轆轤成形後ヘラナデ、内面指ナデ。自然釉が掛かり釉ダレが有る。接合痕有り。	

5区 4号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第84図 P L62	1	土師器 坏	No 2・掘り方 1/6	口径 底径 高さ — — 3.6 (14.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し弱く外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半?
第84図 P L62	2	土師器 坏	No 2 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (2.9) (12.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内屈し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。	粗砂粒少量 7世紀後半
第84図 P L62	3	土師器 坏	No 4 完形	口径 底径 高さ — — 4.4 14.8	①粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外傾し、腰部が張り、体部直線的に立ち上がる。外面ヘラ削り、底部回転ヘラ削り。口縁部・胴部内面ともにヘラナデ。	8世紀中葉
第84図 P L62	4	土師器 坏	No 1 1/3	口径 底径 高さ — — 2.9 (17.0)	①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し皿状に開き、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。内外面とも荒れの為やや整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデか。	8世紀前半?
第84図 P L62	5	土師器 坏	No 1・覆土 1/5	口径 底径 高さ — — (5.1) (20.0)	①粗・細砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し皿状に開き、体部は丸味を帯びて立ち上がる。器厚。扁平な形状。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。器面が荒れている。	6世紀～7世紀
第84図 P L62	6	土師器 甕	No 3 口縁部片	口径 底径 高さ — — (7.4) (23.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	体部下位、底部欠損のため詳細不明。口縁部外傾し、体部膨らむ。胴部ヘラ削り、口縁部・胴部内面丁寧なナデ。	8世紀中葉
第84図 P L62	7	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (4.0) (16.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外反する。内外面横ナデ。	7世紀?
第84図 P L62	8	土師器 甌	覆土 把手	長さ 幅 高さ 6.3 3.8 3.3	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	甌の把手か、手捏ね成形。ヘラ削り後一部ヘラナデ。	

5区 5号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第86図 P L 62	1	土師器 坏	N o 4・覆土 2 / 3	口径 底径 高さ — — 4.1	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	体部丸みを帯びて立ち上がり、口縁部内湾する。外面胴部ヘラ削り、口縁部内外面・胴部内面横ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第86図 P L 62	2	土師器 椀	N O 1 1 / 2	口径 底径 高さ — — (5.4)	①細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部内湾し、胴部膨らみ中位に最大径。底部欠損の為詳細不明。口縁部から胴部上位丁寧な横ナデ、胴部下位ヘラ削り。内面横ナデ。	6世紀前半?
第86図 P L 62	3	土師器 長胴甕	N O 6 口縁～胴部	口径 底径 高さ — — (28.3)	①粗砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位、底部欠損の為詳細不明。口縁部外傾し、胴部やや膨らむ。外面口縁部横ナデ、頸部横位ヘラ削り、胴部縦位ヘラ削り。口縁部・胴部内面横ナデ。	竈煙道部 7世紀後半～ 8世紀前半
第86図 P L 62	4	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (19.5) — (8.2)	①粗砂粒・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	胴部中下位、底部欠損の為詳細不明。口縁部外傾する。胴部縦位ヘラ削り、口縁部・胴部内面横ナデ。	8世紀～9世紀
第86図 P L 62	5	土師器 甕	N o 1 口縁 1 / 4	口径 底径 高さ (23.0) — (6.8)	①微砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部中下位、底部欠損の為詳細不明。口縁部外傾する。胴部ヘラ削り、口縁部・胴部内面斜位ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第86図 P L 62	6	土師器 甕	N o 10 口縁～胴部	口径 底径 高さ (13.0) — (8.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は直立気味に外傾し、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部上位横ナデ、中位横方向ヘラ削り、内面ナデ。	5世紀後半
第86図 P L 62	7	土師器 甕	N o 6 口縁部片	口径 底径 高さ (14.0) — (5.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反する。内外面横ナデ。	7世紀
第86図 P L 62	8	土師器 小型甕	N o 1・覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (12.0) — (8.6)	①粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部外傾、胴部膨らみ中位に最大径。底部欠損の為詳細不明。器面の荒れがひどい。工具による磨き一部確認。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ後、工具による磨き。	6世紀後半
第86図 P L 62	9	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (12.8) — (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	口縁部外傾、胴部膨らみ中位に最大径。底部欠損の為詳細不明。内外面ともに器面の荒れがひどい。工具による磨き一部認められる。整形痕不明。	
第86図 P L 62	10	土師器 壺	5住・1土坑 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (12.2) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部はやや受け口状口縁、口唇部に1条沈線巡る。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後横ナデ、内面ヘラナデ。	粗砂粒僅か
第87図 P L 63	11	土師器 埴	N o 3 ほぼ完形	口径 底径 高さ 9.4 — 13.7	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	頸部外傾し口縁部やや内湾する。胴部膨らみ中位に最大径。口縁径より大きい。外面口縁部横ナデ、頸部・胴部上位ヘラ削りの後棒状工具による磨き、胴部中・下位斜位ヘラ削り。内面口縁部から頸部に横ナデ後棒状工具による磨き。	5世紀後半
第87図 P L 62	12	土師器 小型埴	N o 1・掘り方 頸部～胴部片	口径 底径 高さ — — (7.2)	①細砂粒少量 ②良好 ③褐色	頸部外傾、胴部膨らみ中位に最大径。底部欠損の為詳細不明。内外面ともに器面の荒れがひどい。頸部から胴部中位ヘラナデ、胴部下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	6世紀前半
第87図 P L 63	13	土師器 高坏	掘り方N o 2 坏部	口径 底径 高さ (16.0) — (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	坏部は外傾し開く。外面口縁部横ナデ、坏部上位ヘラナデ、下位ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半

第87図 P L 63	14	土師器 高坏	掘り方 裾部片	口径 底径 高さ	— (14.0) (1.4)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	裾部「ハ」の字状に開く。器面が荒れている。外面ヘラナデ後工具による磨き、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 時期不明
第87図 P L 63	15	土師器 高坏	No 2 脚部	口径 底径 高さ	— 12.8 (9.1)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部欠損の為詳細不明。脚部中央付近にやや膨らみを持つ。外面ナデの後工具による磨き、内面底部横ナデ。	6世紀後半?
第87図 P L 63	16	須恵器 長頸壺	No 5 完形	口径 底径 高さ	14.9 11.2 30.6	①粗砂粒少量 ②酸化焰 ③内明赤褐色 外明黄褐色	轆轤成形、肩部に接合痕。頸部から口縁部強く外反し、肩部が強く張る。内面器面の荒れがひどく表面剥離が著しい。	5号住覆土より出土。別遺構があったか。 9世紀前半
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量		器形・技法等の特徴	備 考
第87図 P L 63	17	石製品 勾玉	No 7	長さ 幅 厚さ	1.7 1.1 0.5	滑石 重さ0.8g	小型品。孔径0.3cm。右側面に調整痕が良く残る。	
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
P L 63	18	焼成粘土塊	竈掘り方			重さ 17.4g		写真のみ掲載
P L 63	19	焼成粘土塊	掘り方			重さ 6.4g		写真のみ掲載
P L 63	20	焼成粘土塊	竈掘り方			重さ 6.6g		写真のみ掲載

5区 6号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第82図 P L 63	1	土師器 坏	420-090G 2/3	口径 底径 高さ	7.0 — 5.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	体部やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部直立する。口縁部内外面横ナデ、胴部～底部ヘラ削り。内面横ナデ。	
第82図 P L 63	2	須恵器 坏	No 1 1/2	口径 底径 高さ	10.2 6.5 2.5	①細・微砂粒少量・ 粗砂粒僅か ②酸化焰 ③淡赤橙色	轆轤成形(右回転)、回転糸切り後周縁部の削り。体部外反気味に外傾する。	
第82図 P L 63	3	土師器 甕	420-090G 口縁部1/2	口径 底径 高さ	17.7 — (9.5)	①粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部下位、底部欠損の為詳細不明。口縁部外反、胴部膨らむ。胴部ヘラ削り、口縁部内外面横ナデ・胴部内面ナデ。	6世紀後半?

5区 7号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第89図 P L 63	1	土師器 坏	掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (2.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は直立し段を有し、体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第89図 P L 63	2	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外黒褐色 内にぶい黄橙色	口縁部はやや外傾し、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面底部ヘラナデ。	7世紀頃
第89図 P L 63	3	土師器 坏	No 10 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ	(13.0) — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面器面が荒れている、口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ後工具による磨き。輪積み痕有り。	
第89図 P L 63	4	土師器 坏	No 19 1/2	口径 底径 高さ	12.6 — (3.1)	①細・微砂粒少量・ 粗砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁僅かに外傾、底部丸底。口縁部横ナデ、体部から底部ヘラ削り。	7世紀頃～ 8世紀前半
第89図 P L 63	5	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(13.0) — (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	粗砂粒僅か

第89図 P L 63	6	土師器 坏	覆土 ほぼ完形	口径 底径 高さ	12.0 — (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁直立、底部丸底。口縁部横ナデ、体部不明瞭なナデ、底部ヘラ削り。	7世紀頃
第89図 P L 63	7	土師器 坏	N o 11 破片	口径 底径 高さ	(12.4) — (3.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部やや外傾、底部平底。器面の荒れのため、整形痕不明瞭。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデか。内面工具による磨き。	6世紀前半～ 7世紀後半?
第89図 P L 63	8	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(13.0) — (2.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半
第89図 P L 63	9	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(15.0) — (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	器面の荒れがひどく整形痕不明瞭。内外面横ナデ。	7世紀前半
第89図 P L 63	10	土師器 甕	覆土 口縁～胴上位 片	口径 底径 高さ	— — (8.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反し、胴部はやや膨らみを持つ。器面が荒れている為整形痕不明瞭。口縁部横ナデ。	
第89図 P L 64	11	土師器 甕	N o 2 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外反する。内外面横ナデ。	
第90図 P L 64	12	土師器 甕	N o 12 口縁～胴部	口径 底径 高さ	23.4 — (27.5)	①粗砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部下位、底部欠損のため詳細不明。口縁部外傾し、胴部直立する。外面口縁部から頸部横ナデ、胴部縦位ヘラ削り。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。	7世紀後半
第90図 P L 64	13	土師器 埴か坏	N o 17 底部	口径 底径 高さ	— — (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	外面斜位ヘラ削り、内面工具による磨き。	6世紀前半?
第90図 P L 64	14	土師器 甕	N o 8 ほぼ完形	口径 底径 高さ	15.6 4.5 10.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部平底、1孔。表面の剥落と器面の荒れのため、整形痕不明瞭。口縁部弱く外反、胴部ヘラ削り後ナデか。口縁部横ナデ。	6世紀前半
第90図 P L 64	15	須恵器 蓋	N o 3 口唇部	口径 底径 高さ	(20.0) — (1.8)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰白色 内にぶい橙色	轆轤成形(回転方向不明)。灰釉。	粗砂粒僅か 時期不明
第90図 P L 63	16	須恵器 壺	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (3.8)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	轆轤成形(回転方向不明)。内面灰釉。外面刷毛目状工具によるナデ。口縁部外反する。口唇部三角形、端部に稜線一条。	
P L 64	17	焼成粘土塊	竈掘り方			重さ 6.9g		写真のみ掲載
P L 64	18	焼成粘土塊	覆土			重さ 7.2g		写真のみ掲載
P L 64	19	焼成粘土塊	覆土			重さ 3.9g		写真のみ掲載

5区 8号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第92図 P L 64	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は内屈し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半～ 8世紀
第92図 P L 64	2	土師器 高坏	N o 1 脚部片	口径 底径 高さ	— — (8.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面縦方向ヘラナデ、内面ナデ。輪積み痕有り。	時期不明

5区 9号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第94図 P L 64	1	土師器 坏	N o 1 ほぼ完形	口径 底径 高さ	13.0 10.6 3.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外にぶい橙色 内黒褐色	口縁部は2段を有し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。やや扁平。外面口縁部ヘラナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。吸炭?	6世紀後半

第94図 P L 64	2	土師器 坏	N o 4 1 / 2	口径 底径 高さ	(13.8) 11.5 4.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は段を有し外反気味に立ち上がり、 体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁 部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半
第94図 P L 64	3	土師器 坏	竈掘り方 2 / 3	口径 底径 高さ	10.6 3.1 3.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は段を有し外傾し、体部は丸味を帯 びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横 ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀～ 7世紀前半
第94図 P L 64	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄色	口縁部は弱く外傾し、体部は丸味を帯びて 立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ 削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第94図 P L 64	5	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は内傾し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。外傾口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、 内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半
第94図 P L 64	6	土師器 S字状口 縁台付甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(17.6) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	「S」字状口縁。器面が荒れている。外面 口縁部横ナデ、肩部ヘラナデ後刷毛目状工 具によるナデ、内面ナデ。	4世紀後半
第94図 P L 64	7	土師器 甕	N o 5 口縁部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (2.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反し、口唇部は弱く折り返す。 内外面横ナデ。	4世紀後半？
第94図 P L 64	8	土師器 甕	N o 8・12 口縁～胴部	口径 底径 高さ	15.5 — (16.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は短く外反し、胴部は長胴形。外面 口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り後弱い 横方向ヘラナデ、内面ヘラナデ。	6世紀後半
第94図 P L 64	9	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(15.6) — (8.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	口縁部は直立気味で弱く外反する、胴部は 弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ 削り、内面ナデ。吸炭？	6世紀後半
第94図 P L 64	10	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(18.6) — (9.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	「く」の字状口縁。胴部は膨らみを持つ。 外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。	5世紀前半？
第94図 P L 64	11	土師器 甕	竈掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ	(14.6) — (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外反し、胴部は膨らむ。外面口縁 部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面ナデ。	5世紀後半
第94図 P L 64	12	土師器 鉢	掘り方 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(22.6) — (8.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口唇部は平坦で、体部は直線的に開く。内 外面ヘラナデ。	4世紀後半～ 5世紀前半
第95図 P L 64	13	土師器 台付甕	掘り方 台部 1 / 5	口径 底径 高さ	— (10.0) (6.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	台端部を内側に折り返す。外面ヘラナデ後 刷毛目状工具による調整、下半砂泥が塗布、 内面ヘラナデ。	4世紀後半
第95図 P L 64	14	土師器 高坏	420-070G 坏部	口径 底径 高さ	(13.2) — (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は弱く外反し、坏部上位に段を持ち 開く。口縁部～坏部上位横ナデ、下位ヘラ 削り、内面ナデ後ヘラによる磨き。やや器 面が荒れている。	6世紀後半
第95図 P L 65	15	土師器 高坏	N o 2 脚部 1 / 2	口径 底径 高さ	— — (6.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ナデ後工具による磨き、内面ヘラナデ。	時期不明
第95図 P L 65	16	土師器 台付甕	N o 6 台部 1 / 2	口径 底径 高さ	— 11.0 (5.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	短台部で「ハ」の字状に開く。器面が荒れ 表面剥離が見られる。外面台部上位横ナデ ？、下位縦方向ヘラ削り、裾部横ナデ、内 面剥離でヘラナデ？	6世紀前半？
第94図 P L 65	17	土師器 筒型土器	N o 9・14 ほぼ完形	口径 底径 高さ	10.5 7.1 43.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、胴部は寸胴で下位に弱い 膨らみを持つ。底部木葉痕。口縁の半分は 上方向に延びる。外面胴部縦方向ヘラ削り、 中位以下荒れの為整形痕不明瞭、内面縦方 向ヘラナデ。輪積み痕明瞭。	

5区 11号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第97図 P L 65	1	土師器 坏	覆土 1/3	口径 底径 高さ (10.6) — 3.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部弱く外傾し、稜明瞭。底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	7世紀前半
第97図 P L 65	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (11.0) — (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第97図 P L 65	3	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (11.6) — (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。	7世紀前半～後半
第97図 P L 65	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (12.0) — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内屈し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第97図 P L 65	5	土師器 坏	N o 4 1/2	口径 底径 高さ 9.8 — 3.2	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部弱く内傾し、体部丸みを帯びる。底部丸底。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	7世紀頃
第97図 P L 65	6	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (15.0) — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外明赤褐色 内にはぶい黄褐色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部横方向ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀前半?
第97図 P L 65	7	土師器 坏	N o 2 完形	口径 底径 高さ 7.4 — 5.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部弱く内傾し、稜明瞭。体部丸みを帯びる。底部丸底。口縁部横ナデ、底部斜位ヘラ削り。	
第97図 P L 65	8	土師器 甕	N o 3 口縁～胴部	口径 底径 高さ 14.0 — (11.9)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部やや外傾。胴部丸みを帯び、中に最大径。内外面とも器面の荒れ。口縁部横ナデ、胴部斜位ヘラ削り、底部欠損の為不明。	7世紀前半
第97図 P L 65	9	土師器 甕	N o 1・覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (13.6) — (6.3)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外反し、体部は膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り、内面荒れの為整形不明。	粗砂粒僅か 7世紀後半
第97図 P L 65	10	土師器 甕	N o 1 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (14.2) — (7.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、胴部は膨らむ。器厚。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面斜方向ナデ。	6世紀後半
第97図 P L 65	11	土師器 高坏	N o 6 脚部	口径 底径 高さ — — (6.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	粘土の塊から整形していると考えられる。内部を僅かしか掘り抜いていない。器面が荒れ表面剥離がある。外面やや細かい刷毛状工具によるナデ、内面ナデ。	14号住居
第97図 P L 65	12	土師器 器台	N o 5 脚部片	口径 底径 高さ — — (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部と脚部に孔が貫通し、脚部に円孔を穿つ。脚部は「ハ」の字状に開く。外面ナデ、内面ナデ。	古墳時代前期
第100図 P L 65	13	須恵器 壺	覆土 胴部	口径 底径 高さ — — (5.3)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。胴部中央に張りを持ち、沈線2条巡る。	7世紀頃
第100図 P L 65	14	須恵器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (5.4)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	轆轤成形。口縁部中央に突帯が1条、口唇部には沈線が1条巡る。下位に波状文、内面一部剥落。	
第100図 P L 65	15	陶器 壺	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (3.8)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	口縁部に突帯が1条巡る。内外面釉が掛かる。	
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第100図 P L 65	16	石器 敲石	N o 9	長さ 幅 厚さ 12.5 5.7 3.6	ホルンフェルス 重量 312.2g	下端部に敲打痕による剥離有り。	

5区 14号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第102図 P L65	1	土師器 甕	N o 2~4・6 3/4	口径 底径 高さ	19.1 (4.0) 25.4	①細・微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	「コ」の字状口縁。胴部丸みを帯び、上位に最大径。口縁部横ナデ、胴部上位斜位ヘラ削り、中位~下位縦位ヘラ削り。内面ナデ。	9世紀
第102図 P L65	2	土師器 浅鉢	N o 6 口縁~胴部片	口径 底径 高さ	(18.0) - (5.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味に立ち上がり、体部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀前半?
第102図 P L65	3	土師器 甕	P 1 口縁部片	口径 底径 高さ	(15.0) - (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、やや扁平。器厚。外面口縁部横ナデ後、ヘラナデ、内面ナデ、下位表面剥離の為整形痕不明瞭。	9世紀前半?
第102図 P L65	4	土師器 甕	甕 口縁部片	口径 底径 高さ	(19.0) - (5.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	「コ」の字状口縁。胴部は膨らむ。口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面刷毛目状工具によるナデ。	9世紀後半
第102図 P L65	5	土師器 甕	N o 5 底部片	口径 底径 高さ	- (8.0) (2.5)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄褐色	底部平底。外面ヘラナデ、内面一部ヘラナデ。表面剥離。	時期不明

5区 15号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第104図 P L66	1	縄文 注口土器	覆土 破片	口径 底径 高さ	- - (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	注口土器肩部。細沈線による楕円形状意匠か。縄文はLR充填施文。	堀之内2式か
第104図 P L66	2	土師器 坏	N o 43~46 1/2	口径 底径 高さ	14.2 - (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は段を有し、直立気味に内湾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部整形痕不明瞭、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半~ 7世紀前半
第104図 P L66	3	土師器 坏	N o 1 底部1/3	口径 底径 高さ	- (6.0) (2.5)	①細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ後工具による磨き。	7世紀後半?
第104図 P L66	4	土師器 椀	N o 7・27 2/3	口径 底径 高さ	14.5 - 8.3	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	内斜口縁。体部は丸味を帯びて立ち上がる。器面が荒れている為整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ後工具による磨き。吸炭。	5世紀後半~ 6世紀前半
第104図 P L66	5	土師器 小型甕	N o 1 口縁~肩部	口径 底径 高さ	(10.0) - (3.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外にぶい黄褐色 内橙色	口縁部は外反し、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、頸部刷毛目状工具によるナデ後指ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面口縁部刷毛状工具によるナデ後一部ヘラナデ、胴部ヘラナデ。	粗砂粒僅か
第104図 P L66	6	土師器 甕	N o 7 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) - (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は、弱く外反する。内外面横ナデ。	粗砂粒僅か 7世紀後半?
第104図 P L66	7	土師器 S字状口 縁台付甕	N o 7 台部1/2	口径 底径 高さ	- (9.6) (7.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	台部は「ハ」の字状に開き、端部は折り返し。外面刷毛状工具によるナデ。	粗砂粒僅か 4世紀前半~ 5世紀後半?
第104図 P L66	8	土師器 高坏	N o 3・5・6 裾部欠損	口径 底径 高さ	16.7 - (11.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は直立し、坏部上位は外傾して開く。脚部は長脚で「ハ」の字状に開く。外面ヘラナデ後工具による磨き、内面横ナデ後工具による磨き。	5世紀前半?
第104図 P L66	9	土師器 高坏	N o 3・6 坏~脚部 1/2	口径 底径 高さ	(19.8) - (12.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、坏部上位は外傾して開く。脚部は短脚で「ハ」の字状に開く。外面ヘラナデ後工具による磨き、内面絞り目。	5世紀前半~ 6世紀前半
第104図 P L66	10	土師器 高坏	N o 26・覆土 脚部1/2	口径 底径 高さ	- 17.0 (8.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	脚部は緩やかに広がり、裾部は段を持ち屈曲し開く。外面脚部下位~裾部横ナデ後工具による磨き、裾部端部横ナデ、内面絞り目、脚部下位~裾部横ナデ。	6世紀後半?

第104図 P L 66	11	土師器 高坏	N o 26 裾部片	口径 底径 高さ	— (14.0) (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	裾部は「ハ」の字状に開く。外面ナデ後工具による磨き、内面横ナデ。	5世紀?
第104図 P L 66	12	土師器 ミニチュ ア土器	覆土 ほぼ完形	口径 底径 高さ	4.0 4.0 3.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	手握ね整形。外面ヘラナデ、内面指ナデとヘラナデ。	粗砂粒僅か 古墳時代後期?
第105図 P L 66	13	須恵器 大型甕	N o 3 胴部片	口径 底径 高さ	— — (28.4)	①微砂粒僅か 緻密 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き目、上中位は自然釉に砂粒が乗る、内面青海波とヘラナデ。	

5区 16号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第106図 P L 66	1	土師器 甕	P 2 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	有段口縁。口縁部は大きく外反し、口唇部に短い段を有す。外面口縁部横ナデ、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半?

5区 17号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第108図 P L 66	1	土師器 坏	N o 1 1/3	口径 底径 高さ	(14.0) — 3.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は段を有し弱く外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半?
第108図 P L 66	2	須恵器 蓋	掘り方・覆土 1/2	口径 底径 高さ	15.0 — 4.8	①粗・細砂粒中量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形後ヘラ調整、回転ヘラ起こし。受け口口縁で、腰部が張り体部は直線的に立ち上がる。底部丸底。内面口縁部1条沈線が巡る。	6世紀前半? 7世紀
第108図 P L 66	3	土師器 甕	N o 4・18 口縁～胴部	口径 底径 高さ	14.0 — (9.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は短く僅かに外反し、小さな肩部を持ち胴部の張りは小さい。器面一部剥離。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面ナデ。吸炭。	粗砂粒僅か 7世紀後半?
第108図 P L 67	4	土師器 甕	掘り方 N o 4・5 胴部	口径 底径 高さ	— — (13.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	外面斜方向ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。	3mm程の礫僅かに含む
第108図 P L 67	5	土師器 甕	掘り方 N o 13・覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(14.8) — (9.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、口唇部はやや平坦、胴部は膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。	粗砂粒僅か 7世紀後半?
第108図 P L 67	6	土師器 長胴甕	N o 3・掘り 方 1/2	口径 底径 高さ	21.0 6.3 34.5	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は短く僅かに外反し、体部中位に張りが有る。底部平底。器面が荒れている為一部剥離。外面口縁部横ナデ、胴部長い縦方向ヘラ削り後ナデ、内面弱いヘラナデ。	
第108図 P L 67	7	須恵器 甕	17住内2土坑 胴部片	口径 底径 高さ	— — (5.6)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き目、内面青海波。	時期不明

5区 18号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第110図 P L 67	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾する。外面口縁部ヘラナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	
第110図 P L 67	2	土師器 甕	N o 1・覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (14.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部中位に最大径。器面が荒れている為、整形痕不明瞭。外面斜方向のヘラナデかヘラ削り、内面ヘラナデ。	時期不明

5区 19号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第111図 P L 67	1	土師器 坏	掘り方 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ — (4.3)	(13.0) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ後工具による磨き。	5世紀後半
第111図 P L 67	2	土師器 椀	No 2 2/3	口径 底径 高さ — 6.2	13.4 ①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ?内面ナデ後工具による磨き。内面荒れや剥離あり。	5世紀後半?
第111図 P L 67	3	土師器 S字状口 縁台付甕	No 2 口縁部片	口径 底径 高さ — (3.4)	(14.8) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	S字状口縁で、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部刷毛目状工具によるナデ、内面ナデ。やや粗雑な作り。	
第111図 P L 67	4	土師器 鉢	掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ — (4.3)	— ①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部はやや内傾気味に直立する。口唇部は丸く器厚。外面口縁部横ナデ、沈線2条巡る。内面横ナデ。	粗砂粒僅か 6世紀後半?
第113図 P L 67	5	土師器 小型甕	No 3 口縁部片	口径 底径 高さ — (3.3)	(14.0) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反す、胴部はやや膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向のヘラナデ、内面ヘラナデ。	6世紀後半
第113図 P L 67	6	土師器 甕	掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ — (4.4)	(15.0) ①粗・細砂粒少量 ②良好 ③外にぶい黄褐色 内 橙色	口縁部はやや外反し、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ナデ、内面横ナデ。	5世紀後半～ 6世紀前半
第113図 P L 67	7	土師器 甕	掘り方 口縁～肩部片	口径 底径 高さ — (7.0)	(17.0) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、頸部ヘラナデ、胴部ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 6世紀後半
第113図 P L 67	8	土師器 甕	No 3 口縁～肩部片	口径 底径 高さ — (4.5)	(18.6) ①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外反する。外面口縁部横ナデ、頸部横ナデ、胴部縦方向ヘラナデ、内面横ナデ。	5世紀?
第113図 P L 67	9	土師器 高坏	No 4 1/3	口径 底径 高さ (17.0) (14.0) 14.6	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、坏部上半は外傾して開き、脚部は長局で裾部は長く「ハ」の字状に開く。器面が荒れている為一部整形不明。外面口縁部～体部～脚部ナデ後ヘラによる磨き、内面坏部ナデ後ヘラ磨き、脚部ヘラナデ。	5世紀後半～ 6世紀前半?

5区 20号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第115図 P L 68	1	土師器 坏	No 1 口縁～体部	口径 底径 高さ — (5.4)	(16.2) ①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半

5区 21号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第118図 P L 68	1	土師器 坏	竈・掘り方 1/5	口径 底径 高さ — 3.7	(14.0) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は直線的に屈曲しながら立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	
第118図 P L 68	2	土師器 甕	No 1・2 口縁～胴部 1/2	口径 底径 高さ — (14.0)	(21.0) ①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、胴部上位に張りを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ。	8世紀後半～ 9世紀頃
第118図 P L 68	3	土師器 甕	覆土 底部1/2	口径 底径 高さ — (5.9)	13.6 ①粗・細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	底部平底。器厚。内外面ヘラナデ、底部摩滅の為不明。	時期不明
第118図 P L 68	4	土師器 椀	覆土 底部1/6	口径 底径 高さ — (1.1)	(10.0) ①粗・細砂粒少量 ②酸化焙 ③橙色	轆轤成形(回転方向不明)。付け高台。高台の断面は台形。	時期不明
第118図 P L 68	5	土師器 椀	420-070G 底部片	口径 底径 高さ — (1.5)	(10.0) ①粗・細砂粒少量 ②酸化焙 ③橙色	轆轤成形(回転方向不明)。付け高台。高台の断面は台形。	時期不明

第118図 P L 68	6	土師器 坏? カワラケ?	覆土 口縁～底部	口径 底径 高さ	(8.2) 4.4 2.5	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り。口縁部は外反し、腰部・体部は直線的に立ち上がる。	時期不明
第118図 P L 68	7	須恵器 壺	N o 6 裾部灰釉	口径 底径 高さ	(22.0) — (3.5)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形。口縁部はやや外傾し、体部は緩やかに湾曲し口唇部は折れる。外面自然釉。	8世紀後半?
第118図 P L 68	8	須恵器 壺	N o 3・7 1/3	口径 摘み 高さ	— (5.0) (4.2)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)。頭頂部3段回転ヘラ削り。摘み横ナデ。体部は緩やかに湾曲する。	8世紀後半?

5区 23号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第119図 P L 68	1	須恵器 甕	焼土 胴部	口径 底径 高さ	— — (3.7)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き目、内面青海波。	時期不明
第119図 P L 68	2	埴輪 円筒	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (5.5)	①細・微砂粒中量 ②良好 ③明赤褐色	胴部片、突帯1条巡る。突帯下部のナデが強い。外面粗い刷毛目状工具による縦刷毛後ヘラナデ、内面ヘラナデ。	粗砂粒僅か

5区 24号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第120図 P L 68	1	土師器 坏	竈覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (5.2)	①細・微砂粒中量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は内斜し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半
第120図 P L 68	2	埴輪 円筒	竈覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (4.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部片、突帯1条巡る。器面が荒れている為整形痕不明瞭。外面突帯の上下ヘラナデ、細かい縦刷毛目有り、赤色塗彩の可能性有り、内面ヘラナデ。	

5区 25号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第123図 P L 68	1	土師器 坏	22住 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(13.0) — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は、段と稜線を持ち外傾し、体部はやや丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ、吸炭。	6世紀後半
第123図 P L 68	2	須恵器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、体部は直線的で有る。外面口縁部横ナデ、体部回転ヘラ削り、内面体部下位に沈線2条巡る。	10世紀後半
第123図 P L 68	3	土師器 埴	N o 17・覆土 口縁部1/3	口径 底径 高さ	(14.4) — (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反する。内外面横ナデ。	6世紀後半?
第123図 P L 68	4	須恵器 椀	N o 22・覆土 2/3	口径 底径 高さ	10.3 6.0 3.8	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③外にぶい黄褐色 内黒色	轆轤成形(回転方向不明)。付け高台。口縁部は外反し、体部は直線的に立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。内黒。	10世紀後半～ 11世紀
第123図 P L 68	5	土師器 坏	P 6 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外灰黄褐色 内橙色	口縁部に段を持ち、外反気味に立ち上がる。外面口縁部ヘラナデ、体部ヘラ削り。	粗砂粒僅か 6世紀頃
第123図 P L 68	6	須恵器 坏	N o 4 口縁～底部 1/4	口径 底径 高さ	(14.5) 6.6 4.5	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(右回転)。回転糸切り後外面ヘラ調整。体部丸味を帯びて立ち上がり、口縁部外反する。	10世紀頃
第123図 P L 68	7	須恵器 坏	N o 6 底部	口径 底径 高さ	— 6.0 (1.4)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい橙色	轆轤成形(右回転)。回転糸切り。	
第123図 P L 68	8	須恵器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(15.0) — (4.4)	①粗砂粒僅か ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	
第123図 P L 68	9	土師器 甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(25.0) — (6.6)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③外黒褐色 内にぶい黄褐色	口縁部は外反し、体部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面横方向ヘラナデ。	3mm程の礫僅か含む 時期不明

第123図 P L 68	10	土師器 土釜	No 25 口縁~胴部上 部	口径 底径 高さ	(27.0) — (11.1)	①粗砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	やや粗雑な作り。口縁部は外反し、体部や や膨らむ。外面体部縦方向ヘラ削り後、横 ナデ、内面ヘラナデ。	10世紀頃
第123図 P L 68	11	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部やや外傾する。外面口縁部横ナデ、 頸部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	10世紀頃
第123図 P L 69	12	土師器 羽釜	No 6 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (5.6)	①粗・細砂粒中量 ②酸化焰 ③橙色	口縁部は直立する。内外面ヘラナデ。	10世紀頃
第123図 P L 69	13	土師器 羽釜	No 10 口縁部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (4.7)	①粗砂粒僅か 細砂粒多量 ②酸化焰 ③橙色	口縁やや内傾する。外面口縁部横ナデ、体 部横ナデ、内面ヘラナデ。	10世紀頃
第123図 P L 69	14	土師器 羽釜	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(18.8) — (7.5)	①粗砂粒多量 ②酸化焰 ③橙色	口縁やや内傾する。外面口縁部横ナデ、体 部斜方向ナデ、内面ヘラナデ。	10世紀頃
第123図 P L 69	15	土師器 埴	P 2 底部	口径 底径 高さ	— — (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	器面の荒れが激しい。体部は丸味を帯びて 立ち上がり、底部丸底。整形不明瞭。外面 底部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による 磨き。	粗砂粒僅か 7世紀後半?
第123図 P L 69	16	須恵器 甕	P 2 胴部片	口径 底径 高さ	— — (4.7)	①細・微砂粒僅か ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き、内面青海波。	時期不明
第123図 P L 69	17	須恵器 甕	No 1・P 4 胴部~底部片	口径 底径 高さ	— — (5.6)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き、内面ヘラナデ。	
第124図 P L 69	18	形象埴輪 盾形埴輪	No 5・8・16	口径 底径 高さ	— — (17.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	盾形埴輪上部破片。文様なし。側縁の張り 出し残る。外面上部の白色の残りは、塗彩 の痕跡と思われるが、本来の色は不明。	56土坑-No 2・5 と接合
第124図 P L 69	19	形象埴輪 盾形埴輪	No 7・27 破片	口径 底径 高さ	— — (17.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	盾形埴輪上部破片。文様なし。側縁の張り 出し残る。外面上部の白色の残りは、塗彩 の痕跡と思われるが、本来の色は不明。	3~5mm程の礫僅 かに含む。 56土坑-No 1・5 接合
第124図 P L 69	20	埴輪 円筒	No 1 破片	口径 底径 高さ	— — (5.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部片。外面粗い縦刷毛後、隆起の大きな 突帯、突帯上下ナデ、内面粗い目の斜め刷 毛後ナデ。	3mm程の礫僅 かに含む。
第124図 P L 69	21	埴輪 円筒	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (5.5)	①粗砂粒僅か ②良好 ③橙色	胴部片、突帯1条巡る。突帯の隆起低い。 突帯上下に横ナデ、刷毛目不明。	
第125図 P L 69	22	埴輪	No 11 破片	口径 底径 高さ	— — (11.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	外面細かい目による縦刷毛、段が明瞭で突 帯1条巡る。内面斜めに粗い刷毛。赤色塗 彩の可能性有り。	
第125図 P L 69	23	埴輪 円筒	No 1 破片	口径 底径 高さ	— — (11.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部片。外面細かい縦刷毛後、1条の突 帯段を明瞭に構成する突帯有り。円孔透か し、口縁部横ナデ、内面やや粗い目の斜め 刷毛目後、口縁部横ナデ。	赤色塗採 6世紀前半
第125図 P L 69	24	埴輪	No 8・9・12 破片	口径 底径 高さ	— — (15.0) (15.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部片。外面細かい刷毛状工具によるナデ、 内面ヘラナデ。	3~5mm程の礫僅 かに含む。
第125図 P L 69	25	埴輪 円筒	No 3・覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (11.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部片、突帯1条巡る。突起は弱い。外面 摩耗激しく、目のやや粗い縦刷毛が微かに 観察出来る。内面粗い目の刷毛状工具によ る斜め刷毛、ナデ有り。	3~5mm程の礫僅 かに含む。
第125図 P L 69	26	埴輪 円筒	No 1・覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (10.8)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③橙色	底部片。外面粗い目による縦刷毛、内面指 頭によるナデ。	
第125図 P L 69	27	埴輪 円筒	No 5 破片	口径 底径 高さ	— — (7.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部片。外面やや粗い縦刷毛、円孔の透か し有り、内面ナデ。	3~5mm程の礫僅 かに含む。

第126図 P L 69	28	埴輪 円筒	N o 2 破片	口径 — 底径 — 高さ (6.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部片、低位置突帯。突帯は最下位ギリギリに付ける、山形の突帯。粗い縦刷毛後、突帯貼り付け。突帯上下ナデ、内面ナデ。	
第126図 P L 69	29	埴輪 円筒	N o 4 破片	口径 — 底径 — 高さ (11.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部片。外面粗い刷毛、円孔?透かし、内面粗い目の斜め刷毛上部に有り、下位はナデ。	赤色塗採 5世紀頃
第126図 P L 69	30	鉄製品	覆土	長さ 4.4 幅 0.9 厚さ 0.4	重さ 3.1g	鑿	
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第125図 P L 69	31	石製品 磨石・蔽石	N o 3	長さ 19.0 幅 9.0 厚さ 6.3	安山岩 重さ 1370.8g		
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
P L 69	32	焼成粘土塊	覆土		重さ 2.4g		写真のみ掲載
P L 69	33	焼成粘土塊			重さ 7.2g		写真のみ掲載
P L 69	34	焼成粘土塊			重さ 11.2g		写真のみ掲載
P L 69	35	焼成粘土塊	覆土		重さ 2.3g		写真のみ掲載

5区 26号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第127図 P L 70	1	土師器 坏	P 1 完形	口径 11.5 底径 — 高さ 4.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は段を有し内傾気味に直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	7世紀前半?
第127図 P L 70	2	土師器 坏	覆土 1/4	口径 (12.0) 底径 — 高さ (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は段を有し内傾気味に直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。器面が荒れている為、整形痕不明。外面口縁部横ナデ、内面ヘラナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第127図 P L 70	3	土師器 坏	N o 2・5・8 2/3	口径 — 底径 — 高さ (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	体部丸味を帯びて立ち上がる。外面ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。吸炭。	6世紀後半～ 7世紀前半?
第127図 P L 70	4	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 — 底径 — 高さ (5.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外灰黄色 内にぶい橙色	口縁部は外反し、胴部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ。内面横ナデ後工具による磨き。接合痕多数有り。	
第127図 P L 70	5	土師器 甕	覆土 1/2	口径 (9.7) 底径 8.3 高さ (23.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は寸胴でやや歪み、下位に弱い膨らみがあり。底部は平底で木葉痕有り。全体的に粗雑な作り。内外面輪積み痕が明瞭。外面口縁部～胴上部斜方向ヘラナデ、中位～下位縦方向ヘラ削り、内面指ナデ後ヘラナデ、底部紋目。	6世紀前半～後半

5区 27号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第129図 P L 70	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (14.0) (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	口縁部は直立気味、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀後半
第129図 P L 70	2	土師器 坏	No 13 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (13.0) (3.4)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀後半
第129図 P L 70	3	土師器 坏	No 16・覆土 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ — (14.0) (3.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。器面が荒れている為整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、体部ナデ？内面ヘラナデ。	6世紀前半～後半
第130図 P L 70	4	須恵器 椀	No 10 口縁～底部片	口径 底径 高さ (10.0) (6.0) 3.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐灰色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り後付け高台。口縁部は外傾し、腰部が張り体部は直線的に立ち上がり、高台は「ハ」の字状に大きく開く。全体的に丸味を帯びた台形。	8世紀？
第130図 P L 70	5	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄橙色	口縁部は外傾し、口縁部下に縦10mm横18mm程の突帯を持つが、端部欠損の為詳細不明。胴部は弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	時期不明
第130図 P L 70	6	土師器 甕	No 15 口縁～肩部片	口径 底径 高さ — (17.0) (5.6)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③外褐灰色 内橙色	口縁部は外反し、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、肩部横方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。	6世紀後半
第130図 P L 70	7	土師器 甕	No 24 口縁部片	口径 底径 高さ — (18.0) (5.3)	①細・微砂粒中量 ②良好 ③暗褐色	「コ」の字状口縁。胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面ナデ。	9世紀前半
第130図 P L 70	8	土師器 甕	No 4 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — (21.2) (5.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、口唇部は器厚、胴部は弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半
第130図 P L 70	9	土師器 甕	No 3・覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — (20.0) (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部中位に段を有し、弱く外反する。器厚。外面口縁部横ナデ、内面剥離と荒れの為整形痕不明。	粗砂粒僅か 7世紀前半
第130図 P L 70	10	須恵器 壺	No 26 1/5	口径 底径 高さ — (11.0) (7.3)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形。回転方向不明。口縁部は内傾し、胴部上位に最大径を持ち、沈線が1条巡る、胴部下半ヘラによる調整。	8世紀後半～ 9世紀
第130図 P L 70	11	土師器 高坏	No 19 坏部片	口径 底径 高さ — — (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反気味で下半は丸味を帯びて立ち上がる。外面坏部上半横ナデ、下半部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半～ 7世紀前半？
第130図 P L 70	12	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 底径 高さ — — (6.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	脚部上位に膨らみを持つ。外面ヘラナデ、内面絞り目。	時期不明
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第130図 P L 70	13	石器 石皿	No 28	縦幅 厚さ 19.6 26.0 9.7	多孔質安山岩 重量 5336.3g	縄文時代石皿として使用し、その後古墳時代に台石として用いらた考えられる。裏面は平滑になっている。外面には敲き痕が多数見られる。裏面鉄分付着。	縄文時代
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
P L 70	14	焼成粘土塊	覆土			重さ 14.8g	写真のみ掲載

P L 70	15	焼成粘土塊	覆土			重さ 5.1g	写真のみ掲載
P L 70	16	焼成粘土塊	覆土			重さ 2.5g	写真のみ掲載

5区 28号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第133図 P L 70	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部 1/5	口径 — (12.4) 底径 — (3.4) 高さ	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部は段を有し直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。器面は荒れている。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ後工具による磨き。	6世紀後半～ 7世紀前半
第133図 P L 70	2	土師器 坏	竈掘り方 口縁～体部 1/4	口径 — (13.0) 底径 — (3.3) 高さ	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外褐灰色 内橙色	口縁部は外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第133図 P L 70	3	須恵器 坏	覆土 1/3	口径 — (13.1) 底径 (7.6) 高さ (3.9)	①粗・細砂粒僅か ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外反し、体部は直線的に立ち上がる。底部回転ヘラ削り。	9世紀前半
第133図 P L 71	4	須恵器 坏	覆土 底部	口径 — 底径 8.0 高さ (2.5)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り後、ヘラ削り調整。	
第133図 P L 71	5	土師器 甕	N o 10・覆土 口縁～胴部 1/5	口径 — (20.0) 底径 — (10.0) 高さ	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。口縁部に接合痕有り。	粗砂粒僅か 9世紀後半?
第133図 P L 71	6	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 — (22.0) 底径 — (5.6) 高さ	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	「コ」の字状口縁。外面口縁部横ナデ、肩部横方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。接合痕有り。	9世紀頃
第133図 P L 71	7	土師器 甕	覆土 口縁～胴部 1/3	口径 — (14.2) 底径 — (13.4) 高さ	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、胴部は中位に最大径の膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部斜位方向ヘラ削り、内面上位横方向ヘラナデ、下位斜方向ヘラナデ。	7世紀前半
第133図 P L 71	8	須恵器 甕	掘り方 胴部片	口径 — 底径 — (4.4) 高さ	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面敲き後一部ナデ、内面当て具痕。	
第133図 P L 71	9	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 — 底径 — (5.8) 高さ	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	外面敲き痕、内面当て具痕。	
第133図 P L 71	10	須恵器 蓋	覆土 口縁～体部片	口径 — (11.5) 底径 — (3.0) 高さ	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部はやや外傾する。	
第133図 P L 71	11	須恵器 蓋	覆土 摘み部	摘み部 — (3.8) 底径 — (1.7) 高さ	①粗・細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。環状摘み。体部は緩やかに湾曲する。	
P L 71	12	焼成粘土塊	覆土			重さ 6.9g	写真のみ掲載
P L 71	13	焼成粘土塊	覆土			重さ 10.1g	写真のみ掲載
P L 71	14	焼成粘土塊	覆土			重さ 13.5g	写真のみ掲載

5区 30号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第135図 P L 71	1	土師器 坏	N o 16 1 / 3	口径 底径 高さ — (13.0) (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁部は内傾し、口唇部は段を有し平坦。 体部は丸味を持ち立ち上がる。底部丸底。 外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	6世紀後半～ 7世紀前半
第135図 P L 71	2	土師器 坏	N o 17・107 1 / 3	口径 底径 高さ — (14.4) 4.2	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し口唇部は外反する。体部は 丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面 口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後工具による 磨き。内面ヘラナデ後工具による磨き。	7世紀前半?
第135図 P L 71	3	土師器 坏	N o 10・覆土 口縁部 1 / 3	口径 底径 高さ — (16.0) (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外傾し、腰部が張り体部は丸味を 帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体 部ヘラ削り。	6世紀後半
第135図 P L 71	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (16.0) (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上 がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内 面ナデ。	6世紀後半
第135図 P L 71	5	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (12.0) (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外傾し、腰部が張り体部は直線的 に立ち上がる。器面が荒れている為成形不 明瞭。外面口縁部ナデ? 内面ヘラナデ。	8世紀後半
第135図 P L 71	6	土師器 坏	N o 11・覆土 口縁部 1 / 3	口径 底径 高さ — (14.2) (3.6)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③橙色	口縁部は直線気味で、体部は丸味を帯びて 立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ 削り、内面ナデ。	6世紀後半
第135図 P L 71	7	土師器 坏	N o 1 口縁～体部 1 / 3	口径 底径 高さ — (16.0) (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は外反し皿状に開き、体部は丸味を 帯びて立ち上がる。やや扁平。外面口縁部 横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	8世紀前半?
第135図 P L 71	8	土師器 坏	N o 107 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (10.0) (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、 内面ヘラナデ。	8世紀前半?
第135図 P L 71	9	土師器 坏	掘り方・覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (14.0) (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、 内面ヘラナデ。	
第135図 P L 71	10	須恵器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (14.0) (3.1)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰色 内にぶい黄褐色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外傾し、 体部は直線的に立ち上がる。	
第135図 P L 71	11	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — (14.4) (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は弱く外反し、口唇部に沈線1条巡 る。内外面横ナデ。	時期不明
第135図 P L 71	12	須恵器 甕	N o 4 胴部片	口径 底径 高さ — (6.2)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面並行叩き目、内面敲き後細めのヘラに よるナデ。	
第135図 P L 71	13	土師器 高坏	N o 18 脚部片	口径 底径 高さ — (5.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラナデ、内面細かい刷毛目状工具に よるナデ。	時期不明
第135図 P L 71	14	ミニチュ ア土器	覆土 1 / 2	口径 底径 高さ 2.5 4.2 3.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	手握ね成形。外面指ナデ、内面ヘラナデ。	古墳時代後期?
第136図 P L 72	15	土師器 長胴甕	N o 9 口縁～胴部	口径 底径 高さ — (23.6) (30.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外反し、胴部上位に張りを持つ。 外面口縁部横ナデ、胴部上位長い斜方向ヘ ラ削り、下位縦方向ヘラ削り、内面ナデ。 接合痕有り。	8世紀前半
第136図 P L 72	16	土師器 長胴甕	N o 9 2 / 3	口径 底径 高さ 21.1 5.8 32.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は外反し、胴部上位に張りを持つ。 底部平底。器肉が薄い。外面口縁部横ナデ、 胴部斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
P L 71	17	焼成粘土塊	N o 9		重さ 14.2 g		写真のみ掲載
P L 71	18	焼成粘土塊	N o 9		重さ 18.8 g		写真のみ掲載

P L 71	19	焼成粘土塊	N o 9			重さ 9.7 g	写真のみ掲載
P L 71	20	焼成粘土塊	覆土			重さ 11.4 g	写真のみ掲載

5区 31号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第139図 P L 72	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ (11.8) (10.0) (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は外傾し段を持つ。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	7世紀前半
第139図 P L 72	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (10.0) — (2.3)	①細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	粗砂粒僅か 8世紀前半?
第139図 P L 72	3	土師器 坏	N o 76 口縁～体部片	口径 底径 高さ (13.0) (8.0) (3.6)	①細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、腰部が張り丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横方向ヘラナデ。吸炭。	粗砂粒僅か 7世紀頃
第139図 P L 72	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (14.0) — (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は内湾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	粗砂粒僅か 7世紀後半
第139図 P L 72	5	土師器 坏	N o 46 1/4	口径 底径 高さ (11.0) — (3.1)	①粗砂粒少量・細砂粒 多量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾気味、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部斜・横方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半～ 8世紀
第139図 P L 72	6	土師器 坏	N o 50 1/3	口径 底径 高さ (11.2) (5.3) 4.3	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。接合痕有り。	
第139図 P L 72	7	土師器 坏	覆土・掘り方 覆土 1/6	口径 底径 高さ (11.2) (7.2) (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第139図 P L 72	8	土師器 坏	N o 89 口縁～体部片	口径 底径 高さ (10.0) — (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は内湾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 7世紀後半
第139図 P L 72	9	土師器 坏	N o 7・覆土 口縁部 1/3	口径 底径 高さ (10.6) — (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味に立ち上がり、体部は丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、体部横方向のヘラ削り。内面ヘラナデ。	粗砂粒僅か 7世紀後半～ 8世紀前半
第139図 P L 72	10	土師器 坏	N o 14・16 1/2	口径 底径 高さ (11.2) — 3.3	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半～ 6世紀前半?
第139図 P L 72	11	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (12.0) — (2.7)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾気味、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り。	7世紀後半～ 8世紀前半
第139図 P L 72	12	土師器 坏	N o 85・86 口縁～体部片	口径 底径 高さ (11.2) — (3.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾気味、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀～8世紀
第139図 P L 72	13	土師器 坏	覆土 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ (12.4) — (3.4)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯び立ち上がり、底部は厚みを持つ。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第139図 P L 72	14	土師器 坏	N o 22 口縁～体部片	口径 底径 高さ (13.0) — (3.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾気味、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第139図 P L 72	15	土師器 坏	N o 8 1/3	口径 底径 高さ (13.2) — 3.9	①細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は短く内傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。	7世紀後半?

第139図 P L 72	16	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は内湾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	7世紀後半
第139図 P L 72	17	土師器 坏	N o 19 口縁部片	口径 底径 高さ	(13.6) — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。	
第139図 P L 72	18	土師器 坏	N o 69 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(17.7) — (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明褐色	口縁部は外反し、腰部に張りを持ち、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	古墳時代後期
第139図 P L 73	19	土師器 S字状口 縁台付甕	覆土・掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ	(14.2) — (5.0)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③灰黄褐色	S字状口縁、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、体部刷毛目状工具による整形、内面口縁部横ナデ、体部ナデ。	古墳時代後期
第139図 P L 73	20	土師器 甕	N o 57 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (6.7)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、内面に弱い段を有す。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	
第139図 P L 73	21	土師器 甕	N o 30 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (6.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は受け口状に外反し、胴部はやや膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第139図 P L 73	22	土師器 甕	N o 48 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (7.8)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反し、上部に1条の稜線が巡る。胴部はやや膨らむ。外面口縁部横ナデ、頸部指ナデ、胴部ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀前半?
第139図 P L 73	23	土師器 甕	N o 58 口縁～胴部 1/3	口径 底径 高さ	(22.0) — (8.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明褐色	口縁部は外反し、体部はやや膨らむ。器面がやや荒れている為、整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り、内面口縁部に1条沈線が巡る。胴部横ナデ。	7世紀前半
第139図 P L 73	24	土師器 高坏	N o 79 脚部	口径 底径 高さ	— — (8.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている。外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラナデ。	
第139図 P L 73	25	鉄製品 刀子	覆土	長さ 幅 厚さ	(4.8) (1.1) (0.7)	重量 5.8 g		
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
第139図 P L 73	26	石製品 敲石	覆土	長さ 幅 厚さ	8.3 6.3 4.7	ホルンフェルス 重さ 282.3 g	両側面に敲打痕。表裏面に摩擦痕有り。	
第140図 P L 73	27	石製品 敲石	覆土	長さ 幅 厚さ	10.2 4.5 3.8	砂岩 重さ 260.6 g	右側縁・両先端部に敲打痕。	
第140図 P L 73	28	石製品 砥石	N o 102	長さ 幅 厚さ	9.0 5.9 4.4	流紋岩 重さ 313.3 g	鉄器用、5面使用、中位が著しく磨滅する。擦痕は、長軸方向を主としている。端部に刃部調整痕が多数見られる。	
第140図 P L 73	29	石製品 剣形石製品	N o 12	長さ 幅 厚さ	4.3 2.0 0.6	滑石質蛇紋岩 重量 5.8 g	孔一穴、孔径1 cm。表面から片側穿孔。表面四面、側面、裏面に工作痕が残る。	
P L 73	30	鉄関連遺物 鉄滓	覆土			重さ 193.4 g		写真のみ掲載
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
P L 73	31	焼成粘土塊	覆土			重さ 7.6 g		写真のみ掲載
P L 73	32	焼成粘土塊	覆土			重さ 11.2 g		写真のみ掲載
P L 73	33	焼成粘土塊	覆土			重さ 16.1 g		写真のみ掲載

P L 73	34	焼成粘土塊	覆土			重さ 3.5 g	写真のみ掲載
P L 73	35	焼成粘土塊	覆土			重さ 7.9 g	写真のみ掲載
P L 73	36	焼成粘土塊	掘り方覆土			重さ 6.9 g	写真のみ掲載

5区 33号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第142図 P L 73	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (3.9)	(10.6) — (3.9) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は段を有し、直立気味に立ち上がる。 外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、 内面ナデ。	7世紀前半?
第142図 P L 73	2	土師器 坏	No 3 ほぼ完形	口径 底径 高さ 12.0 6.0 3.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。底部平底。やや扁平。外面口縁部横 ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。接合痕 有り。	9世紀頃
第142図 P L 73	3	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (3.0)	(12.0) — (3.0) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや短く内屈し、体部は丸味を帯 びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部 ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第142図 P L 73	4	土師器 坏	掘り方覆土 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ — — (2.9)	(10.0) — (2.9) ①細・微砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、 内面ナデ後工具による磨き。	7世紀後半
第143図 P L 73	5	須恵器 坏	覆土 2/3	口径 底径 高さ 13.0 6.9 3.2	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)。口縁部は外傾し、体部 は直線的に立ち上がる。底部糸切り後、周 辺削り。	
第143図 P L 73	6	須恵器 坏	No 12・13 ほぼ完形	口径 底径 高さ 12.6 7.2 3.6	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)。口縁部は外傾し、腰部 に張りを持ち、体部は丸味を帯びて立ち上 がる。周縁部に削り。底部回転糸切り。	
第143図 P L 73	7	土師器 碗	覆土 1/3	口径 底径 高さ — — (8.5)	(16.2) — (8.5) ①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。内外面に剥離有り。外面口縁部横 ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	3～5mmの礫を僅 かに含む。 6世紀後半～ 7世紀前半
第143図 P L 73	8	土師器 甕	覆土 口縁～肩部 1/3	口径 底径 高さ — — (7.0)	(20.6) — (7.0) ①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁。外面口縁部横ナデ、肩 部斜方向ヘラ削り。	9世紀頃
第143図 P L 74	9	土師器 甕	No 7 口縁部片	口径 底径 高さ — — (3.6)	(19.6) — (3.6) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、口唇部外面に沈線有り。 接合痕有り。内外面ヘラナデ。	
第143図 P L 74	10	土師器 甕	No 9・覆土 胴部～底部 1/2	口径 底径 高さ — — (20.9)	(3.8) — (20.9) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	胴部上位に最大径を持つ。底部小さい平底。 器肉薄い。外面胴部上位斜方向ヘラ削り、 下位縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	8世紀後半～ 9世紀後半?
第143図 P L 74	11	土師器 埴	覆土 口縁～胴部 1/3	口径 底径 高さ — — (5.3)	(11.4) — (5.3) ①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直線的外傾し、体部は球形と推定 される。器面が荒れている為、整形痕不明 瞭。口縁部外面縦・斜方向ヘラ削り、肩部 横ナデ、体部横方向ヘラ削り、内面ヘラナ デ、一部ヘラ削り。	
第143図 P L 74	12	須恵器 蓋	覆土 裾部片	口径 底径 高さ — — (0.8)	(14.0) — (0.8) ①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。摘み部欠損の為 詳細不明。	時期不明
第143図 P L 74	13	土師器 甕	竈覆土 底部1/2	口径 底径 高さ — — (1.8)	(5.8) — (1.8) ①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	底部中央に11mm程の単孔が有る。外面胴部 横ナデ、底部ヘラ削り、内面ナデ。	古墳時代後期?
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第143図 P L 74	14	石製品 紡錘車	No 10 未製品	長さ 幅 高さ 3.5 3.8 0.9	片岩質蛇紋岩 重さ 17.1 g	成形時の細かい削痕を残す。未成品の為 か孔はない。下面に敲打痕有り。表裏両面 に光沢痕有り。	

第143図 P L 74	15	石製品 砥石	N o 15	長さ 幅 厚さ	8.2 4.2 2.4	流紋岩 重さ 140.1 g	鉄器用 5面使用、中位が著しく磨減する。擦痕は、長軸方向を主としている。刃部調整痕が多数見られる。上部剥落、中央部斜方向に孔があく。孔径0.9cm。中央部より折れる。両面穿孔。
第143図 P L 74	16	石製品 紡錘車?	N o 5	長さ 幅 厚さ	5.9 3.3 2.0	軽石 重さ 17.4 g	中央部孔一穴、孔径約1.5cm。表面、側面、裏面に工作痕・研磨痕が残る。
第141図 P L 74	17	石製品 勾玉	覆土	長さ 幅 厚さ	5.0 1.9 0.4	片岩質蛇紋岩 重さ 7.3 g	扁平。片側穿孔。孔径0.2cm。表面、裏面に縦方向の工作痕が残る。背面の研磨痕・敲打痕は明瞭。

5区 35号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第144図 P L 74	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(11.9) — (2.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部はやや外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面荒れのため整形不明。	
第144図 P L 74	2	土師器 大型坏	N o 2・3 1/2	口径 底径 高さ	18.3 — 8.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は直立気味に外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	粗細砂粒僅か

5区 36号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第145図 P L 74	1	ミニチュア 土器	覆土 1/2	口径 底径 高さ	(5.7) 4.0 3.6	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	手握ね成形。内外面口縁部ヘラナデ。	
第145図 P L 74	2	土師器 高坏	掘り方覆土 脚部片	口径 底径 高さ	— — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	内外面ヘラナデ。	
第145図 P L 74	3	土師器 台付甕	掘り方覆土 台部1/3	口径 底径 高さ	— — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面刷毛目状工具によるナデ、内面ヘラナデ。	時期不明
第145図 P L 74	4	土師器 高坏	覆土 坏部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は直立し、腰部が張り体部が直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部は横ナデ後工具による磨き、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半
第146図 P L 74	5	土師器 坏	N o 2 2/3	口径 底径 高さ	12.8 — 4.5	①細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は段を有し内傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	
第146図 P L 74	6	土師器 坏	N o 6 完形	口径 底径 高さ	13.0 — 4.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第146図 P L 74	7	土師器 坏	覆土 口縁～底部 1/4	口径 底径 高さ	(13.6) — (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は直立し、口唇部は平坦で、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面体部ヘラナデ。	6世紀後半
第146図 P L 74	8	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ	(13.2) — (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部はやや外傾気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	
第146図 P L 74	9	土師器 坏	N o 4 1/2	口径 底径 高さ	13.0 — 3.5	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	
第146図 P L 74	10	土師器 坏	貯蔵穴覆土 口縁～底部 1/5	口径 底径 高さ	(13.0) — (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀後半

第146図 P L 74	11	土師器 坏	貯蔵穴覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀頃
第146図 P L 74	12	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(15.0) — (3.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第146図 P L 74	13	土師器 長胴甕	No 9 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(16.0) — (19.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は短く器厚で外反し、胴部はやや歪み胴部上位が僅かに張る。外面口縁部横ナデ、胴部上位斜方向ヘラ削り、中位縦方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。接合痕有り。	6世紀後半～ 7世紀前半
第146図 P L 74	14	土師器 甕	覆土 口縁部1/4	口径 底径 高さ	(17.2) — (5.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反する。器面が荒れている為、内面整形痕不明瞭。外面ヘラナデ。	7世紀頃
第146図 P L 74	15	須恵器 甕	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (4.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	外面並行叩き目、内面青海波文後ヘラナデ。	時期不明
P L 74	16	焼成粘土塊	貯蔵穴覆土			重さ 14.8 g		写真のみ掲載

5区 37号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第149図 P L 75	1	土師器 坏	No 5 1/3	口径 底径 高さ	(12.0) — 3.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し内傾する。体部は丸味を帯びて立ち上がり、底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀前半?
第149図 P L 75	2	土師器 坏	No 22 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.8) — (2.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は弱く外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀前半?
第149図 P L 75	3	土師器 坏	No 7 1/3	口径 底径 高さ	(13.0) — (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部に段を有し外傾する。体部は丸味を持ち立ち上がり、底部丸底。器面が荒れている為整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、体部ナデか削り、内面器面剥落の為不明。	粗砂粒僅か 7世紀中葉
第149図 P L 75	4	土師器 坏	No 1 1/4	口径 底径 高さ	(11.0) — 3.3	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第149図 P L 75	5	土師器 坏	No 19 完形	口径 底径 高さ	11.2 — 3.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立気味に内屈し、体部は丸味を持って立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第149図 P L 75	6	土師器 坏	No 37 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (2.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	
第149図 P L 75	7	土師器 坏	掘り方覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(13.4) — (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ナデとヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第149図 P L 75	8	土師器 坏	No 36 1/5	口径 底径 高さ	(12.0) — 3.3	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 7世紀頃
第149図 P L 75	9	土師器 坏	No 33 1/4	口径 底径 高さ	(12.6) — (3.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	粗砂粒僅か 7世紀後半
第149図 P L 75	10	土師器 坏	No 25・覆土 口縁～体部 1/3	口径 底径 高さ	(17.0) — (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明褐色	口縁部は強く皿状に開き、体部は扁平ではあるがやや丸味を持ち立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	8世紀頃
第149図 P L 75	11	土師器 坏	No 17・18 ほぼ完形	口径 底径 高さ	16.3 — 3.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は皿状に開き、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	6世紀～7世紀

第149図 P L 75	12	土師器 坏	覆土 1 / 4	口径 底径 高さ	(16.2) — (3.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、口唇部はやや扁平。体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	8世紀
第149図 P L 75	13	土師器 S字状口縁 台付甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	S字状口縁。内外面横ナデ。	
第149図 P L 75	14	土師器 S字状口縁 台付甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(15.0) — (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	S字状口縁。外面口縁部横ナデ、肩部刷毛目状工具によるナデ、内面ナデ。	4世紀後半
第149図 P L 75	15	土師器 甕	No 27 口縁部片	口径 底径 高さ	(20.0) — (9.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反する。器面が荒れている為整形痕不明。外面口縁部横ナデか、内面口唇部に1条沈線が巡る。	7世紀頃?
第149図 P L 75	16	土師器 甕	No 4・14 口縁～胴部 1 / 3	口径 底径 高さ	(22.0) — (7.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は大きく外傾する。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第149図 P L 75	17	土師器 甕	No 3・4・20 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(22.0) — (20.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は器厚で外反し、内面口唇部に1条沈線が巡る。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。接合痕有り。	7世紀後半～ 8世紀前半
第149図 P L 75	18	土師器 甕	No 3・4・20 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(22.0) — (22.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は器厚で外反し、内面口唇部に1条沈線が巡る。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。接合痕有り。	7世紀後半～ 8世紀前半
第149図 P L 75	19	土師器 台付甕	土坑 台部	口径 底径 高さ	— (9.0) (5.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	外面ヘラナデ、内面ヘラナデ、指ナデ。	時期不明
第149図 P L 75	20	土師器 高坏	No 24 脚部片	口径 底径 高さ	— — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	外面ヘラナデ。内面絞り目。	時期不明
第150図 P L 76	21	須恵器 大型甕	No 10・11 胴部片	口径 底径 高さ	— — (18.4)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③外灰黄色 内 にぶい 橙色	外面並行叩き目、内面青海波。	3～5mm程の白色 礫少量含む
第150図 P L 75	22	須恵器 長頸壺	No 9 胴部～底部	口径 底径 高さ	11.0 11.6 (7.5)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③暗灰黄色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切りの付け高台。長頸壺の肩部から下を転用。胴部上位に最大径を持ち、高台部は「ハ」の字状に開く。断面四角形。	骨壺の再利用 時期不明
第150図 P L 75	23	土師器 甕?	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (6.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外橙色 内浅黄橙色	外面ヘラナデ、内面ヘラナデ、接合痕が顕著。	時期不明
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
第150図 P L 75	24	石製品 砥石	No 39	長さ 幅 厚さ	10.2 4.6 1.9	流紋岩 重さ 164.1 g	鉄器用 5面使用、中位が著しく磨減する。擦痕は、長軸方向を主としている。上端周辺に刃部調整痕が多数見られる。仕上げ用砥石か。	
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
P L 76	25	焼成粘土塊	覆土			重さ 1.9 g	写真のみ掲載	
P L 76	26	焼成粘土塊	覆土			重さ 5.3 g	写真のみ掲載	
P L 76	27	焼成粘土塊	覆土			重さ 13.4 g	写真のみ掲載	
P L 76	28	焼成粘土塊	覆土			重さ 12.5 g	写真のみ掲載	

5区 40号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第152図 P L 76	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ — (14.0) (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部はやや外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	7世紀
第152図 P L 76	2	須恵器 坏	覆土 1/5	口径 底径 高さ (12.2) (3.0) 3.6	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形。底部回転糸切り。口縁部は外反、体部は直線的に立ち上がる。	
第152図 P L 76	3	土師器 壺	N o 1 ほぼ完形	口径 底径 高さ 20.4 6.2 15.7	①細・微砂粒多量 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁。胴部上位に張りを持ち、ナデ肩の球胴形。外面口縁部横ナデ、胴部上位横方向ヘラ削り、下位斜方向ヘラ削り。内面ヘラナデ。	7世紀後半

5区 41号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第153図 P L 76	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部	口径 底径 高さ — (11.0) (2.5)	①細・砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外反。外面口縁部横ナデ、体部はヘラ削り、内面横ナデ、底部付近に磨き。	
第153図 P L 76	2	土師器 椀	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (11.0) (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾。外面口縁部横ナデ、体部斜方向のヘラ削り。内面横ナデ。	6世紀前半～ 7世紀後半
第153図 P L 76	3	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (12.0) (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。口縁部はやや内湾。外面口縁部横ナデ、体部斜方向のヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀
第153図 P L 76	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (12.0) (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	
第154図 P L 76	5	土師器 甕	N o 7・10 口縁～胴上部	口径 底径 高さ — (16.6) (8.1)	①細・微細粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	器面が荒れている。口縁部はやや外反し、胴部は膨らみを持つ。外面口縁部は横ナデ、胴部は斜・横方向にヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀前半?
第154図 P L 76	6	土師器 甕	N o 12 口縁部片	口径 底径 高さ — (21.6) (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外反。外面口縁部は横ナデ、斜方向にヘラ削り、内面横ナデ、沈線有り。	6世紀後半
第154図 P L 76	7	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — (6.7)	①粗砂粒多量 ②良好 ③外黒褐色 内いぶい黄褐色	器面が荒れている。口縁部やや外反。破片の為整形痕不明瞭。外面横ナデ、縦方向のヘラ削り。	時期不明
第154図 P L 76	8	須恵器 壺	覆土 体部片	口径 底径 高さ — (4.1)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。外面波状文、中央に1条の沈線有り、内面横ナデ。	時期不明
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第154図 P L 76	9	敲石	N o 13	縦 幅 厚さ 9.8 6.1 4.5	安山岩 重さ 384.8 g	先端部に敲打痕。表裏面に斜方向の磨痕が多数見られる。	

5区 42号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第155図 P L 76	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ — (11.0) (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黒褐色	口縁部はやや外傾し、腰部が張り体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半
第155図 P L 76	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部 1/3	口径 底径 高さ — (12.0) (2.6)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半?
第155図 P L 76	3	土師器 坏	N o 3 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (12.0) (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部ヘラナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半～ 8世紀

第155図 P L 76	4	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (3.0)	(13.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	7世紀後半～ 8世紀
第155図 P L 76	5	土師器 甕	No 8 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (5.4)	(11.0)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄橙色	「コ」の字状口縁。器面が荒れている。外面口縁部横ナデ、肩部ヘラ削り、内面不明。	9世紀頃?
第155図 P L 76	6	土師器 甕	No 6・7 口縁部 1/4	口径 底径 高さ	— — (3.5)	(11.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	器面が荒れている為、整形痕不明。内外面横ナデ。	時期不明
第155図 P L 76	7	土師器 台付甕	覆土 台部片	口径 底径 高さ	— — (4.2)	—	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。内外面ナデか。	
第155図 P L 76	8	土師器 高坏	No 4 脚部	口径 底径 高さ	— — (8.1)	—	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	脚中央に円孔有り。外面ヘラ削り後ヘラナデ、内面絞り目。	時期不明

5区 44号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考		
第158図 P L 77	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ	— — (2.9)	(14.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐灰色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。吸炭。	7世紀後半?
第158図 P L 77	2	土師器 坏	覆土 1/4	口径 底径 高さ	(9.4) (5.0) 2.4	—	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄褐色	轆轤成形。底部ナデ。口縁部はやや外傾し、口唇部は平坦。体部は直線的に立ち上がる。器面の荒れが酷い。	粗砂粒僅か 10世紀?
第158図 P L 77	3	土師器 鉢	覆土 口縁部	口径 底径 高さ	— — (4.4)	(13.0)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③黒色	口縁部は直立気味で、口唇部は内傾する。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面不明。吸炭。	3mm程の礫含む 時期不明
第158図 P L 77	4	須恵器	覆土 底部	口径 底径 高さ	— — (2.2)	(12.0)	①粗・細砂粒僅か ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形。一部釉が掛かる。内面ヘラ調整。	
第158図 P L 77	5	羽口	No 4 破片	長さ 幅 厚さ	(5.0) (7.7) 3.2	—	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	手握ね成形、一部還元。	時期不明

5区 2号土坑 (1号土坑)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考		
第159図 P L 77	1	土師器 高坏	No 1 脚部	口径 底径 高さ	— — (10.0)	—	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	脚部上部は円錐形、裾部は外反。外面縦方向ヘラ削り、内面絞り目。	時期不明

5区 8号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第261図	1	骨	覆土				下顎右頰部片及び右上腕骨片	324頁に写真

5区 20号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考		
第162図 P L 77	1	灰釉 甕	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (3.4)	—	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	外面一面釉が掛かる、内面青海波。	

5区 32号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考		
第165図 P L 77	1	土師器 高坏	No 5 坏部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (4.8)	—	①細・微砂粒多量 ②良好 ③浅黄褐色	坏部下部が浅く、口縁部が皿状に開く。脚部欠損。外面口縁部横ナデ、下部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀後半
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		石材	器形・技法等の特徴	備考	
第165図 P L 77	2	石製品 勾玉	No 1	長さ 幅 厚さ	2.8 1.9 1.1	瑪瑙 重さ 7.7 g	孔径0.2cm。表面、側面、裏面に縦方向の研磨痕が残る。下部欠損。ほぼ片側穿孔。	穴0.3cm	

5区 34号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第166図 P L 77	1	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(17.0) — (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外反。内外面横ナデ。	6世紀後半

5区 35号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第167図 P L 77	1	土師器 甕	覆土 口縁部	口径 底径 高さ	16.0 — (3.0)	①細・微砂粒やや多い ②良好 ③浅黄褐色	口縁部は外反。内外面横ナデ。	6世紀?
第167図 P L 77	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (4.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反。胴部は膨らみを持つ。外面 口縁部斜方向ヘラ削り後、横ナデ、内面刷 毛目状工具によるナデ。	6世紀～7世紀
第167図 P L 77	3	土師器 甕	No 1 口縁～肩部	口径 底径 高さ	(15.6) — (5.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反。胴部は膨らみを持つ。外面 口縁部横方向ヘラナデ、肩部横ナデ、内面 横ナデ、口縁中央に1条の沈線有り。	6世紀～7世紀
第167図 P L 77	4	土師器 甕	No 1 ほぼ完形	口径 底径 高さ	14.0 7.0 17.4	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は強く外反し、胴部は中位に最大径 を持つ球形。底部平底。外面口縁部横ナデ、 胴部上位刷毛目状工具による縦方向ナデ、 下位横方向ヘラ削り、内面横ナデ、一部表 面剥離。接合痕有り。	5世紀前半?
第168図 P L 77	5	土師器 甕	No 2 完形	口径 底径 高さ	15.0 4.0 20.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は大きく直線的に外傾し、胴部は中 位に最大径を持つ球形。全体的に扁平。底 部平底。外面口縁部横ナデ、胴部上位ヘ ラ削り後横ナデ、下位斜方向ヘラ削り、内 面ナデ。	6世紀後半
第168図 P L 77	6	土師器 甕	覆土 口縁～胴部	口径 底径 高さ	16.3 — (9.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「く」の字状口縁。胴部は膨らむ。外面口 縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後ナデ、内面横 ナデ。接合痕有り。	5世紀後半?
第168図 P L 77	7	土師器 甕	覆土 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(16.2) — (11.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は短く外傾し、胴部は膨らむ。外面 口縁部横ナデ、胴部ナデ、内面ヘラナデ? 表面剥離。	6世紀後半?
第168図 P L 78	8	土師器 甕	覆土 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(18.4) — (23.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は外反し、胴部は中央に最大径を持 つ球形。外面口縁部横ナデ、胴部上位横 方向ヘラ削り後ナデ、下位斜方向ヘラ削り 後ナデ、内面ヘラナデ。	5世紀後半～ 6世紀
第168図 P L 78	9	土師器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (12.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は球形状。外面斜方向ヘラ削り、内面 横ナデ。	6世紀後半

5区 36号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第169図 P L 78	1	土師器 甕	覆土 S字甕	口径 底径 高さ	— — (2.9)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	破片の為、整形痕不明瞭。内外面横ナデ。	4世紀頃

5区 37号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
第169図 P L 78	1	石器 石鎌	覆土	長さ 幅 厚さ	3.7 1.3 0.4	頁岩 重さ 1.8g	有茎石鎌。茎部下端一部欠損。ほぼ完形。	縄文時代

5区 40号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第170図 P L 78	1	土師器 台付甕	覆土 台部	口径 底径 高さ	— (9.0) (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている為、一部整形痕不明。外 面ナデ後刷毛目状工具によるナデ、内面ヘ ラナデ。	

5区 43号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第171図 P L 78	1	土師器 高坏	覆土 坏部片	口径 底径 高さ	(13.4) — (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	坏部下部浅く、口縁部は皿状に開く。外面 口縁部横ナデ、下部ヘラ削り、内面横ナデ。 内外面吸炭。	6世紀後半

5区 45号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第172図 P L 78	1	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (6.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰色	外面釉がけ、内面青海波文。	7世紀頃?

5区 46号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第171図 P L 78	1	須恵器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	轆轤成形。口縁部は外反し、体部は丸味を 帯びる。	10世紀頃?
第171図 P L 78	2	須恵器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ	— (6.6) (4.3)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	轆轤成形(右回転) 回転糸切り後周縁部の 削り、体部は丸味を帯びる。	10世紀頃?

5区 47号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第172図 P L 78	1	土師器 坏	N o 78 完形	口径 底径 高さ	12.1 — 5.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。外面口縁部横ナデ、体部横ナデ、 内面口縁部斜方向ヘラナデ、体部横方向ヘ ラナデ。接合痕有り。	

5区 50号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第173図 P L 78	1	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(10.6) — (2.2)	①微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は内湾(内屈口縁坏?) 内外面横ナ デ。	7世紀後半
第173図 P L 78	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(18.8) — (3.5)	①粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は弱く外反する。外面横ナデ、一部 ヘラナデ。	時期不明
第173図 P L 78	3	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (5.5)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面荒れている為整形痕不明。内面青海波。	

5区 53号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第174図 P L 78	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(11.0) — (2.5)	①微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反、体部はやや丸い。外面口縁 横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半
第174図 P L 78	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.8) — (3.1)	①細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立気味に立ち上がる。外面口縁 部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀
第174図 P L 78	3	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (2.5)	①細・微砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁部は内湾し、体部は丸味を帯びる。外 面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナ デ。	7世紀後半?
第174図 P L 78	4	土師器 甕	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(11.0) — (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は弱く外反。外面横ナデ、内面斜方 向ナデ。	時期不明
第174図 P L 78	5	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (13.8)	①粗砂粒僅か・細砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	外面並行敲き目、内面青海波。	時期不明

5区 57号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第175図 P L 78	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.6) — (3.2)	①細・微砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁部に段を持ち、外反気味に立ち上がる。体部は扁平。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削りか。	古墳時代 6世紀頃
第175図 P L 78	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(10.4) — (2.7)	①細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は内湾し、体部はやや丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第175図 P L 78	3	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(18.6) — (1.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外反する。内外面横ナデ。	時期不明
第175図 P L 78	4	須恵器 蓋	覆土 裾部片	口径 底径 高さ	— (19.0) (2.7)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形。やや器面が荒れている。上部に釉が掛かる。	9世紀?
第175図 P L 78	5	須恵器 短頸壺	No 1・2 口縁～胴部	口径 底径 高さ	9.8 — (9.8)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁～頸部に自然釉。口縁部は外反し、口唇部は逆三角形を呈す。肩部に最大径を持つ。	9世紀?

5区 59号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第176図 P L 79	1	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(12.0) — (2.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや外傾する。口縁部内面に1条沈線が巡る。内外面横ナデ。	

5区 60号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第177図 P L 79	1	土師器 坏	No 1 1/2	口径 底径 高さ	13.6 — 3.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は内傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後一部ナデ。内面横ナデ。	6世紀後半

5区 63号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第177図 P L 79	1	土師器 甕	P 1 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (3.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③赤橙色	口縁部は外反する。内外面口縁部横ナデ。	6世紀前半?
第177図 P L 79	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (6.7)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は直立気味に立ち上がり、体部は弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。吸炭。	7世紀頃
第177図 P L 79	3	土師器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (6.1)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	外面斜・縦方向ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。	時期不明

5区 64号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第178図 P L 79	1	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (4.3)	①微・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き、内面青海波。	

5区 65号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第179図 P L 79	1	土師器 台付甕	覆土 台部片	口径 底径 高さ	— — (5.7)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	外面ヘラナデ、内面ナデ。	

5区 67号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第180図 P L 79	1	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ (13.2) — (4.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反する。内外面横ナデ。	時期不明
第180図 P L 79	2	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (16.0) — (5.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は緩やかに外反し、胴部は直線的。器面は荒れている。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。	

5区 68号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第181図 P L 79	1	軟質陶器 内耳 焙烙	覆土 破片	口径 底径 高さ — — (5.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰色	内耳下端体部中位に貼り付け。体部内面中位に段有り。	16世紀

5区 69号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第182図 P L 79	1	土師器 S字状口縁 台付甕	No 1 口縁～胴部 1/3	口径 底径 高さ (12.2) — (17.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	S字状口縁。胴部中位に膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部刷毛目状工具による斜方向ナデ、内面刷毛目状工具による横方向ナデ。	4世紀後半
第182図 P L 79	2	土師器 埴	No 1・2 ほぼ完形	口径 底径 高さ 13.0 — 5.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直線的に開き、胴部は丸味を持って立ち上がる。内外面口縁部横ナデ後工具による磨き、外面胴部横方向ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	
第182図 P L 79	3	土師器 坏	覆土 底部片	口径 底径 高さ — — (1.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	外面ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	時期不明
第182図 P L 79	4	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は直立気味に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀頃

5区 71号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第183図 P L 79	1	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 底径 高さ — — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラナデ後磨き、内面紋り目。	

5区 72号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第183図 P L 79	1	土師器 小型甕	No 1 ほぼ完形	口径 底径 高さ 12.5 5.0 12.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外傾し、胴部中央に張りを持ちやや歪んだ器形。器面が荒れている為、整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、胴部上位ナデ?下位斜方向ヘラ削り、内面ヘラナデ?接合痕有り。	6世紀後半

5区 74号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第184図 P L 79	1	土師器 壺	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (6.1)	①粗僅か、細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面刷毛目状工具による、縦方向ナデ、内面刷毛目状工具による、横方向ナデ。	
第184図 P L 79	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (12.0) — (2.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	74坑-3同一個体 7世紀～8世紀

5区 75号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第184図 P L 79	1	土師器 甕	覆土 口縁～胴上位 片	口径 — (14.0) 底径 — 高さ (5.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部はやや外反し、胴部は膨らみを持つ。 外面口縁部横ナデ、胴部丁寧なヘラナデ、 内面ヘラナデ。	6世紀前半?
第184図 P L 79	2	土師器 大型埴	No1・覆土 口縁～胴部	口径 — (15.8) 底径 — (22.8) 高さ —	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外傾し、胴部中央やや下に最大形 を持ち、球形を呈する。外面口縁部上位横 ナデ、中位斜方向ヘラ削り、胴部斜方向ヘ ラ削り後丁寧なナデ。	5世紀後半?
第185図 P L 79	3	土師器 甕	覆土 胴部～底部片	口径 — 底径 (7.0) 高さ (8.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部平底。外面斜方向ナデ、内面横ナデ。 接合痕有り。	
第185図 P L 79	4	土師器 台付甕	覆土 台部	口径 — 底径 (10.0) 高さ (7.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	外面は器面荒れている為、整形痕不明瞭。 外面刷毛状工具によるナデ?内面刷毛状工 具による横ナデ。	5世紀前半?

5区 2号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第189図 P L 80	1	土師器 坏	覆土 底部	口径 — 底径 — 高さ —	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	体部は丸味を帯びて立ち上がり、口縁部直 立する。底部器肉厚い。口縁部横ナデ、体 部～底部ヘラ削り。内面ナデ後工具による 磨き。	
第189図 P L 80	2	軟質陶器 コンロ	覆土	口径 — 底径 — 高さ (7.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明褐色	三河土器コンロの内側。内面被熱。	近現代
第189図 P L 80	3	植木鉢	覆土	口径 — (10.0) 底径 (3.3) 高さ —	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	轆轤成形。体部は丸味を帯びて立ち上がる。 底部平底、単孔有り。器肉やや厚い。	近世
第189図 P L 80	4	土師器 高坏	覆土 脚部	口径 — 底径 — 高さ (8.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	脚部外面縦位ナデ、内面上位絞り目、下位 横ナデ。	

5区 3号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第190図 P L 80	1	土製品か	覆土	口径 — 底径 — 高さ (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁端部に稜線が巡る。内外面とも横ナデ か? 器種・用途不明	近世
第190図 P L 80	2	須恵器 甕	覆土	口径 — 底径 — 高さ (6.2)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	外面平行叩き目、内面当て具痕。	

5区 4号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第193図 P L 80	1	古銭 寛永通宝	覆土		重さ 4.1g	新寛永通宝、背文11波。	17世紀

5区 4・9号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第193図 P L 80	1	須恵器 甕	覆土 胴部	口径 — 底径 — 高さ (5.5)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③褐灰色	外面細かい格子目叩き痕、内面青海波当て 具痕。	

5区 9号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第193図 P L80	1	土師器 甕	No 4 底部	口径 底径 高さ	— 5.5 (2.7)	①粗僅か・細・微砂粒 少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	器面が荒れている為、整形痕不明。外面ヘ ラナデかヘラ削り、底部木葉痕、内面ヘラ ナデ。	
第193図 P L80	2	軟質陶器 内耳焙烙	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ	(32.2) (28.8) 5.3	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色	外面やや強いナデ、内面ナデ。	江戸～中世
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
第193図 P L80	3	砥石	覆土	長さ 幅 厚さ	5.8 3.7 2.2	軽石 重さ 21.2 g	4面使用、中位に著しく磨減箇所有り。擦 痕は、長軸方向を主としている。裏面に刃 部調整痕有り。	
第193図 P L80	4	古銭	覆土	長さ 幅 厚さ		重さ 2.0 g	口元通竇	

5区 10号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第191図 P L80	1	須恵器 甕	No 1 胴部片	口径 底径 高さ	— — (11.1)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外面並行叩き目、内面青海波。	時期不明 (古墳?)

5区 11号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第193図 P L80	1	土師器 坏	No 4 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯び、 底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削 り、内面ナデ。	7世紀頃

5区 17号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第197図 P L80	1	土師器 甕	No 2 底部片	口径 底径 高さ	— 5.2 (4.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	外面胴部ヘラ削り、底部木葉痕。内面ヘラ ナデ。	時期不明
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考	
第197図 P L80	2	石器 尖頭器	覆土	長さ 幅 厚さ	9.8 4.0 1.6	チャート 重さ 60.6 g	横長剥片素材。交互剥離によりバイフェイ スの素材を製作している。混入の可能性が 高い。	縄文時代
第197図 P L80	3	石製品 摺り鉢	No 1	長さ 幅 厚さ	9.0 13.2 2.5	多孔質安山岩 重さ 287.1 g	外面口縁横方向の研磨痕有り。外胴部は斜 め右上がりの調整痕有り。内面平滑。口縁 端部丁寧な作り。	

5区 1号井戸

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第198図 P L80	1	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (3.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	器面が荒れている。やや粗雑な作り。口縁 部外反。外面横ナデ、斜方向ヘラ削り、内 面横ナデ。	
第198図 P L80	2	土師器 甕	覆土 底部1/2	口径 底径 高さ	— (5.0) (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	底部平底。口縁～胴部欠損の為整形痕不明 瞭。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	

5区 2号井戸

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第199図 P L80	1	須恵器 甕	覆土 破片	口径 底径 高さ	— — (3.6)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面叩き、内面当て具痕。	

5区 49号ピット

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第200図 P L 80	1	土師器 坏	No 1 1/4	口径 底径 高さ — (14.0) — (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は内傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。	

5区 81号ピット

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第200図 P L 80	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (12.0) — (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面荒れの為ナデ?	6世紀頃

5区 1号遺物集中部

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第201図 P L 81	1	土師器 坏	イ40 口縁部片	口径 底径 高さ — (13.0) — (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③黄灰色	口縁部は内傾気味に立ち上がり、体部は丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。底部付近に工具による磨き。	
第201図 P L 81	2	土師器 小型甕	No 5 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — (14.4) — (7.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部はやや外反し、胴部は弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀頃
第201図 P L 81	3	土師器 高坏	No 32 坏部	口径 底径 高さ — (17.0) — (3.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	器面が荒れている為、内面整形痕不明。外面坏部上半ヘラナデ、下半ヘラ削り。	
第201図 P L 81	4	土師器 高坏	No 98 脚部	口径 底径 高さ — — (7.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	坏部欠損のため詳細不明。外面ヘラナデ、内面横ナデ。	時期不明
第201図 P L 81	5	須恵器 壺	No 78 口縁部	口径 底径 高さ — — (6.7)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄褐色	轆轤成形(回転方向不明)。短頸壺か横瓶の口縁部か。	3mmの礫僅かに混入
第202図 P L 81	6	須恵器 壺	No 80 口縁部片	口径 底径 高さ — — (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰色	轆轤成形か。外面口縁部袖、内面器面の荒れの為不明。	粗砂粒僅か
第202図 P L 81	7	須恵器 甕	No 21 口縁部片	口径 底径 高さ — — (8.1)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	外面刷毛目状工具によるナデ後横ナデ、内面横ナデ。	時期不明
第202図 P L 81	8	土師器 手捏ね土器	No 55 2/3	口径 底径 高さ (8.8) 5.0 (3.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③淡黄色	口縁部は内傾気味に立ち上がり、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面ヘラナデ、指ナデ、内面指ナデ、絞り目状。	時期不明
第202図 P L 81	9	軟質陶磁器 皿	覆土 破片	口径 底径 高さ (10.8) (5.6) 2.5		銅板転写。 瀬戸・美濃	近現代

5区 遺構外(グリッド)

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第203図 P L 81	1	縄文 鉢	405-980G 胴部	口径 底径 高さ — — (4.0)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい黄橙色	沈線区画による磨消縄文の構成。R L縄文縦位充填施文。	加曾利E 3式
第203図 P L 81	2	土師器 甕	410-935G 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — — (6.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部外反し、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	2～3mmの礫僅か 6世紀後半～ 7世紀前半
第203図 P L 81	3	土師器 高坏	410-935G 坏部片	口径 底径 高さ — — (5.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	坏部下半に腰部を持ち、直線的に開く。内外面とも器面が荒れている。外面口縁部横ナデ、坏部横ナデ後、工具による磨き、内面ヘラナデ後磨き。	古墳時代前期
第203図 P L 81	4	土師器 坏	410-940G 1/2	口径 底径 高さ — — 3.5	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明黄褐色	口縁部内湾、稜明瞭。口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。底部一部欠損のため詳細不明。	6世紀後半

第203図 P L 81	5	土師器 坏	410-940G 1/4	口径 底径 高さ	(12.8) - 5.0	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③黄褐色	口縁部内湾、稜明瞭。口縁部横ナデ、底部 ヘラ削り。内面工具による磨き。	6世紀後半
第203図 P L 81	6	土師器 小型甕	405-940G 1/2	口径 底径 高さ	10.0 - 9.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部外傾、体部丸みを帯び、中位に最大 径。口縁部から体部上位横ナデ、中位～底 部ヘラ削り。内面横ナデ、指圧痕。	5世紀前半
第203図 P L 81	7	陶磁器 椀	410-995G 胴部片	口径 底径 高さ	- - (3.2)	① ② ③灰白色	外面黒色で菊花文描く。	近現代
第203図 P L 81	8	土師器 坏	415-005G 1/3	口径 底径 高さ	(12.0) - (5.3)	①細・微砂粒中量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は弱く外反し、体部は丸味を帯びて 立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ ナデ、内面横ナデ。	
第203図 P L 81	9	土師器 飾り?	415-005G	長さ 幅 高さ	4.1 3.3 3.3	①細・微砂粒中量 ②良好 ③にぶい橙色	栓の様な形状。上面に2個円孔有り、底面 に金属の刺さった円孔も有る。瓶の蓋の様 である。用途不明。	時期不明
第203図 P L 81	10	須恵器 蓋	420-040G 摘み部	口径 底径 高さ	- - (1.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰色	轆轤成形。	8世紀後半
第203図 P L 81	11	土師器 高坏	420-055G 脚部	口径 底径 高さ	- - (5.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	器面が荒れている為、整形痕不明。外面ナ デか、内面絞り目。	時期不明
第203図 P L 81	12	須恵器 坏	420-070G 1/6	口径 底径 高さ	(14.2) (6.2) 4.8	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り。 口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上が る。	
第203図 P L 81	13	土師器 羽釜	420-070G 口縁部	口径 底径 高さ	(21.0) - (5.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部やや内傾する。外面横ナデ、剥離が 著しい、内面横ナデ。	1～3mm程の礫混 入 10世紀頃
第203図 P L 81	14	土師器 甕	420-070G 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(24.4) - (15.8)	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は短く外反し、胴部中位に緩やかな 膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部ナ デ、内面ヘラナデ。	3～5mm程の礫を 僅かに含む。 時期不明
第204図 P L 81	15	土師器 坏	420-075G 1/4	口径 底径 高さ	(14.8) - (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立気味で、体部は弱い丸味を帯 びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部 上位横ナデ、下位丁寧なナデ、内面ナデ。	6世紀前半～後半
第204図 P L 81	16	土師器 椀	420-075G 1/6	口径 底径 高さ	(11.6) - (6.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は外反し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。器厚。外面口縁部横ナデ、体部ヘ ラ削り、内面ヘラナデ。接合痕有り。	5世紀前半
第204図 P L 81	17	土師器 壺	420-075G 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(14.4) - (11.0)	①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は直立し口唇部が外傾する。胴部は 球状を呈する。外面口縁部横ナデ、頸部ヘ ラナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面ヘラナ デ。接合痕有り。	8世紀後半?
第204図 P L 82	18	土師器 坏	420-080G 口縁～体部 1/4	口径 底径 高さ	(14.4) - (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや直立気味で、体部は丸味を帯 びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部 ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半
第204図 P L 82	19	土師器 甕	425-080G 口縁～肩部	口径 底径 高さ	(13.8) - (5.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は外反し、胴部は膨らみを持つ。外 面口縁部横ナデ、肩部斜方向ナデ、内面ヘ ラナデ。	
第204図 P L 82	20	土師器 小型 台付甕	420-080G 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(9.8) - (8.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁部は外反し、胴部は球形を呈す。外面 口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面 ナデ。	6世紀後半
第204図 P L 82	21	土師器 S字状口縁 台付甕	420-080G 台部	口径 底径 高さ	- - (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄色	台部外面刷毛目状工具によるナデ。内面器 面の荒れの為整形痕不明。ナデか。	
第204図 P L 82	22	土師器 高坏	420-080G 坏部片	口径 底径 高さ	(24.0) - (5.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	坏部は段を有し、口唇部はやや直立し、直 線的に立ち上がる。外面坏部上位横ナデ、 中位～下位ナデ後工具による磨き、内面ナ デ。	

第204図 P L 82	23	須恵器 蓋	420-080 G 1 / 4	口径 底径 高さ	(13.6) — (3.2)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形（回転方向不明）。口縁部やや外傾。	6世紀後半
第204図 P L 82	24	須恵器 甕	420-080 G 肩部片	口径 底径 高さ	— — (1.7)	①細・微砂粒多量 ②良好 ③灰色	外面縄目紋が残る、内面釉が残る。	時期不明
第204図 P L 82	25	須恵器 甕	420-080 G 口縁部片	口径 底径 高さ	— — (4.3)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	口縁部は突帯2条巡る。灰釉が掛かる。外面横ナデ、下位に波状文、内面ヘラナデ。	
第204図 P L 82	26	須恵器 甕	420-080 G 胴部片	口径 底径 高さ	— — (5.2)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③暗灰色	外面並行叩き目、内面当て具痕。	
第204図 P L 82	27	古銭 一銭	420-080 G			重さ 0.6 g		写真のみ掲載 昭和16年
第204図 P L 82	28	古銭 一銭	420-080 G			重さ 3.7 g		写真のみ掲載 昭和13年
第204図 P L 82	29	土師器 坏	420-085 G 口縁～体部 1 / 5	口径 底径 高さ	(12.0) — (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は段を有し、弱く外反して直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半
第204図 P L 82	30	土師器 坏	420-085 G 口縁～体部 1 / 4	口径 底径 高さ	(13.0) — (3.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し口唇部はやや内屈、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、底部ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀後半
第204図 P L 82	31	土師器 坏	420-085 G 口縁～体部 1 / 3	口径 底径 高さ	(13.0) — (5.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は弱く外反気味に立ち上がり、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラナデか、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半～ 7世紀?
第204図 P L 82	32	土師器 坏	425-085 G 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(10.8) — (3.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し腰部が張る。体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ体部ヘラ削り、内面ナデ。器厚。	7世紀?
第204図 P L 82	33	土師器 甕?	425-085 G 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(28.8) — (12.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は弱く外反し、胴部はやや直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、胴部上位斜方向ヘラ削り、内面横ナデ後工具による磨き。接合痕有り。	グリッドー84同一 7世紀頃
第205図 P L 82	34	土師器 甕	425-085 G 口縁～胴部 1 / 4	口径 底径 高さ	(24.0) — (13.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、胴部は弱い膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	
第205図 P L 82	35	須恵器 甕 破片	420-085 G	口径 底径 高さ	— — (5.7)	①細・微砂粒少量 緻密 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き目、内面青海波。	
第205図 P L 82	36	土師器 坏	425-090 G 口縁～体部	口径 底径 高さ	(13.0) — (4.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は段を有し稜線が2条巡り、体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。吸炭。	6世紀後半～ 7世紀前半
第205図 P L 82	37	土師器 坏	420-090 G 1 / 2	口径 底径 高さ	(13.6) — 5.5	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部僅かに外傾し、口唇端部に平坦面。体部丸みを帯び、中位に最大径。口縁部から体部上位横ナデ、中位～底部ヘラ削り。内面横ナデ後工具による磨き。	
第205図 P L 82	38	須恵器 坏	420-090 G 1 / 2	口径 底径 高さ	9.8 6.2 2.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	轆轤成形（右回転）。口縁部は弱く外反し、腰部が張り、体部は丸味を帯び立ち上がる。渦巻き状に1条沈線が巡る。底部ヘラ調整。	9世紀頃?
第205図 P L 82	39	土師器 S字状 口縁台付 甕	420-090 G 口縁部片	口径 底径 高さ	(11.0) — (3.4)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	S字状口縁、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、体部刷毛目状工具による整形、内面口縁部横ナデ、体部ナデ。	4世紀頃?

第205図 P L 82	40	土師器 S 字状口 縁台付甕	420-090 G 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (3.6)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	S 字状口縁、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、体部刷毛目状工具による整形、内面口縁部横ナデ、体部ナデ。	4 世紀後半?
第205図 P L 82	41	土師器 甕	420-090 G 口縁部	口径 底径 高さ	(16.0) — (3.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明褐色	口縁部は外反する。器面が荒れている為整形痕不明瞭。内外面横ナデ。	6 世紀前半?
第205図 P L 82	42	土師器 甕	420-090 G 口縁部	口径 底径 高さ	(14.0) — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	受け口状口縁。口唇部に 1 条沈線有り。外面口縁部上位横ナデ、中位刷毛目状工具によるナデ後ヘラナデ、下位刷毛目状工具によるナデ。	4 世紀後半～ 5 世紀前半
第205図 P L 82	43	土師器 甕	420-090 G 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(16.0) — (7.9)	①微・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「く」の字状口縁。胴部に膨らみを持つ。器面が荒れている為、整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ。	5 世紀頃
第205図 P L 82	44	灰釉 壺	420-090 G 底部 1 / 2	口径 底径 高さ	— (10.0) (6.3)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰白 釉 灰オリーブ	轆轤成形、回転糸切り後付け高台。体部直線的に立ち上がる。底部内外面とも釉がつく。	9 世紀～10 世紀
第205図 P L 82	45	陶器 灯明皿	420-090 G 口縁一体部	口径 底径 高さ	(11.6) — (2.0)	①微砂粒僅か ② ③灰白色	轆轤成形。内外面に透明釉。胴部中位から底部ヘラ削り。	
第205図 P L 82	46	陶器 土瓶	420-090 G 破片	口径 底径 高さ	(11.0) — (3.0)	①細・微砂粒僅か ② ③灰黄色	灰釉。	製作地不明 益子か笠間系か
第205図 P L 83	47	陶器 土瓶	420-090 G 破片	口径 底径 高さ	(7.6) — (5.3)	①微砂粒僅か ② ③浅黄色	灰釉、銜色釉を模様状に流す。	製作地不明 時期不明
第205図 P L 83	48	陶器 土瓶	420-090 G 底部	口径 底径 高さ	— (6.6) (1.4)	①粗・細砂粒少量 ② ③灰黄色	轆轤成形。脚が 3 カ所。火にかけた跡が残る。	近現代
第205図 P L 83	49	焼き塩壺 の蓋	420-090 G 破片	口径 底径 高さ	— — (3.4)	①微砂粒少量 ②良好 ③橙色	型作り成形。内面布目痕。県内における城以外の出土として確実な初例。	江戸時代
第205図 P L 83	50	土師器 坏	425-075 G 1 / 3	口径 底径 高さ	(12.4) — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	口縁部は外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面丁寧なナデ。	
第206図 P L 83	51	土師器 坏	425-095 G 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (3.0)	①細・微砂粒僅か ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6 世紀後半
第206図 P L 83	52	土師器 坏	420-095 G 1 / 2	口径 底径 高さ	(12.4) — (6.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	内外面ともに器面の荒れの為整形痕不明。口縁部やや内湾し体部丸みを帯びる。底部欠損の為詳細不明。口縁部横ナデ。	5 世紀後半?
第206図 P L 83	53	土師器 甕	420-095 G 口縁部	口径 底径 高さ	(14.0) — (5.9)	①粗・細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	折り返し口縁。口縁部端部は加飾は無く横ナデ、外面刷毛目状工具によるナデ後ヘラナデ、内面ナデ。	
第206図 P L 83	54	土師器 甕	425-095 G 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(15.6) — (5.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	口縁部は弱く外傾し口唇部はやや平坦で、胴部は膨らみを持つ。器面が荒れている為、整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、内面ヘラナデ。	6 世紀後半
第206図 P L 83	55	土師器 S 字状口 縁台付甕	420-095 G 台部	口径 底径 高さ	— 7.6 (6.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄色	外面横ナデ後工具による磨き。器面の荒れの為、詳細不明。	4 世紀後半?
第206図 P L 83	56	土師器 台付甕	420-095 G 台部	口径 底径 高さ	— 8.5 (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	粘土魂からの成形。外面ヘラナデ、底部ヘラ削り後ナデ。	8 世紀頃?
第206図 P L 83	57	土師器 高坏	425-095 G 脚部	口径 底径 高さ	— — (7.0)	①粗・細砂粒僅か ②良好 ③橙色	エンタンス状に弱く膨らむ。外面ヘラナデ後工具による磨き、内面紋目、裾部横ナデ。	時期不明
P L 83	58	焼成粘土塊	425-085 G			重さ 8.4 g		写真のみ掲載

P L 83	59	焼成粘土塊	425-085 G			重さ 5.8 g	写真のみ掲載
P L 83	60	焼成粘土塊	425-085 G			重さ 13.7 g	写真のみ掲載
P L 83	61	焼成粘土塊	425-085 G			重さ 6.8 g	写真のみ掲載
P L 83	62	焼成粘土塊	425-085 G			重さ 5.6 g	写真のみ掲載

5区 遺構外

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第206図 P L 83	1	縄文 器種	表採 口縁部片	口径 — 底径 — 高さ (4.4)	①粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下の隆帯による楕円形区画。区画内はRL縦位充填施文。	加曾利E 3式 新段階
第206図 P L 83	2	土師器 坏	確認面一括 口縁～体部片	口径 (12.0) 底径 — 高さ (7.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外褐灰色 内黒色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がり、頸部に段を持つ。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。吸炭。	
第206図 P L 83	3	土師器 坏	表採 口縁～体部 1/4	口径 (14.0) 底径 — 高さ (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は直立気味で、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ後工具による磨き。	
第206図 P L 83	4	土師器 坏	表採 ほぼ完形	口径 12.2 底径 — 高さ 4.6	①粗砂粒僅か ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。表面剥離。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面横ナデ後工具による磨き。	6世紀前半?
第206図 P L 83	5	土器 かわらけ	覆土 1/2	口径 (9.3) 底径 6.2 高さ 2.0	①粗・細砂粒僅か ②良好 ③橙色	底部左回転糸切り無調整。器肉薄く、口縁部は立ち上がる。灯明皿として使用された為か内外面黒変。	
第206図 P L 83	6	土師器 甕	確認面一括 口縁部片	口径 (18.0) 底径 — 高さ (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、頸部に内孔有り。外面口縁部横ナデ、体部刷毛目状工具による、縦方向のナデ、内面刷毛目状工具によるナデ後、ヘラナデ。	6世紀前半
第206図 P L 83	7	土師器 甕	No 1 胴部下部～底部 部片	口径 — 底径 (11.6) 高さ (4.5)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③明赤褐色	器面が荒れている。外面胴部斜方向ヘラ削り、底部横方向ヘラ削り、内面ナデ。	時期不明
第206図 P L 83	8	須恵器 小型甕 短径壺か	覆土 口縁部片	口径 — 底径 — 高さ (4.4)	①細・微砂粒僅か ②還元焰 ③黄灰色	外面刷毛目状工具によるナデ、体部備描文、内面ナデ。	時期不明
第206図 P L 83	9	土師器 高坏	表採 脚部	口径 — 底径 — 高さ (11.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	裾部は「ハ」の字状に開く。外面脚部ヘラナデ、裾部横ナデ、内面絞り目。	時期不明
第206図 P L 83	10	土師器 高坏	覆土 脚部片	口径 — 底径 — 高さ (5.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部と脚部は貫通せず、脚部に円孔が有り裾部は広がりを持つ。内外面ナデ。	舞台遺跡2報告書 参照 古墳前期
第206図 P L 83	11	土師器 坏	表採 1/2	口径 (8.6) 底径 5.6 高さ 3.6	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰白色	手捏ね成形。やや雑な作り。内外面ヘラナデ。	

浜町遺跡遺物観察表（6区）

6区 1号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第209図 P L84	1	須恵器 椀	N o 1 口縁～体部片	口径 — (14.2) 底径 — 高さ (4.7)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③褐色	轆轤成形(回転方向不明)。付け高台。内外面吸炭有り。口縁部は弱く外傾し、体部は直線的に立ち上がる。しかし高台部は欠損している。	9世紀頃?
第209図 P L84	2	須恵器 椀	覆土 体部～底部片	口径 — 底径 — 高さ (3.0)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形(回転方向不明)。付け高台。体部は直線的に立ち上がる。しかし高台部は欠損している。	時期不明

6区 2号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第209図 P L84	1	石器 砥石	覆土	長さ 8.2 幅 4.9 厚さ 2.5	流紋岩 重さ 153.2g	鉄器用。5面使用、中位が著しく磨減する。擦痕は長軸方向を主としている。裏面一部剥落。煤付着。	

6区 25号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第211図 P L84	1	土師器 坏	N o 38 口縁～体部 1/4	口径 — (12.4) 底径 — 高さ (3.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は段を有し立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀後半
第211図 P L84	2	土師器 坏	N o 11 1/2	口径 14.0 底径 — 高さ 4.7	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。底部平底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面やや荒れている。ナデ後、工具による磨き。	8世紀～9世紀頃
第211図 P L84	3	土師器 坏	N o 13・17 1/3	口径 (13.0) 底径 — 高さ 4.5	①粗砂粒中量 ②良好 ③赤褐色	口縁部は段を有し外傾。体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	細・微砂粒少量 8世紀～9世紀頃
第211図 P L84	4	土師器 坏	N o 30 1/4	口径 (13.0) 底径 (6.6) 高さ 3.8	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。底部平底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	9世紀後半?
第211図 P L84	5	土師器 坏	N o 26 1/4	口径 (13.0) 底径 (7.0) 高さ 4.0	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③橙色	口縁部は直立し、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、底部ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀～10世紀
第211図 P L84	6	土師器 坏	N o 1 口縁～体部片	口径 (13.6) 底径 — 高さ (3.6)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	5世紀前半?
第211図 P L84	7	須恵器 坏	N o 16・18 1/3	口径 (14.0) 底径 (6.0) 高さ 4.2	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。	粗砂粒僅か
第211図 P L84	8	須恵器 坏	覆土 1/4	口径 (14.0) 底径 (6.0) 高さ 3.8	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③にぶい褐色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。	粗砂粒僅か
第211図 P L84	9	須恵器 椀	N o 2 ほぼ完形	口径 14.4 底径 6.7 高さ 5.5	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③明赤褐色	轆轤成形後ヘラ調整。やや歪み有り。口縁部は外傾し、腰部がやや張り、体部は直線的に立ち上がる。付け高台で断面台形。内面ヘラナデ。	9世紀後半
第211図 P L84	10	須恵器 椀	N o 10・11 1/3	口径 (16.5) 底径 7.3 高さ 6.8	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形。底部回転糸切り後、付け高台。口縁部は外傾し、腰部がやや張る。体部は直線的に立ち上がる。高台は「ハ」の字状に緩やかに開き、断面台形。	
第211図 P L84	11	須恵器 椀	N o 37 1/2	口径 14.6 底径 6.6 高さ 5.7	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形。底部回転糸切り後、付け高台。口縁部は外反し、腰部がやや張る。体部は直線的に立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開き、断面台形。	
第211図 P L84	12	須恵器 椀	N o 47 底部	口径 — 底径 7.2 高さ (1.9)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焰 ③赤褐色	轆轤成形(回転方向不明)。付け高台。器面が荒れている。内外面ヘラ調整。	
第211図 P L84	13	須恵器 椀	覆土 底部	口径 — 底径 8.0 高さ (2.2)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	轆轤成形(回転方向不明)。高台は「ハ」の字状に開く付け高台。内面ヘラ調整。	

第212図 P L 84	14	須恵器 椀	N o 16 体部～底部	口径 底径 高さ	— (7.2) (3.3)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③淡黄色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り後、 付け高台。体部は丸味を帯びて立ち上 がる。高台断面四角形。	粗砂粒僅か
第212図 P L 84	15	須恵器 椀	掘り方 底部1/2	口径 底径 高さ	— (7.2) (2.2)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り後、 付け高台。高台断面台形。	
第212図 P L 84	16	須恵器 椀	N o 2 体部～底部片	口径 底径 高さ	— (7.2) (2.8)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り後 付け高台。高台断面四角形。	
第212図 P L 84	17	須恵器 椀	N o 39 1/3	口径 底径 高さ	(14.8) (7.4) 5.6	①微砂粒僅か ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形。底部回転糸切り後付け高台。 口縁部は僅かに外反し、体部は丸味を帯 びて立ち上がる。やや高台が高い。 内外面施釉。	
第212図 P L 84	18	灰釉陶器 椀	覆土 底部1/3	口径 底径 高さ	— (5.8) (2.8)	①細・微砂粒僅か 緊密 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り後 付け高台。高台断面四角形。外面施釉、 内面ヘラ調整。	
第212図 P L 84	19	土師器 甕	掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ	(12.6) — (3.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁。外面横ナデ、体部 ヘラ削り、内面ナデ。	9世紀～ 10世紀初頭
第212図 P L 84	20	土師器 甕	掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.2) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外にぶい赤褐色 内赤褐色	「コ」の字状口縁。内外面横ナデ。	9世紀頃～10世紀
第212図 P L 84	21	土師器 甕	N o 23 口縁～胴部 1/4	口径 底径 高さ	(19.0) — (17.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③赤褐色	「コ」の字状口縁。胴部上位に膨らみ を持つ。外面口縁部横ナデ、頸部一部 ヘラ削り、胴部上位斜方向ヘラ削り、 下位縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	
第212図 P L 85	22	土師器 甕	N o 12 口縁～胴部	口径 底径 高さ	14.2 — (11.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部が短く外反し、胴部中位に最 大の膨らみを持つ球胴型。外面口縁部 横ナデ、胴部上位～中位横・斜方向 ヘラ削り、下位縦方向ヘラ削り、内 面横ナデ。	8世紀末～ 9世紀前
第212図 P L 85	23	土師器 甕	覆土 底部	口径 底径 高さ	— — (2.0)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③橙色	甕の底部?木葉痕有り。内面剥離の 為整形痕不明。	粗・細砂粒僅か 古墳時代前期?
第212図 P L 85	24	須恵器 甕	覆土 頸部片	口径 底径 高さ	— — (6.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③外灰色 内にぶい黄褐色	轆轤成形。外面突帯を挟み、沈線2 条、波状文2段が巡る。内面指ナデ による整形。	時期不明
第212図 P L 85	25	土師器 環状蓋	掘り方 摘み部	口径 底径 高さ	(4.0) — (3.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラナデ、内面指ナデ。	
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備 考	
第212図 P L 85	26	石器 砥石	N o 32	長さ 幅 厚さ	6.8 4.4 3.2	砂岩 重さ 153.2g	5面使用、中位が磨減する。擦痕は、 長軸方向を主としている。中央部に孔、 孔径約0.9cm。両側穿孔。裏面に刃部 調整痕。	
P L 85	27	鉄関連遺物 碗状鉄滓	N o 34			重さ 74.1g		小片のため図化できず、写真と重さのみ掲載
P L 85	28	鉄製品 鉄滓	N o 7			重さ 61.7g		写真のみ掲載

6区 4号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第213図 P L 85	1	土師器 坏	1層1 完形	口径 13.3 底径 5.4 高さ 4.3	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外傾し、口唇部に1条沈線が巡る。体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部不定方向ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀後半～ 10世紀前半
第213図 P L 85	2	土師器 坏	N o 2 1 / 5	口径 (14.4) 底径 (5.6) 高さ 4.3	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	
第213図 P L 85	3	須恵器 椀	覆土 底部 1 / 3	口径 - 底径 (7.8) 高さ (4.2)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焙 ③暗灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。「ハ」の字状に開く付け高台。高台断面三角形。	
第213図 P L 85	4	土師器 小型甕	N o 6 口縁部 1 / 2	口径 (12.0) 底径 - 高さ (5.2)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部は弱く膨らむ。やや器面が荒れている。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀頃
第214図 P L 85	5	土師器 甕	掘り方 口縁部片	口径 (22.6) 底径 - 高さ (3.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外黒褐色内橙色	口縁部は弱く外反し、口唇部は平坦。頸部内傾。器肉厚い。内外面横ナデ。	9世紀後半～ 10世紀初頭
第214図 P L 85	6	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (19.2) 底径 - 高さ (6.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	「コ」の字状口縁。胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、接合痕有り、胴部横方向ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀後半?
第214図 P L 85	7	土師器 甕	N o 1 口縁部片	口径 (19.0) 底径 - 高さ (7.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	「く」の字状口縁で沈線が1条巡る。口唇部僅かに直立し、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面横ナデ。	8世紀後半?
第214図 P L 85	8	土師器 甕	N o 10 口縁～胴部片	口径 (22.0) 底径 - 高さ (8.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は短く外反し、口唇部に平坦面を持つ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀後半～ 10世紀初頭
第214図 P L 85	9	灰釉陶器 壺	覆土 底部	口径 - 底径 9.0 高さ (5.2)	①粗僅か・微砂粒少量 ②還元焙 ③灰白色	轆轤成形(右回転)。回転糸切り後付け高台。高台断面四角形。外面施釉、内面釉が落ちている。	9世紀頃?
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	重量	器形・技法等の特徴	備考
第214図 P L 85	10	鉄製品 刀子	N o 13	長さ (3.8) 幅 (1.1) 厚さ (0.5)	重さ 2.8g		
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材	器形・技法等の特徴	備考
第214図 P L 85	11	石器 敲石	覆土	長さ 12.1 幅 5.8 厚さ 4.2	ホルンフェルス 重さ 436.7g	下端部に敲打痕。使用痕と考えられる。中央部にやや右上がり方向の擦痕・磨り痕が多数見られる。	
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
P L 85	12	焼成粘土塊	覆土			重さ 16.1g	写真のみ掲載
P L 85	13	焼成粘土塊	覆土			重さ 18.3g	写真のみ掲載
P L 85	14	焼成粘土塊	覆土			重さ 9.1g	写真のみ掲載

6区 5号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第215図 P L 85	1	土師器 坏	No 4 2/3	口径 底径 高さ	(13.0) — 3.5	①粗・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第215図 P L 85	2	土師器 坏	No 11 1/2	口径 底径 高さ	12.6 — 4.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。やや器面が荒れている。外面口縁部横ナデ、体部横方向ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半～ 8世紀前半
第216図 P L 85	3	土師器 甕	No 10 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(20.6) — (9.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外傾し、胴部は膨らむ。器面は荒れている。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀後半
第216図 P L 85	4	須恵器 蓋	No 2 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(19.0) — (2.0)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形（回転方向不明）。	時期不明

6区 6号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第218図 P L 86	1	土師器 坏	1層4 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(13.0) — (3.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀～8世紀？
第218図 P L 86	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(14.6) — (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し器肉は薄く、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	粗砂粒僅か 7世紀後半
第218図 P L 86	3	須恵器 坏	掘り方 口縁部1/4	口径 底径 高さ	(15.0) — (4.1)	①粗・細砂粒多量 ②酸化焰 ③外灰黄褐色 内いぶい黄橙色	轆轤成形（回転方向不明）。口縁部は外傾し、体部は丸味を帯び中位に張りを持つ。	
第218図 P L 86	4	土師器 甕	1層2 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(20.6) — (6.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し口唇部は平坦。頸部は直立し、肩部は膨らむ。外面口縁部～頸部横ナデ、肩部ヘラ削り、内面ナデ。	時期不明

6区 7号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第219図 P L 86	1	須恵器 坏	1層13 完形	口径 底径 高さ	13.3 6.2 3.9	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形（右回転）。底部回転糸切り。口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。	9世紀前半？
第219図 P L 86	2	土師器 台付甕	1層7 台部	口径 底径 高さ	— — (5.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	台部外面ヘラ削り後丁寧なナデ、内面ナデ、脚部外面ナデ、内面ヘラナデ。	9世紀頃？
第219図 P L 86	3	土師器 台付甕	1層2 台部	口径 底径 高さ	— — (5.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第219図 P L 86	4	土師器 小形台付甕	1層5 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(11.6) — (5.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	「く」の字状口縁。胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面ナデ。	9世紀中頃～ 10世紀初頭
第220図 P L 86	5	土師器 甕	1層14 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(19.8) — (7.2)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	「コ」の字状口縁。頸部接合痕有り、胴部斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	9世紀末～ 10世紀初頭
第220図 P L 86	6	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(20.0) — (18.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部は上位に張りを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部上位横方向ヘラ削り、中位斜・縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀後半～ 10世紀前半
第220図 P L 86	7	土師器 甕	竈・覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(20.4) — (26.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部は上位に最大径有り。器面やや荒れている。外面口縁部横ナデ、胴部上位斜方向ヘラ削り、中位～下位縦方向ヘラ削り、内面ナデ、接合痕有り。	9世紀第4四半期
第220図 P L 86	8	土師器 甕	1層3 胴部～底部	口径 底径 高さ	— (4.1) (25.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	胴部上位に最大径を持ち、底部平底。外面胴部上位斜方向ヘラ削り、中位～下位縦方向ヘラ削り、内面横ナデ、接合痕有り。	粗砂粒僅か 9世紀前後？

第220図 P L 87	9	須恵器 耳皿	1層8 ほぼ完形	口径 底径 高さ	10.0 5.9 3.5	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③明黄褐色	轆轤成形後ヘラナデ、「ハ」の字状に開く付 け高台。高台断面四角形。	
第220図 P L 87	10	陶器 壺	掘り方 口縁部片	口径 底径 高さ	(11.8) — (2.4)	①粗・細砂粒僅か ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形。端部台形。口唇部は逆三角形。 内外面釉が掛かる。口縁部は外反気味に立 ち上がる。	9世紀～10世紀頃
第221図 P L 87	11	竈天井石	床面	長さ 幅 厚さ	45.4 16.2 7.0	凝灰岩 重さ 5,600g	前面風化摩滅。削痕不明瞭。	

6区 8号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考	
第222図 P L 87	1	須恵器 坏	1層10 1/3	口径 底径 高さ	(12.0) (6.0) 4.4	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。底部平底。外面口縁部横ナデ、体 部ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部ヘラ削り。	
第222図 P L 87	2	土師器 坏	1層1 口縁～体部 1/3	口径 底径 高さ	(15.6) — (4.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は弱く外傾し、体部は直線的に立ち 上がる。外面口縁部横ナデ、接合痕有り、体 部ヘラ削り、内面横ナデ? やや器面が荒れ ている。	7世紀後半?
第222図 P L 87	3	須恵器 坏?	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.4) — (4.5)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外傾し、 体部は直線的に立ち上がる。	9世紀頃?
第222図 P L 87	4	須恵器 坏	覆土 口縁～底部	口径 底径 高さ	(12.4) 5.6 4.2	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り。やや 器面が荒れている。口縁部は外傾し、体部 は直線的に立ち上がる。	8世紀後半～ 9世紀?
第222図 P L 87	5	須恵器 坏	覆土 底部	口径 底径 高さ	— 6.0 (2.1)	①粗・微砂粒少量 ②酸化焰 ③暗灰黄色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り。底部 中央に厚みがある。やや器面が荒れている。	
第222図 P L 87	6	須恵器 坏	1層1 口縁～底部	口径 底径 高さ	(13.0) (8.0) 3.0	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り 後ヘラ調整。口縁部は外傾し、体部は直線 的に立ち上がる。	9世紀末～ 10世紀前半?
第222図 P L 87	7	土師器 甕	覆土 口縁部1/3	口径 底径 高さ	(13.2) — (3.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、頸部は内傾。接合痕有り。 外傾口縁部～頸部横ナデ、肩部ヘラ削り、 内面横ナデ、接合痕有り。	
第222図 P L 87	8	土師器 甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (5.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁。口唇部僅かに直立し、 肩部膨らむ。外面口縁部横ナデ、肩部ヘラ 削り、内面横ナデ。	
第223図 P L 87	9	土師器 甕	1層1 口縁部1/3	口径 底径 高さ	(20.0) — (6.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。口唇部に1条沈線が巡 る。外面口縁部横ナデ、頸部ヘラ削り、内 面横ナデ。	9世紀中葉
第223図 P L 87	10	土師器 甕	1層2 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(19.7) — (25.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部上位が張り、器面 は薄い。外面口縁部横ナデ、胴部上位横方 向ヘラ削り、中位～下位斜・縦方向ヘラ削 り、内面ナデ。	9世紀
第223図 P L 87	11	土師器 台付甕	覆土 台部付	口径 底径 高さ	— (9.8) (26.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	裾部端部は短く立ち上がる。内外面横ナデ。	9世紀頃
第223図 P L 87	12	鉄製品 釘	覆土	長さ 幅 厚さ	(4.7) 1.0 0.5	重さ 4.2g		

6区 9号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第225図 P L 87	1	土師器 坏	1層18 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (11.0) (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	
第225図 P L 87	2	土師器 坏	1層12 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (12.4) (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は直立し口唇部は平坦。体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	
第225図 P L 87	3	須恵器 椀	1層9 1/6	口径 底径 高さ — (13.0) (9.6) 4.5	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り後ヘラ調整し付け高台。高台断面四角形。口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。やや器高低い。内面底部際に親指で、沈線を作っている。	白色針状物質含む
第225図 P L 87	4	須恵器 椀	1層7 1/4	口径 底径 高さ — (13.0) (9.8) 4.4	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り後ヘラ調整し付け高台。高台断面四角形。口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。内面底部際に親指で、沈線を作っている。	白色針状物質含む 武蔵系
第225図 P L 88	5	土師器 甕	1層17 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — (20.0) (15.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外傾し、頸部は直立する。胴部上位に丸味を帯びる。外面口縁部横ナデ、胴部上位横方向ヘラ削り、中位～下位斜・縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀前半
第225図 P L 87	6	土師器 甕	1層17 口縁部片	口径 底径 高さ — (19.0) (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	やや器面が荒れている。外面口縁部横ナデ、指頭痕有り、内面横ナデ。	
第225図 P L 87	7	土師器 甕	1層1 口縁部片	口径 底径 高さ — (20.2) (6.4)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄橙色	長胴甕の口縁部?器肉が厚く外反し開く。器面荒れている。外面口縁部横ナデ?胴部ナデ?削り?内面横ナデ。	7世紀後半
第225図 P L 88	8	土師器 壺	1層6 口縁部片	口径 底径 高さ — (9.0) (5.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は僅かに外傾し、頸部は直立気味に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、頸部ヘラナデ、内面横ナデ。	
第225図 P L 88	9	須恵器 甕	竈覆土 胴部	口径 底径 高さ — — (4.5)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③暗灰色	外面並行叩き目、内面青海波。	
挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第225図 P L 88	10	石器 磨石・敲石	掘り方	長さ 幅 厚さ 8.8 4.5 3.8	安山岩 重さ 228.7g	表裏に摩滅痕。下端に打痕有り。	
第225図 P L 88	11	石器 剣形石製品	1層N o 19	長さ 幅 厚さ 4.1 2.5 0.5	片岩質蛇紋岩 重さ 7.7g	孔2穴、孔径0.2cm。表面、側面、裏面に研磨痕が残る。表側からの片側穿孔。	

6区 10号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第225図 P L 88	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (11.4) (2.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部ナデ?体部ヘラ削り?内面ナデ。器面荒れの為、整形痕不明瞭。	7世紀後半
第225図 P L 88	2	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (11.6) (2.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部はやや内傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	
第225図 P L 88	3	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — (13.0) (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀後半?
第226図 P L 88	4	須恵器 坏	覆土 底部1/3	口径 底径 高さ — (6.0) (2.1)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰白色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切りで無調整。やや器面が荒れている。	混入? 10世紀後半?

第226図 P L 88	5	須恵器 椀	覆土 底部 1 / 2	口径 底径 高さ	— (6.6) (2.8)	①細・微砂粒少量 ②酸化焙 ③明赤褐色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。高台 断面四角形。	粗砂粒多量
第226図 P L 88	6	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (7.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁。胴部膨らむ。外面口縁 部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面ナデ。	
第226図 P L 88	7	土師器 甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、口唇部に1条沈線巡り、 頸部は直立気味。胴部膨らむ。外面口縁部 横ナデ、胴部ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀後半?
第226図 P L 88	8	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(19.6) — (4.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反。やや器面が荒れている。外 面口縁部横ナデ、頸部斜方向ヘラ削り又は 刷毛目か。	9世紀前半?
第226図 P L 88	9	土師器 甕	覆土 口縁～胴部 1 / 2	口径 底径 高さ	13.0 — (13.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部上位に張りを持 つ。外面口縁部横ナデ、胴部上位横方向ヘ ラ削り、中位～下位縦方向ヘラ削り、内面 ヘラナデ。	9世紀後半
第226図 P L 88	10	土師器 甕	覆土 口縁～胴部	口径 底径 高さ	(11.8) — (8.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。頸部がやや膨らみ、胴 部中位膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部上 位横方向ヘラ削り、中位～下位斜・縦方向 ヘラ削り、内面横ナデ。	9世紀第3四半期
第226図 P L 88	11	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 底径 高さ	— — (4.2)	①粗・細砂粒少量 ②酸化焙 ③にぶい橙色	外面波状文が三条並行する、内面荒れの為 不明。	

6区 11号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第227図 P L 88	1	土師器 坏	P 2 1 / 2	口径 底径 高さ	(12.0) — 4.3	①粗・細砂粒僅か ②良好 ③外灰褐色 内いぶい橙色	口縁部は段を有し直立気味に外反し、体部 は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横 ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀前半
第227図 P L 88	2	土師器 坏	1層 2 1 / 3	口径 底径 高さ	(11.0) — 3.2	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。底部丸底。やや歪み有り。外面口 縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 7世紀後半
第227図 P L 88	3	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ	(11.0) — 2.2	①粗・細砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁部はやや内湾し、体部は丸味を帯びて 立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ 削り、内面横ナデ。	
第227図 P L 88	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(10.8) — (1.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち 上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、 内面横ナデ。	
第227図 P L 88	5	土師器 小型甕	掘り方 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(10.2) — (3.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は弱く外反し、頸部は直立。胴部は 膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、 内面横ナデ。	
第227図 P L 88	6	土師器 甕	N o 13 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(17.0) — (6.5)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③橙色	胴部がやや膨らむ。器面が荒れている為、 整形痕不明瞭。外面口縁部横ナデ、胴部ヘ ラ削りか、内面横ナデ。	
第227図 P L 88	7	土師器 甕	N o 9 胴部～底部	口径 底径 高さ	— (5.3) (7.1)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③外黒褐色内橙色	器面が荒れている為、整形痕不明瞭。底部 平底。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	時期不明

6区 12号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第228図 P L 88	1	土師器 S字状口 縁台付甕	1層 1 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (3.9)	①粗僅か・細・微砂粒 少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	「S」字状口縁。口縁端部僅かに外反し、 胴部膨らむ。器面荒れている。外面口縁部 横ナデ、胴部刷毛目状工具によるナデ、内 面横ナデ。	
第228図 P L 88	2	土師器 壺	1層 3 口縁部片	口径 底径 高さ	(16.8) — (5.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は弱く外反し、口唇部は短く直立す る。内外面ヘラナデ後工具による磨き。	
第228図 P L 88	3	土師器 高坏	1層 2 脚部片	口径 底径 高さ	— — (5.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラナデ、内面横ナデ。	

6区 13号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第231図 P L 89	1	土師器 坏	掘り方N o 10 完形	口径 底径 高さ — — 4.8	13.0 — 4.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は2段を有し外反気味に外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部上段横ナデ、下段幅の狭い工具によるナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第231図 P L 89	2	土師器 坏	1層28 口縁～底部片	口径 底径 高さ — — (4.6)	(14.0) — (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③暗褐色	口縁部は段を有し外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第231図 P L 89	3	土師器 坏	1層3 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (3.3)	(14.0) — (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半～ 7世紀前半
第231図 P L 89	4	土師器 坏	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ — — (2.4)	— — (2.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	
第231図 P L 89	5	土師器 S字状口 縁台付甕	N o 11 口縁～肩部片	口径 底径 高さ — — (4.9)	(13.6) — (4.9)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「S」字状口縁。肩部膨らむ。外面口縁部横ナデ、肩部刷毛目状工具によるナデ、内面横ナデ。	4世紀
第231図 P L 89	6	土師器 甕	掘り方覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ — — (5.1)	(19.0) — (5.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は外傾し、頸部は直立。肩部膨らむ。外面口縁部横ナデ、肩部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	
第231図 P L 89	7	土師器 台付甕	掘り方N o 5 台部	口径 底径 高さ — — (7.2)	— — (7.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部と台部の接合痕明瞭。外面胴部粗いヘラ削り、台部ヘラナデ、内面粗いヘラ削り。	4世紀前半？
第231図 P L 89	8	土師器 小型甕	覆土 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — — (4.1)	(11.6) — (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は弱く外傾し、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部斜・横方向ナデ、内面ヘラナデ。	
第231図 P L 89	9	土師器 壺	掘り方 N o 3・7 口縁部片	口径 底径 高さ — — (6.5)	(13.6) — (6.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、口唇部は面取り。頸部に細い突帯文を巡らす。胴部は膨らみを持つ。外面口縁部横ナデ、胴部荒れの為整形痕不明瞭横ナデ？内面整形痕不明瞭。	粗砂粒僅か 古墳時代前期？
第231図 P L 89	10	土師器 高坏	1層25 脚部片	口径 底径 高さ — — (4.7)	— — (4.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラナデ、内面紋目。	
第231図 P L 89	11	土師器 器台	掘り方N o 4 脚部	口径 底径 高さ — — (7.8)	— — (7.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	坏部と脚部が貫通し、脚部に3個の円孔有り。脚部下位1/3程で緩やかに広がる。外面工具による磨き、内面ヘラナデ。	古墳時代前期？
第231図 P L 89	12	埴輪	1層11 破片	口径 底径 高さ — — (8.5)	— — (8.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	器面の荒れの為整形痕やや不明瞭。突帯が1条巡る。外面粗い刷毛状工具による磨き。	5mmの礫含む
第231図 P L 89	13	陶器	覆土 底部片	口径 底径 高さ — — (3.9)	(12.0) — (3.9)	①微砂粒少量 ② ③にぶい黄褐色	外面の釉の色は黄褐色	時期不明
P L 89	14	焼成粘土塊	覆土			重さ 6.8g		写真のみ掲載
P L 89	15	焼成粘土塊	覆土			重さ 10.6g		写真のみ掲載

第237図 P L 90	10	鉄関連遺物 碗型鉄滓	貯蔵穴	長さ 幅 厚さ	7.0 6.3 3.6	重さ 178g	含鉄部が上面に広がる中型碗型鉄滓。上下面生きており下面が破面。滓は緻密で比重が高い。本来は大形の碗型鉄滓の可能性も有る。 メタル度：錆化(◎) 滋着度：4	
第237図 P L 90	11	鉄関連遺物 碗型鉄滓	N o 24	長さ 幅 厚さ	4.8 10.7 3.0	重さ 284.9g	上下面は生きており、上面が波面となる。下面に酸化土砂の付着した碗型鉄滓。 メタル度：錆化(△) 滋着度：3	
P L 90	12	鉄関連遺物 鉄滓	N o 8			重さ 21.6g		写真のみ掲載
P L 90	13	鉄関連遺物 鉄滓	掘り方覆土			重さ 51.9g		写真のみ掲載
P L 90	14	焼成粘土塊	覆土			重さ 11.7g		写真のみ掲載
P L 90	15	焼成粘土塊	覆土			重さ 5.8g		写真のみ掲載
P L 90	16	焼成粘土塊	覆土			重さ 6.9g		写真のみ掲載
P L 90	17	焼成粘土塊	1層27			重さ 19.3g		写真のみ掲載

6区 16号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第238図 P L 90	1	土師器 坏	1層4 1/4	口径 (10.0) 底径 (5.8) 高さ 2.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部やや弱いヘラ削り、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 8世紀頃?
第238図 P L 90	2	須恵器 坏	1層2 1/4	口径 (13.0) 底径 (7.0) 高さ 3.7	①粗・細砂粒僅か ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り後周縁部の削り。口縁部は外傾し、体部は直線的に立ち上がる。	8世紀?
第238図 P L 90	3	須恵器 坏	覆土 底部片	口径 - 底径 (7.0) 高さ (2.1)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)。底部回転糸切り。	
第238図 P L 90	4	須恵器 甕	1層1 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (9.0)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	外面並行叩き目、内面当て具痕。	
第238図 P L 90	5	土師器 高坏	1層3 脚部片	口径 - 底径 - 高さ (5.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	外面工具による磨き、内面ヘラナデ。	10世紀頃?

6区 17号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第239図 P L 90	1	土師器 長胴甕	1層7 口縁~胴部 1/3	口径 (18.9) 底径 - 高さ (26.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反して開き、胴部上位に弱い張りがある。器面やや荒れている。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面ヘラナデ。	7世紀後半
第239図 P L 90	2	土師器 甕	1層4 底部1/2	口径 - 底径 (5.4) 高さ (2.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部中央が窪む。底部平底。外面刷毛目状工具によるナデ、内面ナデ。	時期不明

6区 20号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第240図 P L.91	1	土師器 坏	N o 17-2 完形	口径 底径 高さ	13.4 - 4.2	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁部は段を有し外反気味に直立、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。吸炭。	粗砂粒僅か 6世紀後半?
第240図 P L.91	2	土師器 坏	N o 11 完形	口径 底径 高さ	14.0 - 3.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は弱く外反し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。	
第240図 P L.91	3	土師器 坏	N o 15 ほぼ完形	口径 底径 高さ	15.0 - 4.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部は段を有し弱く外反、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ。	6世紀
第240図 P L.91	4	土師器 坏	N o 17 完形	口径 底径 高さ	14.3 - 4.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反気味に直立、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。吸炭。	
第240図 P L.91	5	土師器 坏	N o 17-3 1/2	口径 底径 高さ	(12.3) - 4.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は段を有しやや内傾、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、接合痕有り、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第240図 P L.91	6	土師器 碗	1層9 口縁～体部片	口径 底径 高さ	(12.0) - (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は短く外傾し、体部は丸味を帯び立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ヘラナデ後工具による磨き。	
第240図 P L.91	7	土師器 鉢	N o 16 完形	口径 底径 高さ	18.8 - 11.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は緩く外反気味に開き、体部は腰部が張り丸味を帯びて立ち上がる。半球形の深い体部である。外面口縁部横ナデ、体部斜方向ヘラ削り、内面横方向ヘラナデ、接合痕有り。	粗砂粒僅か 古墳時代後期
第240図 P L.91	8	土師器 甕	1層9 底部	口径 底径 高さ	- 3.7 (3.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	平底。外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第240図 P L.91	9	土師器 甕	1層5 口縁部片	口径 底径 高さ	(20.0) - (6.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部下位がやや直立する。器面が荒れている。内外面口縁部横ナデ。	7世紀前半?
第241図 P L.91	10	土師器 甕	N o 1 2/3	口径 底径 高さ	18.0 9.2 32.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は外反し、胴部は撫で肩の球形を呈す。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	5世紀前半?
第241図 P L.91	11	土師器 甕	1層13 口縁部片	口径 底径 高さ	(17.0) - (7.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄橙色	折り返し口縁。外面ナデ後工具による磨き、内面刷毛目状工具によるナデ後磨き。	古墳時代前期
第241図 P L.91	12	土師器 罎	N o 12 完形	口径 底径 高さ	6.2 - 15.2	①細・微砂粒僅か ②良好 ③にぶい橙色	口縁・頸部は内湾して直立に近く立ち上がり、胴部は中央やや下方が張る、下膨れの球形。外面口縁部端部横ナデ、内外面口縁部・胴部中位ヘラナデ後工具による磨き、胴部中位～下位横ナデ、内面口縁部ヘラ磨き。	5世紀前半
第241図 P L.91	13	土師器 高坏	N o 17 坏部片	口径 底径 高さ	(20.0) - (4.1)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部は皿状に直線的に開き、外傾する。外面上位横ナデ、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第241図 P L.91	14	土師器 高坏	覆土 坏部片	口径 底径 高さ	(20.0) - (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部は皿状に直線的に開き、外傾する。外面上位斜横位ナデ、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。	

6区 21号住居

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第242図 P L 92	1	須恵器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 底径 高さ (13.0) (7.0) 3.6	①粗・細砂粒少量 ②酸化焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外傾し、 体部は直線的に立ち上がる。	
第242図 P L 92	2	須恵器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (15.0) — (4.3)	①粗・細砂粒中量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。口縁部は外傾し、 体部は弱く丸味を帯びて立ち上がる。	9世紀第3四半期
第242図 P L 92	3	須恵器 椀	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ (17.4) — (6.2)	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③褐灰色	轆轤成形(回転方向不明)。内面ヘラ調整。	
第242図 P L 92	4	須恵器 坏	覆土 底部1/2	口径 底径 高さ — (5.6) (1.8)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り。 内外面剥落。	
第242図 P L 92	5	土師器 甕	覆土 口縁部	口径 底径 高さ (20.0) — (6.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部膨らむ。外面口縁 部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面横ナデ。	
第242図 P L 92	6	土師器 甕	No 1 口縁部片	口径 底径 高さ (20.0) — (5.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁。胴部膨らむ。外面口縁 部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面横ナ デ。	9世紀第2四半期
第242図 P L 92	7	土師器 甕	覆土 口縁部1/4	口径 底径 高さ (20.0) — (10.3)	①粗・細砂粒僅か ②良好 ③橙色	口縁部はやや器肉が厚く、「く」の字状に外 反し、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、 胴部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。接合痕 有り。	7世紀後半?
第242図 P L 92	8	土師器 器台	覆土 脚部	口径 底径 高さ — — (1.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	坏部から脚部に貫通する孔有り。外面ヘラ ナデ、内面ナデ。	古墳時代前期
第242図 P L 92	9	土師器 器台	覆土 脚部	口径 底径 高さ — — (4.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	坏部と脚部を貫通する孔と脚部に孔を持 つ。外面工具によるナデ、内面ヘラナデ。	古墳時代前期
第242図 P L 92	10	土師器 五徳	覆土 破片	口径 底径 高さ — — (1.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	轆轤成形?五徳の空気調整弁。	時期不明
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第242図 P L 92	11	石製品	覆土	長さ 幅 厚さ 7.2 4.1 3.1	多孔質安山岩 重さ 82.6g	石仏の後背か? 縁辺部は丁寧な成形。	

6区 2号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第243図 P L 92	1	須恵器 椀	覆土 底部1/2	口径 底径 高さ (14.0) (7.8) (1.4)	①粗・細砂粒中量 ②還元焰 ③灰黄色	轆轤成形(回転方向不明)。ヘラ調整。	時期不明

6区 10号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第245図 P L 92	1	土師器 坏	1層8 口縁体部片	口径 底径 高さ (12.6) — (3.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、頸部稜線巡る。体部は丸 味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、 体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半?
第245図 P L 92	2	土師器 甕	1層2 口縁部片	口径 底径 高さ (8.4) — (4.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「く」の字状口縁。胴部膨らむ。口縁部斜 方向のナデ、内面ナデ。	5世紀後半
第245図 P L 92	3	土師器 高坏	1層4 脚部片	口径 底径 高さ — (14.2) (4.1)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄橙色	裾部は段を有し、「ハ」の字状に開く。器面 は荒れている。外面上位ヘラ削り、裾部横 ナデ、内面ヘラナデ。	古墳時代後期
第245図 P L 92	4	土師器 小型甕	1層6 2/3	口径 底径 高さ 11.2 6.8 9.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③浅黄橙色	口縁部は内傾し、体部球形。底部平底。外 面口縁部横ナデ、胴部横方向ナデ、内面ヘ ラナデ後工具による磨き。	6世紀後半
第245図 P L 92	5	土師器 鉢	1層1 口縁～胴部片	口径 底径 高さ (20.0) — (11.0)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄橙色	口縁部は小さく外反し、胴部半球形。器面 は荒れている。外面口縁部横ナデ、胴部斜 方向ヘラ削り、内面整形痕不明。	3mm前後の礫少量 6世紀後半?

6区 11号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第246図 P L92	1	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (14.5) (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は段を有し外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面ナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
第246図 P L92	2	土師器 長胴甕	N o 4・5 口縁～胴部	口径 底径 高さ — — (24.0) (16.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は器肉が厚く外反して開く、外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、輪積み痕有り、内面ヘラナデ。	7世紀頃?
第246図 P L92	3	土師器 長胴甕	N o 3 口縁～胴部片	口径 底径 高さ — — (24.0) (8.3)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③外黒褐色 内にぶい褐色	口縁部は器肉が厚く外反する。外面口縁部横ナデ、胴部縦方向ヘラ削り、接合痕有り、吸炭、内面斜方向ナデ。	7世紀前半?
第246図 P L92	4	土師器 小形甗?	覆土 胴部片	口径 底径 高さ — — (4.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	手捏ね成・整形。外面ヘラナデ、内面ヘラナデ、指ナデ。	粗砂粒僅か 古墳時代後期?
第246図 P L92	5	土師器 高坏	覆土 脚部	口径 底径 高さ — — (4.1)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	外面ヘラナデ、内面紋り目。	
第246図 P L92	6	須恵器 蓋	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (11.0) (3.0)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。	6世紀後半～ 7世紀前半

6区 13号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第247図 P L92	1	須恵器 椀	N o 1 1/5	口径 底径 高さ (16.0) (7.0) 6.5	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(回転方向不明)。底部回転糸切り後付け高台。高台断面台形。口縁部はやや外傾し、体部は直線的に立ち上がる。	粗砂粒僅か

6区 15号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第248図 P L93	1	土師器 坏	N o 9 1/2	口径 底径 高さ — — 12.7 5.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ後工具による磨き、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀前半?
第248図 P L93	2	土師器 坏	N o 42 口縁部3/4	口径 底径 高さ — — 13.6 5.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し内傾、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部丸底。口縁部横ナデ後工具による磨き、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ後工具による磨き。	5世紀後半～ 6世紀後半?
第248図 P L93	3	土師器 坏	覆土 1/2	口径 底径 高さ — — 14.6 5.5	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は段を有し外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	6世紀前半
第248図 P L93	4	土師器 坏	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (13.0) (2.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰褐色	口縁部は弱く内湾しながら、直線的に立ち上がり、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、内面ナデ。	6世紀後半?
第248図 P L93	5	土師器 坏	覆土 1/2	口径 底径 高さ — — 12.3 4.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は短く外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面は工具による磨き。	6世紀前半
第248図 P L93	6	土師器 椀	覆土 口縁～体部片	口径 底径 高さ — — (12.4) (4.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は内傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ? 器面荒れている。	5世紀後半?
第248図 P L93	7	土師器 椀	N o 51 2/3	口径 底径 高さ — — 12.5 6.1	①粗・細砂粒中量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面器面荒れの為、整形痕不明瞭、ナデ?	6世紀前半
第248図 P L93	8	土師器 小型甕	N o 13 ほぼ完形	口径 底径 高さ — — 8.2 4.4 6.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は内傾し、体部球形。底部平底、凹面。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半

第248図 P L 93	9	土師器 甕	N o 33 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(16.6) — (11.3)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は弱く外傾し、口唇部は平坦、体部は弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部弱い刷毛目状工具によるナデ、内面斜方向ナデ。	
第248図 P L 93	10	土師器 甕	N o 34 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(20.0) — (9.9)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外反し、胴部は弱く膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部細かい刷毛目状工具によるナデ、内面横ナデ。内外面接合痕有り。	
第248図 P L 93	11	土師器 甕	N o 49 口縁部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (3.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「く」の字状口縁。肩部膨らむ。外面口縁部横ナデ、接合痕有り、肩部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	5世紀後半?
第248図 P L 93	12	土師器 甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(14.0) — (6.6)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立に近く立ち上がり、口頸部は弱い内湾、肩部膨らむ。外面口縁部横ナデ、肩部横ナデ、内面横ナデ。	5世紀前半?
第248図 P L 93	13	土師器 甕	覆土 口縁～肩部片	口径 底径 高さ	(18.8) — (6.9)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「く」の字状口縁。外面口縁部横ナデ、肩部斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	5世紀末?
第249図 P L 93	14	土師器 甕	N o 4 口縁～肩部	口径 底径 高さ	(15.8) — (6.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「く」の字状口縁、胴部は膨らむ。外面口縁部横ナデ、胴部横方向ヘラ削り、内面剥落の為整形痕不明瞭。	
第249図 P L 93	15	土師器 甕	N o 1 完形	口径 底径 高さ	12.4 4.6 18.0	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	「く」の字状口縁で、胴部中位に張りを持つ球形。外面口縁部横ナデ、胴部斜方向ヘラ削り、内面横ナデ。	炭化米有り 5世紀後半～ 6世紀前半
第249図 P L 93	16	土師器 甕	N o 45 ほぼ完形	口径 底径 高さ	18.8 9.0 29.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は僅かに外反し、胴部中位に張りを持つ卵型。底部平底。外面口縁部横ナデ、胴部上位横方向ヘラ削り、中位～下位斜・縦方向ヘラ削り、内面横ナデ。	7世紀後半?
第249図 P L 94	17	土師器 甕	N o 8・10 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(18.0) — (14.5)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	「く」の字状口縁で口唇部は器肉が厚い、胴部は張る。外面口縁部横ナデ、接合痕有り、胴部斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	5世紀後半～ 7世紀後半?
第249図 P L 94	18	土師器 甕	N o 4 口縁～胴部片	口径 底径 高さ	(16.0) — (17.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③明褐色	口縁部は器肉が厚く弱く外反し、胴部膨らむ。外面口縁部横ナデ、一部表面剥落と欠損、胴部剥落と荒れの為整形痕不明瞭。内面斜・横方向ナデ。	6世紀後半～ 7世紀?
第249図 P L 94	19	土師器 甕	N o 36 胴部～底部	口径 底径 高さ	— 5.2 (20.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部中位に張りを持つ卵形。外面胴部上位斜方向ヘラ削り、中位～下位横・斜方向ヘラ削り、内面ナデ。	7世紀後半?
第249図 P L 94	20	土師器 甕	N o 24・25 胴部～底部	口径 底径 高さ	— 5.7 (8.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい赤褐色	器面の荒れの為、整形痕やや不明瞭。外面胴部横方向ヘラ削り、内面ナデ。底部平底、凹面になっている。	
第249図 P L 94	21	土師器 小型壺	N o 2 完形	口径 底径 高さ	9.0 — 11.0	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は短く弱く外傾し、胴部中位に張りを持つ球形。底部丸底。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り後不定方向のナデ、内面横ナデ。	粗砂粒僅か 5世紀後半～ 6世紀後半
第249図 P L 94	22	土師器 壺	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(11.0) — (4.4)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部上半は直立し、下半は直線的に開く。内外面横ナデ。	5世紀前半?
第250図 P L 94	23	土師器 壺	覆土 口縁部片	口径 底径 高さ	(15.4) — (7.2)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は直線的に外傾し開く。外面口縁部ナデ後工具による磨き、内面横ナデ後工具による磨き。	
第250図 P L 94	24	土師器 高坏	覆土 脚部	口径 底径 高さ	— — (4.8)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	外面ヘラナデ、内面横ナデ。	
第250図 P L 94	25	土師器 器台	N o 29 脚部	口径 底径 高さ	— 6.7 (3.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	脚部に3個穿孔有り。外面ナデ、内面ヘラナデ。	
第250図 P L 94	26	ミユチュア 土器	N o 26 完形	口径 底径 高さ	6.5 5.4 3.4	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	手握ね整形。外面ヘラナデ、指ナデ、内面ヘラナデ。	

6区 16号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第251図 P L94	1	形象埴輪 盾形	No 3 破片	長さ (22.6) 幅 (9.3) 高さ 1.8	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	盾形埴輪の胴側部と考えられる。盾縁の張り出しが剥離しているものであろう。破損で全体は不明だが、半円形の刻線有り、内面指頭痕残る。	
第251図 P L94	2	須恵器 坏	No 2 1/6	口径 (16.2) 底径 (10.0) 高さ 5.0	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形(右回転)。底部回転ヘラ起こし。口縁部はやや外傾し、体部は直線的に立ち上がる。底部平底。	

6区 18号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第252図 P L95	1	土師器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 - (14.0) 底径 - 高さ 2.9	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ後工具による磨き、体部ヘラ削り、内面ナデ後工具による磨き。	6世紀後半～ 7世紀前半
第252図 P L95	2	土師器 甕	覆土 口縁部片	口径 (20.4) 底径 - (4.9) 高さ -	①細・微砂粒少量 ②酸化焰 ③褐灰色	口縁部は外反し、胴部やや膨らむ。外面口縁部不定方向ナデ、肩部不定方向ナデ、内面口縁部横ナデ、肩部ナデ。	10世紀～11世紀?

6区 19号土坑

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第253図 P L95	1	埴輪 円筒	No 5 破片	口径 - 底径 - 高さ (12.4)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③にぶい黄橙色	外面上端部横ナデ、外面細かい目の縦刷毛、内面やや細かい目による斜め刷毛、外面赤色塗彩。下部縦方向の削り。	
第253図 P L95	2	埴輪	No 2 破片	口径 - 底径 - 高さ (11.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	外面口縁部横ナデ、外面細かい目の縦刷毛、外面赤色塗彩有り、内面やや細かい目の斜め横刷毛、斜・横方向ナデ。	5世紀後半

6区 1号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第255図 P L95	1	陶器 不明	覆土 肩部～底部 1/2	口径 - (7.2) 底径 (9.8) 高さ -	①微砂粒? 緻密 ② ③灰白色	轆轤成形(回転方向不明)。外面釉に漬ける、底部ヘラ削り。	
第255図 P L95	2	須恵器 甕	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (4.7)	①微砂粒? 緻密 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形。突帯2条巡る。外面上下に波状文、内面ヘラ調整。	制作地不詳 19世紀か
第255図 P L95	3	陶磁器 鉢	覆土 1/2	口径 (13.6) 底径 6.6 高さ 6.4	① ② ③灰白色	蛇の目凹型高台。型紙摺り。	制作地不詳 近代

6区 2号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第258図 P L95	1	須恵器 坏	覆土 口縁～底部片	口径 (11.2) 底径 (5.6) 高さ 4.3	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄褐色	口縁部は短く外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。内面ナデ。	
第258図 P L95	2	軟質陶器 焙烙	覆土 口縁～底部	口径 (34.0) 底径 (21.4) 高さ (6.1)	①粗・細砂粒多量 ②良好 ③灰黄色	体部・口縁部直立し、口縁端部に平坦面をもつ。内外面横ナデ。	
第258図 P L95	3	須恵器 甕	覆土 胴部片	口径 - 底径 - 高さ (9.1)	①粗・細砂粒多量 ②還元焰 ③灰黄色	肩部がやや強く張り、胴部膨らむ。外面粗い刷毛目状工具によるナデ、内面ナデ。	
第258図 P L95	4	須恵器 横瓶	覆土 破片	口径 - 底径 - 高さ (11.7)	①細・微砂粒少量 ②還元焰 ③黄灰色	轆轤成形。外面回転ヘラ削り後ヘラ調整、内面ヘラナデ調整。	粗砂粒僅か
第262図	5	骨	覆土			馬の右上腕骨	325頁に写真

6区 6号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第256図 P L 95	1	土師器 甌	覆土 底部片	口径 — 底径 — 高さ —	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	底部多孔有り。外面ヘラナデ?	6世紀後半?

6区 7号溝

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第257図 P L 95	1	土師器 甌	覆土 口縁部片	口径 — (14.0) 底径 — 高さ (4.0)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁で、口唇部は短く直立する。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、内面ナデ。	孔0.4~0.9cm 9世紀~10世紀?
第257図 P L 95	2	須恵器 甌	No 1 底部1/4	口径 — 底径 — 高さ (4.8)	①粗・細砂粒少量 ②還元焰 ③灰色	轆轤成形後ヘラナデ調整。胴部は直線的に立ち上がり、底部中央部やや窪む。接合痕有り。	

6区 遺構外

挿図番号 図版番号	番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第259図 P L 96	1	陶器 皿	425-160G 2/3	口径 12.2 底径 7.7 高さ 2.6		轆轤成形。底部内外面跡3ヶ所有り。灰釉。一部銅緑釉。	瀬戸美濃 17世紀
第259図 P L 96	2	土師器 坏	確認面一括 口縁~体部片	口径 (11.0) 底径 — 高さ (2.7)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は緩やかに立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部削り。内面横ナデ。	7世紀後半?
第259図 P L 96	3	土師器 坏	確認面一括 口縁~体部片	口径 (13.0) 底径 — 高さ (4.0)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は弱く外傾し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ナデ?削り?器面が荒れている、内面横ナデ、吸炭。	
第259図 P L 96	4	土師器 坏	確認面 1/2	口径 12.8 底径 4.4 高さ 5.6	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	口縁部は直立し、体部は丸味を帯びて立ち上がる。底部は径の小さな平底。器面は荒れている。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	5世紀前半
第259図 P L 96	5	土師器 坏	表採 口縁~体部片	口径 — 底径 — 高さ (5.7)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は弱く外傾し、体部は直線的に立ち上がる。外面口縁部横ナデ、体部ヘラ削り、内面横ナデ。	
第259図 P L 96	6	土師器 器台	確認面 脚部片	口径 — 底径 — 高さ (4.5)	①細・微砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	坏部と脚部を貫通する孔と脚部に3孔確認。	古墳時代前期
第260図 P L 96	7	埴輪 円筒	表採 破片	口径 — 底径 — 高さ (13.8)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③橙色	胴部片。段の明瞭な、高さ巾ともある突帯が1条巡る。外面細かい目の縦刷毛後、突帯上部を横ナデ、内面ヘラナデ。やや器面が荒れ、破面が摩滅している。	
第260図 P L 96	8	羽口	確認面一括 破片	口径 — 底径 — 高さ (3.4)	①粗・細砂粒少量 ②良好 ③にぶい橙色	外面ヘラナデ、内面横ナデか。器面が荒れている。	
第260図 P L 96	9	竈止め	確認面一括 破片	口径 — 底径 — 高さ 3.7	①細・微砂粒少量 ②良好 ③灰黄色		
挿図番号 図版番号	番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材 重量	器形・技法等の特徴	備考
第260図 P L 96	10	石製品 勾玉	確認面一括	長さ 2.5 幅 1.5 厚さ 0.4	蛇紋岩 重さ 2.5g	孔径0.2cm。裏面からの片側穿孔。表面、側面、裏面に斜・縦方向の研磨痕が残る。	孔0.3cm
第260図 P L 96	11	鉄関連遺物 鉄滓	表採		重さ 35.4g		写真のみ掲載
第260図 P L 96	12	鉄関連遺物 鉄滓	確認面一括		重さ 15.3g		写真のみ掲載
第260図 P L 96	13	鉄関連遺物 鉄滓	確認面一括		重さ 245.1g		写真のみ掲載

第2章 自然科学分析

第1節 浜町遺跡6区2号土坑出土炭化米

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組織を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また、出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

浜町遺跡の西方に位置する舞台D遺跡第1号土坑からは多量の炭化米が出土したことが報告されている。今回の浜町遺跡の調査においても、6区15号土坑出土の土師器甕の中から炭化米を抽出できたので、ここに種実同定の結果を報告する。

2. 方法

出土した完形土師器甕中の土を水洗選別し、炭化物を抽出。試料を肉眼および双眼実態顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同レベルによって科、属、種の階級で示した。

3. 結果

イネ2粒と、炭化の度合いが著しいため、同定には至らなかった炭化物が2片が確認された。

以下に同定の根拠となる形態的特徴を記す。写真を図版に示す。

イネ *Oryza sativa* L 炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

4. 考察

浜町遺跡の種実はいずれも炭化しており、栽培植物ではイネが同定された。イネは弥生時代以降比較的よく検出され出土例が多い。

5. 文献

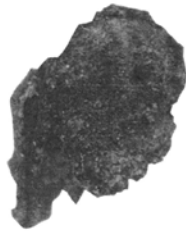
笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 養賢堂, 494p.

笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類, 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p.131—139.

南木陸彦 (1993) 葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276—283.

吉崎昌一 (1992) 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナルNo. ニューサイエンス社, p.2—14.

渡辺 誠 (1975) 縄文時代の植物食. 187p.



1 イネ炭化果实

2 同左

3 イネ炭化果实片

4 同左

— 1.0mm

写真2. 浜町遺跡6区2号土坑出土炭化米

第2節 浜町遺跡出土人骨

植崎修一郎

1. はじめに

浜町遺跡は、群馬県太田市大字浜町に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成12(2000)年~同15(2003)年に行われた。本遺跡の5区8号土坑より、人骨が出土したので以下に報告する。出土人骨の時代は、土師器及び須恵器の小片しか出土しておらず、確定できていない。出土人骨は、清掃後、できる限りの接着及び復元を行い、写真撮影・観察・計測を行った。なお、人骨の計測はマルティンの方法(馬場、1991)に従った。

2. 人骨の出土状況 [平成14(2002)年9月24日出土]

人骨が出土した5区8号土坑の大きさ及び形状は攪乱により不明である。

3. 人骨の出土部位 [第261図参照]

人骨は、現場で削られた状態であり、残存状態は、非常に悪い。人骨の出土部位は、下顎右頤部片及び右上腕骨の骨体のみである。

4. 副葬品

副葬品は、土師器甕胴部片及び須恵器胴部片が出土している。

5. 被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位及び埋葬状態は、不明である。

6. 被葬者の個体数

出土人骨の残存状態は非常に悪いが、明らかな重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

7. 被葬者の性別

性別推定の指標となる頭蓋骨や寛骨が出土していないので、性別推定は困難である。しかしながら、右上腕骨の大きさが比較的小さいので、被葬者の性別は女性であると推定される。

8. 被葬者の死亡年齢

死亡年齢推定の指標となる部位が出土しておらず、被葬者の性別は不明である。恐らく、成人であろう。

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただいた元(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の庭山邦幸氏[現桐生市立相生中学校]と遺跡に関する考古学的情報をいただいた現群埋文の渡辺弘幸氏に感謝いたします。

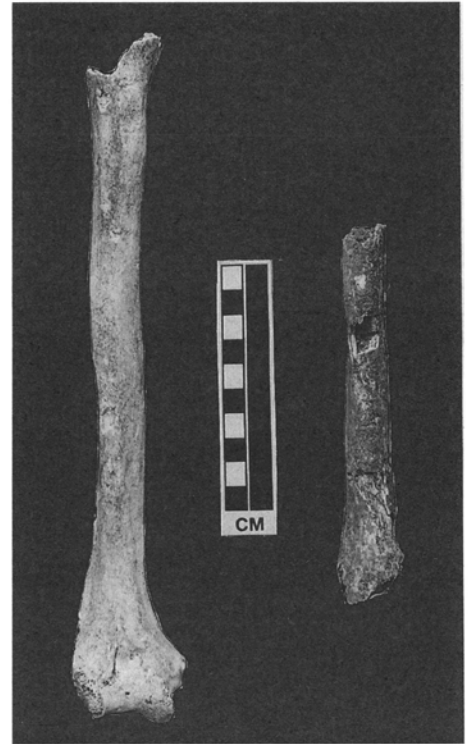
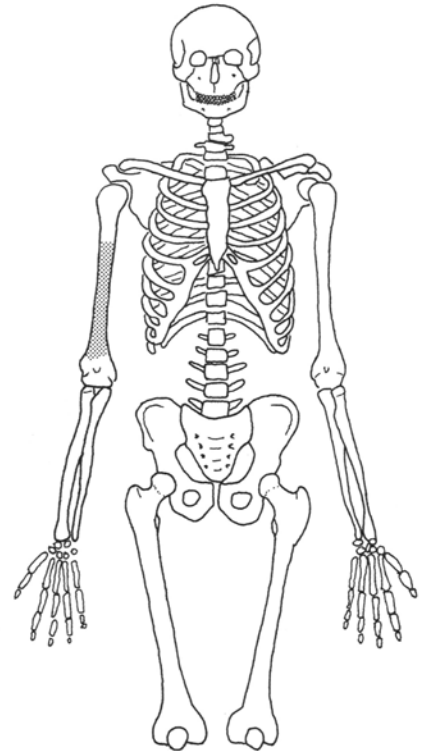


写真3 浜町遺跡出土人骨(右)
今井三騎堂遺跡出土人骨(左)の前面観



第261図 浜町遺跡出土人骨(右上腕骨)
部位図

第3節 浜町遺跡出土馬骨

榑崎修一郎

1. はじめに

浜町遺跡は、群馬県太田市大字浜町に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成12(2000)年~同15(2003)年に行われた。本遺跡の6区2号溝より、馬骨 [*Equus caballus*] が出土したので以下に報告する。出土馬骨の時代は、溝からの出土遺物より江戸時代の近世~近代に比定されている。

2. 鑑定結果

馬骨は、上幅2.3m~2.8m・深さ0.8m~1.2mの6区2号溝から、平成15(2003)年4月26日に出土している。馬骨の出土部位は、右上腕骨の骨体部1点のみである。馬骨の性別は、犬歯の有無及び寛骨から推定することができる。今回、右上腕骨しか出土していないので、性別は不明である。しかしながら、中里見原遺跡出土馬骨と比較すると、華奢で小さい。また、馬骨の死亡年齢も、馬歯が出土していないので不明である。恐らく成体であろう。さらに、体高も不明であるが、馬骨の大きさからは小型馬が想定される。

3. 引用文献及び参考文献

大江正直 2000 第1項中里見原遺跡出土の獣歯・獣骨観察について、『中里見遺跡群』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.170-220.

久保和士・松井 章 1999 第10章家畜その2:ウシ・ウマ、『考古学と自然科学②:考古学と動物学』(西本豊弘・松井 章編)、同成社、p.169-208.

謝辞

本出土馬骨を記載する機会を与えていただいた元(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の庭山邦幸氏[現桐生市立相生中学校]と遺跡に関する考古学的情報をいただいた現群埋文の渡辺弘幸氏に感謝いたします。



第262図. 出土馬骨(右上腕骨)の部位図
[久保・松井(1999)を改変]

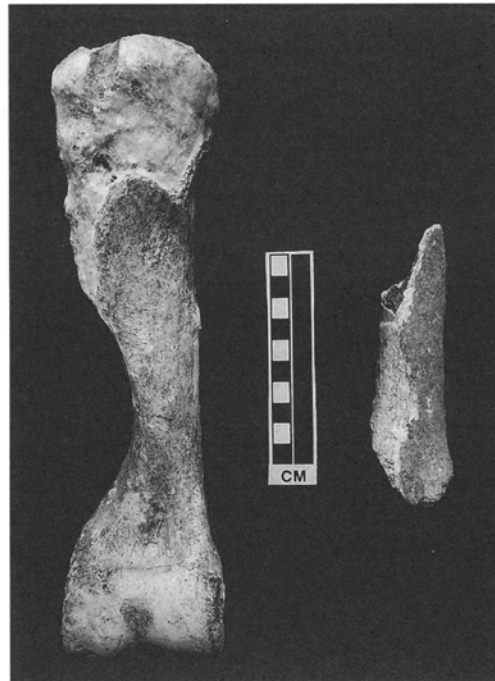


写真1 浜町遺跡出土馬骨(右上腕骨)[右]と中里見原遺跡出土馬骨(右上腕骨)[左]の前面観

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	はまちょういせき
書 名	浜町遺跡
副書名	東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅前付近連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	I
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	358
編著者名	庭山邦幸 / 渡辺弘幸
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20051028
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784- 2

遺跡名ふりがな	はまちょういせき
遺 跡 名	浜町遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしおおあざはまちょう
遺跡所在地	群馬県太田市大字浜町
市町村コード	10205
遺跡番号	0194
北緯（日本測地系）	361730
東経（日本測地系）	1392232
北緯（世界測地系）	361741
東経（世界測地系）	1392220
調査期間	20011101-20010331/20010805-20011231/20020710-20030331/20030401-20030830
調査面積	2796
調査原因	太田駅前付近連続立体交差化
種 別	集落
主な時代	古墳/奈良・平安/中近世
遺跡概要	集落-古墳-竪穴住居+竪穴状遺構+土坑+溝-土師器+須恵器+石製模造品+鉄滓+焼成粘土塊/集落-奈良・平安-竪穴住居+竪穴状遺構+土坑+溝-土師器+須恵器+鉄滓+焼成粘土塊/中近世-土坑+溝-陶磁器+カワラケ+古銭
特記事項	特になし

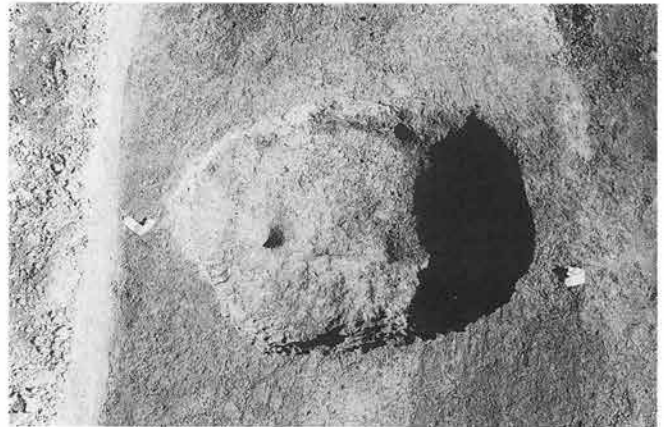
写真図版



0区 全景 (西から)



0区 1号住居掘り方 全景 (南から)



0区 3号土坑 全景 (西から)



0区 1号河道 杭出土状況 (南から)



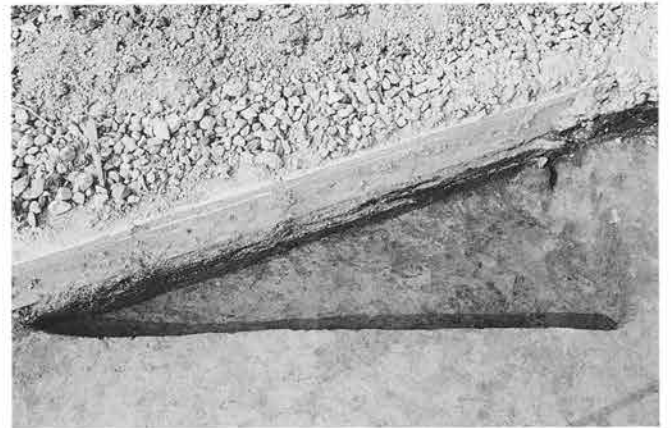
0区 1号河道 杭出土状況 (南から)



1区 全景 (東から)



1区 1号住居 全景 (南から)



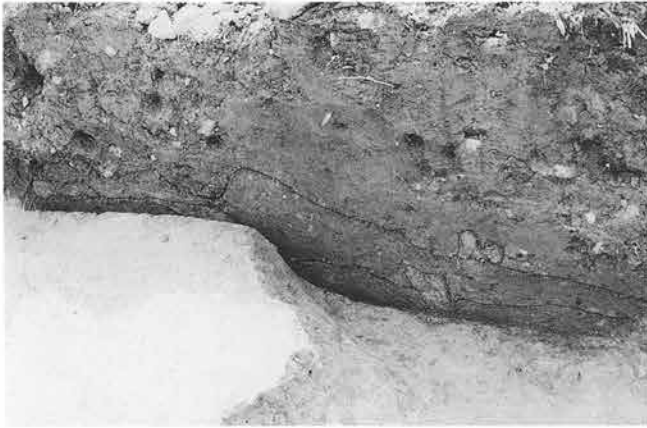
1区 2号住居 全景 (南から)



1区 3号住居・6号溝全景 (東から)



1区 4号住居 全景 (北から)



1区 4号住居竈 土層断面 (北から)



1区 4号住居 遺物出土状況 (北から)



1区 5号住居 全景 (東から)



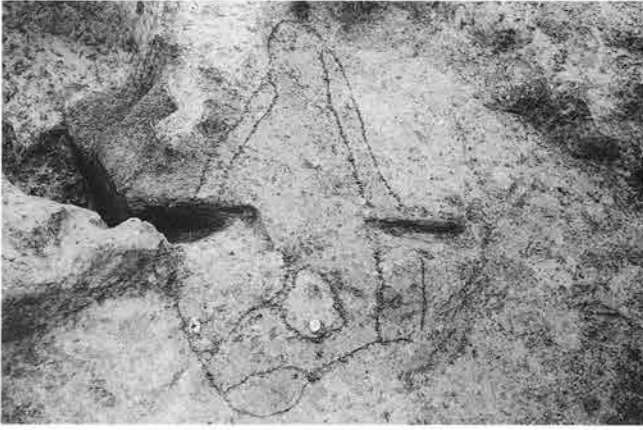
1区 5号住居竈掘り方 全景 (西から)



1区 5号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (西から)



1区 6号住居 全景 (北から)



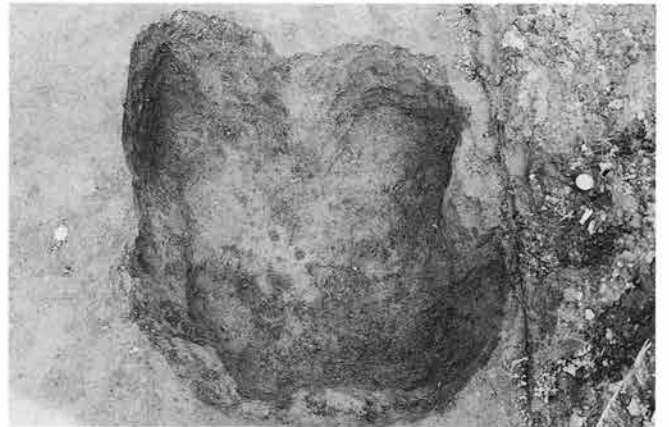
1区 6号住居竈 全景 (南から)



1区 7号住居 全景 (西から)



1区 8号住居 全景 (西から)



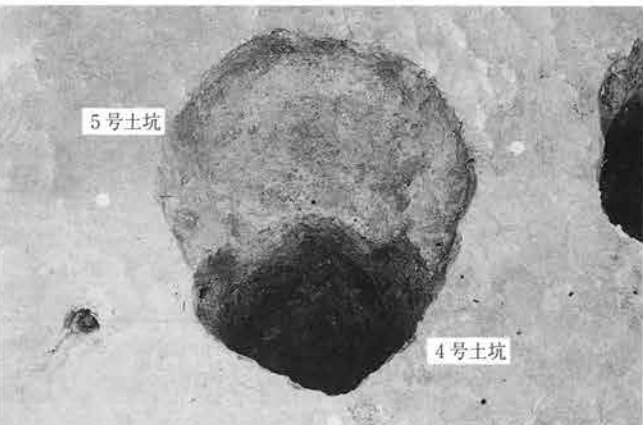
1区 1号土坑 全景 (南から)



1区 2号土坑(2号ピット含む)全景 (南から)



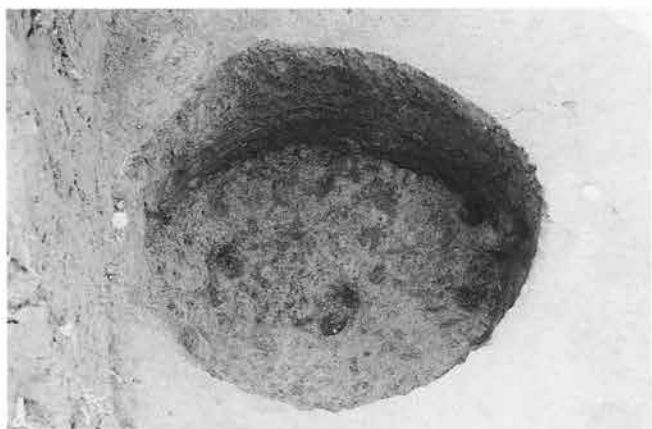
1区 3号土坑(1号ピット含む)全景 (南から)



1区 4・5号土坑 全景 (南から)



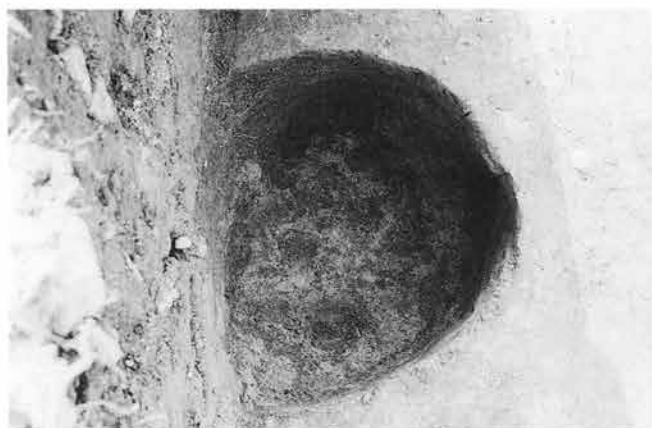
1区 6号土坑 全景 (南から)



1区 7号土坑 全景 (東から)



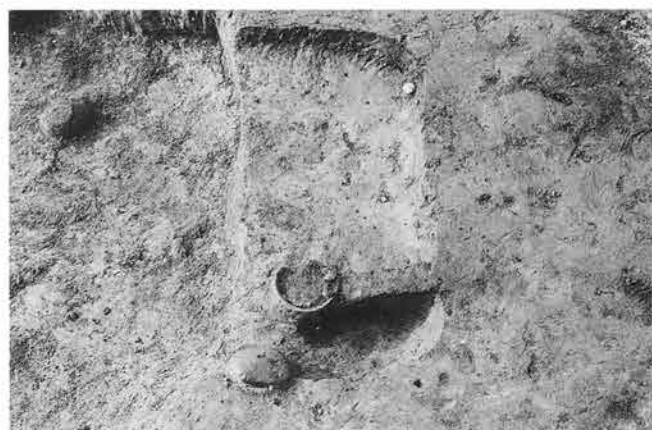
1区 9号土坑 全景 (南から)



1区 10号土坑 全景 (東から)



1区 11号土坑 全景 (西から)



1区 12号土坑 全景 (南から)



1区 12号土坑 遺物出土状況 (北から)



1区 13号土坑 全景 (南から)



1区 14号土坑 全景 (南から)



1区 15号土坑 全景 (北から)



1区 16号土坑 全景 (北から)



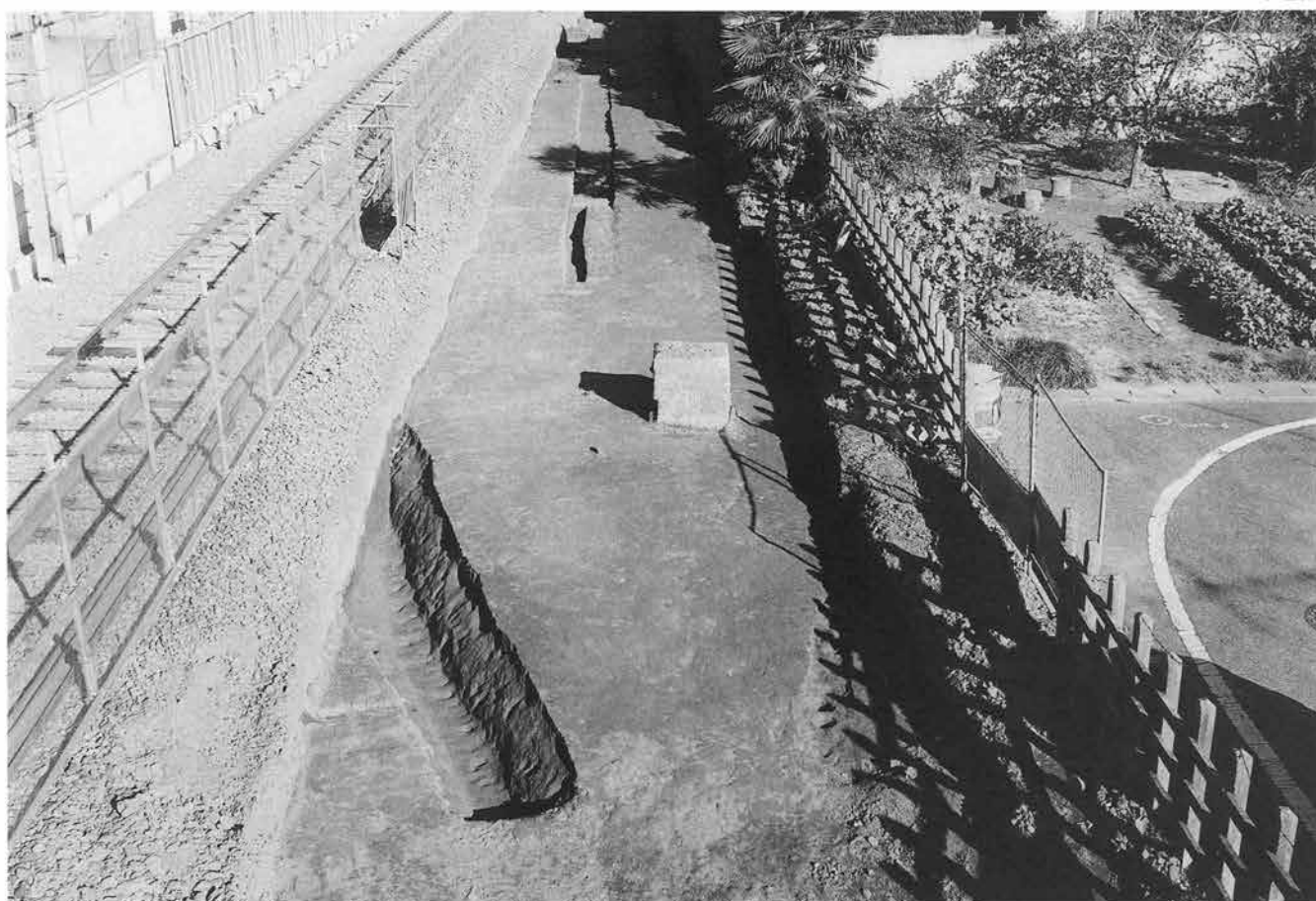
1区 17号土坑 全景 (南から)



1区 1・5号溝 全景 (南から)



1区 3・4・5号溝 全景 (南から)



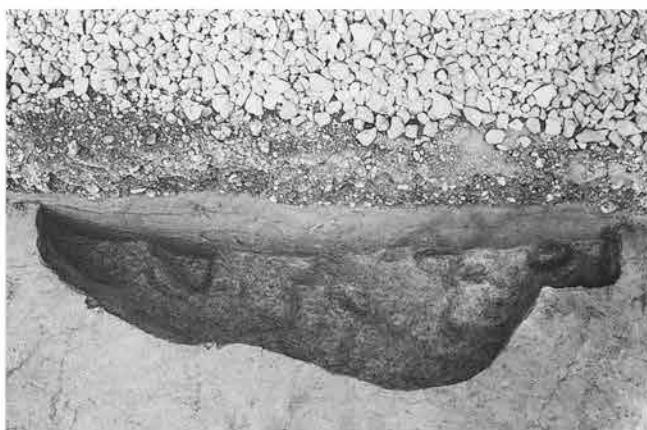
2区 全景 (西から)



2区 全景 (東から)



2区 1号土坑 全景 (北から)



2区 2号土坑 全景 (南から)



2区 3号土坑 全景 (北から)



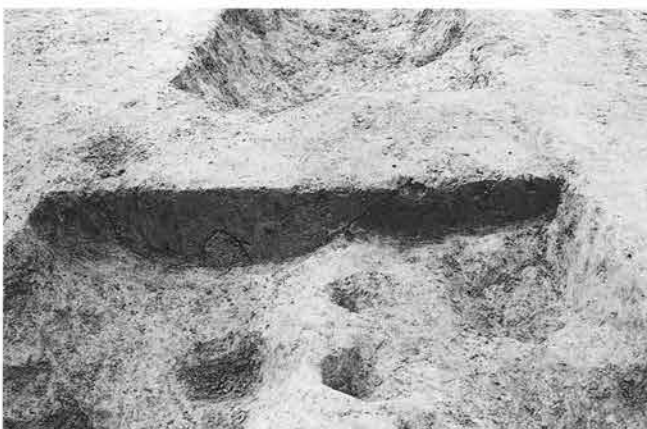
2区 4号土坑 全景 (北から)



2区 4号土坑 土層断面 (北から)



2区 1・2号溝 全景 (西から)



2区 1・2号溝 土層断面 (東から)



2区 3号溝 全景 (西から)



2区 3号溝 全景 (東から)



2区 3号溝 土層断面 (東から)



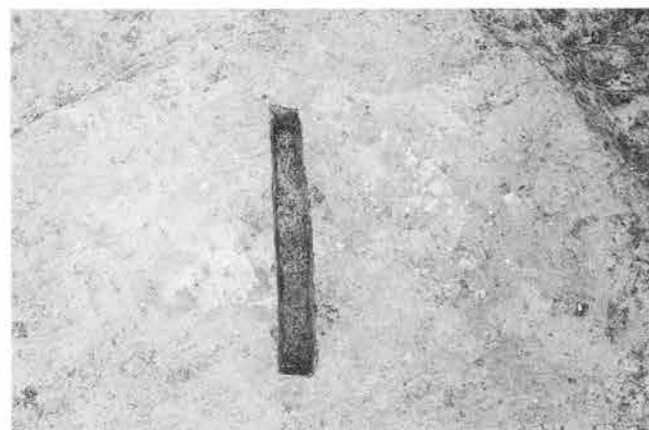
2区 4号溝 全景 (南から)



2区 5号溝 全景 (南から)



2区 1・2・3号ピット 全景 (東から)



2区 1号焼土痕 全景 (西から)



3区 全景 (西から)



3区 1号住居 全景 (西から)



3区 1号住居竈 全景 (西から)



3区 1号住居2号竈 全景 (西から)



3区 1号住居2号竈掘り方 全景 (西から)



3区 2号住居 全景 (西から)



3区 3号住居 全景 (北から)



3区 4号住居 全景 (北から)



3区 5号住居 全景 (西から)



3区 5号住居 遺物出土状況 (西から)



3区 5号住居竈(使用面) 全景 (西から)



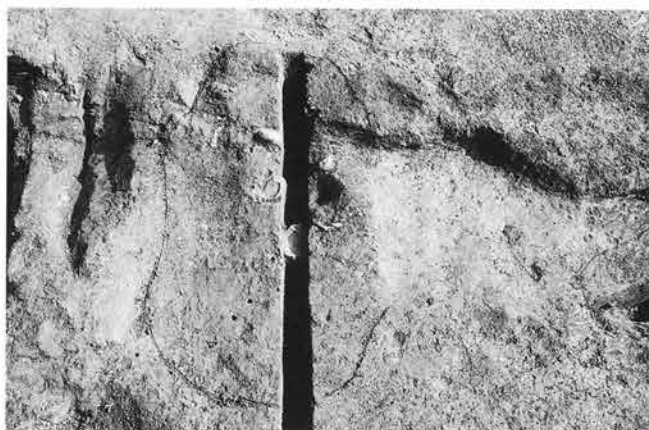
3区 5号住居掘り方 全景 (西から)



3区 5号住居貯蔵穴 全景 (西から)



3区 6号住居 全景 (西から)



3区 6号住居竈(焼土) 全景 (西から)



3区 6号住居内1号土坑 全景 (西から)



3区 6号住居内2号土坑 全景 (南から)



3区 1号土坑 遺物出土状況 (南から)



3区 2号土坑 全景 (南から)



3区 2号土坑 遺物出土状況 (北から)



3区 3号土坑 全景 (北から)



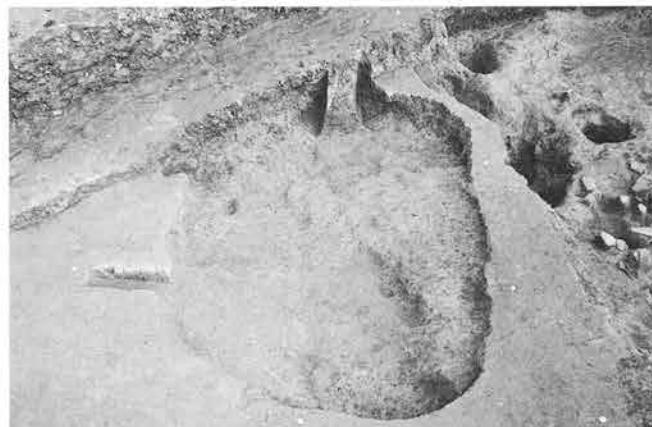
3区 4・5号土坑 全景 (南から)



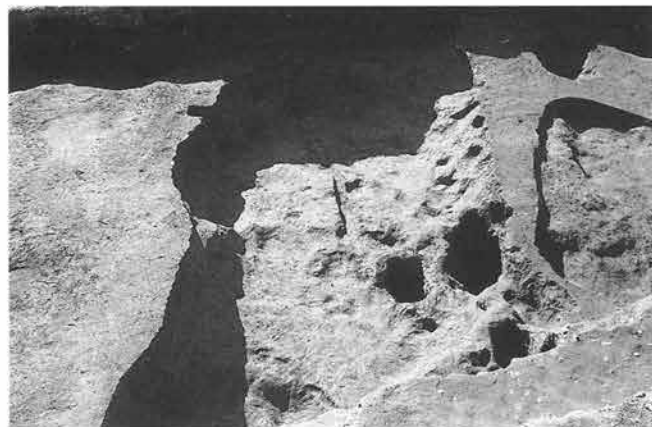
3区 1号竖穴状遺構 全景 (西から)



3区 2号竖穴状遺構 全景 (西から)



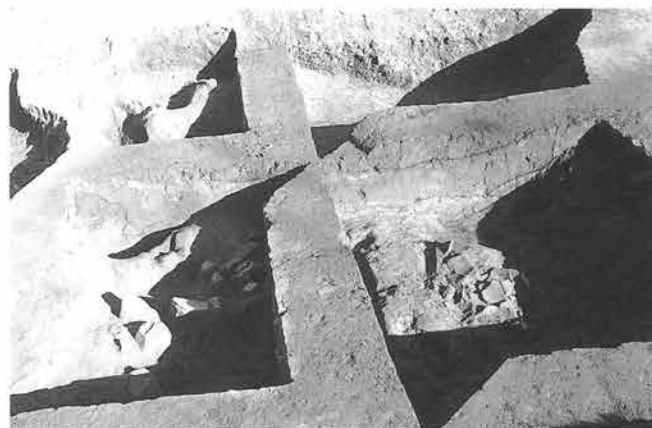
3区 3号竖穴状遺構 全景 (南から)



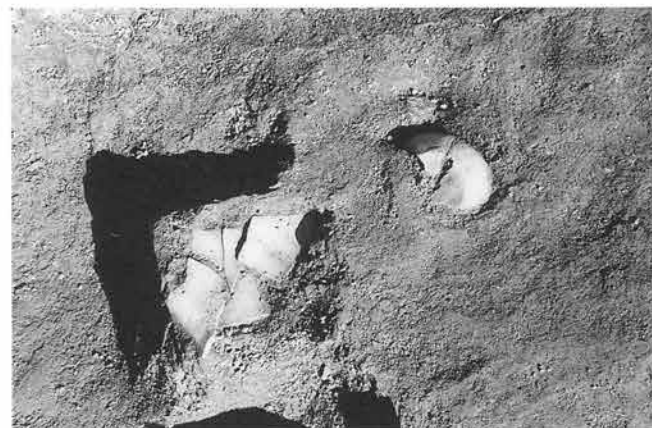
3区 4号竖穴状遺構 全景 (北から)



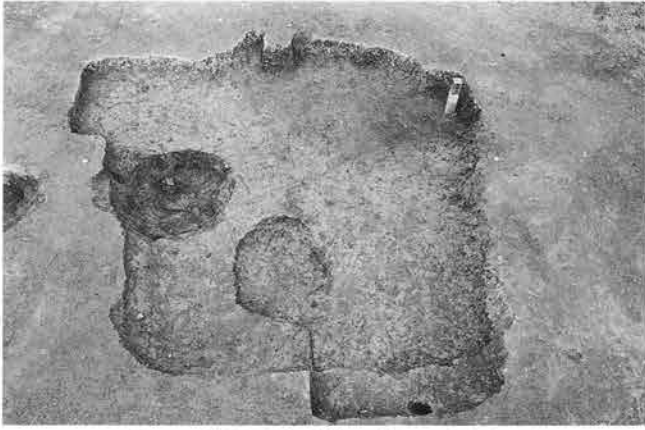
3区 4号竖穴状遺構 遺物出土状況 全景 (南から)



3区 4号竖穴状遺構 遺物出土状況 全景 (南から)



3区 4号竖穴状遺構 遺物集中状況 全景 (南から)



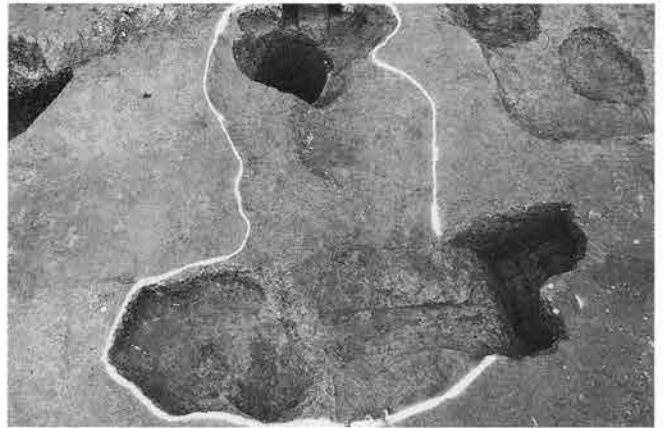
3区 5号竪穴状遺構 全景 (南から)



3区 5号竪穴状遺構内1号土坑 全景 (南から)



3区 5号竪穴状遺構内2号土坑 全景 (南から)



3区 6号竪穴状遺構 全景 (南から)



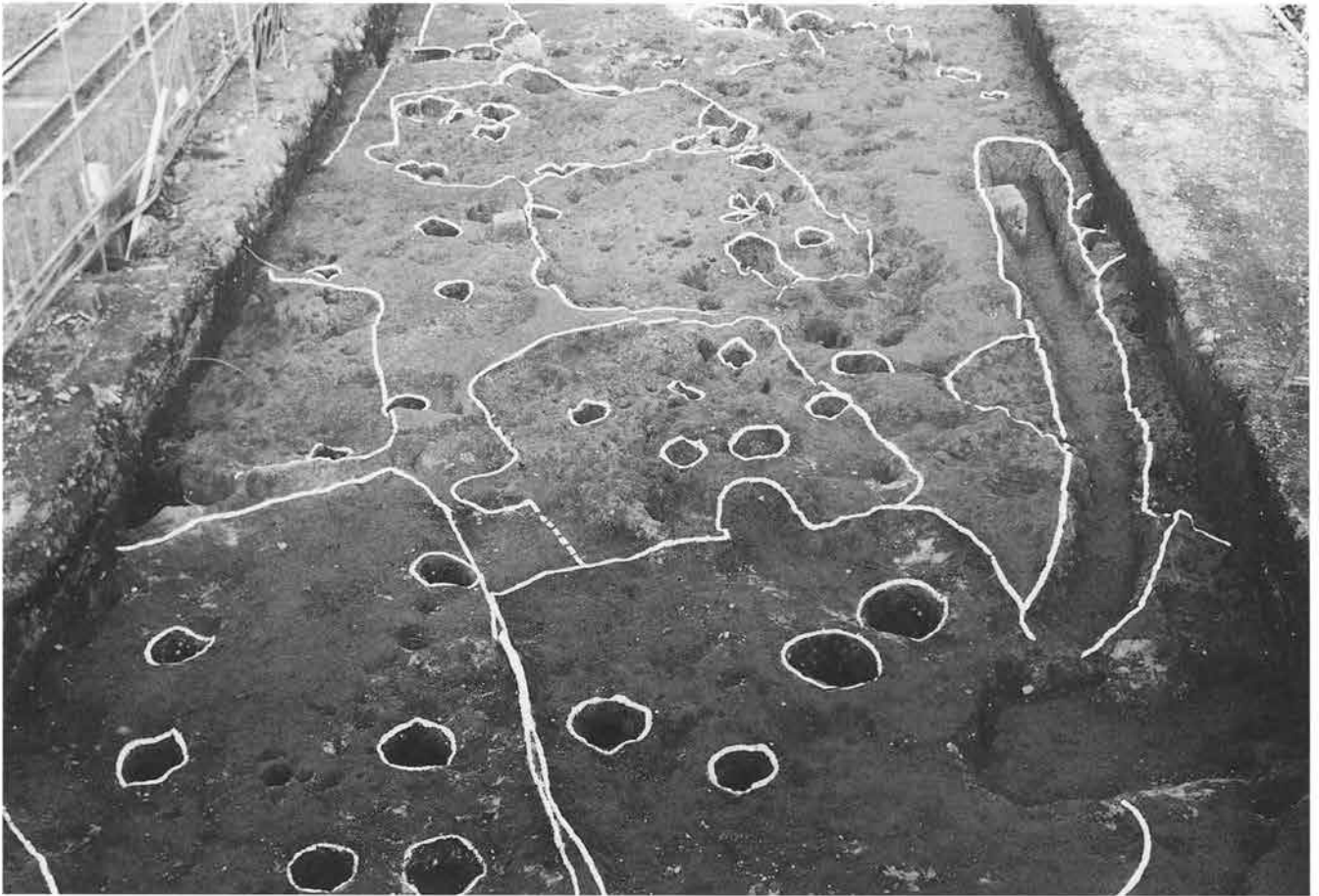
3区 1号溝 全景 (西から)



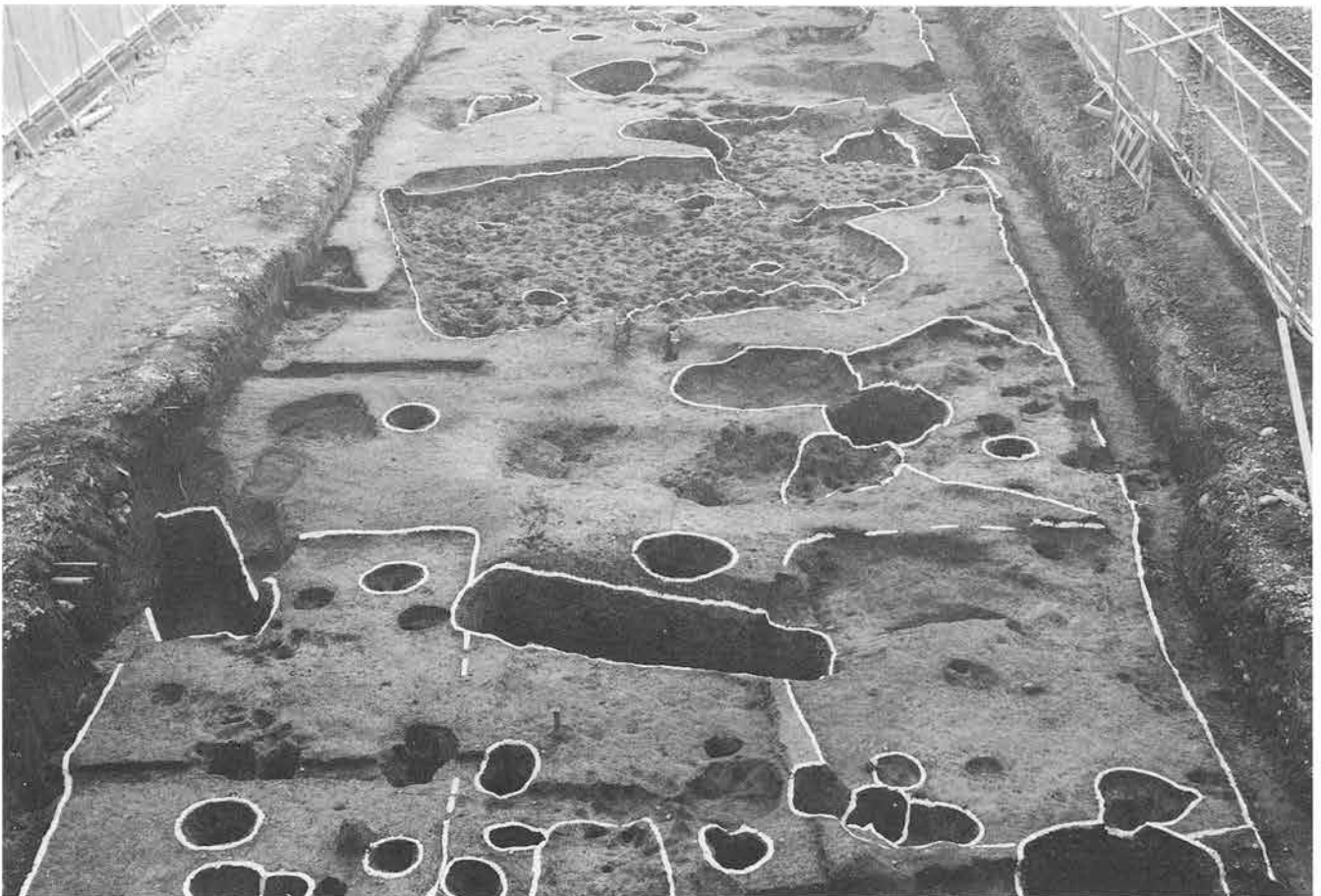
3区 3号溝 全景 (東から)



3区 4号溝 全景 (西から)



5区 全景 (西から)



5区 全景 (東から)



5区 1・2号住居 全景 (南から)



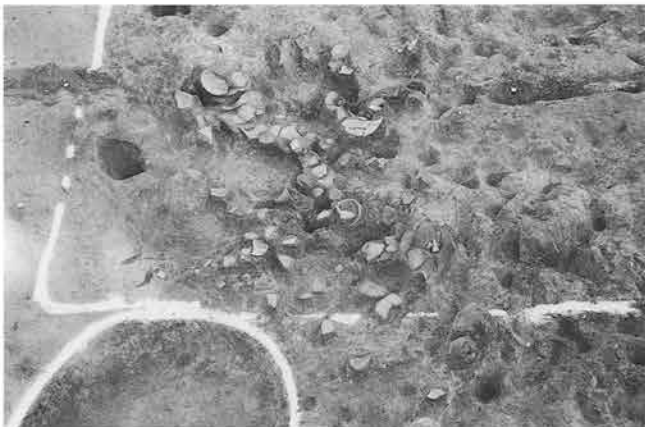
5区 1号住居掘り方 全景 (南から)



5区 1号住居2号炉 全景 (南から)



5区 1号住居 遺物出土状況 (南から)



5区 1号住居 遺物出土状況 (南から)



5区 1号住居 焼土検出状況 (南から)



5区 1号住居掘り込み (南西から)



5区 2号住居焼土 全景 (南から)



5区 3号住居 全景 (北から)



5区 3号住居掘り方 全景 (北から)



5区 3号住居 遺物出土状況 (北から)



5区 4号住居 全景 (南西から)



5区 4号住居掘り方 全景 (南西から)



5区 4号住居 遺物出土状況 (南東から)



5区 5号住居 全景 (西から)



5区 5号住居掘り方 全景 (西から)



5区 5号住居 遺物出土状況 (東から)



5区 5号住居 遺物出土状況 (西から)



5区 6号住居 全景 (北西から)



5区 6号住居掘り方 全景 (北から)



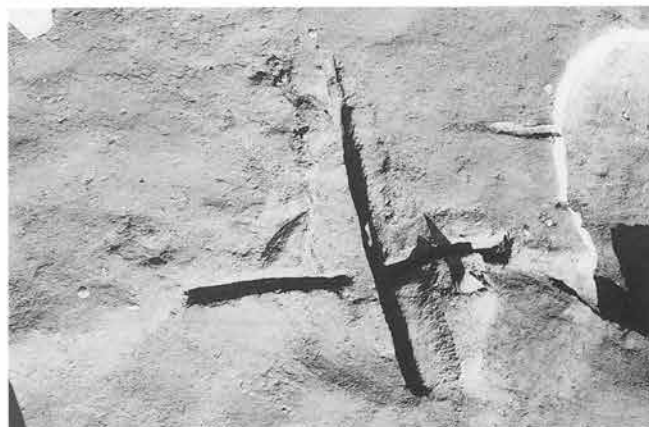
5区 7号住居 全景 (南から)



5区 7号住居掘り方 全景 (南から)



5区 7号住居 遺物出土状況 (南西から)



5区 7号住居 全景 (南から)



5区 8号住居 全景 (北から)



5区 8号住居掘り方 全景 (北から)



5区 9号住居 全景 (南から)



5区 9号住居掘り方 全景 (南から)



5区 9号住居竈 全景 (南から)



5区 9号住居竈掘り方 全景 (南から)



5区 10号住居掘り方 全景 (北から)



5区 11号住居 全景 (南東から)



5区 11号住居掘り方 (南東から)



5区 11号住居竈 全景 (南から)



5区 11号住居 遺物出土状況 (東から)



5区 13号住居 全景 (東から)



5区 14号住居 全景 (北西から)



5区 14号住居掘り方 (北西から)



5区 15号住居 全景 (南から)



5区 15号住居掘り方 全景 (南から)



5区 17号住居 全景 (西から)



5区 17号住居掘り方 全景 (西から)



5区 17号住居 遺物出土状況 (南東から)



5区 17号住居掘り方 遺物出土状況 (南から)



5区 18号住居 全景 (北から)



5区 18号住居掘り方 全景 (北から)



5区 19号住居 全景 (南から)



5区 19号住居掘り方 全景 (南から)



5区 20号住居 全景 (西から)



5区 20号住居掘り方 全景 (北から)



5区 21号住居 全景 (西から)



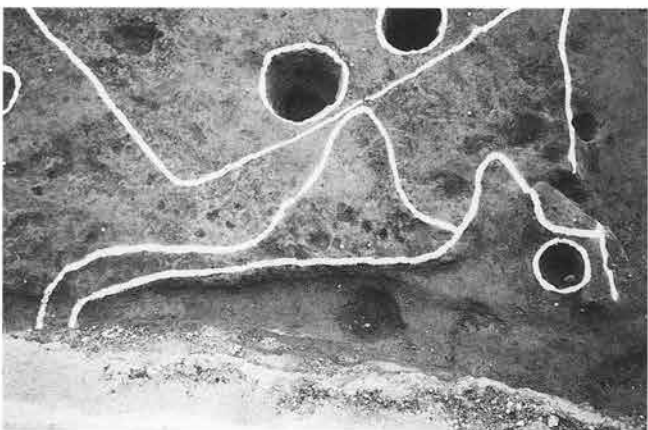
5区 21号住居掘り方 全景 (西から)



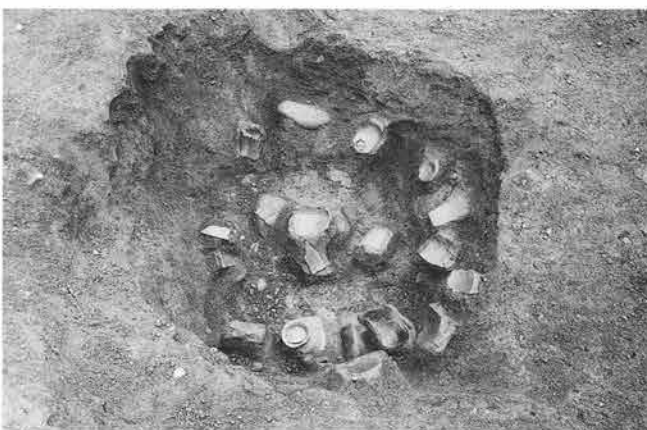
5区 21号住居 遺物出土状況 (南西から)



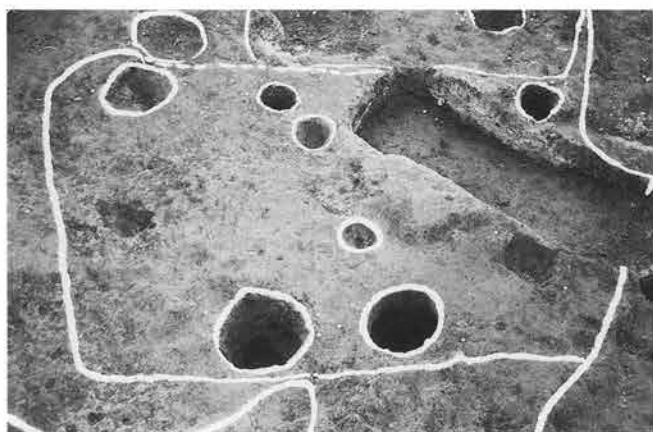
5区 25・23号住居掘り方 全景 (南から)



5区 24・25号住居掘り方 全景 (西から)



5区 25号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (南から)



5区 26号住居掘り方 全景 (西から)



5区 26号住居内1号土坑 遺物出土状況 (東から)



5区 27号住居掘り方 全景 (西から)



5区 27号住居 遺物出土状況 (南から)



5区 28号住居 全景 (西から)



5区 28号住居掘り方 全景 (西から)



5区 30号住居 全景 (南から)



5区 30号住居掘り方 全景 (南から)



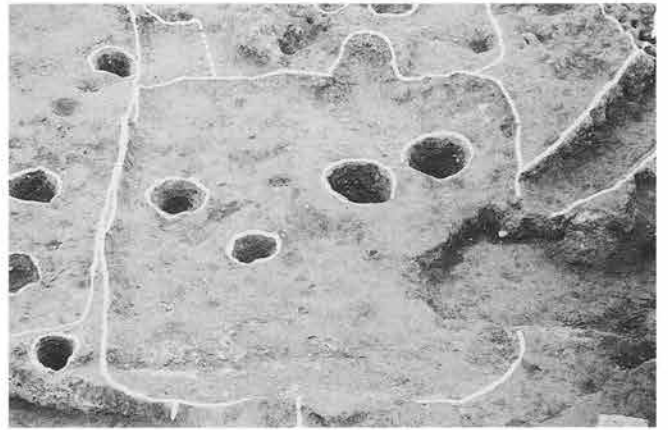
5区 31号住居 全景 (西から)



5区 31号住居掘り方 全景 (南から)



5区 33号住居 全景 (西から)



5区 33号住居掘り方 全景 (西から)



5区 35号住居掘り方 全景 (南から)



5区 36号住居 遺物出土状況 (西から)



5区 36号住居 遺物出土状況 (西から)



5区 37号住居 全景 (南から)



5区 37号住居掘り方 全景 (南から)



5区 38号住居掘り方 全景 (北西から)



5区 40号住居掘り方 全景 (西から)



5区 40号住居 遺物出土状況 (南から)



5区 41号住居 全景 (南から)



5区 41号住居掘り方 全景 (南から)



5区 42号住居 全景 (南東から)



5区 42号住居掘り方 全景 (南東から)



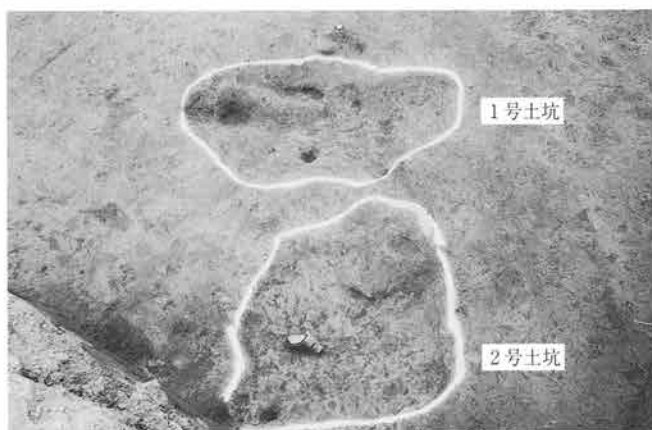
5区 43号住居 全景 (西から)



5区 44号住居 全景 (西から)



5区 作業風景 (東から)



5区 1・2号土坑 全景 (南東から)



5区 2号土坑 遺物出土状況 (北から)



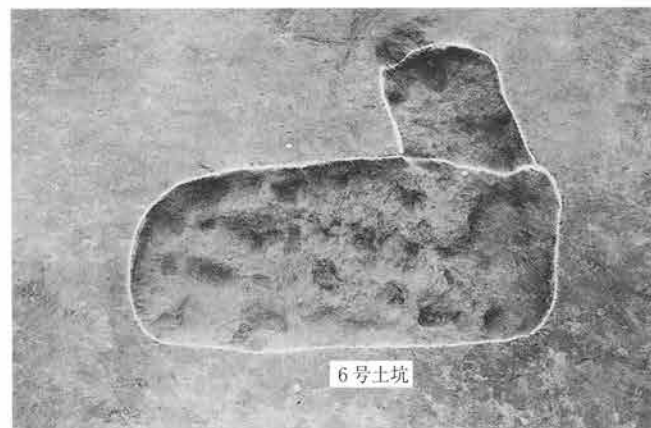
5区 3号土坑 全景 (南東から)



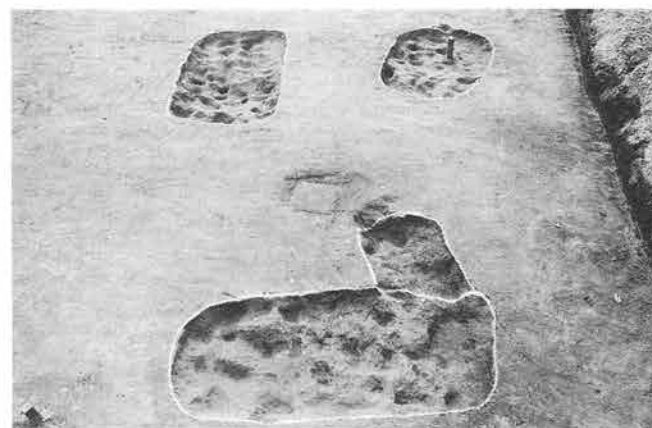
5区 4号土坑 全景 (南から)



5区 5号土坑 全景 (北西から)



5区 6・12号土坑 全景 (北東から)



5区 4・5・6・12号土坑 全景 (北東から)



5区 7号土坑 (南東から)



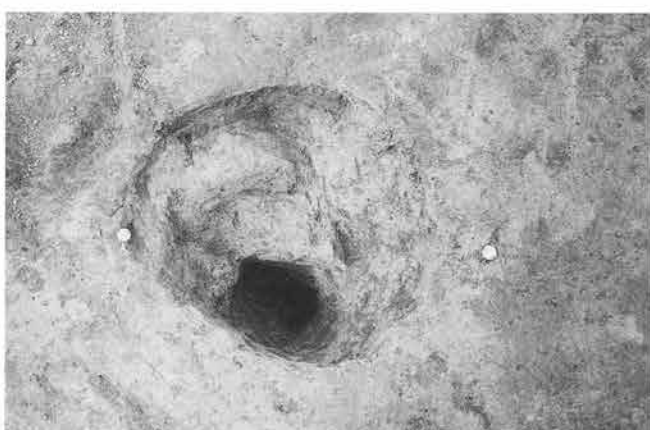
5区 8号住居 全景 (東から)



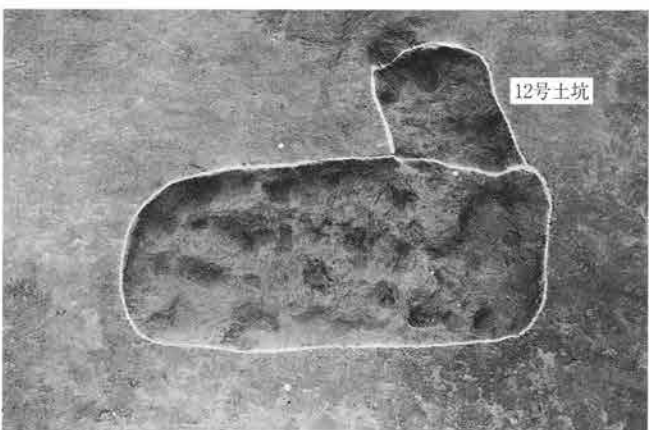
5区 8号土坑 骨片出土状況 (東から)



5区 9・10号土坑 全景 (東から)



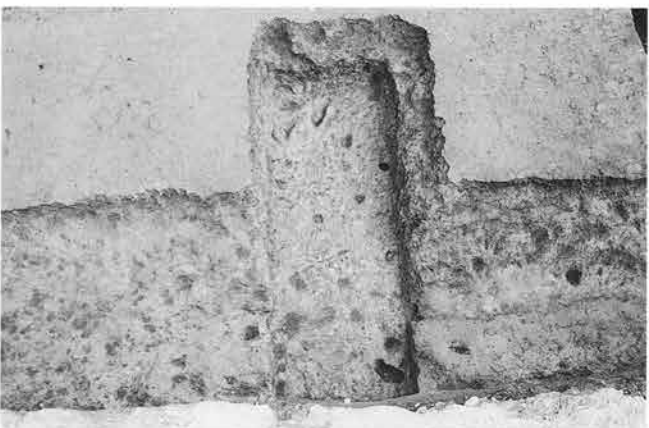
5区 11号土坑 全景 (南東から)



5区 6・12号土坑 全景 (北東から)



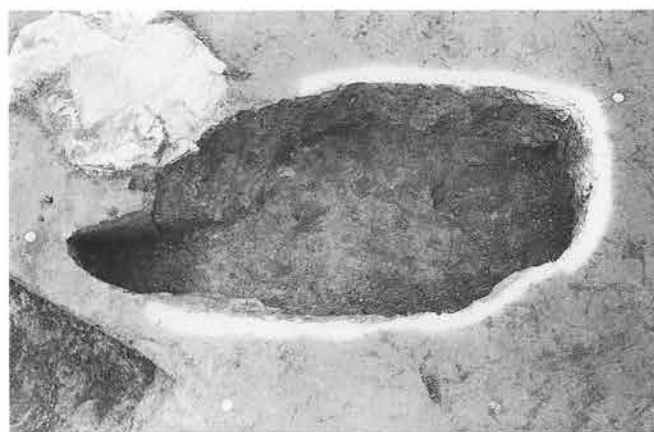
5区 14号土坑 全景 (南から)



5区 15号土坑 全景 (南から)



5区 16号土坑 全景 (南から)



5区 17号土坑 全景 (南から)



5区 18号土坑 全景 (南から)



5区 19号土坑 全景 (南から)



5区 20号土坑 全景 (南から)



5区 21号土坑 全景 (東から)



5区 30号土坑 全景 (南西から)



5区 24号土坑 全景 (南から)



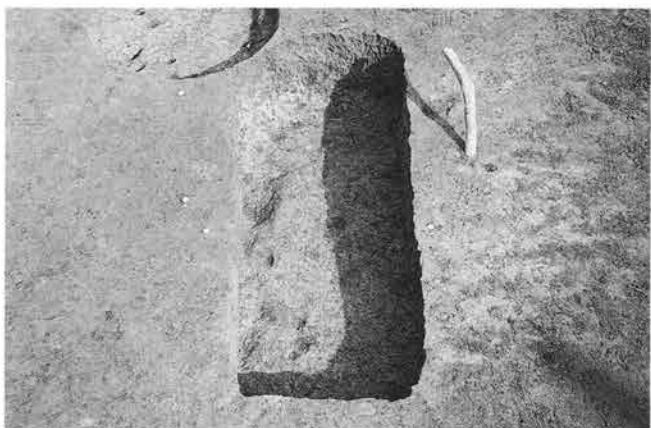
5区 25号土坑 全景 (南西から)



5区 26号土坑 全景 (南から)



5区 27号土坑 全景 (西から)



5区 28号土坑 全景 (南西から)



5区 29号土坑 全景 (東から)



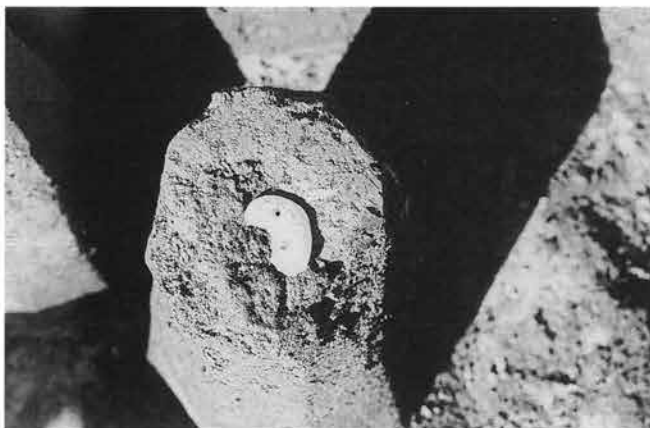
5区 30号土坑 全景 (南から)



5区 31号土坑 全景 (北から)



5区 32号土坑 全景 (南から)



5区 32号土坑 遺物出土状況 (南から)



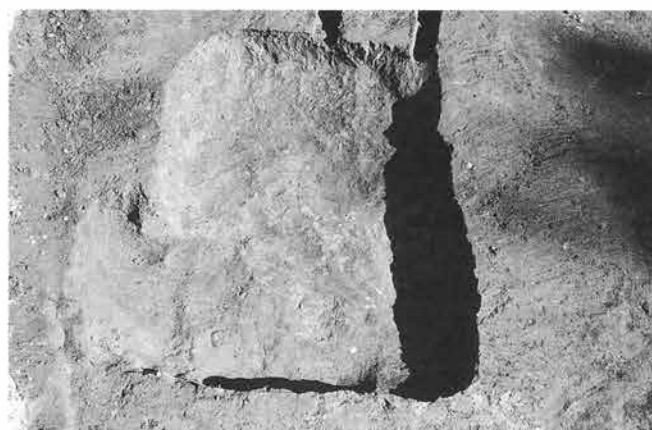
5区 33号土坑 全景 (南から)



5区 34号土坑 全景 (東から)



5区 35号土坑 全景 (南から)



5区 36号土坑 全景 (西から)



5区 37号土坑 全景 (南西から)



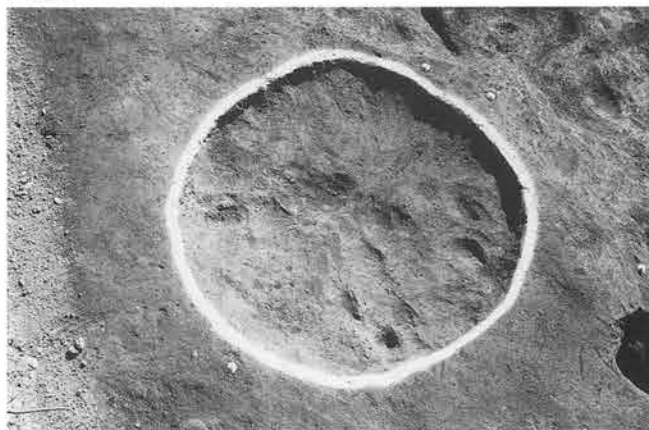
5区 38号土坑 全景 (南東から)



5区 39号土坑 全景 (南から)



5区 40号土坑 全景 (南東から)



5区 41号土坑 全景 (西から)



5区 43号土坑 全景 (南西から)



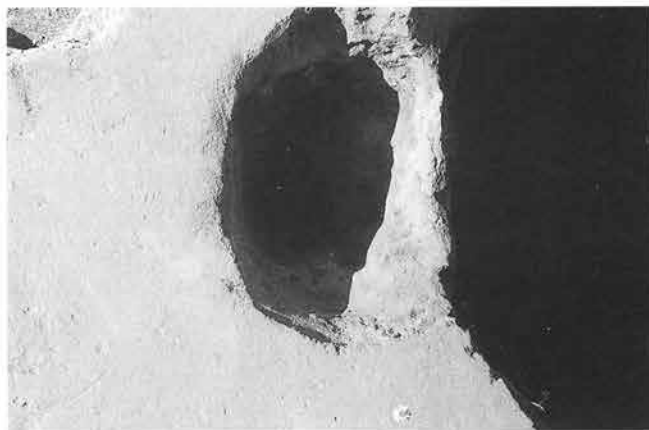
5区 44号土坑 全景 (南から)



5区 45号土坑 全景 (南西から)



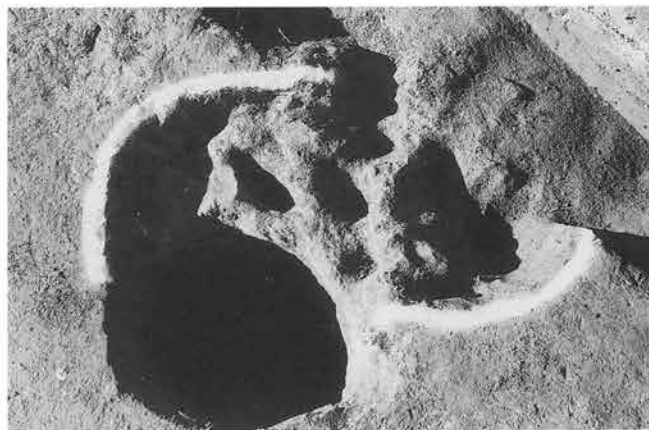
5区 46号土坑 全景 (東から)



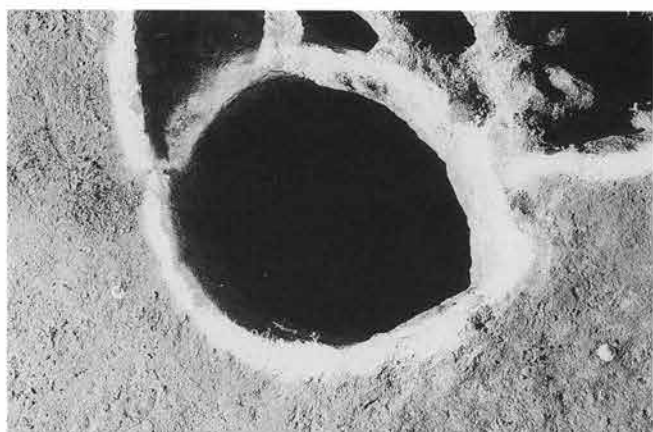
5区 47号土坑 全景 (東から)



5区 48号土坑 全景 (北から)



5区 49号土坑 全景 (東から)



5区 50号土坑 全景 (東から)



5区 51号土坑 全景 (東から)



5区 52号土坑 全景 (南から)



5区 53号土坑 全景 (南から)



5区 54号土坑 全景 (南から)



5区 55号土坑 全景 (南から)



5区 57号土坑 全景 (西から)



5区 58号土坑 全景 (東から)



5区 59号土坑 全景 (東から)



5区 60号土坑 全景 (南から)



5区 61号土坑 全景 (北から)



5区 63号土坑 全景 (北から)



5区 64号土坑 全景 (東から)



5区 65号土坑 全景 (北から)



5区 66号土坑 全景 (北から)



5区 67号土坑 全景 (北から)



5区 68号土坑 全景 (東から)



5区 69号土坑 全景 (北から)



5区 70号土坑 全景 (南から)



5区 71・72・73号土坑 全景 (東から)



5区 71号土坑 遺物出土状況 (東から)



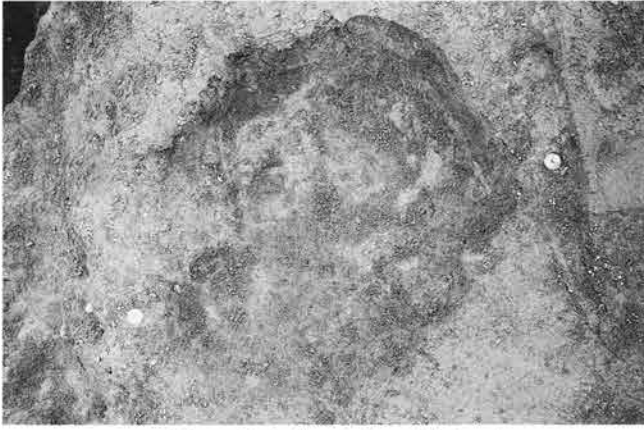
5区 74号土坑 全景 (西から)



5区 75号土坑 全景 (南から)



5区 75号土坑 遺物出土状況 (東から)



5区 78号土坑 全景 (北から)



5区 79号土坑 全景 (南から)



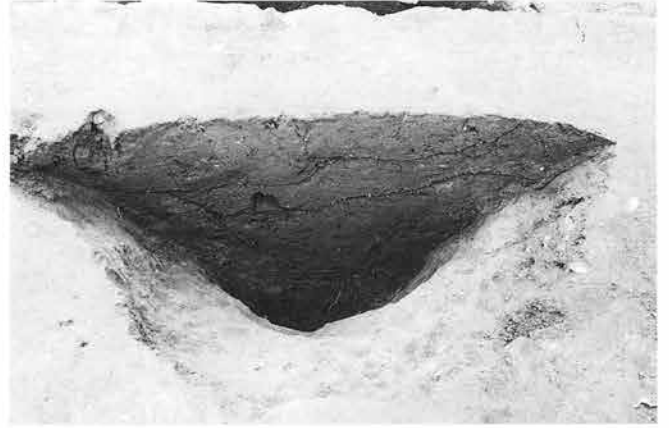
5区 81号土坑 全景 (東から)



5区 82号土坑 全景 (東から)



5区 1号井戸 全景 (北から)



5区 1号井戸 土層断面 (北から)



5区 2号井戸 全景 (北東から)



5区 1号ピット 全景 (南から)



5区 2号ピット 全景 (南東から)



5区 3号ピット 全景 (南東から)



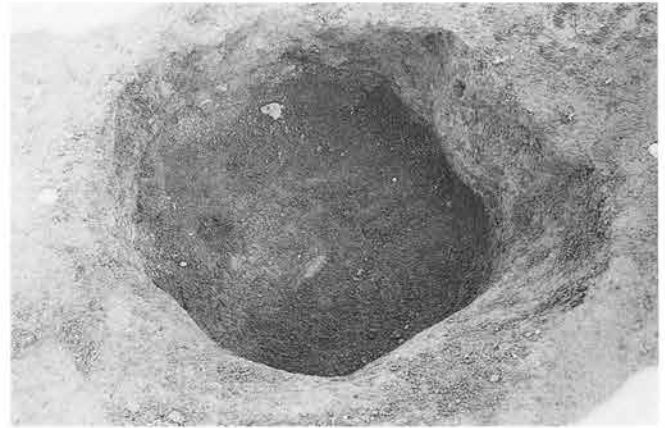
5区 5・6・7号ピット 全景 (南から)



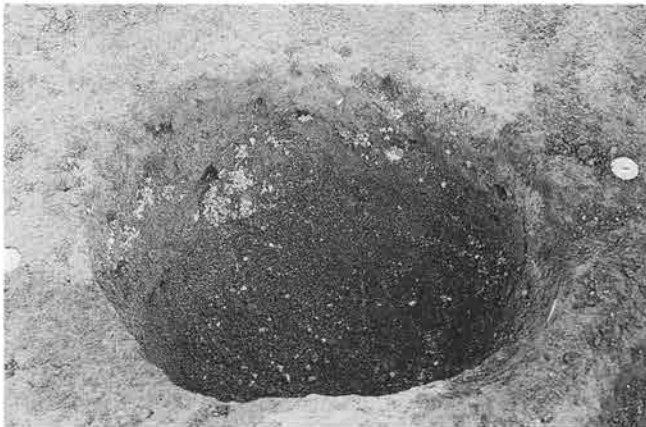
5区 8・9号ピット 全景 (南から)



5区 13号ピット 全景 (南から)



5区 14号ピット 全景 (南から)



5区 15号ピット 全景 (南から)



5区 16号ピット 全景 (南から)



5区 81ピット 全景 (東から)



5区 82号ピット 全景 (北から)



5区 1号溝 全景 (南から)



5区 2号溝 全景 (東から)



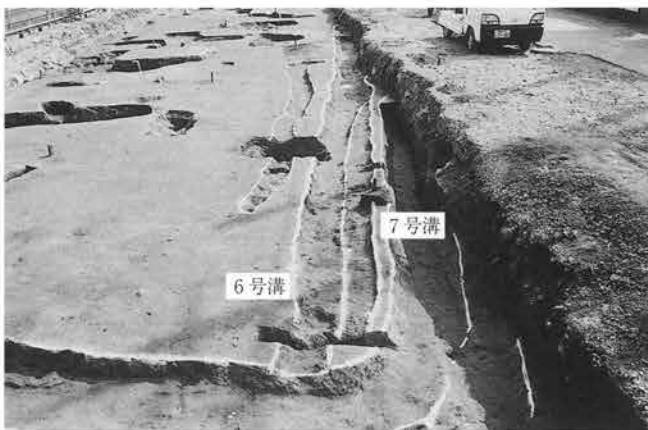
5区 3号溝 全景 (西から)



5区 4・9号溝 全景 (南東から)



5区 5号溝 全景 (東から)



5区 6・7号溝 全景 (西から)



5区 8号溝 全景 (西から)



5区 9号溝 古銭出土状況 (南から)



5区 10号溝 全景 (南から)



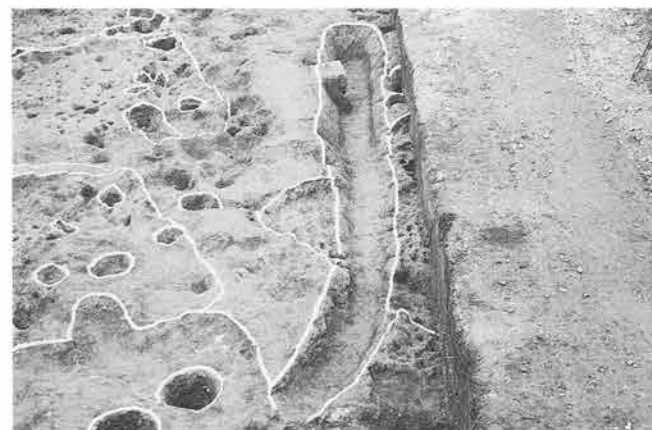
5区 11号溝 全景 (北東から)



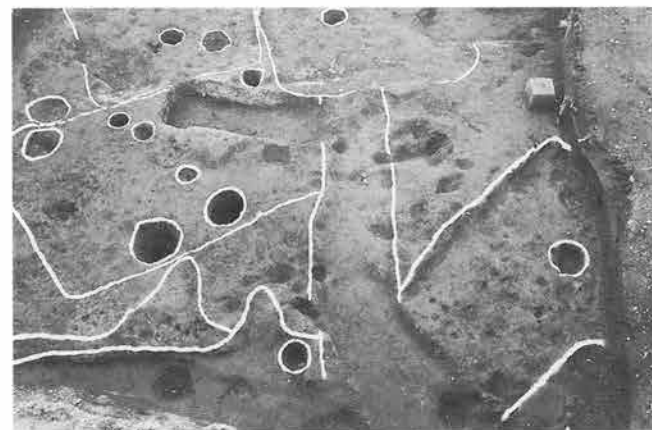
5区 11号溝 遺物出土状況 (南西から)



5区 12号溝 全景 (東から)



5区 17号溝 全景 (西から)



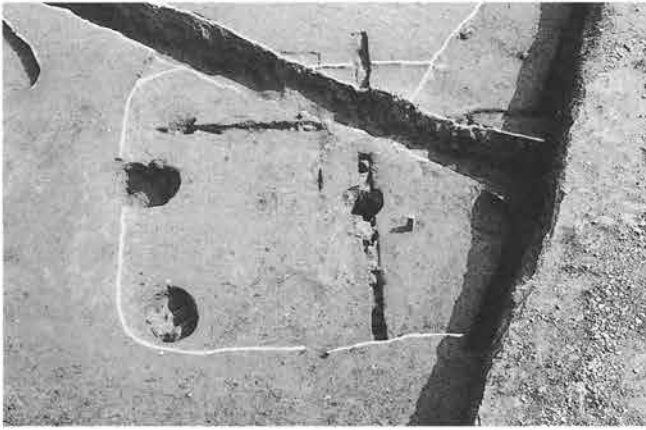
5区 18号溝 全景 (西から)



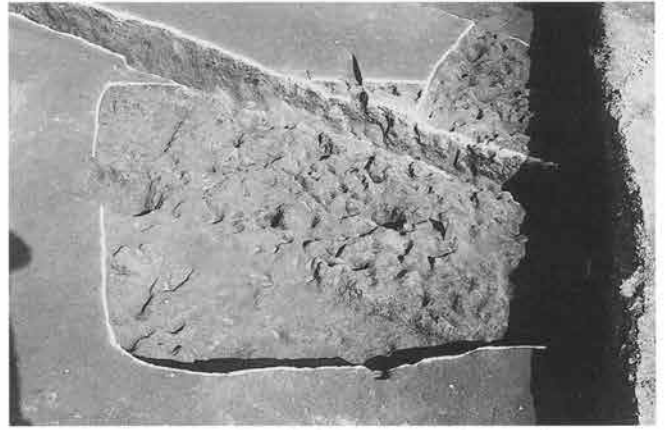
6区 全景 (西から)



6区 全景 (東から)



6区 1号住居 全景 (西から)



6区 1号住居掘り方 全景 (西から)



6区 2号住居 全景 (北から)



6区 2号住居掘り方 全景 (北から)



6区 3号住居 全景 (西から)



6区 3号住居掘り方 全景 (西から)



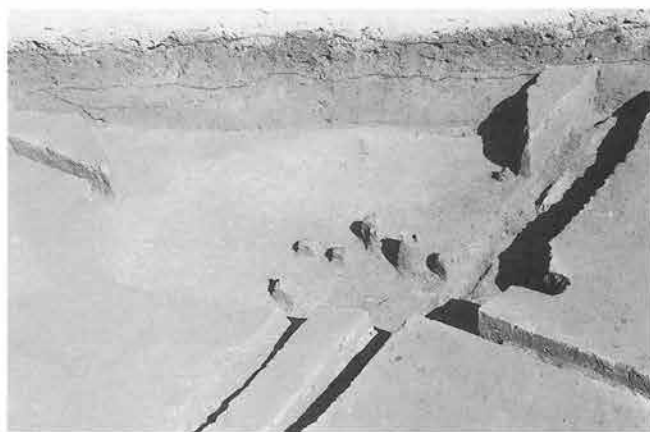
6区 3号住居 遺物出土状況(遠) (西から)



6区 3号住居 遺物出土状況(近) (西から)



6区 4号住居 全景 (南から)



6区 4号住居 遺物出土状況 (南から)



6区 5号住居 全景 (西から)



6区 3号住居掘り方 全景 (西から)



6区 6号住居 全景 (南西から)



6区 6号住居掘り方 全景 (南から)



6区 7号住居 全景 (西から)



6区 7号住居掘り方 全景 (西から)



6区 7号住居竈 全景 (西から)



6区 7号住居竈 近景 (西から)



6区 7号住居竈 遺物出土状況 (西から)



6区 8号住居 全景 (南から)



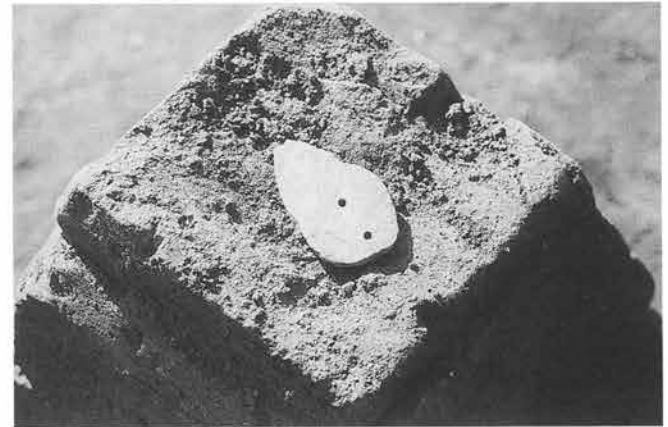
6区 8号住居掘り方 全景 (南から)



6区 9号住居 全景 (南東から)



6区 9号住居掘り方 全景 (南東から)



6区 9号住居 石製品出土状況 (南東から)



6区 9号住居 遺物出土状況 (南東から)



6区 9号住居 遺物出土状況 (南東から)



6区 9号住居竈掘り方 全景 (西から)



6区 10号住居掘り方 全景 (西から)



6区 11号住居掘り方 全景 (西から)



6区 13号住居 全景 (南西から)



6区 13号住居掘り方 全景 (南西から)



6区 14号住居 全景 (西から)



6区 14号住居掘り方 全景 (北西から)



6区 15号住居 全景 (西から)



6区 15号住居掘り方 全景 (西から)



6区 15号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (西から)



6区 16号住居 全景 (西から)



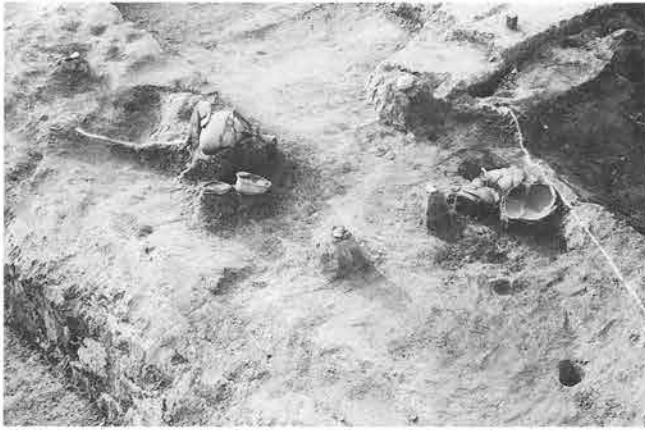
6区 17号住居 全景 (南から)



6区 17号住居掘り方 全景 (南から)



6区 20号住居掘り方 全景 (南から)



6区 20号住居 遺物出土状況 (南東から)



6区 20号住居 遺物出土状況 (南から)



6区 20号住居 遺物出土状況 (南から)



6区 21号住居掘り方 全景 (南から)



6区 3・25号住居掘り方 全景 (西から)



6区 3・25号住居掘り方 全景 (北西から)



6区 25号住居竈 全景 (西から)



6区 27号住居掘り方 全景 (南から)



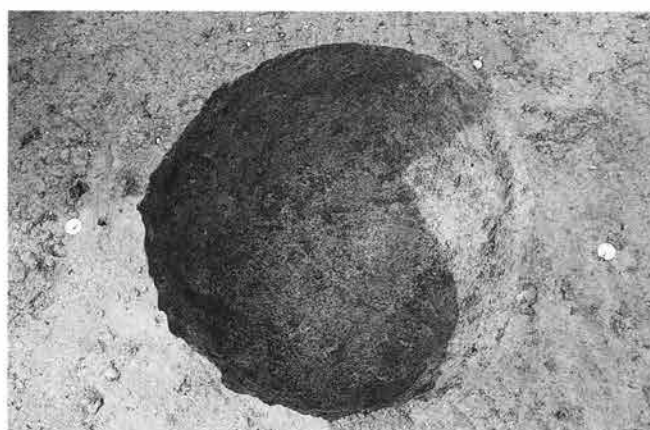
6区 1号土坑 全景 (西から)



6区 2号土坑 全景 (南西から)



6区 3号土坑 土層断面 (南から)



6区 4号土坑 全景 (南から)



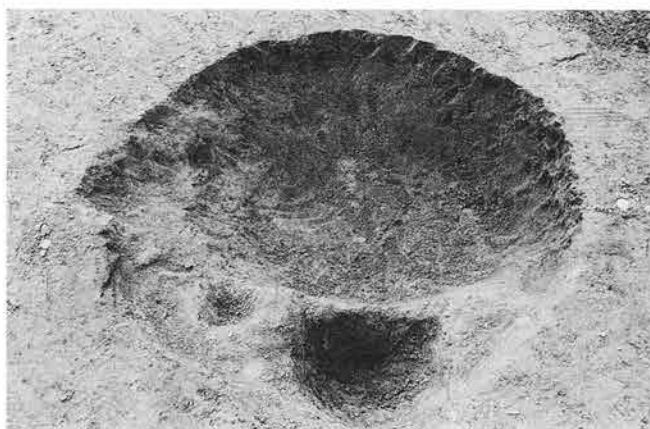
6区 5号土坑 全景 (南から)



6区 6号土坑 全景 (東から)



6区 7号土坑 全景 (南から)



6区 8号土坑 全景 (東から)



6区 9号土坑 全景 (東から)



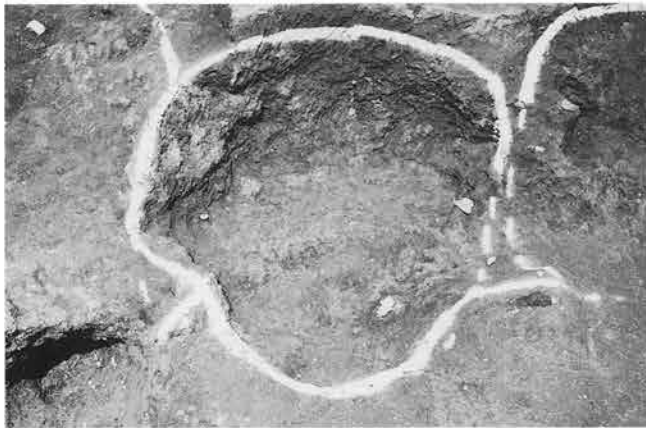
6区 11号土坑 全景 (南から)



6区 13号土坑 全景 (南から)



6区 13号土坑 遺物出土状況 (南から)



6区 14号土坑 全景 (南から)



6区 15号土坑 全景 (東から)



6区 15号土坑 遺物出土状況 (北から)



6区 15号土坑 遺物出土状況 (南から)



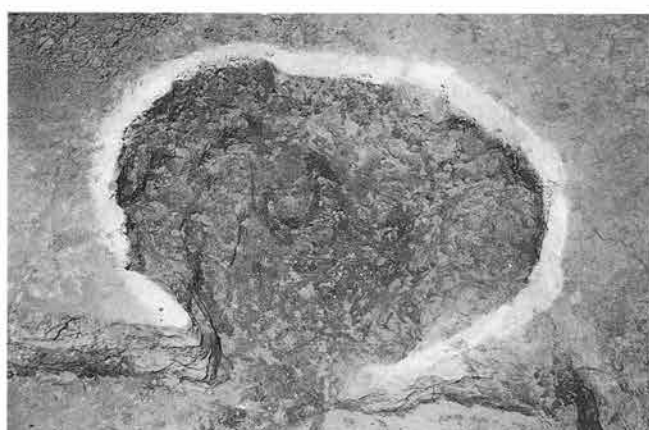
6区 16号土坑 全景 (南から)



6区 17号土坑 全景 (南から)



6区 18号土坑 全景 (南から)



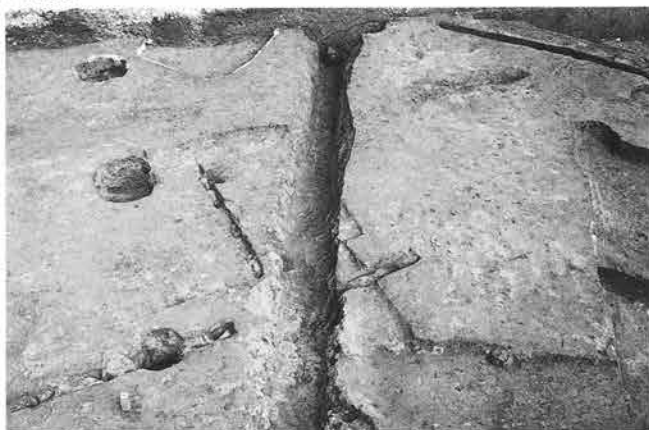
6区 19号土坑 全景 (南から)



6区 1号ピット 全景 (南から)



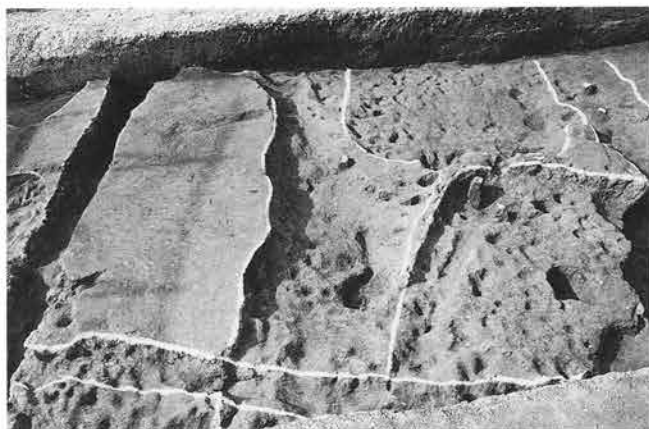
6区 2号ピット 全景 (北から)



6区 1号溝 全景 (南から)



6区 6号溝 全景 (南から)



6区 7号溝 全景 (南から)



6区 8号溝 全景 (西から)

0区 6号土坑 出土遺物



0区 遺構外 出土遺物



1区 1号住居 出土遺物



1区 2号住居 出土遺物



1区 3号住居 出土遺物



1区 4号住居 出土遺物



1区 5号住居 出土遺物



PL.52

1区 6号住居 出土遺物



1



2



3



5



4

1区 7号住居 出土遺物



1



3



5



2



4



6

1区 9号住居 出土遺物



1



3



2



4

1区 1号土坑 出土遺物



1



2

1区 2号土坑 出土遺物



1区 3号溝 出土遺物



2区 4号溝 出土遺物



1区 9号土坑 出土遺物



1区 13号土坑 出土遺物



1区 17号土坑 出土遺物



1区 遺構外 出土遺物



1区 12号土坑 出土遺物



2区 3号溝 出土遺物



2区 遺構外 出土遺物

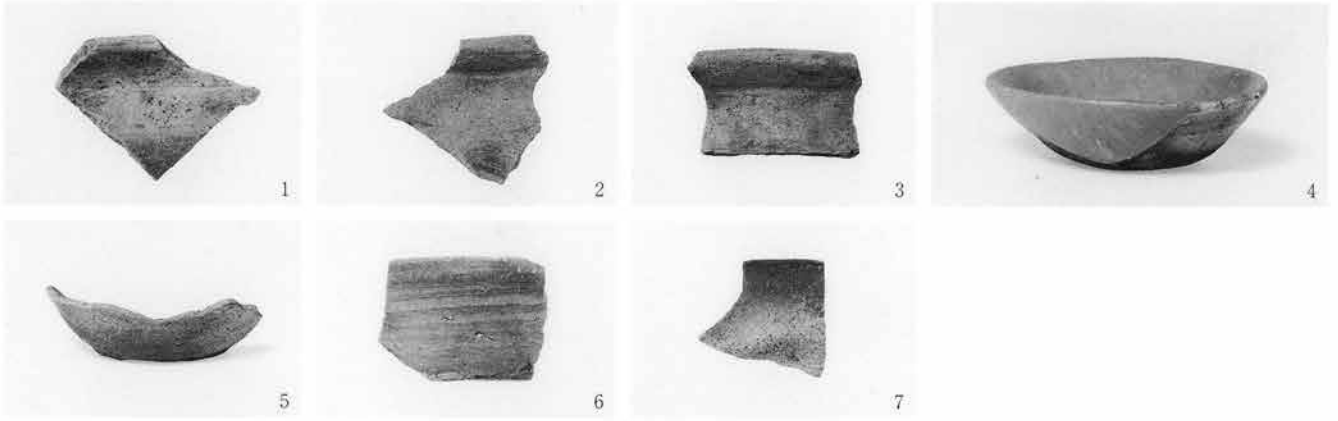


3区 1号住居 出土遺物

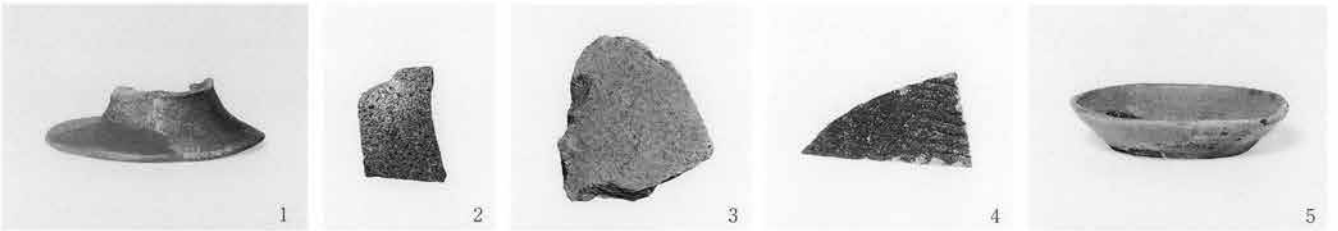


PL.54

3区 2号住居 出土遺物



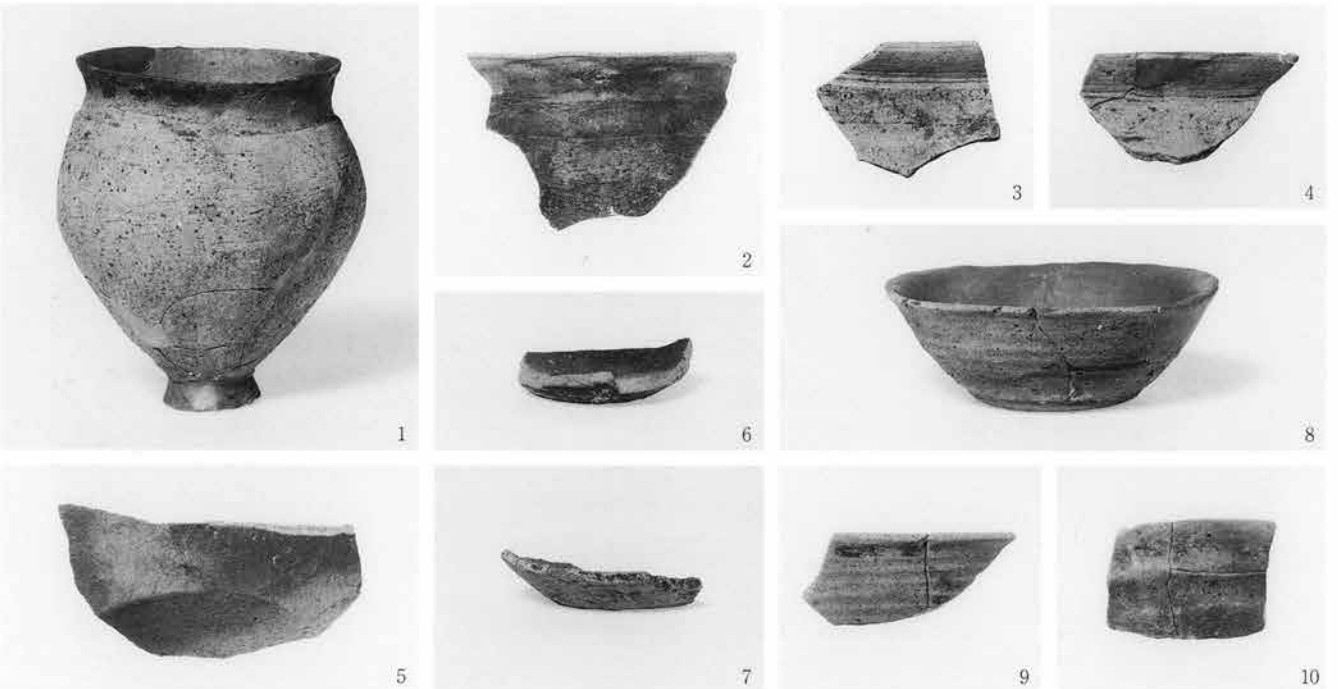
3区 3号住居 出土遺物



3区 4号住居 出土遺物



3区 5号住居 出土遺物(1)



3区 5号住居 出土遺物(2)



3区 6号住居 出土遺物



3区 1号竖穴状遺構 出土遺物



3区 2号竖穴状遺構 出土遺物



3区 3号竖穴状遺構 出土遺物

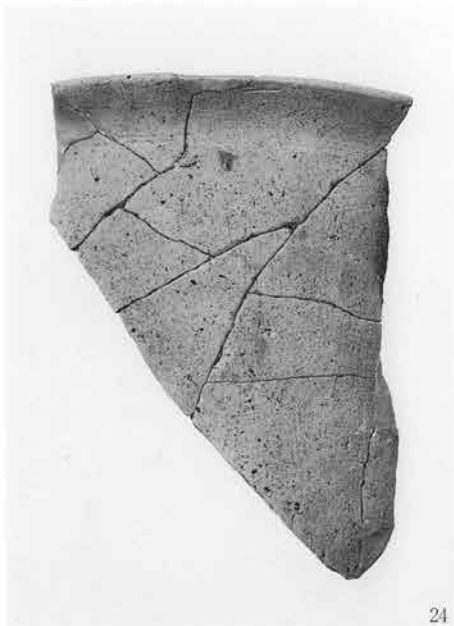


3区 4号竖穴状遺構 出土遺物(1)





3区 4号竖穴状遺構 出土遺物(3)



3区 5号竖穴状遺構 出土遺物



3区 1号土坑 出土遺物



3区 2号土坑 出土遺物



3区 1号溝 出土遺物



3区 2号溝 出土遺物



PL.58

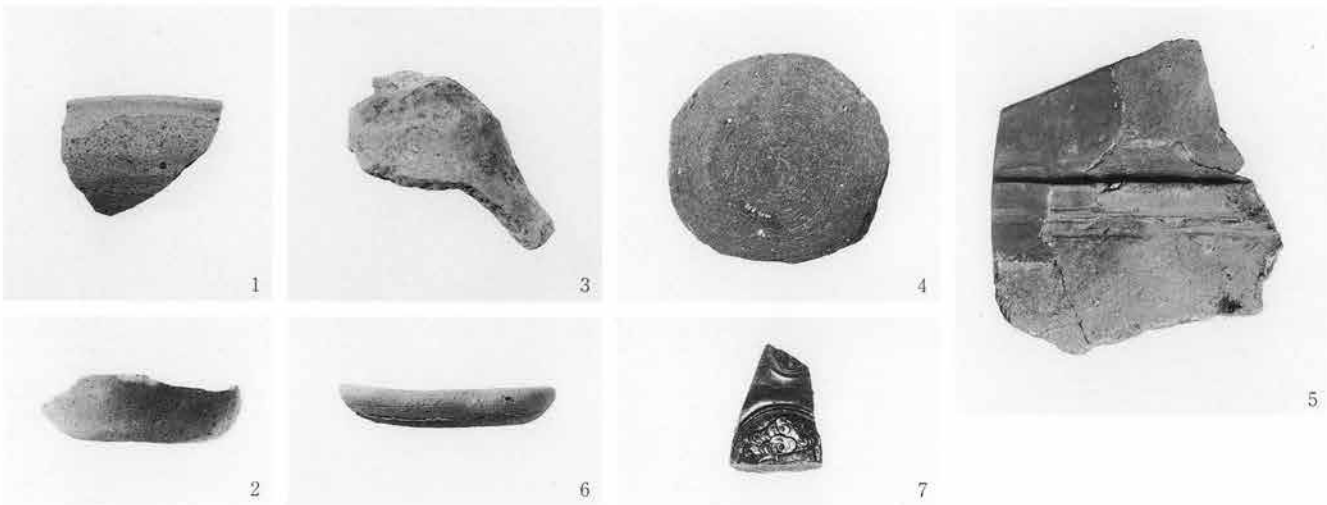
3区 3号溝 出土遺物



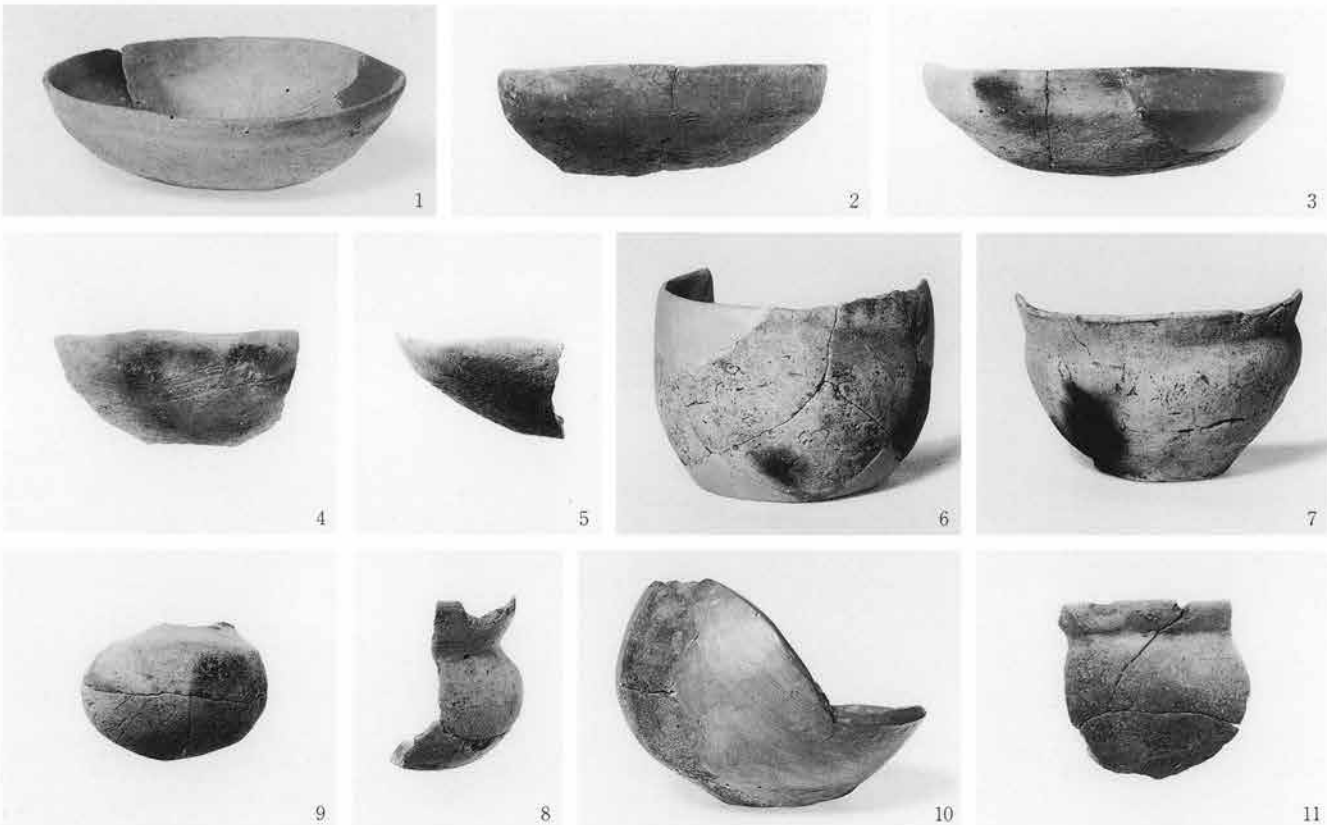
3区 4号溝 出土遺物



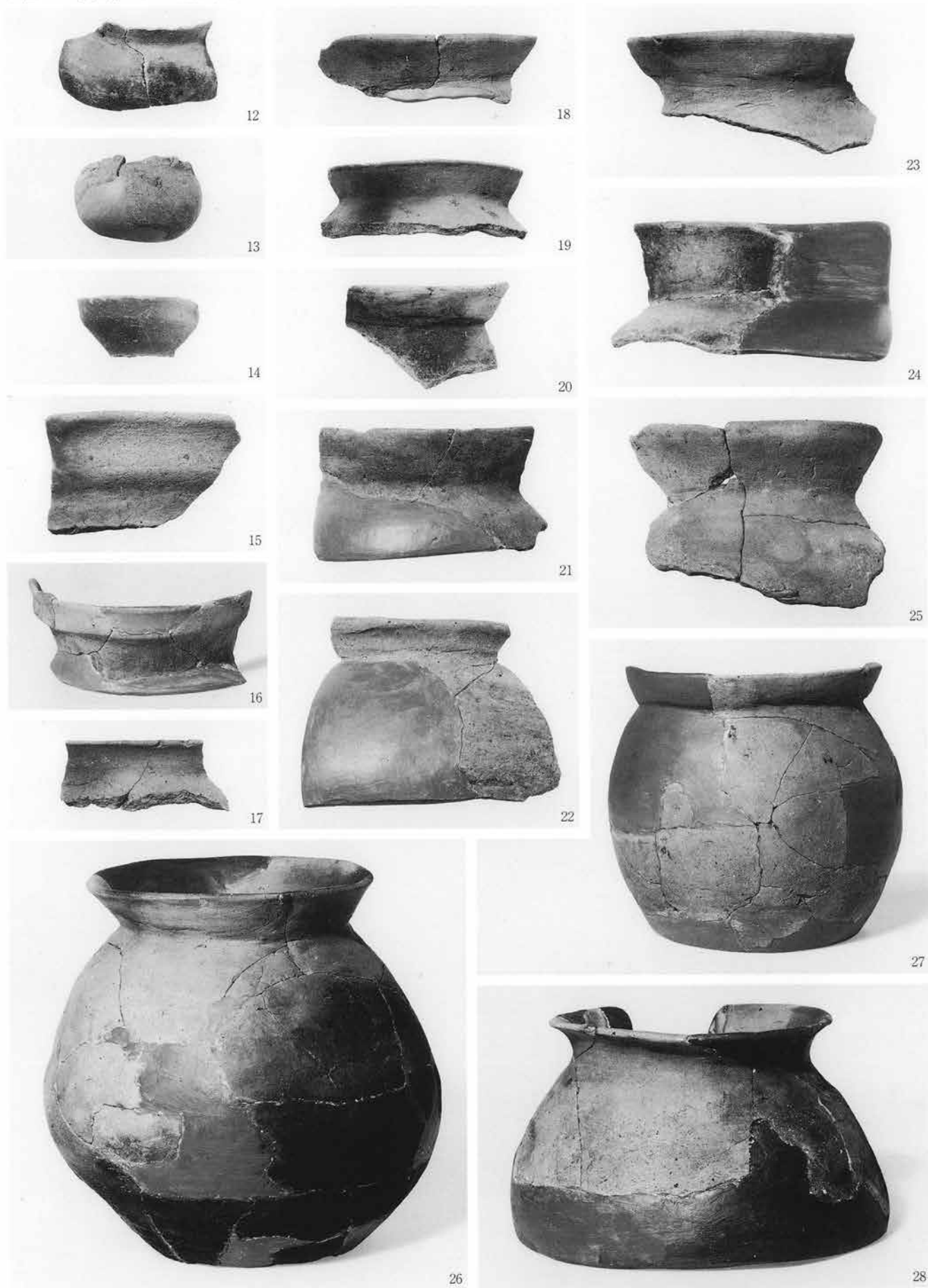
3区 遺構外 出土遺物



5区 1号住居 出土遺物(1)

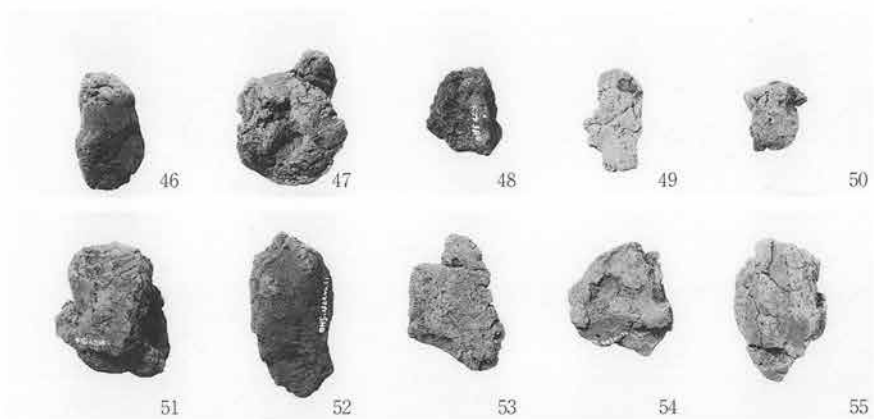


5区 1号住居 出土遺物(2)

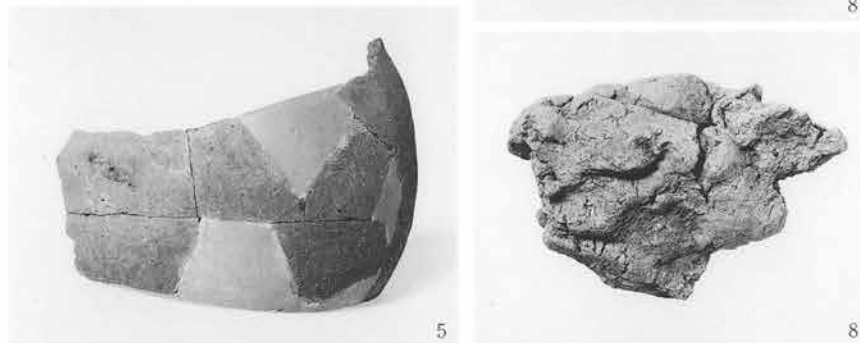
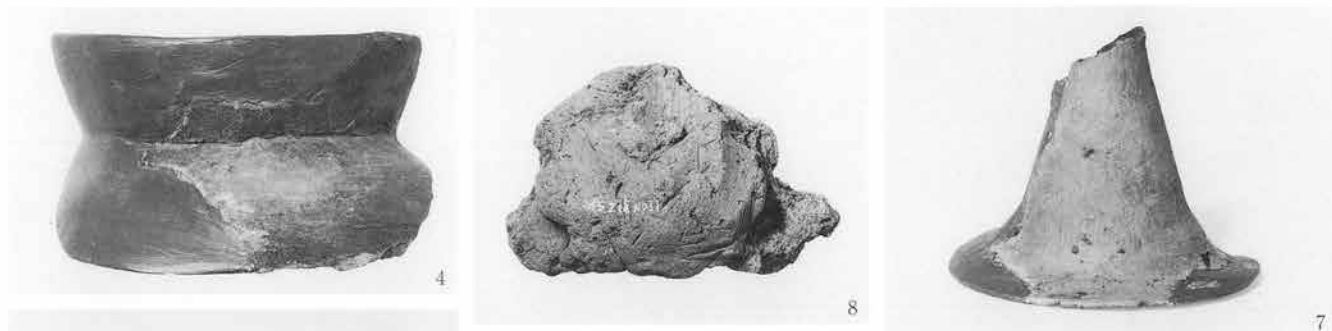




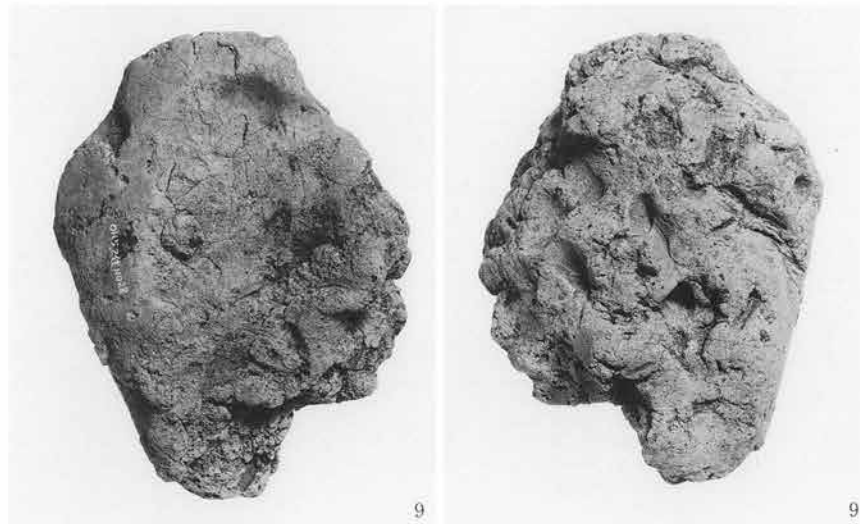
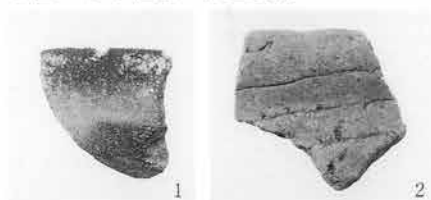
5区 1号住居 出土遺物(4)



5区 2号住居 出土遺物

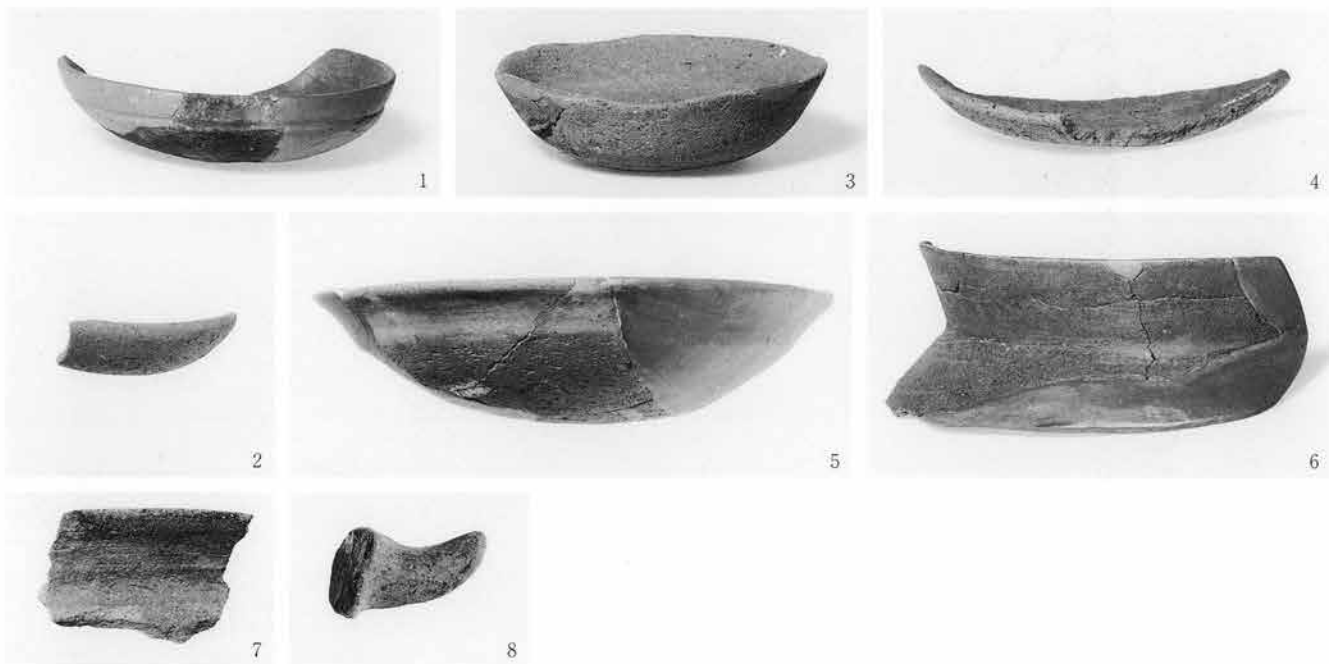


5区 3号住居 出土遺物



PL.62

5区 4号住居 出土遺物



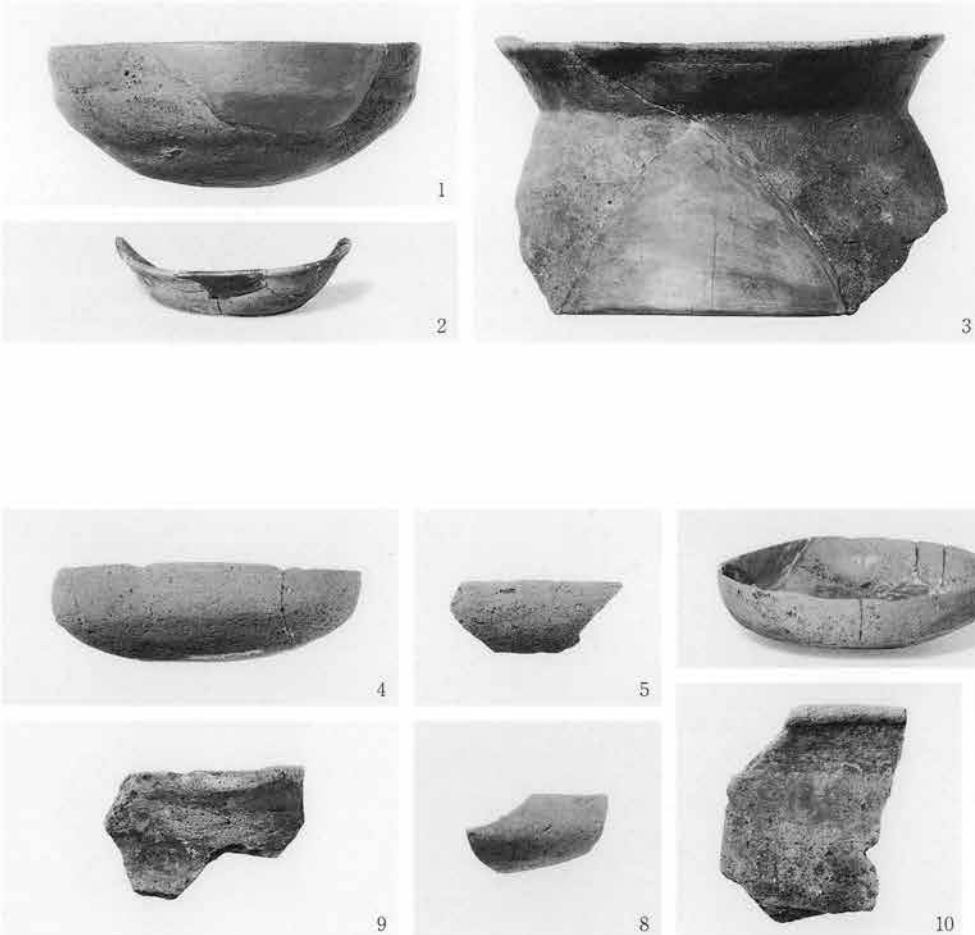
5区 5号住居 出土遺物(1)



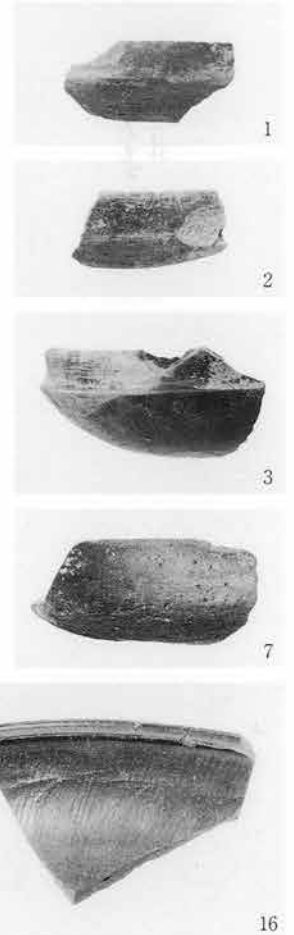
5区 5号住居 出土遺物(2)

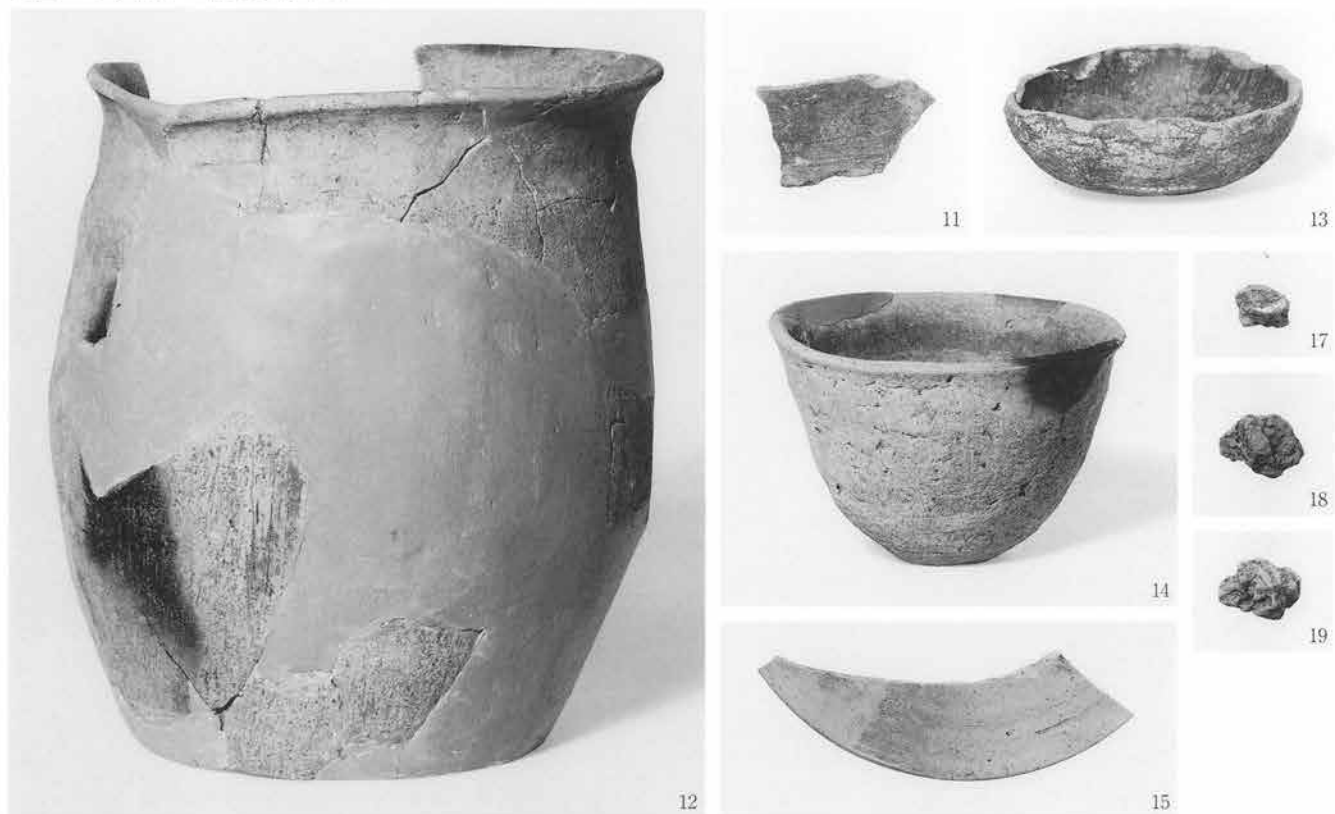


5区 6号住居 出土遺物



5区 7号住居 出土遺物(1)





5区 8号住居
出土遺物

5区 9号住居 出土遺物(1)



5区 9号住居 出土遺物(2)



15



16



1/4
17



4

5区 11号住居 出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



9



10



8



11



14



16



12



15



13

5区 14号住居 出土遺物



2



3



5



1

5区 15号住居 出土遺物



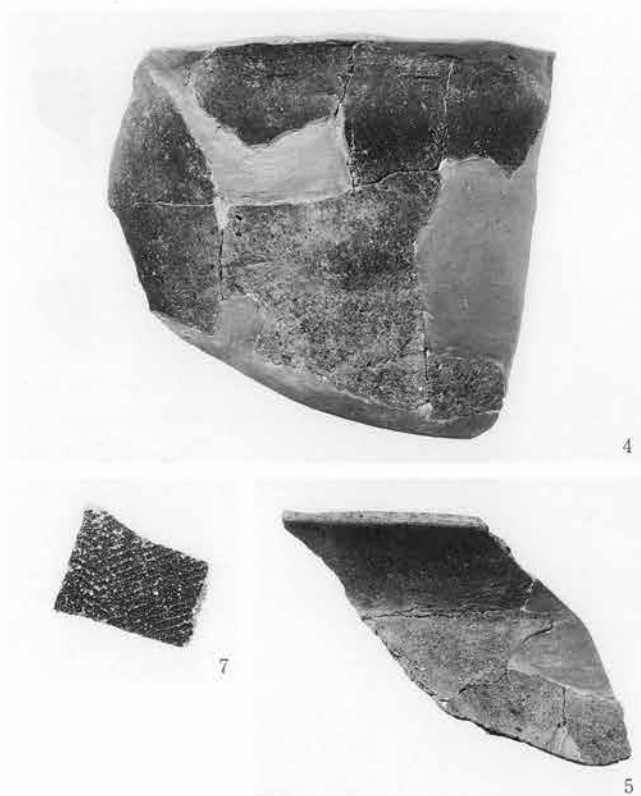
5区 16号住居 出土遺物



5区 17号住居 出土遺物(1)



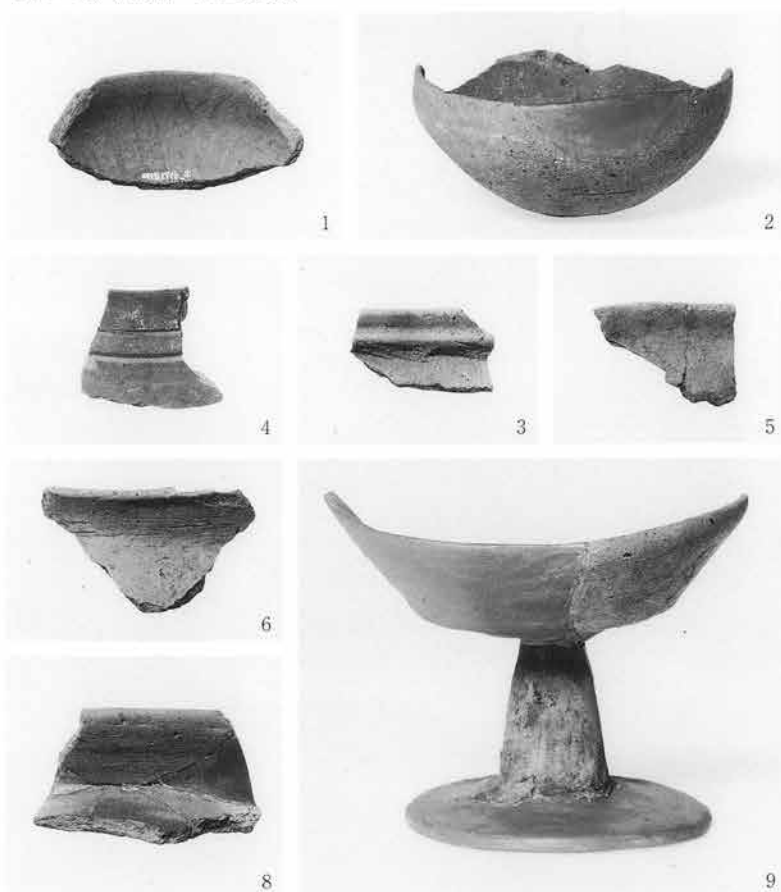
5区 17号住居 出土遺物(2)



5区 18号住居 出土遺物



5区 19号住居 出土遺物



PL.68

5区 20号住居 出土遺物



5区 23号住居 出土遺物



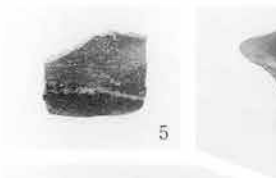
5区 24号住居 出土遺物



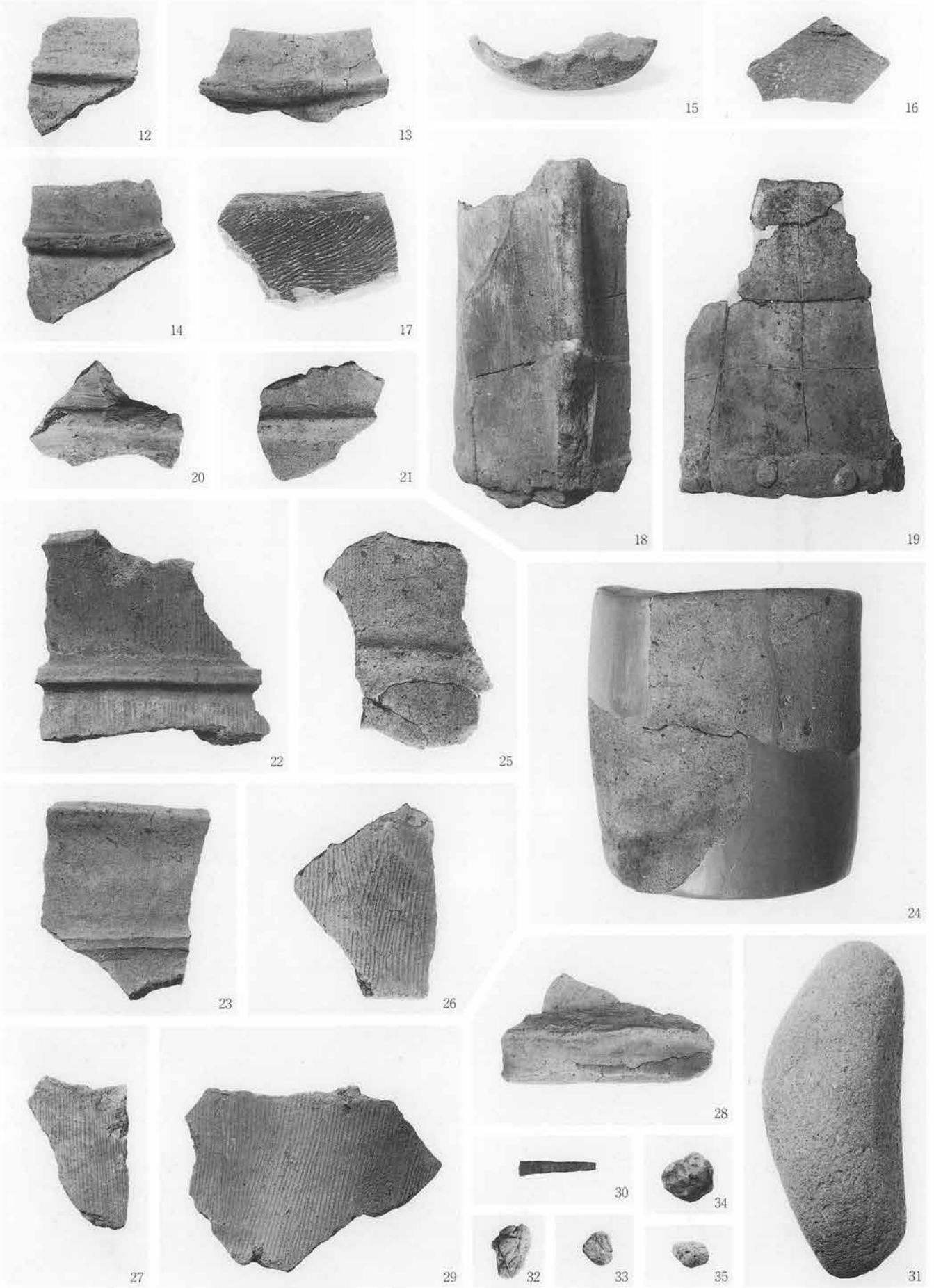
5区 21号住居 出土遺物



5区 25号住居 出土遺物(1)

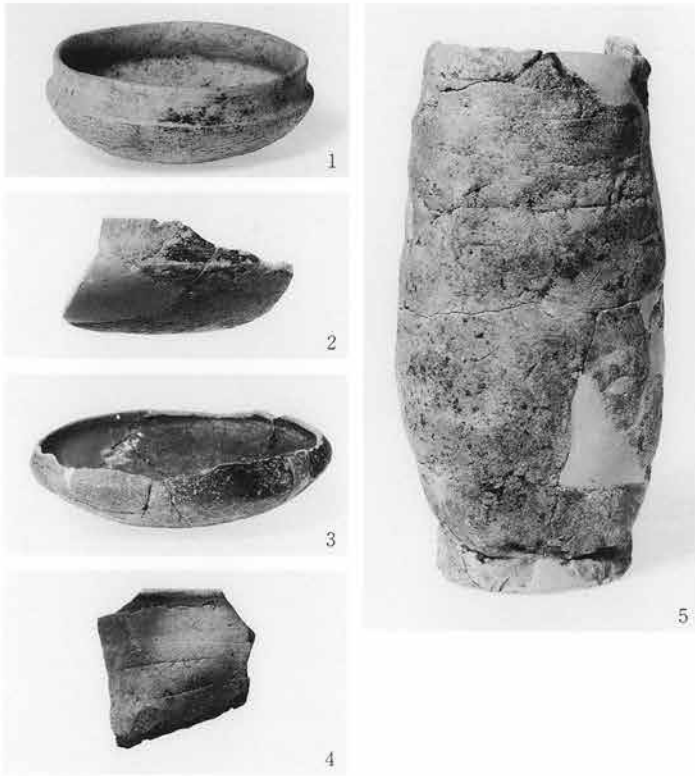


5区 25号住居 出土遺物(2)

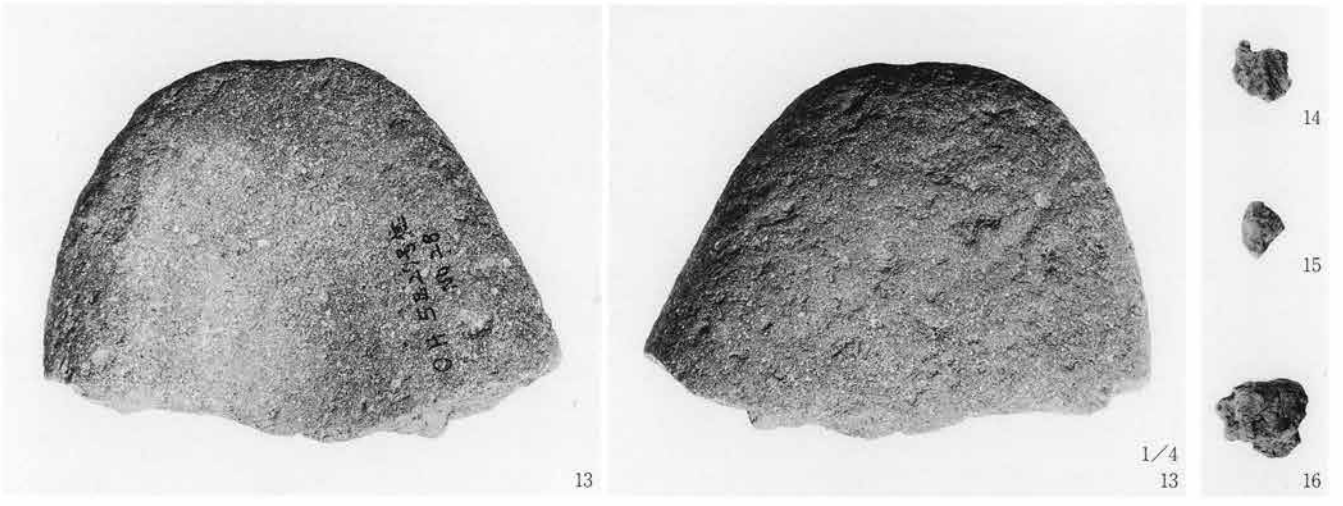
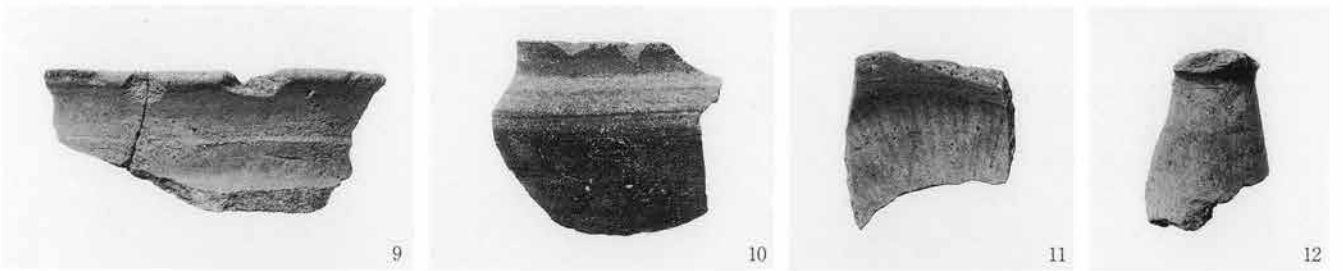
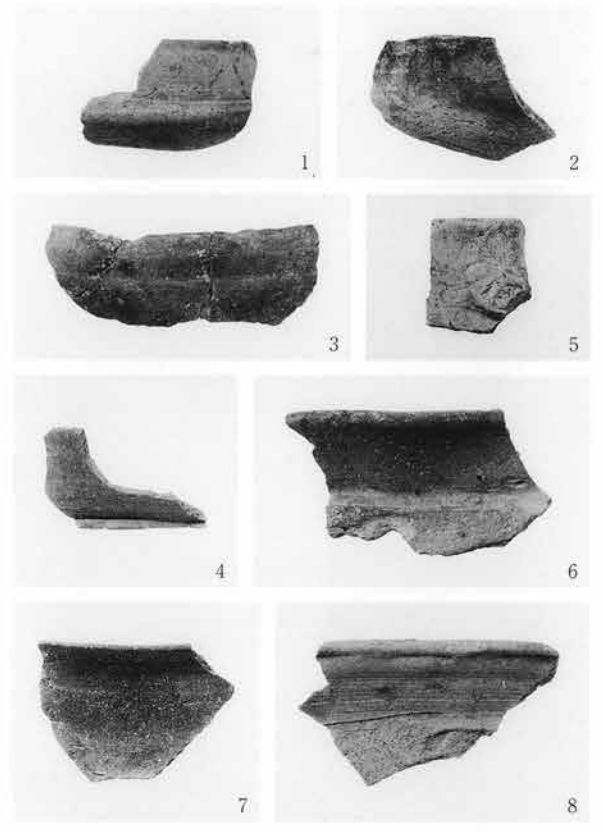


PL.70

5区 26号住居 出土遺物



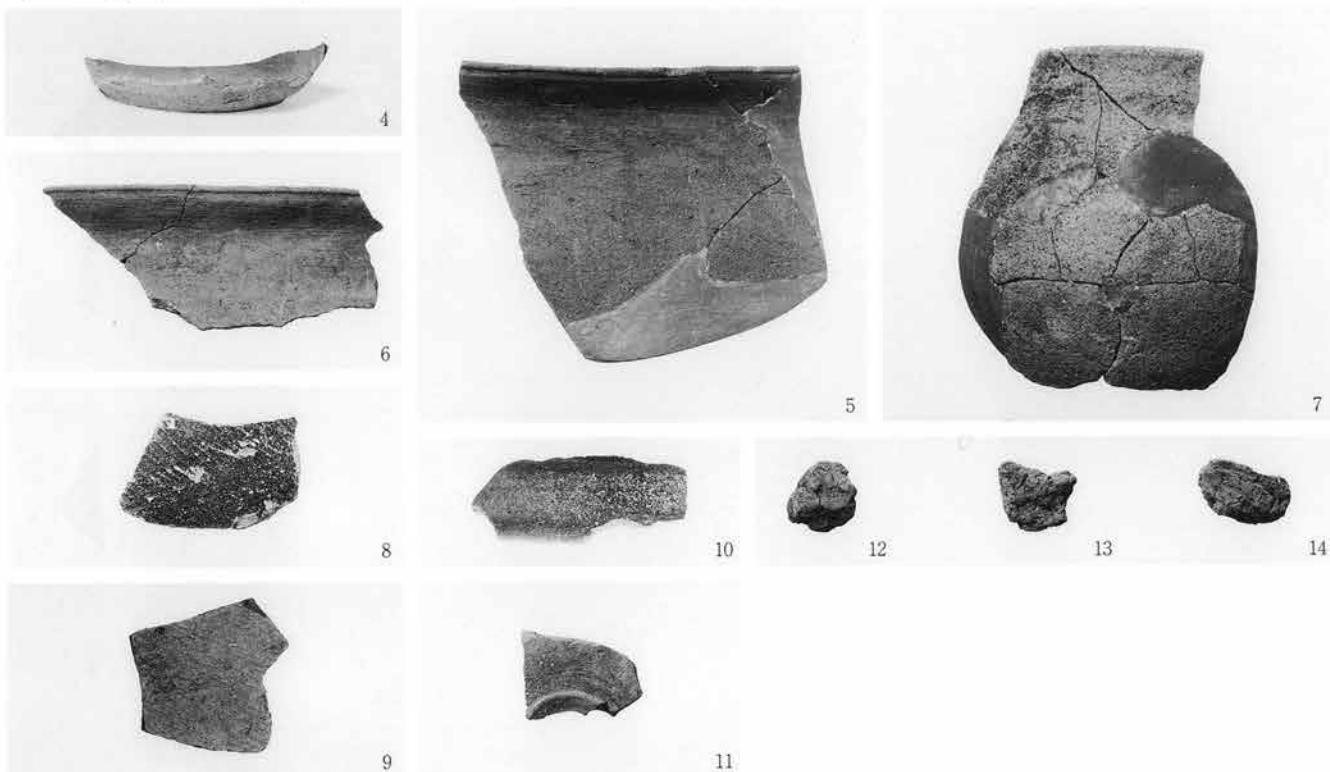
5区 27号住居 出土遺物



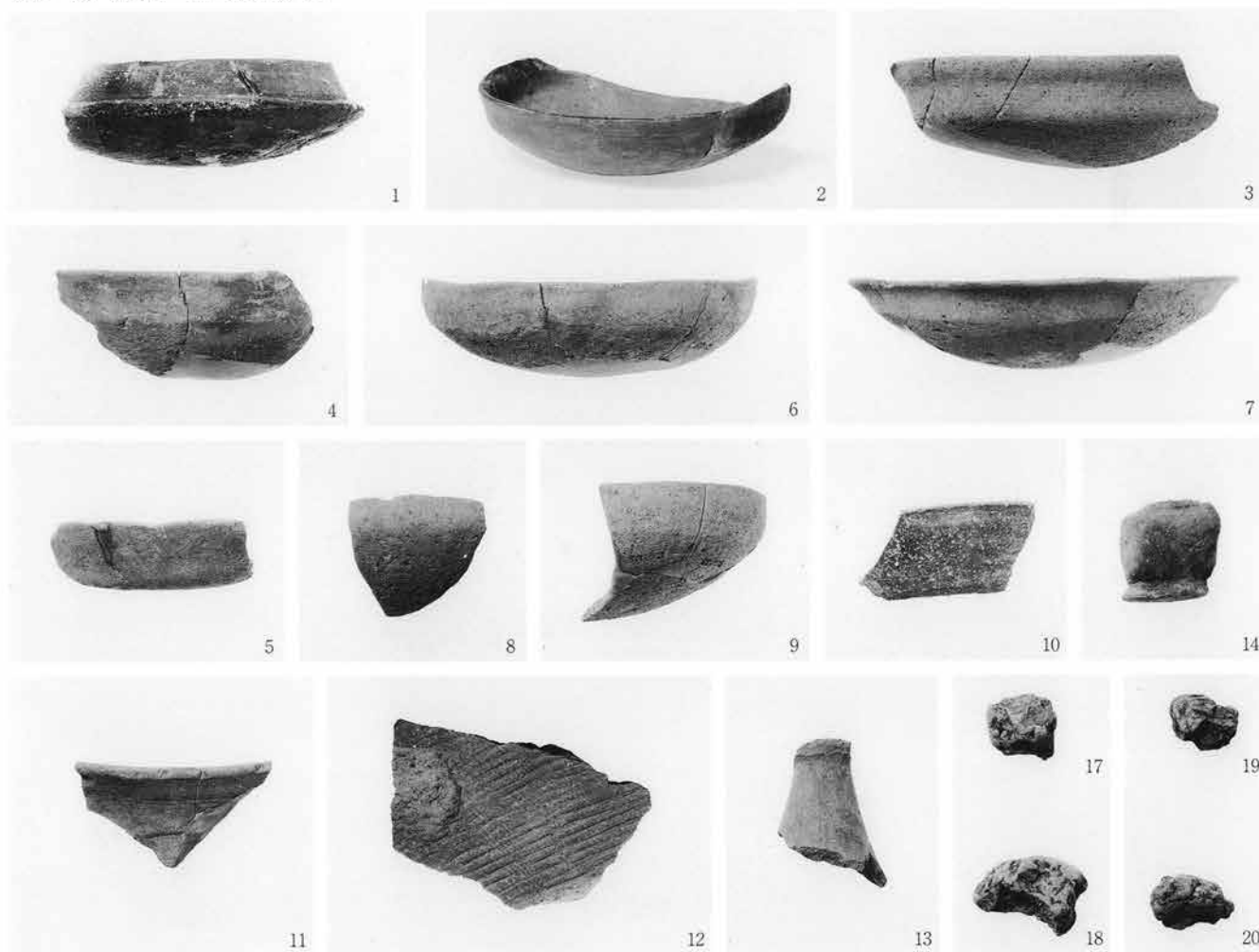
5区 28号住居 出土遺物(1)



5区 28号住居 出土遺物(2)



5区 30号住居 出土遺物(1)



PL.72

5区 30号住居 出土遺物(2)



15



16

5区 31号住居 出土遺物(1)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



17



14



15

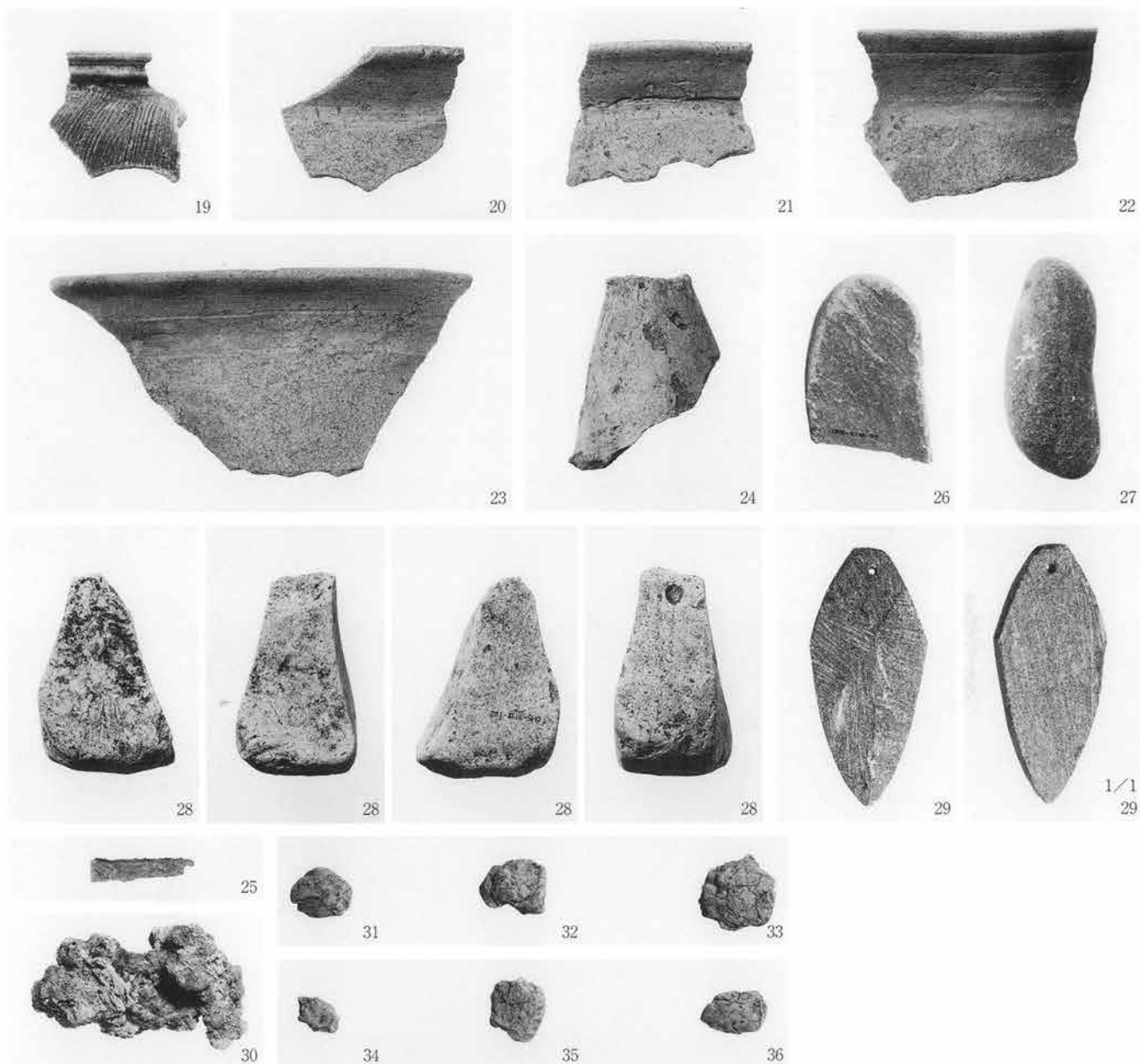


16

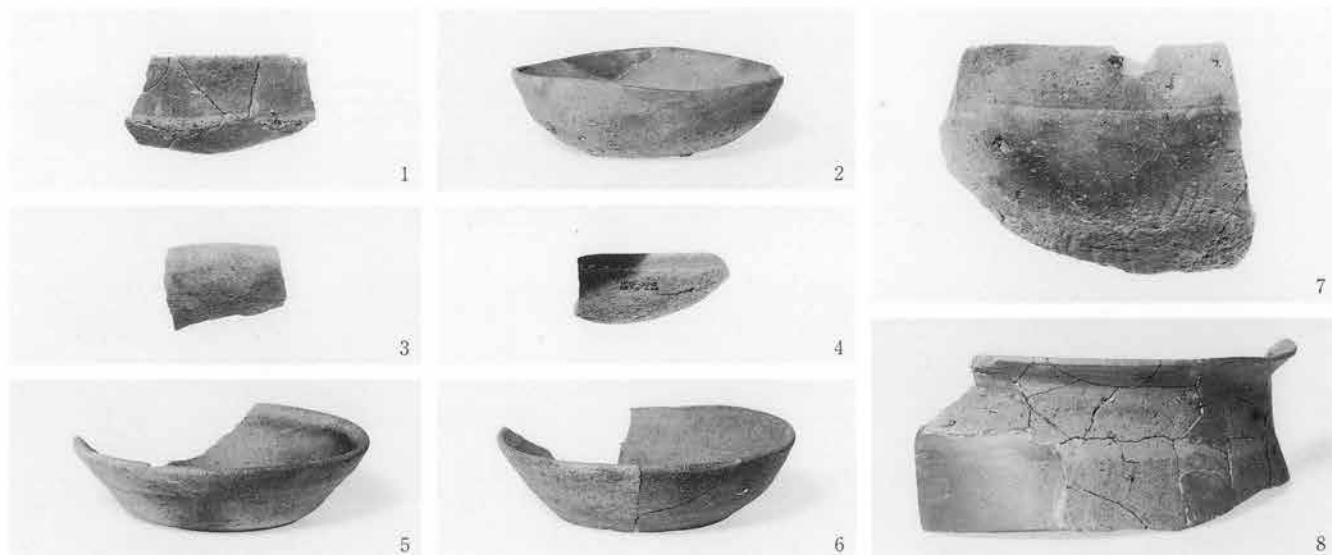


18

5区 31号住居 出土遺物(2)



5区 33号住居 出土遺物(1)

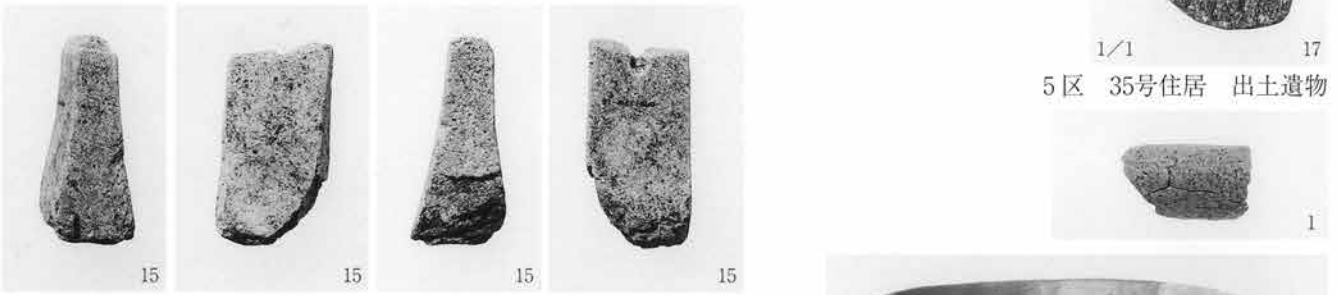


PL.74

5区 33号住居 出土遺物(2)



5区 35号住居 出土遺物



5区 36号住居 出土遺物



5区 37号住居 出土遺物(1)





21

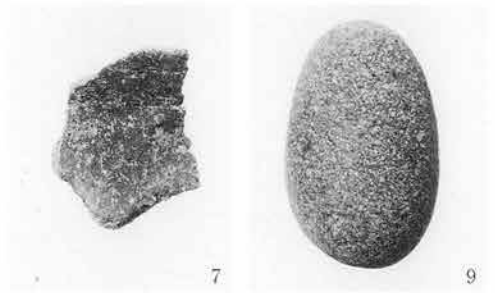
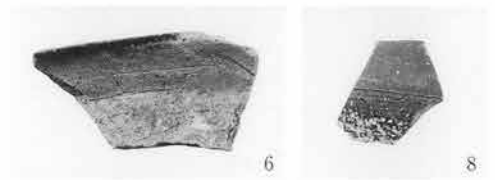


5区 40号住居 出土遺物

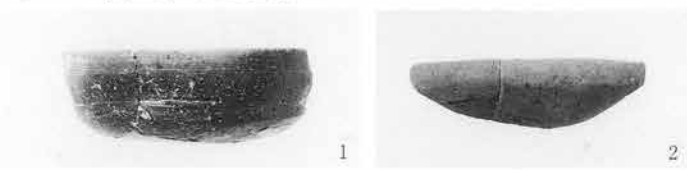
5区 41号住居 出土遺物



3



5区 42号住居 出土遺物



5区 44号住居 出土遺物



5区 2号土坑 出土遺物



5区 20号土坑 出土遺物



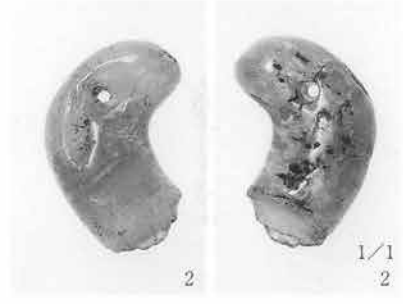
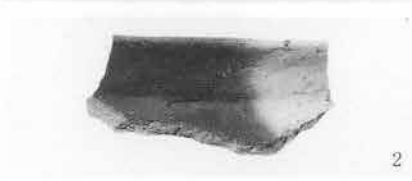
5区 34号土坑 出土遺物



5区 32号土坑 出土遺物



5区 35号土坑 出土遺物(1)





8

5区 40号土坑 出土遺物



1

5区 46号土坑 出土遺物

5区 43号土坑 出土遺物



1

5区 47号土坑 出土遺物



9

5区 36号土坑 出土遺物

5区 37号土坑 出土遺物



1

5区 45号土坑 出土遺物



1



1



1/1

1

5区 50号土坑 出土遺物



1



1



1



3



2

5区 57号土坑 出土遺物



2



1



2

5区 53号土坑 出土遺物



1



2



3



4



5



3



4



5

5区 59号土坑 出土遺物



1

5区 60号土坑 出土遺物



1

5区 63号土坑 出土遺物



1

5区 64号土坑 出土遺物



1

5区 67号土坑 出土遺物



1



2



2



3

5区 65号土坑
出土遺物



1

5区 68号土坑 出土遺物



1



1

5区 71号土坑 出土遺物



1

5区 69号土坑 出土遺物



1



2



1

5区 74号土坑 出土遺物



3



4

5区 75号土坑 出土遺物



1



4



2



1

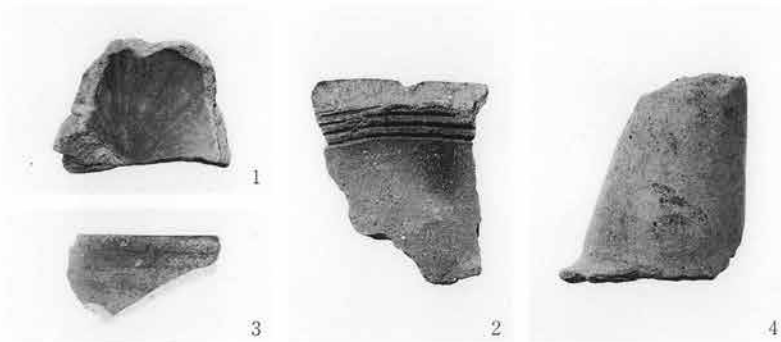


3

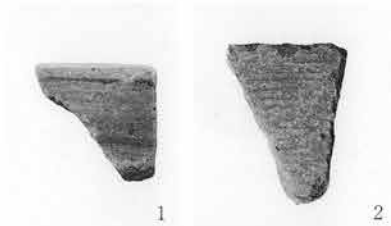


2

5区 2号溝 出土遺物



5区 3号溝 出土遺物



5区 10号溝 出土遺物



5区 4号溝 出土遺物



5区 4・9号溝 出土遺物



5区 9号溝 出土遺物



5区 11号溝 出土遺物



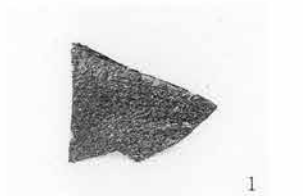
5区 17号溝 出土遺物



5区 1号井戸 出土遺物



5区 2号井戸 出土遺物



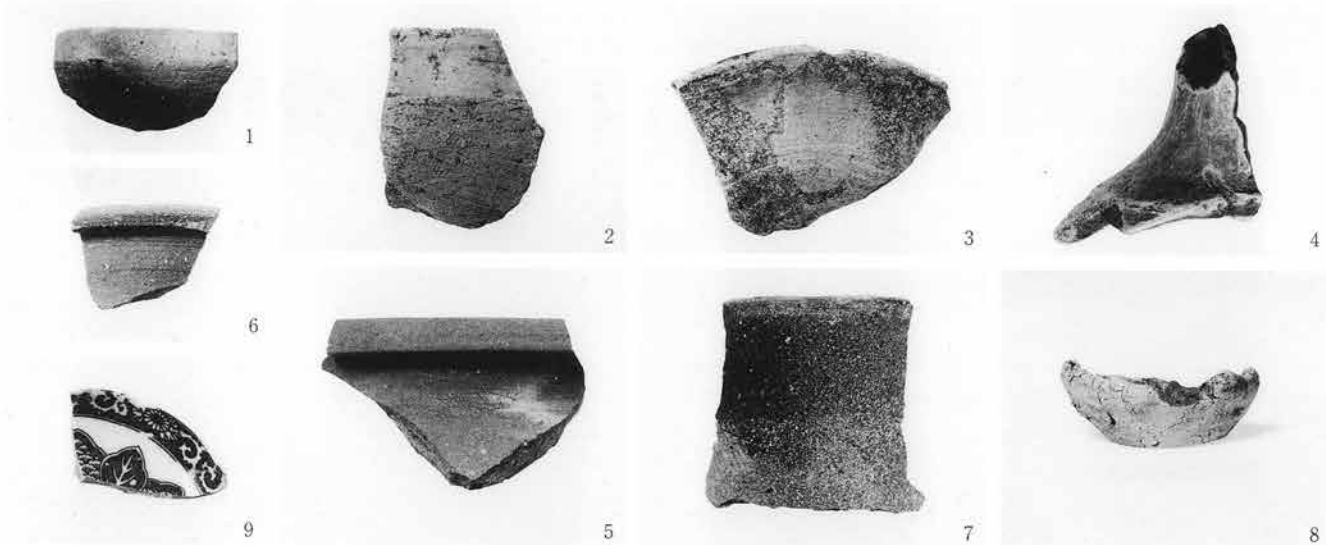
5区 49号ピット 出土遺物



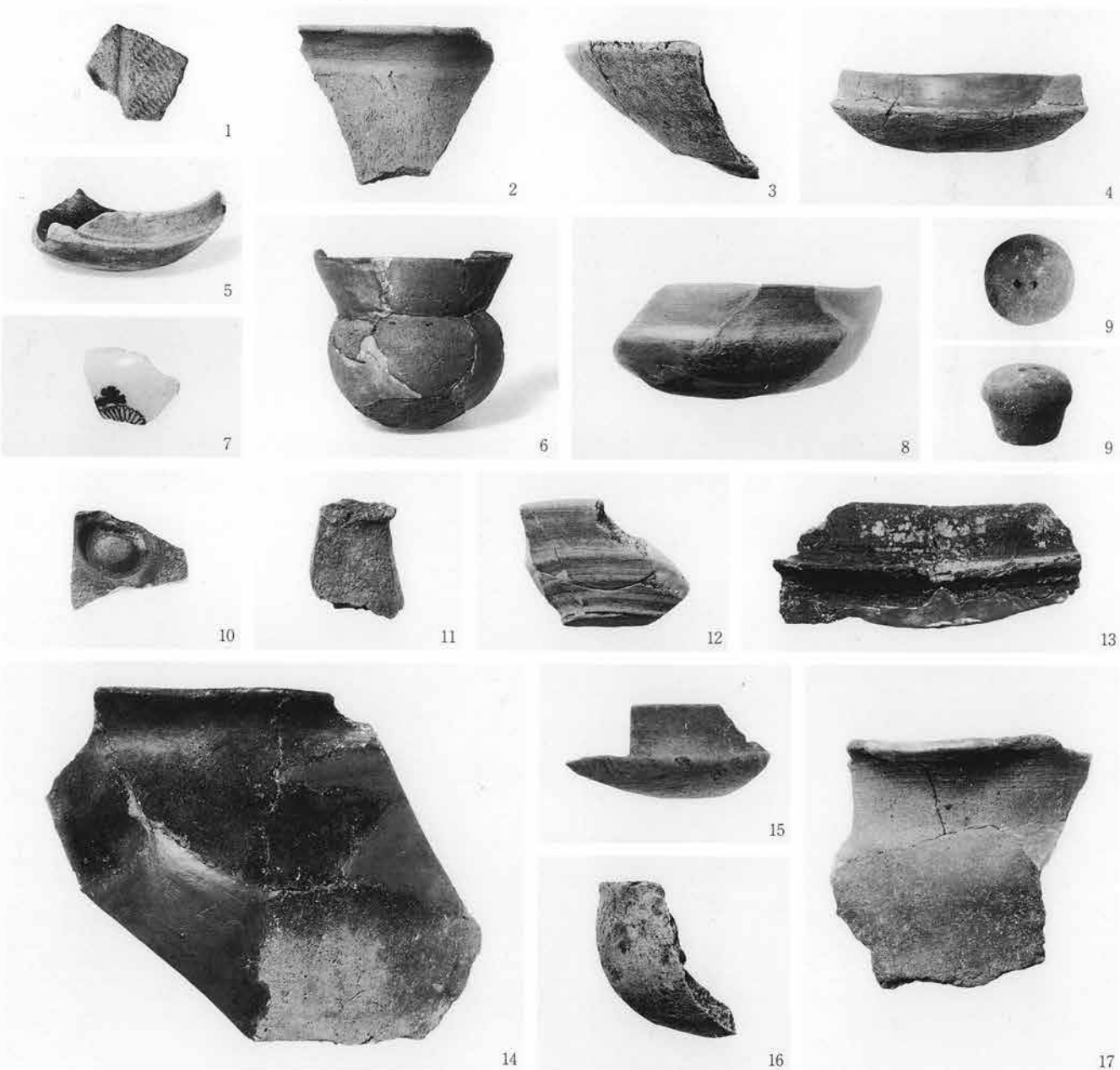
5区 81号ピット 出土遺物

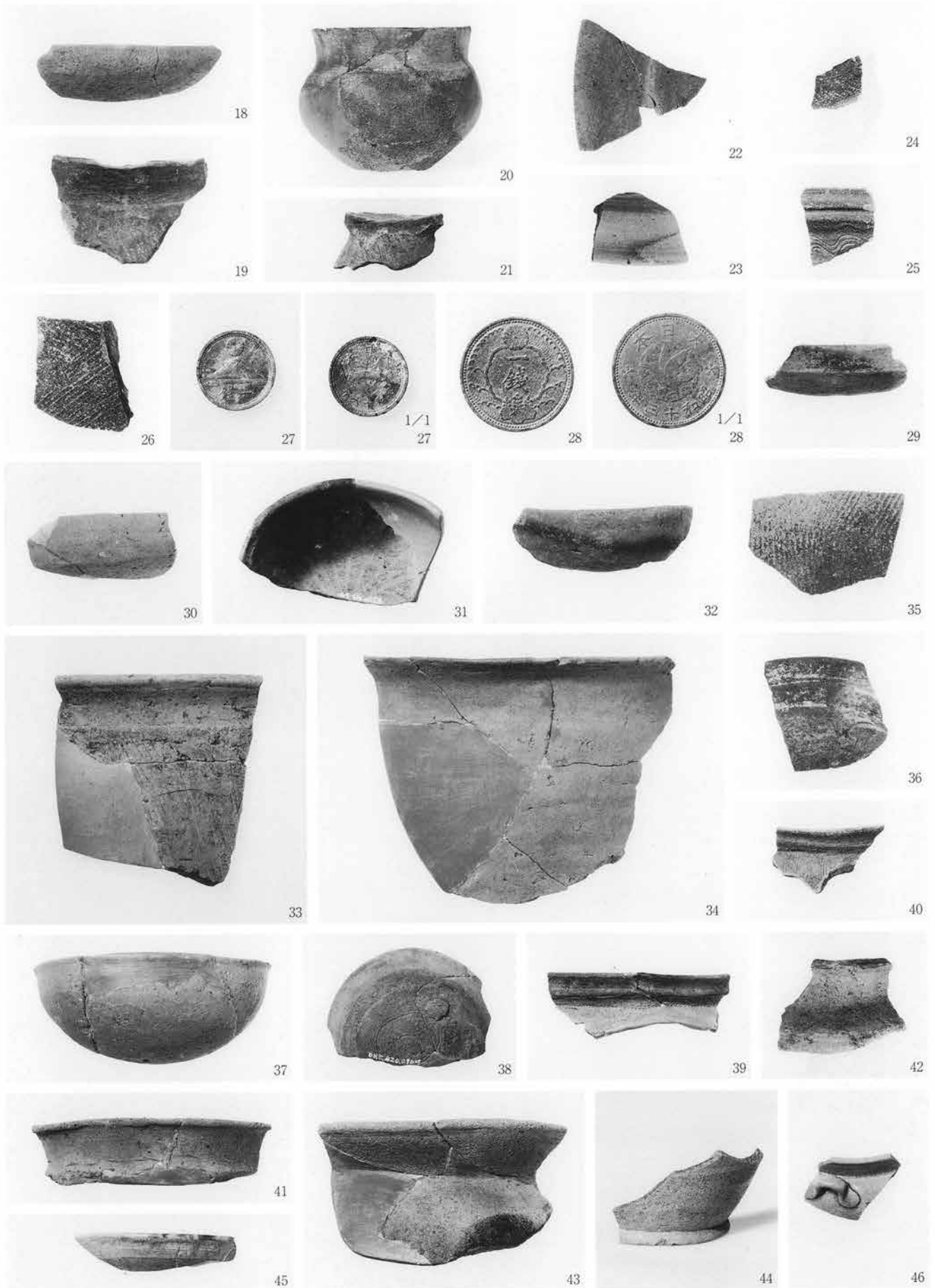


5区 遺物集中部 出土遺物



5区 遺構外(グリッド) 出土遺物(1)

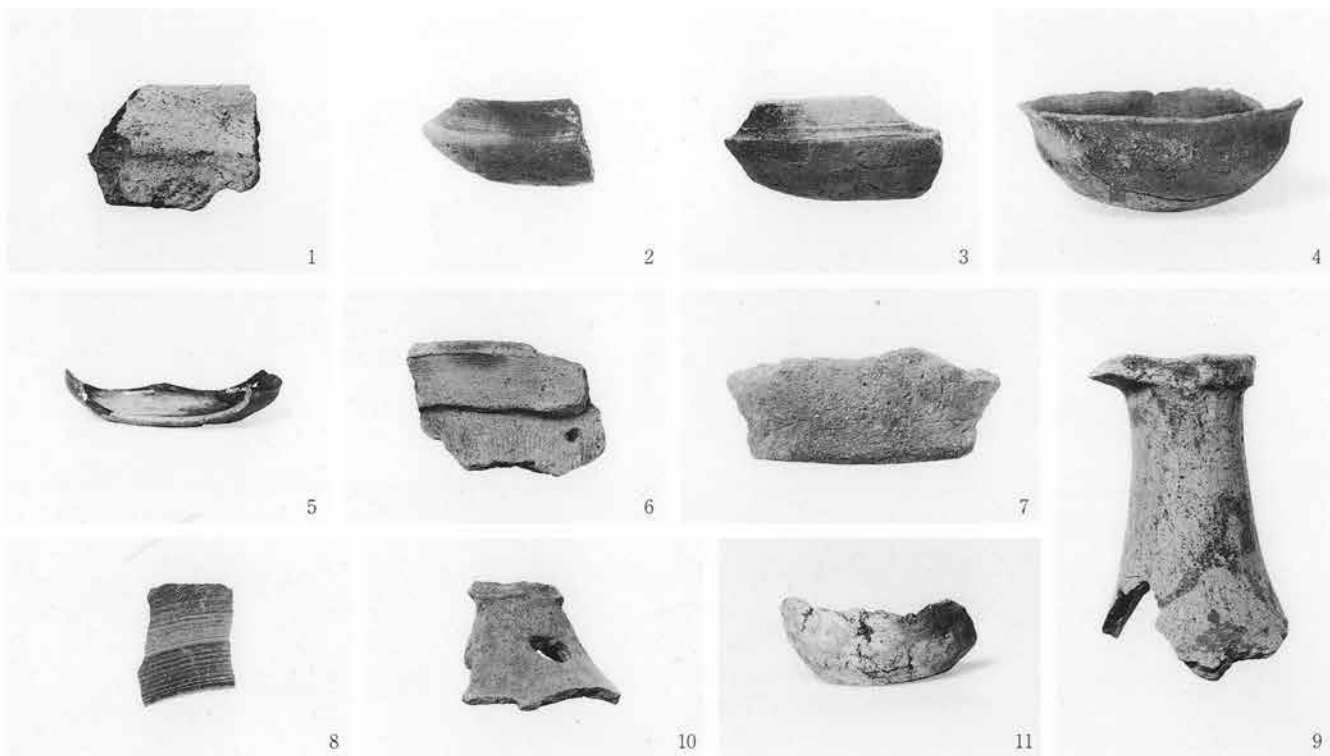




5区 遺構外(グリッド) 出土遺物(3)

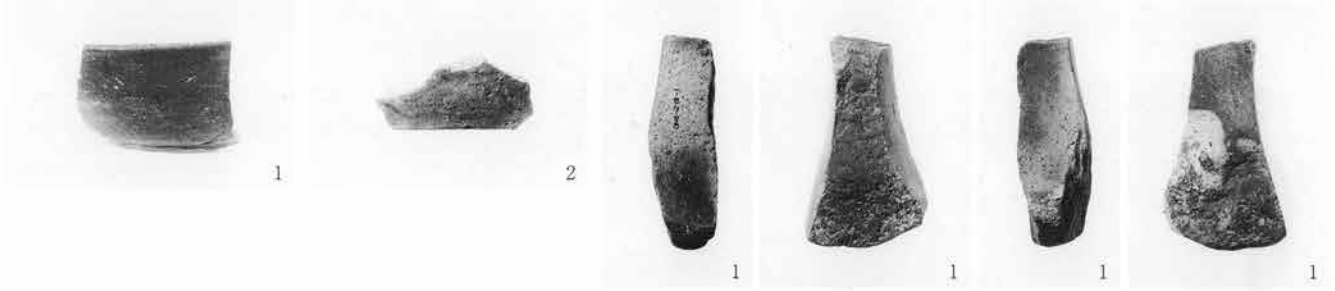


5区 遺構外 出土遺物

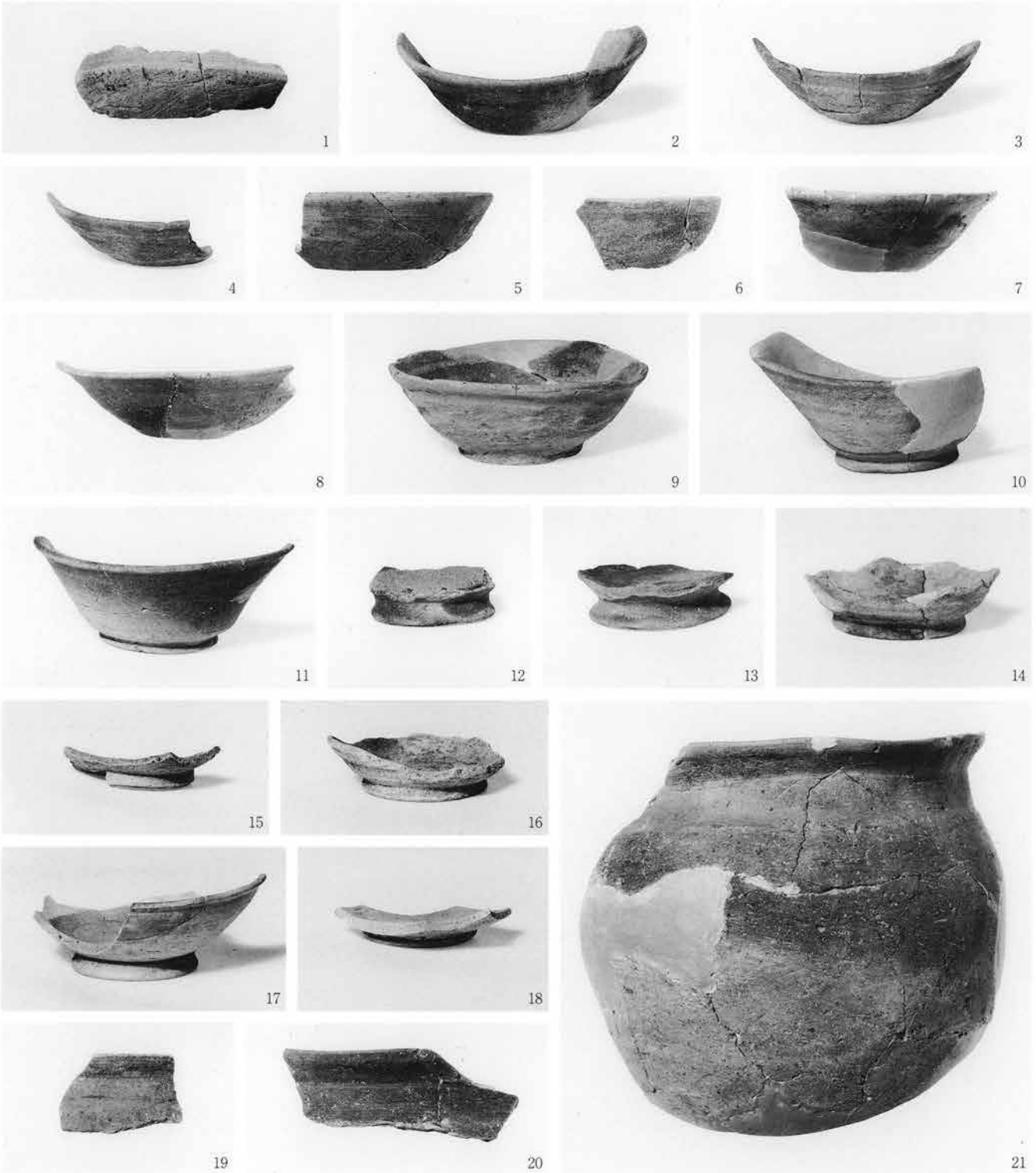


6区 1号住居 出土遺物

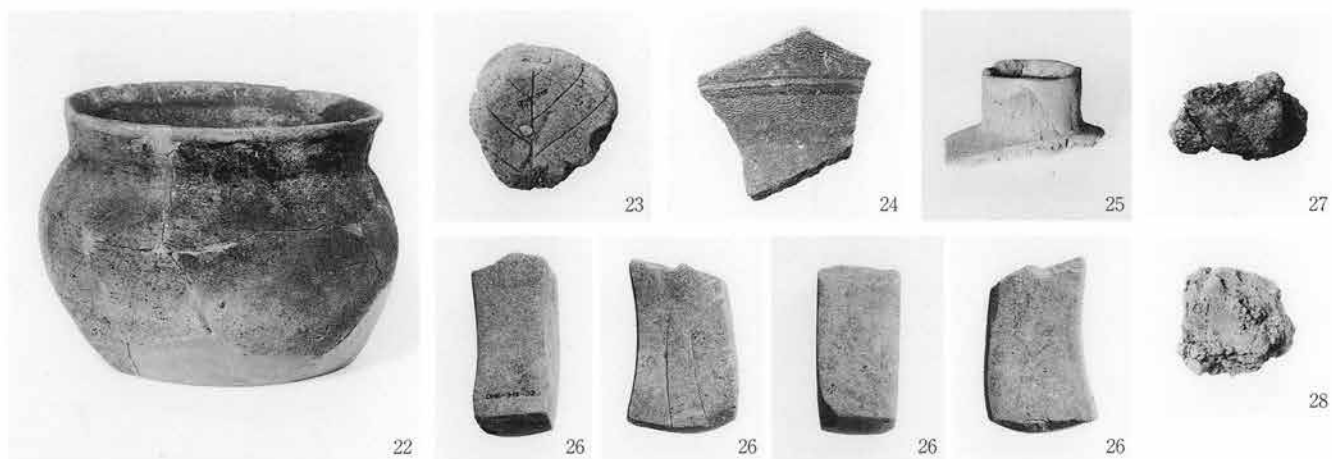
6区 2号住居 出土遺物



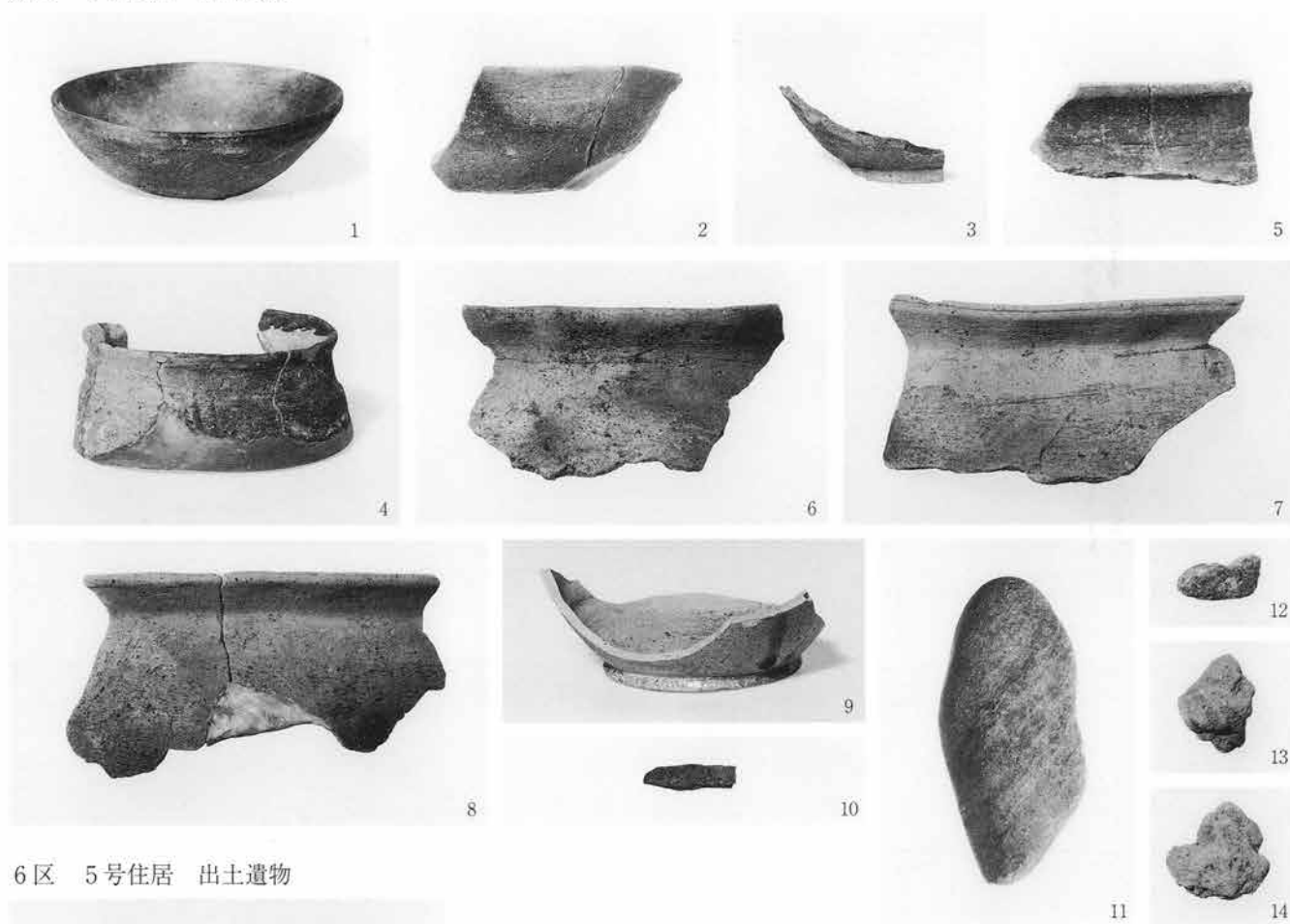
6区 25号住居 出土遺物(1)



6区 25号住居 出土遺物(2)



6区 4号住居 出土遺物

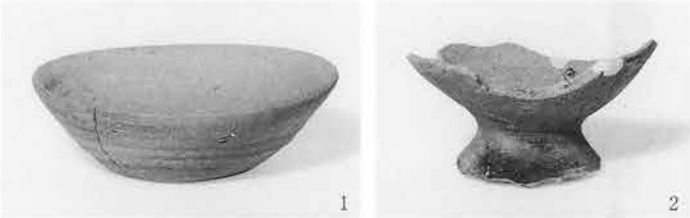


6区 5号住居 出土遺物





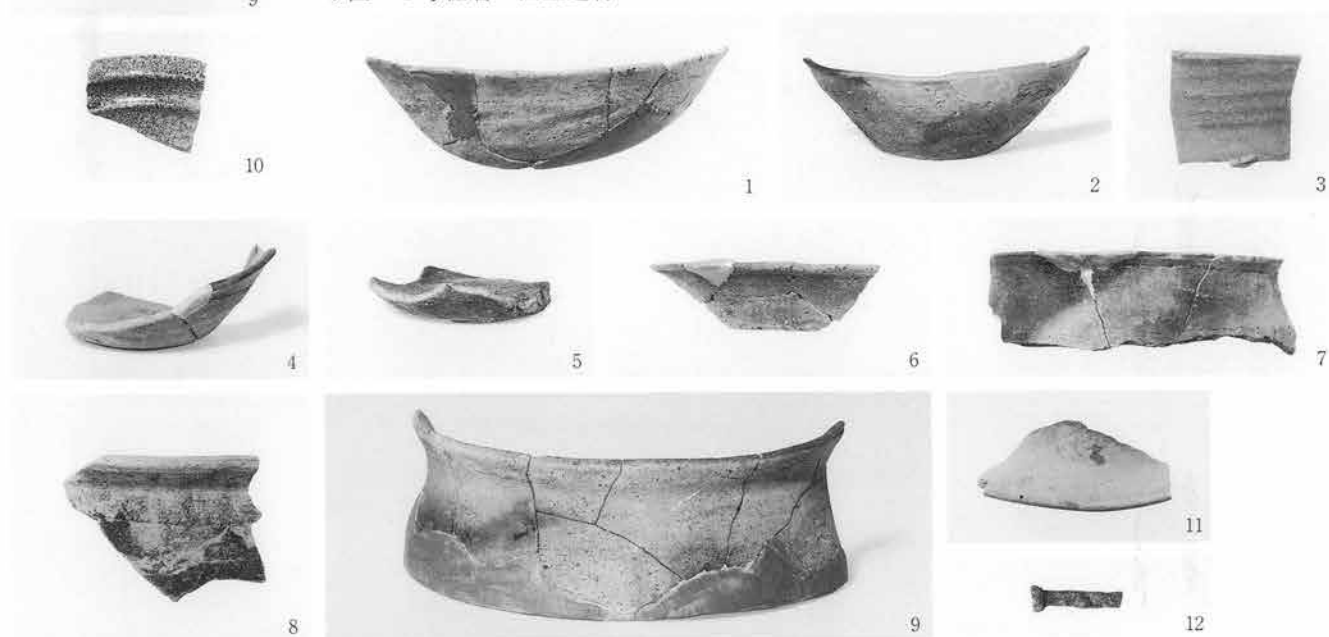
6区 7号住居 出土遺物(1)



6区 7号住居 出土遺物(2)



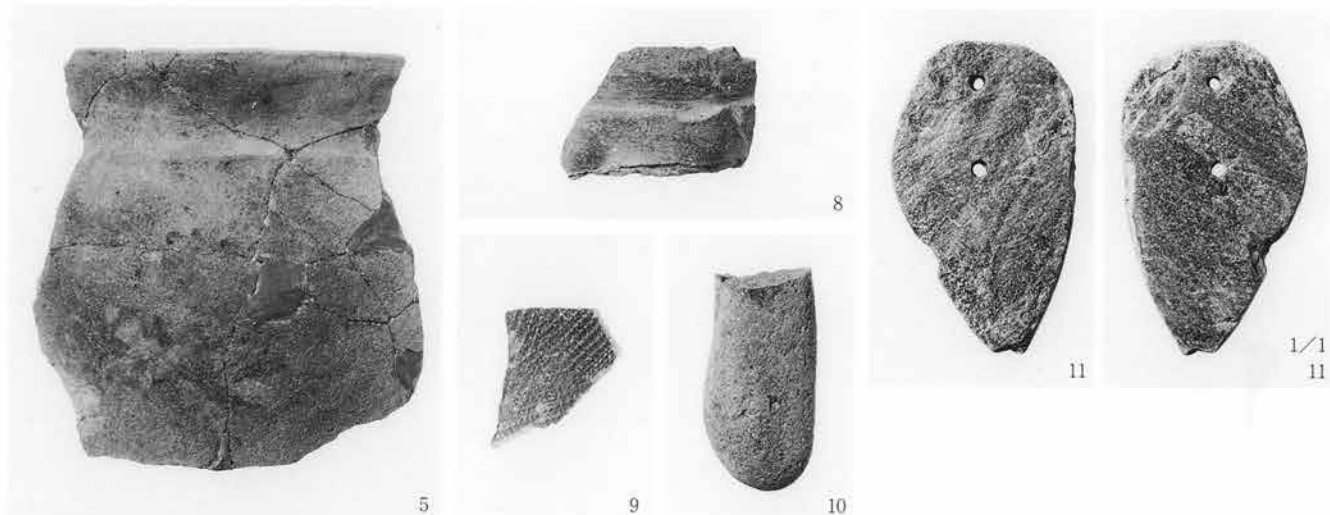
6区 8号住居 出土遺物



6区 9号住居 出土遺物(1)



6区 9号住居 出土遺物(2)



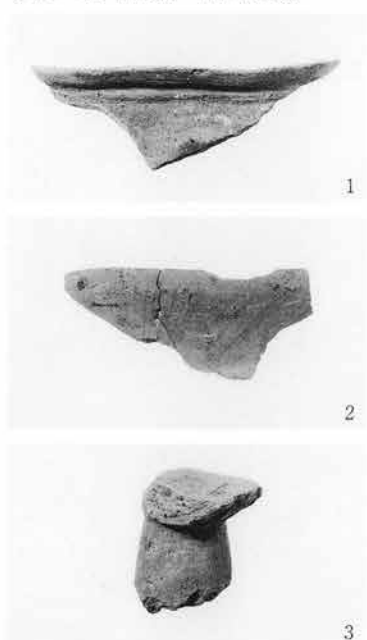
6区 10号住居 出土遺物



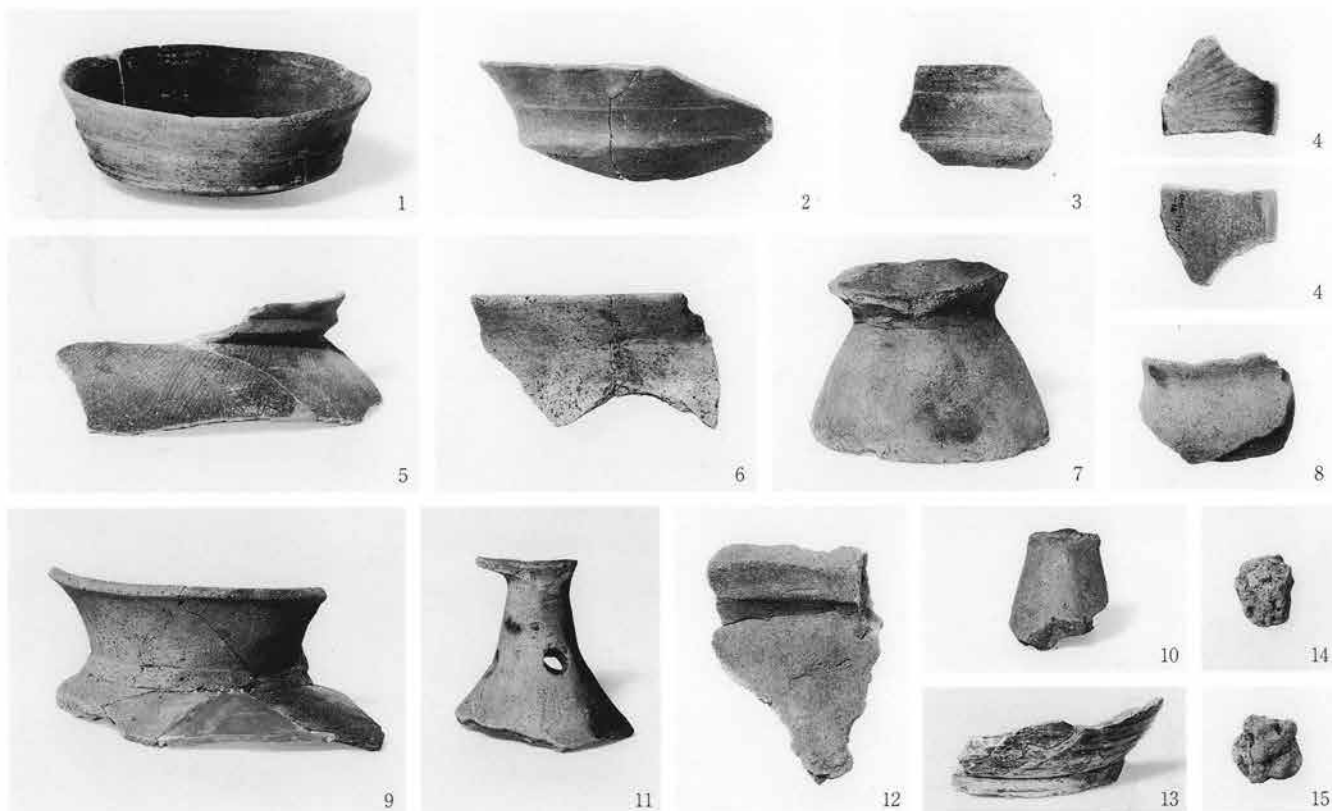
6区 11号住居 出土遺物



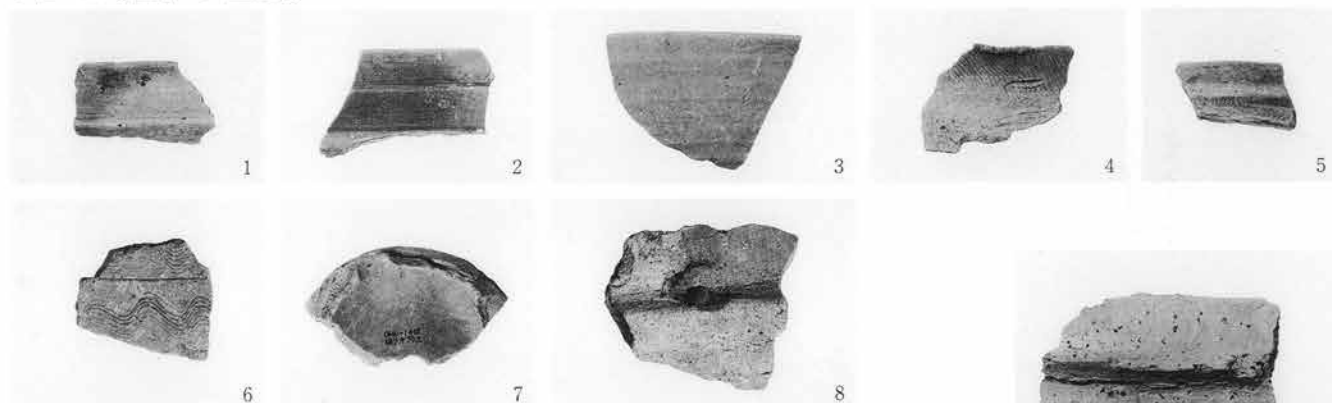
6区 12号住居 出土遺物



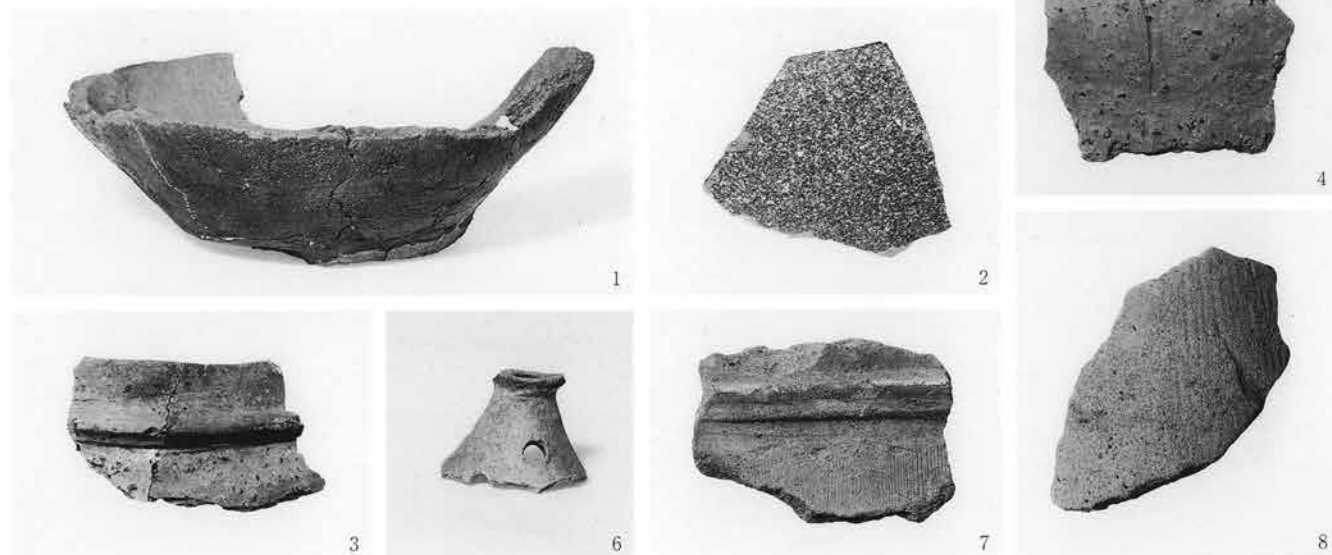
6区 13号住居 出土遺物



6区 14号住居 出土遺物



6区 15号住居 出土遺物(1)

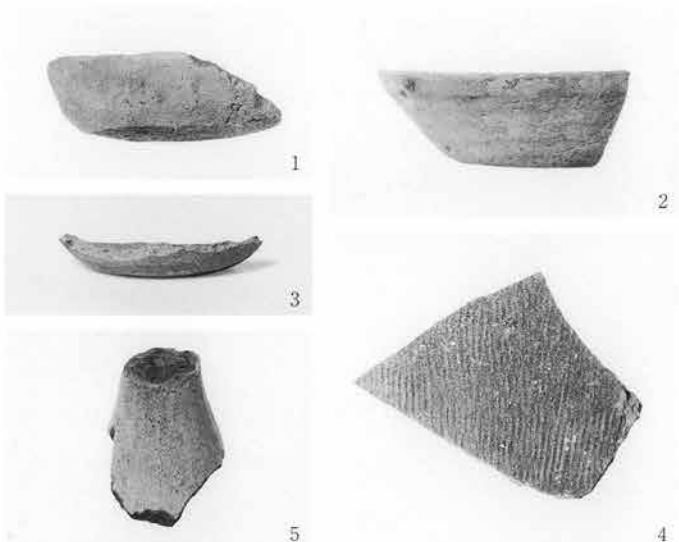




6区 17号住居 出土遺物



6区 16号住居 出土遺物

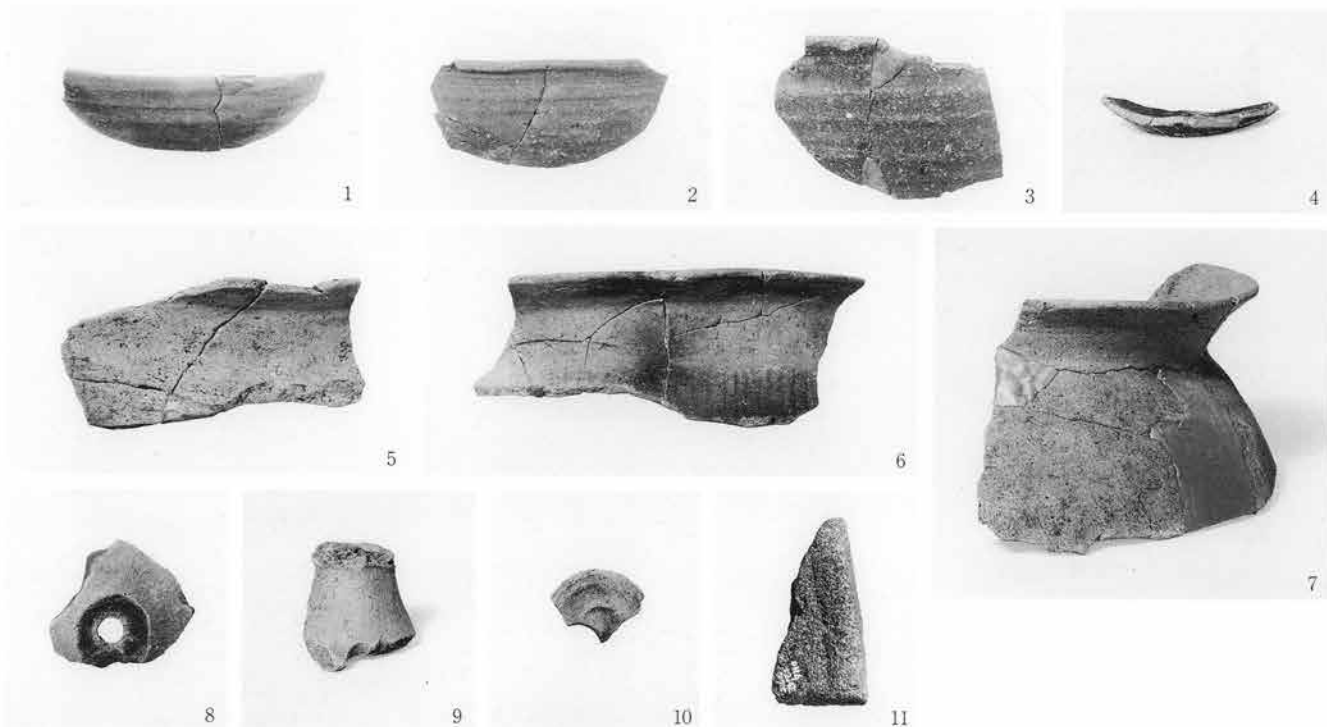


6区 20号住居 出土遺物



PL.92

6区 21号住居 出土遺物



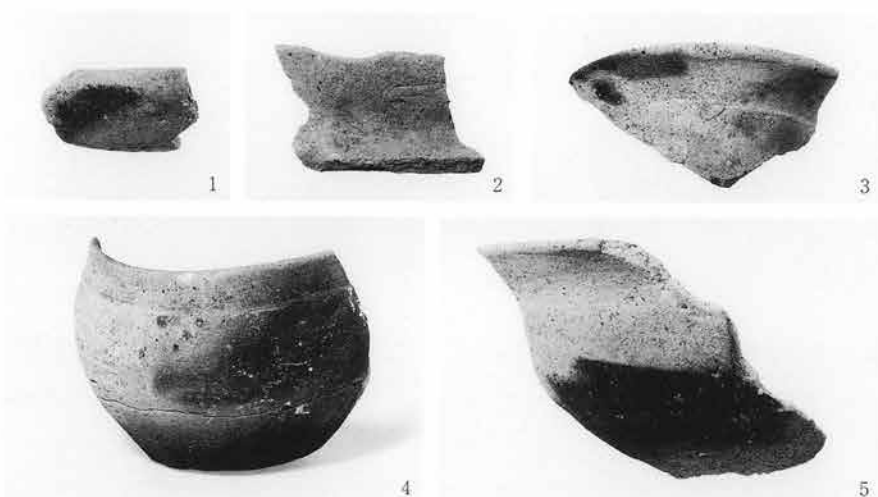
6区 2号土坑 出土遺物



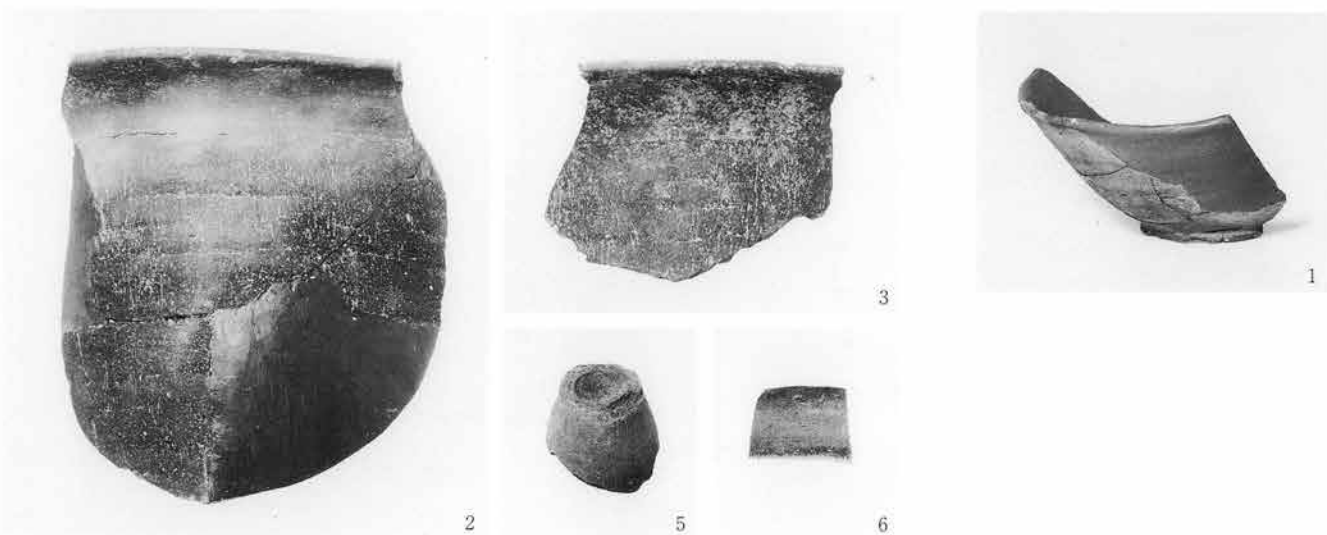
6区 11号土坑 出土遺物



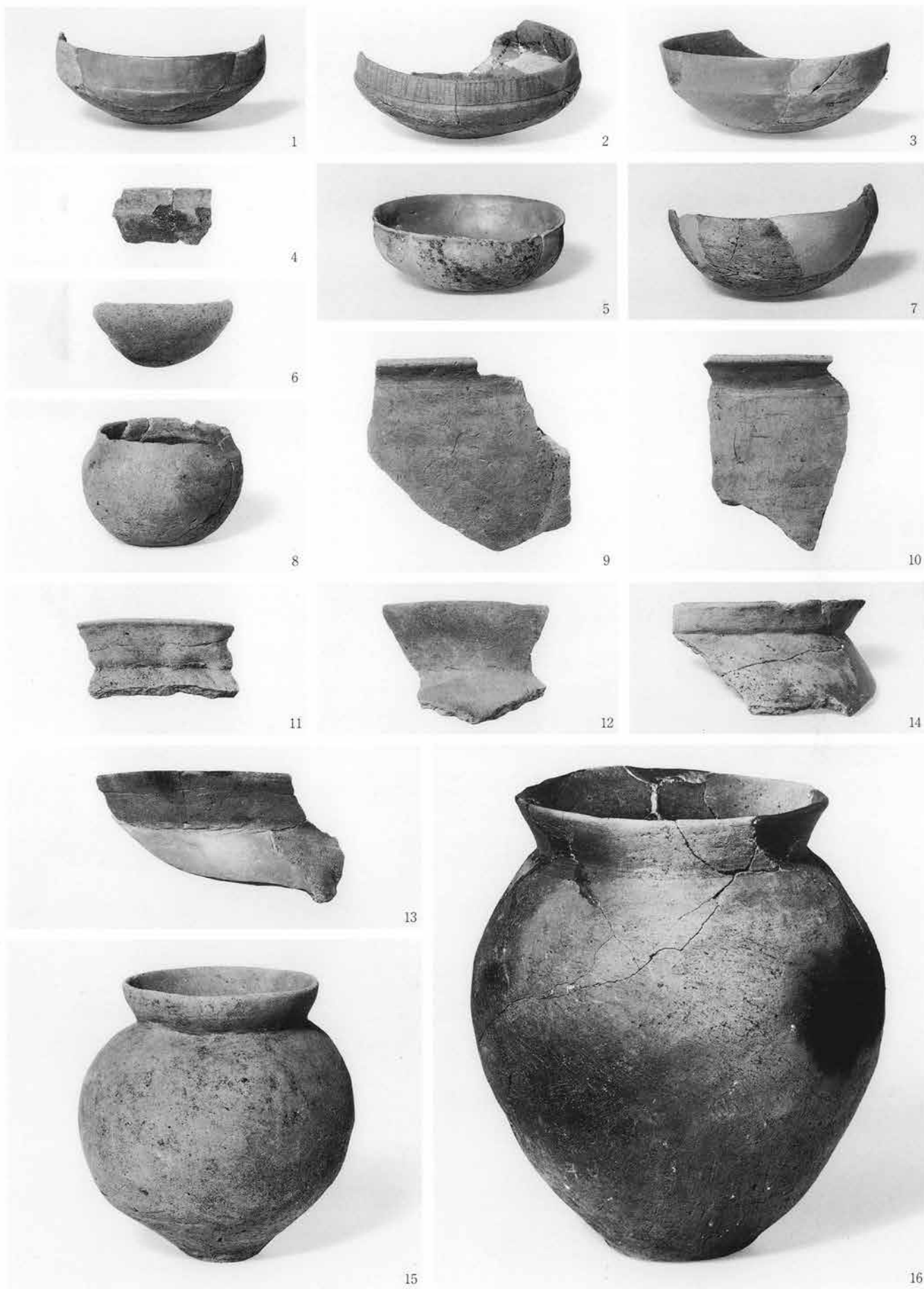
6区 10号土坑 出土遺物



6区 13号土坑 出土遺物



6区 15号土坑 出土遺物(1)





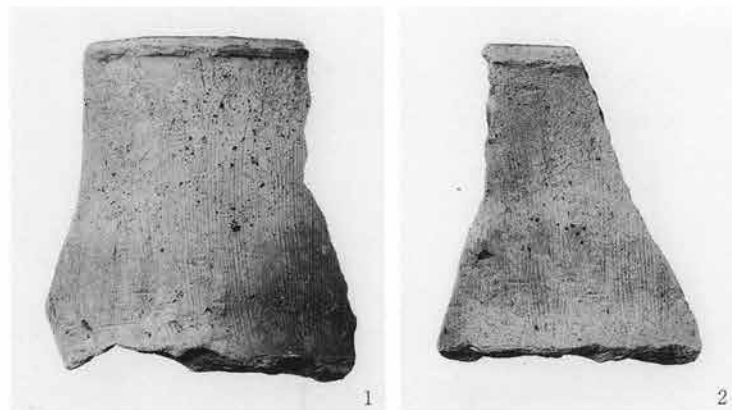
6区 16号土坑 出土遺物



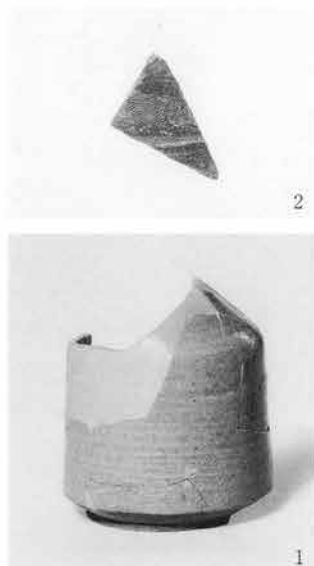
6区 18号土坑 出土遺物



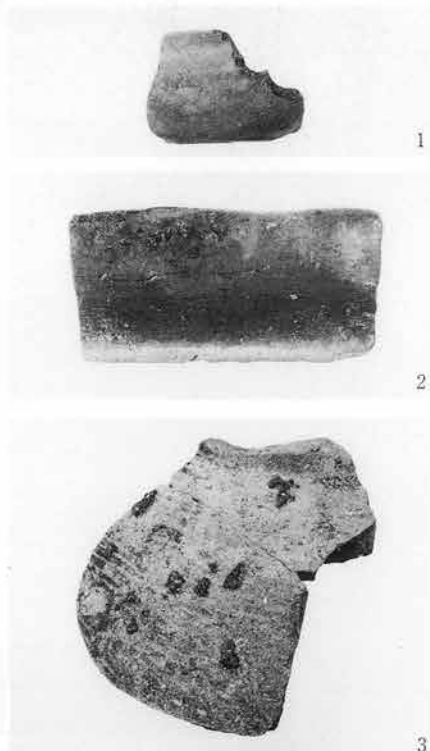
6区 19号土坑 出土遺物



6区 1号溝 出土遺物



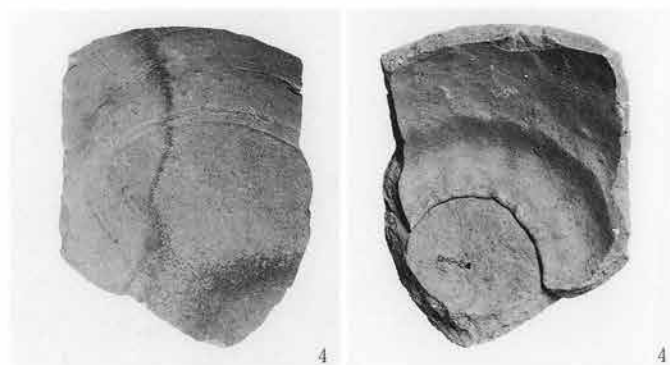
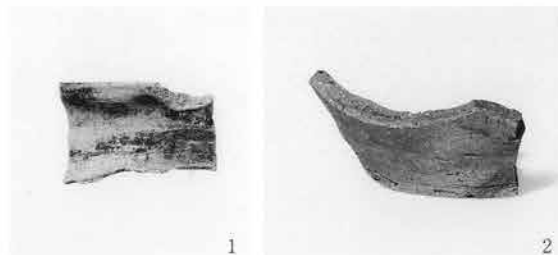
6区 2号溝 出土遺物



6区 6号溝 出土遺物

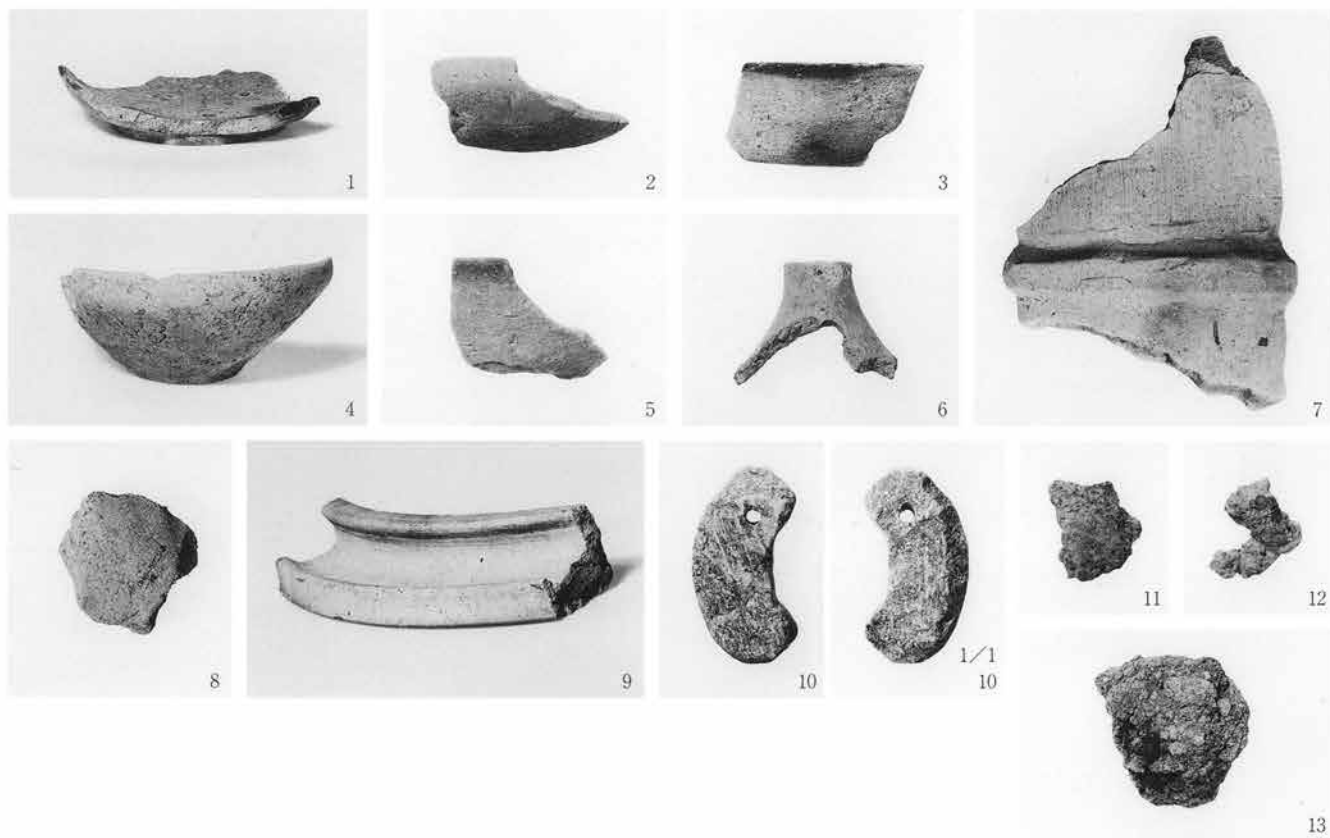


6区 7号溝 出土遺物



PL.96

6区 遺構外 出土遺物



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告書第358集

浜町遺跡

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

平成17年(2005年)10月20日印刷

平成17年(2005年)10月28日発行

編集・発行／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

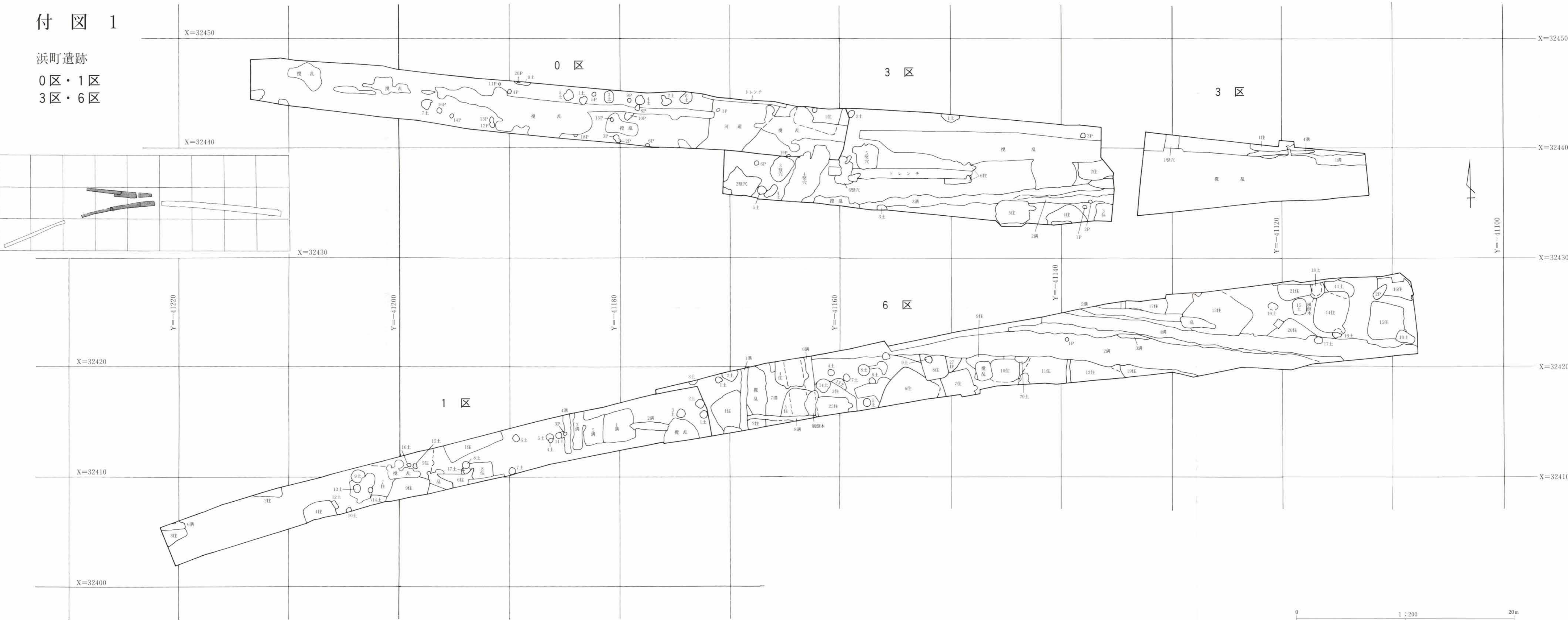
印刷／杉浦印刷株式会社



付 図 1

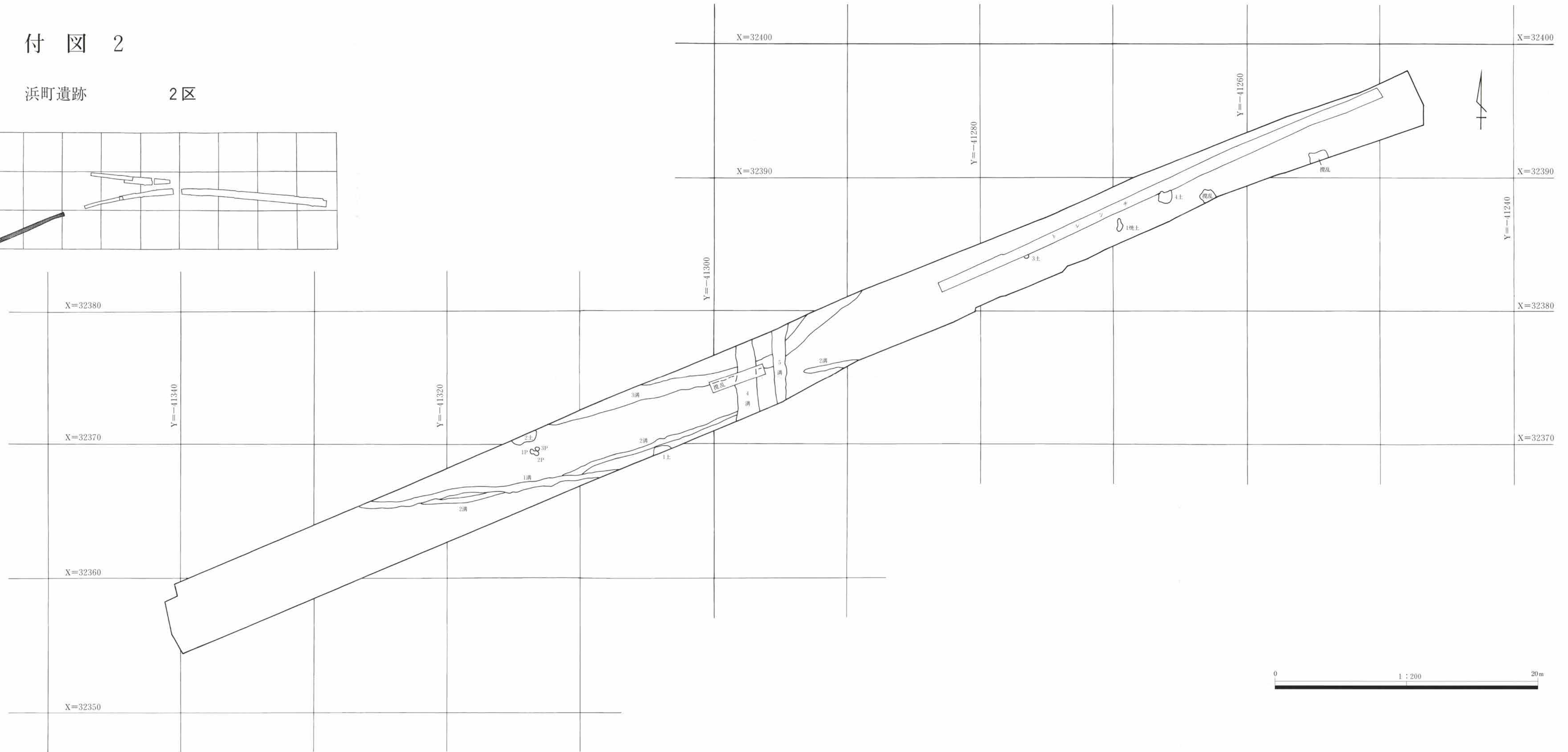
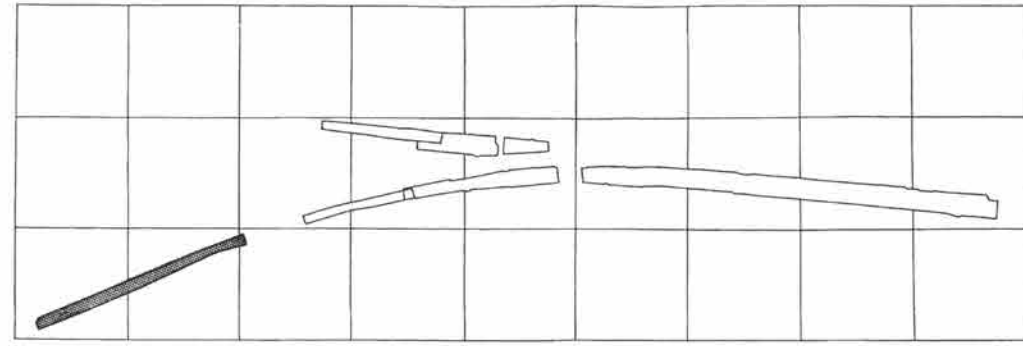
浜町遺跡

0区・1区
3区・6区



付図 2

浜町遺跡 2区



付 図 3

浜町遺跡 5区

波線遺構は掘り方から検出

